第８章　資料編

８．１　工事関係

８．１．１　工事の時間帯、交通に関する資料

出典：施工計画書（抜粋）

（１）一般安全・地域環境対策

①地域住民・施設との協調

１．現場周辺においては、地域住民・通行人との挨拶を励行し、地域との融和を図る。
２．地域住民に接する際は、丁寧な言葉・態度で接し、不快感を与えない。
３．作業場内は常に整理整頓を心掛け、地域環境を乱さないよう心掛ける。
４．地域住民の要望・苦情の申し入れに対しては次の項目に心掛ける。
・内容をよく聞き、誤解のないようにする。
・直ちに出来ることは快く協力する。
・直ちに出来ないことは、現場→現場代理人→電源開発送変電ネットワーク(株)東西連系増強建設所へ連絡を取り、協議の上速やかに対処する。
・万一間違いを起こした場合は、速やかに謝罪し善処する。
・要望、苦情への対処事項については大小を問わず、必ず電源開発送変電ネットワーク(株)への報告を行う。
５．作業時間の基本は8:00～17:00とし、昼休みは12:00～13:00とする。(工事車両の搬入出も同様)
但し、途中で作業を中断できない場合は、作業終了時間を延長して作業を行う。

②交通安全対策

１．工事車両は日常点検を行うと共に、必要に応じて整備を行い、欠陥・不備の無いようにする。
２．法定速度を守り、地元車両優先、歩行者保護に心掛け、交通災害の防止に努める。また、シートベルトは確実に着用する。
３．信号機の無い交差点・工事現場出入口は一時停止し、安全運転に努める。
４．運搬車両は、最大積載重量を厳守する。
５．資材搬入出等で臨時に入る外注車両についても、上記主旨を徹底させる。
６．工事車両の駐車は、基本的に工事用地内とし、それ以外の場所には原則駐車しない。やむを得ず路上作業(出入り口仮設時等)となる時及び中間鉄塔での路上駐車時は、他の交通の妨げとならないよう注意し、必要に応じて交通誘導員を配置して、第三者の安全を確保する。
７．資材運搬車両の搬入出時は、必要に応じて適所に交通誘導員を配置する。
８．交通誘導員には、配置前に当日の作業内容・注意ポイントを指示し、第三者・誘導員の巻き込まれ災害の防止に努める。
９．運転中はハンズフリーによる通話以外は携帯電話の使用を禁止する。
１０．住宅地内の生活道路を走行する際は、子供の飛び出し等を予測・注意し、徐行運転を心掛ける。
特に県道801号線(矢島地区)、No.157～No.158方面(町道西根熊線)、No.163方面(町道西行横沢線)は道幅の狭い住宅地を通るので、歩行者や構造物に注意して走行する。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．１．２　建設機械等に関する資料

出典：施工計画書（抜粋）

⑤騒音・振動防止対策
1．車両や重機、機材のエンジンは、使用しない時には停止し、騒音防止に努める。
2．大声や罵声などは厳禁とする。塔上⇔地上間の連絡には、無線機を使用する。
3．騒音、振動については法律及び条例の許容値を超えないよう使用機材の選定を行う。

⑨機械工具に対する安全対策
1．機械・工具は、持込時及び使用前に点検し、不良品は速やかに修理し、不可能なものについては現場より排除する。
2．主要な機械・工具については、日常の点検を有資格者または取扱い責任者が行い、点検表に記録して保管する。
3．年次点検の必要な機械については、持込時に点検記録(写)を確認し、事務所に保管する。
4．回転工具から離れる場合は、電源スイッチを確実に切り、回転部が完全に停止したことを確認してから移動する。

①重機災害防止対策
1．現場に持ち込む重機・機械類については事前に点検・整備が実施されている事を年次点検結果にて確認する。また、リースした重機・機械類は点検結果表を業者より提出させ、取扱責任者が持込時点検を行う。
2．重機運転責任者の表示は、見やすい位置に明示する。また、使用前に始業時点検を実施し、点検表の記録は現場事務所に保管する。
3．移動式クレーン(ユニック車)のアウトリガーは最大張出しで作業し、必要に応じて枕木・鉄板等で地盤の補強を行う。
4．移動式クレーン使用時は、性能(吊り荷重・作業半径等)を良く確認して性能範囲内で作業を行う。
5．バックホー等の重機類は、目的外使用を行わない。



移動用発電機（超低騒音型）の実例



移動式クレーン（低騒音型）の実例

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．１．３　工事関係者による会議等に関する資料

出典：施工計画書（抜粋）

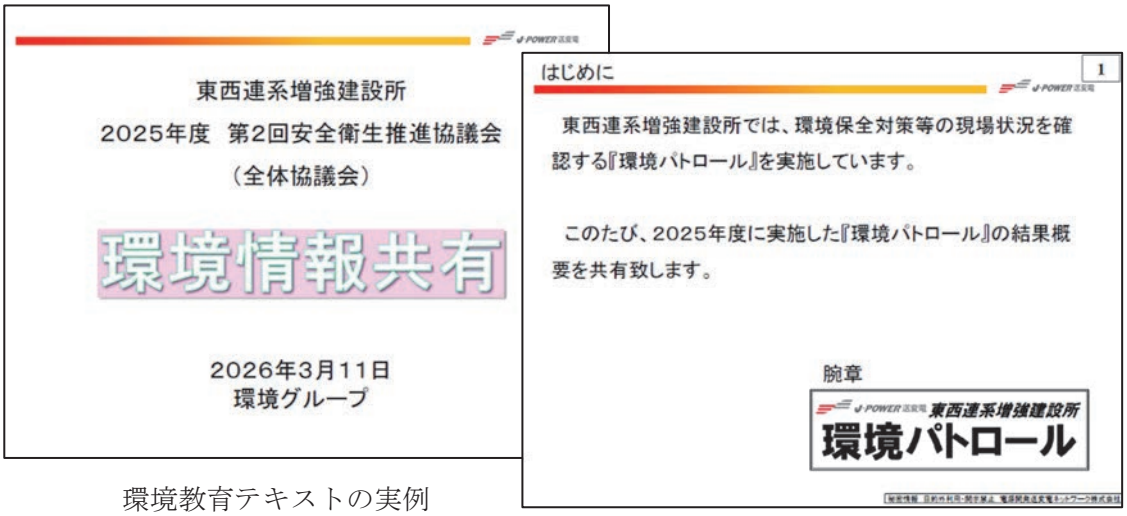
名称	安全作業打合せ	定例安全施工会議	現場安全協議会
開催日	毎日	毎週１回程度	必要に応じて毎月１回程度
参加者	・現場代理人 ・管理スタッフ ・作業班長又は作業責任者 （原則として各作業班毎に実施）	・現場代理人 ・管理スタッフ ・作業班長 ・作業責任者 （複数班合同で実施）	・現場代理人 ・管理スタッフ ・作業班長 ・作業責任者 （必要により本社や社外からの参加を要請する）
内容	1. 施工概要、工程、地域環境条件の把握と徹底 2. 工法、安全作業手順の徹底 3. 災害防止対策の指示徹底 4. 安全設備、用具の使用について 5. 火災防止対策の徹底 6. 第三者への危険防止対策について 7. 安全協議会の審議事項の検討、実施について 8. 災害速報の伝達、検討及び類似災害の防止について 9. 地域との約束事項の周知徹底 10. その他	1. 工程打合せ 2. 施工方法の検討 3. 安全環境対策の具体的実施方法 4. 資機材の調達について 5. 災害速報の伝達、検討及び類似災害の防止について 6. その他	1. 作業者の危険防止・健康障害防止のための基本対策 ①安全衛生教育の検討 ②安全衛生教育の実施 2. 事故例の検討 3. 安全協議会の審議事項の検討と実施 4. 関係各所との協議事項の確認と徹底 5. その他特別行事の実施計画 6. 事務所、宿舎、作業現場の衛生管理 ①照明、換気、定期消毒 ②各箇所の清掃 ③救急薬品・設備の完備 ④生活廃棄物の適切処理 ⑤防火設備の定期点検 7. ＴＢＭ－ＲＫＹの内容改善及び指導 8. 自然環境保護に関する検討と実施 9. 社会環境保護（汚染、騒音、振動、廃棄物）について 10. 交通安全確保に関する検討と実施 11. その他

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

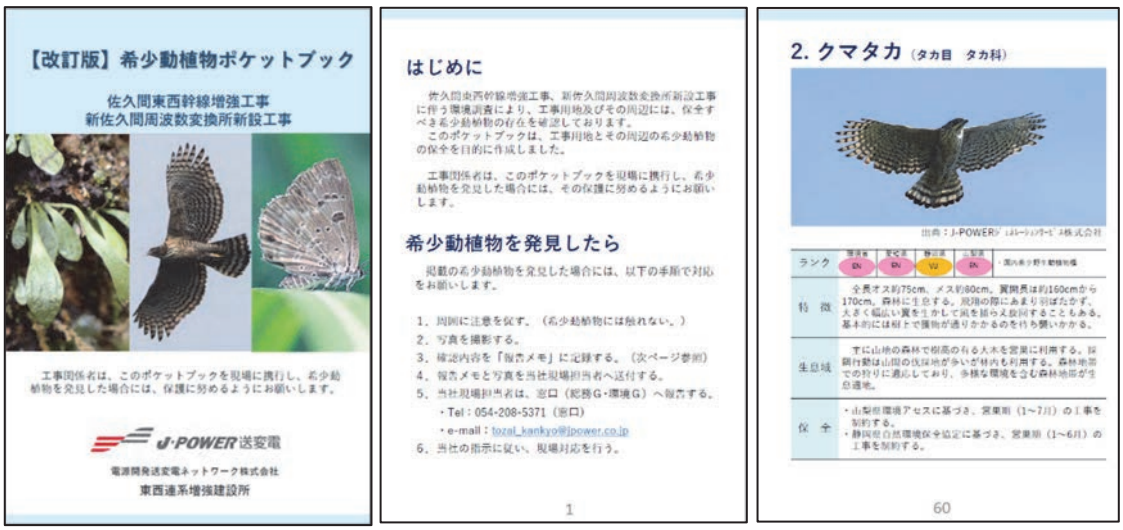
当社主催実績

実施年月	会議名等	環境関連の内容
2023 年 9 月	安全衛生推進協議会（全体）	環境教育
2024 年 3 月	安全衛生推進協議会（全体）	環境教育
2024 年 5 月	現場安全協議会	環境教育及びパトロール
2024 年 9 月	安全衛生推進協議会（全体）	環境教育
2025 年 3 月	安全衛生推進協議会（全体）	環境教育
2025 年 4 月	現場安全協議会	環境教育及びパトロール
2025 年 5 月	現場安全協議会	環境教育及びパトロール
2025 年 9 月	安全衛生推進協議会（全体）	環境教育
2026 年 3 月	安全衛生推進協議会（全体）	環境教育

当社による動植物保全に係る啓蒙活動



環境教育テキストの実例



希少動植物ポケットブック（2024 年 3 月発行）

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．１．４　ヘリコプター運搬に関する資料

出典：施工計画書（抜粋）

運搬設備　ヘリコプター物輸

1．物輸計画
（1）機種の選定
a．工事の運搬総重量，資機材の単位重量を勘案し，現地の標高・気温に適合する機種を選定する。
b．輸送される単位最大重量以上の能力を持つ機種を選定する。
（2）ヘリポート位置の選定
a．ヘリポート位置は以下の条件を考慮して，最適な位置に選定する。
①ヘリポート付近の上空にはヘリコプターの進入，離脱に十分な空域が確保されていること。
②ヘリコプターのヘリポートへの進入，離脱は原則別経路であること。
③騒音問題が発生する恐れがある為，住宅・学校・病院・保育所・畜舎・養鶏場などから十分に離れている箇所であること。
④ヘリコプターの風圧による農作物・果樹などへの影響を与えない箇所であること。
⑤生コン打設時間，物輸量を考慮して鉄塔(荷降し場)により近い箇所であること。
（3）荷降し場位置の選定
a．建設現場に近い平坦な場所で，第三者が容易に立入れない場所を選定する。
b．ヘリコプターは地形および気象の影響を受けやすいので以下の事項を考慮して選定する。
①山頂，尾根および台地などが適している。ただし，地形により上昇・下降気流や特殊な風が吹く場所は極力避ける。
②気象条件，最多風向などを調査し，ホバリングに危険な障害物がない安全な位置を選定する。
③進入離脱方向として三方向が開放されている位置が望ましいが，最低でも二方向が開放されていること。
④鉄塔組立後，工具回収に支障のない位置とする。また，急傾斜地の場合にはジャンプ台(専用荷降し構台)を設置する。
（4）飛行ルートの選定
a．飛行経路は，時間的に最短距離が望ましいが騒音や安全を考慮し以下の箇所は避けて選定する。
①管制空域および文化財，港湾，発電所の上空。
②住宅密集地，学校，病院，鉄道，交通量の多い道路などの上空。

4．運搬
（1）運搬準備
a．ヘリ運搬作業に当たり，管理スタッフ，搭乗員，ヘリ作業責任者は，作業前に打ち合わせを行い各自の責任を明確にし安全な運航に努める。
b．作業責任者は，ヘリポート・荷降し場でのフック掛け者，合図者を任命する。
c．ヘリコプターの実用積載重量を超えない範囲で，荷造りを行う。また，運航中に荷崩れやこぼれないようにバランスよく堅固に行う。
d．荷造りを行う際は，運搬する資機材にあった物を使用する。(※長尺物：玉掛けワイヤ，コンクリート：底開き式バケット，小物類：ナイロン製ネット(ヘリモッコ))
（2）ヘリ運搬
a．作業前に機体の点検を行った後，資機材運搬前に必ず飛行ルートを確認する。
b．ヘリポート，ヘリコプター，荷降し場とそれぞれに，無線機で連絡を取り，運搬順序を確認する。また，荷積み降し場の作業員は作業を中断し安全な場所に待避する。
c．ヘリコプターは，地上誘導員の指示に従い吊荷の上空でホバリングする。
d．フック掛け者は，ヘリコプターのフックに資機材を掛ける。(※ヘリコプターの機体は，静電気作用により帯電することがあるため，フック掛け前に電荷を接地により放電させる。)
e．フック掛け作業終了後，速やかに安全な場所に退避する。
f．ヘリコプターにて荷降し場まで資機材を運搬し，荷降し場の合図者の指示に従い荷を降ろ
g．合図者は進入するヘリのパイロットからはっきりと見える安全な位置に立ち合図する。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．１．５　景観・風景に関する資料

出典：当社　架空送電線路資材購入標準規格　送電用鉄塔

6.1 亜鉛めっき

鉄塔の各部材にはすべて防食を目的とした溶融亜鉛めっきを施すものとする。亜鉛めっきは、部材の切断、穿孔、矯正、仮組等一切の加工が終った段階で行うものとし、全面一様に指定量以上の完全なる亜鉛めっきを施さなければならない。

亜鉛めっきの仕様は、次によるものとする。なお、亜鉛めっきの品質、試験、検査等の基本プロセス管理は、ボルト類の亜鉛めっきと同様にJIS H 8641「溶融亜鉛めっき」のめっき2種に関する規程による。

・亜鉛めっき付着量　700g/m²以上

出典：一般財団法人　日本溶融亜鉛鍍金協会

めっき直後の金属光沢のある亜鉛めっき表面には、既に酸化皮膜の生成が始まっていますが、ごく薄い皮膜であるために肉眼では確認することが出来ず、また、光を透過させるため金属光沢を見ることが出来ます。このようなめっき製品が大気中で使用されますと、めっき表面に緻密な亜鉛酸化皮膜が厚く形成されて次第に光沢が失われ、めっき直後の明度(マンセル値)N7程度のものが、N6～N6.5程度の灰色に変化していきます。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．２　保全措置・事後調査関係

８．２．１　植物保全に関する資料

1. 移植実施状況

移植実施状況を表 8.2.1-1～24 に示す。

表 8.2.1-1　移植実施状況

移植元		
種　名	エビネ	
移植元地点	移元 146-1	
群　落	伐採跡地群落	
撮影日	2023 年 6 月 13 日	
移植個体数	50 株	
備　考		

移植先		
移植先地点	移先 146-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 6 月 13 日	
移植個体数	エビネ 50 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-2　移植実施状況

移植元		
種　名	クマガイソウ	
移植元地点	移元旧ヘリ-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 5 月 23 日	
移植個体数	11 株	
備　考		

移植先		
移植先地点	移先旧ヘリ-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 5 月 23 日	
移植個体数	クマガイソウ 11 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-3　移植実施状況

移植元		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 149-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 5 月 25 日	
移植個体数	1 株	
備　考		

移植先		
移植先地点	移先 149-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 5 月 25 日	
移植個体数	コクラン 1 株	
備　考	移植株仮置き	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-4　移植実施状況

移植元		
種　名	エビネ	
移植元地点	移元 150-2	
群　落	伐採跡地群落（草地）	
撮影日	2023 年 6 月 12 日	
移植個体数	11 株	
備　考	線下伐採後の草地に生育。	
移植先		
移植先地点	移先 150-1	
群　落	伐採跡地群落（低木）	
撮影日	2023 年 6 月 12 日	
移植個体数	エビネ 11 株	
備　考	線下伐採後の低木林内。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-5(1)　移植実施状況

移植元		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 151-3	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 25 日	
移植個体数	2 株	
備　考		
種　名	コミヤマスミレ	
移植元	移元 151-11	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 25 日	
移植個体数	45 株	
備　考		
種　名	ベニシュスラン	
移植元地点	移元 151-12, 13	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 25 日	
移植個体数	30 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-5(2)　移植実施状況

移植先		
移植先地点	移先 151-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 25 日	
移植個体数	コクラン 2 株 コミヤマスミレ 45 株 ベニシュスラン 30 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-6　移植実施状況

移植元		
種　名	ホンゴウソウ	
移植元地点	移元 151-6, 7, 8, 9, 10	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 25 日	
移植個体数	86 株	
備　考	掘り取った土塊	
移植先		
移植先地点	移先 151-2	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 25 日	
移植個体数	ホンゴウソウ 86 株	
備　考	生育環境調査で選定。 植え付け。斜面方位を変えて 3 地点に分散させて移植した。尾根の東側に 27 株、尾根上に 27 株、西側に 32 株を移植した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-7　移植実施状況

移植元		
種　名	ムカゴネコノメソウ	
移植元地点	移元 151-4	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 25 日	
移植個体数	表土移植	
備　考	地上部を枯らして休眠期に入っていており、個体位置が不明であったため、生育地点の表土を剥ぎ取り、コケを含んだ表土毎移植した。	

移植先		
移植先地点	移先旧ヘリ-2	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 25 日	
移植個体数	表土移植	
備　考	湿潤環境を選定。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-8　移植実施状況

移植元		
種　名	アリドオシ	
移植元地点	移元 156-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 26 日	
移植個体数	14 株	
備　考		
種　名	アリドオシ	
移植元地点	移元 156-2	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 26 日	
移植個体数	27 株	
備　考		
移植先		
移植先地点	移先 156-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 11 月 16 日	
移植個体数	アリドオシ 41 株	
備　考	複数地点株を移植した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-9　移植実施状況

移植元		
種　名	ベニシュスラン	
移植元地点	移元 156-3	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 26 日	
移植個体数	1 株	
備　考		
移植先		
移植先地点	移先 156-3	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 11 月 16 日	
移植個体数	ベニシュスラン 1 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-10　移植実施状況

移植元		
種　名	ホンゴウソウ	
移植元地点	移元 157-2	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 10 月 24 日	
移植個体数	16 株	
備　考		

移植先		
移植先地点	移先 157-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 11 月 16 日	
移植個体数	ホンゴウソウ 16 株	
備　考	生育環境調査で選定。 植え付け。斜面方位を変えて 3 地点に分散させて移植した。尾根の東側に 5 株、尾根上に 5 株、西側に 6 株を移植した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-11　移植実施状況

移植先		
移植先地点	移先 163-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	コクラン 8 株	
備　考	複数地点株を移植した。	
移植元		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 163-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	1 株	
備　考		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 163-2	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	7 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-12　移植実施状況

移植先		
移植先地点	移先 163-2	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	コクラン 25 株	
備　考	複数地点株を移植した。	
移植元		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 165-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	10 株	
備　考		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 165-2	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	15 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-13　移植実施状況

移植元		
種　名	ナンバンギセル	
移植元地点	移元 165-3	
群　落	ススキ群落	
撮影日	2023 年 5 月 22 日	
移植個体数	ススキ 1 株	
備　考	ナンバンギセルの花茎跡。この株が寄生していたと考えられるススキを移植した。	
移植先		
移植先地点	移先 165-1	
群　落	ススキ群落	
撮影日	2023 年 5 月 22 日	
移植個体数	ススキ 1 株	
備　考	草地として維持される必要があることから、改変域直近の草地に移植した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-14　移植実施状況

移植元		
種　名	サネカズラ	
移植元地点	移元 166-5,6	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	7 株	
備　考	根は 5cm～10cm 程度と浅いものの、長く横走していた。	

移植先		
移植先地点	移先 166-2	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	サネカズラ 7 株	
備　考	植え付け後、乾燥防止のため落葉でマルチングした。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-15　移植実施状況

移植元		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 166-1, 2, 3, 4	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	59 株	
備　考		
移植先		
移植先地点	移先 166-3	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	59 株	
備　考	複数地点株を移植した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-16　移植実施状況

移植元		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 166-7,11,12	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 19 日	
移植個体数	21 株	
備　考	根は浅く、深さ 1cm～5cm 程度であった。	
移植先		
移植先地点	移先 166-4	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 19 日	
移植個体数	21 株	
備　考	複数地点株を移植した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-17　移植実施状況

移植元		
種　名	アリドオシ	
移植元地点	移元 166-10	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 20 日	
移植個体数	35 株	
備　考	根は深さ 5cm～10cm 程度で主根が横走しており、細根は少なかった。大きな株でも深さ 20cm 程度であった。	

移植先		
移植先地点	移先 166-5	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 20 日	
移植個体数	アリドオシ 35 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-18　移植実施状況

移植元		
種　名	クリハラン	
移植元地点	移元 166-8,9	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 20 日	
移植個体数	25 株	
備　考	太い根茎が石垣表面を這っていた。	

移植先		
移植先地点	移先 166-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2023 年 4 月 20 日	
移植個体数	クリハラン 25 株	
備　考	一部は擁壁の溝に根茎を這わせ、ケト土で固定した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-19　移植実施状況

移植元		
種　名	ナンバンギセル	
移植元地点	移元 166-13, 14, 15, 16, 17	
群　落	ススキ群落	
撮影日	2023 年 4 月 19 日	
移植個体数	ススキ 5 株	
備　考	ナンバンギセルの花茎跡が確認できたススキを移植	

移植先		
移植先地点	移先 166-8	
群　落	ススキ群落	
撮影日	2023 年 4 月 19 日	
移植個体数	ススキ 1 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-20　移植実施状況

移植元		
種　名	ゴンズイ	
移植元地点	移元 168-1, 2, 3	
群　落	伐採跡地群落	
撮影日	2023 年 4 月 19 日	
移植個体数	16 株	
備　考	成木は個体が大きく移植できないため、周辺に生育していた実生を移植した。	
移植先		
移植先地点	移先 168-1	
群　落	伐採跡地群落	
撮影日	2023 年 4 月 19 日	
移植個体数	ゴンズイ 16 株	
備　考	複数地点株を移植した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-21　移植実施状況

移植元		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 159-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2024 年 12 月 19 日	
移植個体数	1 株	
備　考		

移植先		
移植先地点	移先 159-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2024 年 12 月 19 日	
移植個体数	コクラン 1 株	
備　考	複数地点株を移植した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-22　移植実施状況

移植元		
種　名	ゴンズイ	
移植元地点	移元 161-2, 3	
群　落	伐採跡地群落	
撮影日	2024 年 10 月 30 日	
移植個体数	13 株	
備　考		

移植先		
移植先地点	移先 161-1	
群　落	伐採跡地群落	
撮影日	2024 年 10 月 30 日	
移植個体数	ゴンズイ 13 株	
備　考	複数地点株を移植した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-23　移植実施状況

移植元		
種　名	カナクギノキ	
移植元地点	移元 143-3	
群　落	伐採跡地群落	
撮影日	2025 年 6 月 12 日	
移植個体数	1 株	
備　考	実生株を移植	

移植先		
移植先地点	移先 147-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2025 年 6 月 12 日	
移植個体数	カナクギノキ 1 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-24　移植実施状況

移植元		
種　名	ツルシロカネソウ	
移植元地点	移元 145-1	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2025 年 6 月 13 日	
移植個体数	7 株	
備　考	沢の縁の土砂だまりの湿潤環境で生育確認。 生育地モノレール敷設のため移植を実施した。	

移植先		
移植先地点	移先旧ヘリ-2	
群　落	スギ・ヒノキ・サワラ植林	
撮影日	2025 年 6 月 13 日	
移植個体数	ツルシロカネソウ 7 株	
備　考	湿潤環境に移植した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2. 林内環境維持実施状況

林内環境維持実施状況を表 8.2.1-25～31 に示す。

表 8.2.1-25　林内環境維持実施状況

防風ネット設置イメージ	
種名	サジラン
保護地点	林保 149-8
撮影日	2023 年 10 月 26 日
保護個体数	40 株
備　考	



防風ネット設置状況	
種名	サジラン
保護地点	林保 149-8
撮影日	2024 年 4 月 11 日
保護個体数	40 株
備　考	



保護個体	
種名	サジラン
保護地点	林保 149-8
撮影日	2023 年 10 月 26 日
保護個体数	40 株
備　考	現状が林縁であるが、南～東にかけての直近の樹木が多く伐採されることから、日照環境が大きく変化すると考えられる。そのため、林内環境維持作業を行う必要があると判断した。



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-26　林内環境維持実施状況

<table>
<tr><td colspan="2">防風ネット設置イメージ</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>コミヤマスミレ</td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 149-9</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2023 年 10 月 27 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>47 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td>改変域側に防風ネットを設置する。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">防風ネット設置状況</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>コミヤマスミレ</td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 149-9</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td></td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>47 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">設置予定</td></tr>
<tr><td colspan="2">保護個体</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>コミヤマスミレ</td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 149-9</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2023 年 10 月 27 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>47 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td>南東側がやや広く伐採されることから、日照環境が大きく変化すると考えられる。そのため、林内環境維持作業を行う必要があると判断した。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-27　林内環境維持実施状況

防風ネット設置イメージ		
種名	アリドオシ	
保護地点	林保 156-3	
撮影日	2023 年 10 月 26 日	
保護個体数	40 株	
備　考	アリドオシを囲うように防風ネット等を張る。	

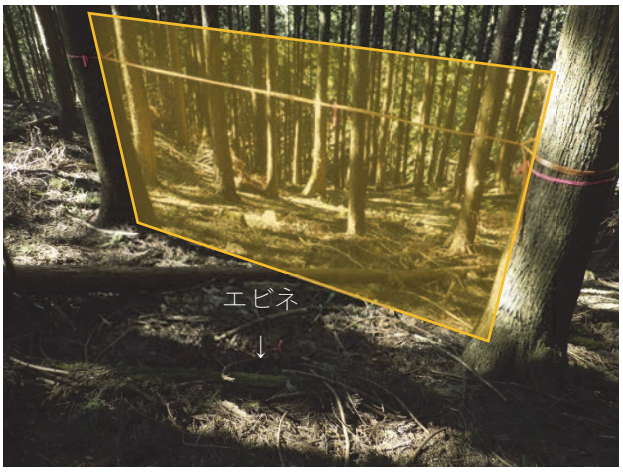
防風ネット設置状況		
種名	アリドオシ	
保護地点	林保 156-3	
撮影日	2024 年 4 月 11 日	
保護個体数	40 株	
備　考		

保護個体		
種名	アリドオシ	
保護地点	移先 156-3	
撮影日	2023 年 10 月 26 日	
保護個体数	40 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-28　林内環境維持実施状況

防風ネット設置イメージ	
種名	エビネ
保護地点	林保 156-4
撮影日	2023 年 10 月 26 日
保護個体数	2 株
備　考	改変域北側に防風ネット等を張る



防風ネット設置状況	
種名	エビネ
保護地点	林保 156-4
撮影日	2024 年 4 月 11 日
保護個体数	2 株
備　考	



保護個体	
種名	エビネ
保護地点	林保 156-4
撮影日	2023 年 10 月 26 日
保護個体数	2 株
備　考	



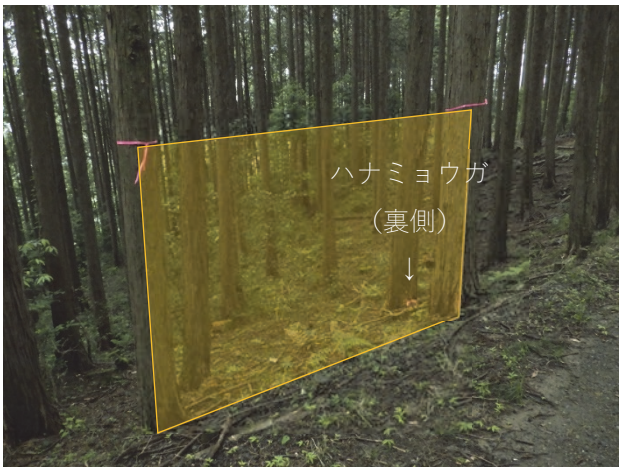
© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-29　林内環境維持実施状況

<table>
<tr><td colspan="3">防風ネット設置イメージ</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>ハナミョウガ</td><td rowspan="5">
</td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 163-1</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2023 年 6 月 14 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td></td></tr>
<tr><td>備　考</td><td>改変域は北東側であるが広く伐採されることと、当地点は林床にアズマネザサや低木が多く生育しており、これらも含めて伐採されることで林床の環境が大きく変わる可能性が考えられることから、改変域側に防風ネット等を張る必要があると判断した。</td></tr>
<tr><td colspan="3">防風ネット設置状況</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>ハナミョウガ</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 163-1</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2024 年 4 月 17 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td></td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">保護個体</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>ハナミョウガ</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 163-1</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2023 年 6 月 14 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td></td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
</table>

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-30　林内環境維持実施状況

<table>
<tr><td colspan="2">防風ネット設置イメージ</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>ハナミョウガ</td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 163-2</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2023 年 6 月 14 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>1 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">
</td></tr>
<tr><td colspan="2">防風ネット設置状況</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>ハナミョウガ</td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 163-2</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2023 年 6 月 14 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>1 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">保護個体</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>ハナミョウガ</td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 163-2</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2023 年 6 月 14 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>1 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-31　林内環境維持実施状況

防風ネット設置イメージ		
種名	オオカナワラビ	
保護地点	林保 165-2	
撮影日	2023 年 6 月 14 日	
保護個体数	1 株	
備　考	生育地に近い斜面上部がやや広く改変され、日照環境が大きく変化すると考えらえることから、改変域側の斜面上部に防風ネット等を張る必要があると判断した。	

防風ネット設置状況		
種名	オオカナワラビ	
保護地点	林保 165-2	
撮影日	2024 年 4 月 17 日	
保護個体数	1 株	
備　考		

保護個体		
種名	オオカナワラビ	
保護地点	林保 165-2	
撮影日	2023 年 6 月 14 日	
保護個体数	1 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

3. 囲い込み実施状況

囲い込み実施状況を表 8.2.1-32～34 に示す。

表 8.2.1-32　囲い込み実施状況

<table>
<tr><td colspan="3">囲い込み状況</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>カンアオイ属の一種</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>回避地点</td><td>回避 146-1</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2024 年 4 月 17 日</td></tr>
<tr><td>回避個体数</td><td>10 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td>モノレールルートを尾根側にまげて生育地点を回避した。
囲い込み、マーキングは実施しなかった。</td></tr>
<tr><td colspan="3">対象株の状況</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>カンアオイ属の一種</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>回避 146-1</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2024 年 4 月 17 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>10 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
</table>

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-33　囲い込み実施状況

囲い込み状況		
種名	カンアオイ属の一種	
回避地点	回避 151-1	
撮影日	2024 年 4 月 16 日	
回避個体数	23 株	
備　考	小さな株が少数点在している状況であるため、囲い込みではなく、各個体の確認位置にマーキングを実施した。	

対象株の状況		
種名	カンアオイ属の一種	
保護地点	回避 151-1	
撮影日	2024 年 4 月 16 日	
保護個体数	23 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-34　囲い込み実施状況

囲い込み状況		
種名	カンアオイ属の一種	
回避地点	回避 160-1	
撮影日	2024 年 10 月 30 日	
回避個体数	15 株	
備　考	小さな株が少数点在している状況であるため、囲い込みではなく、各個体の確認位置にマーキングを実施した。	

対象株の状況		
種名	カンアオイ属の一種	
保護地点	回避 160-1	
撮影日	2024 年 10 月 30 日	
保護個体数	15 株	
備　考	改変域内外で生育確認した。	

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

4. 事後調査実施状況

事後調査実施状況を表 8.2.1-35～64 に示す。

表 8.2.1-35　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	エビネ	
移植元地点	移元 146-1	
移植先地点	移先 146-1	
撮影日	2023 年 6 月 13 日	
移植個体数	50 株	
備　考		
移植 1 年後		
種　名	エビネ	
移植先地点	移先 146-1	
撮影日	2024 年 5 月 23 日	
移植 1 年後	48 株	
備　考		
移植 2 年後		
種　名	エビネ	
移植先地点	移先 146-1	
撮影日	2025 年 5 月 29 日	
移植 2 年後	45 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-36　事後調査実施状況（移植後）

移植直後	
種　名	クマガイソウ
移植元地点	移元旧ヘリ-1
移植先地点	移先旧ヘリ-1
撮影日	2023 年 5 月 23 日
移植個体数	11 株
備　考	



移植 1 年後	
種　名	クマガイソウ
移植先地点	移先旧ヘリ-1
撮影日	2024 年 4 月 17 日
移植 1 年後	9 株
備　考	



移植 2 年後	
種　名	クマガイソウ
移植先地点	移先旧ヘリ-1
撮影日	2025 年 4 月 23 日
移植 2 年後	6 株
備　考	



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-37　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 149-1	
移植先地点	移先 149-1	
撮影日	2023 年 5 月 25 日	
移植個体数	1 株	
備　考		

移植 1 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 149-1	
撮影日	2024 年 6 月 21 日	
移植 1 年後	1 株	
備　考		

移植 2 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 149-1	
撮影日	2025 年 6 月 13 日	
移植 2 年後	1 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-38　事後調査実施状況（移植後）

移植直後	
種　名	エビネ
移植元地点	移元 150-2
移植先地点	移先 150-1
撮影日	2023 年 6 月 12 日
移植個体数	11 株
備　考	



移植 1 年後	
種　名	エビネ
移植先地点	移先 150-1
撮影日	2024 年 4 月 16 日
移植 1 年後	5 株
備　考	



移植 2 年後	
種　名	エビネ
移植先地点	移先 150-1
撮影日	2025 年 6 月 11 日
移植 2 年後	0 株
備　考	



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-39　事後調査実施状況（移植後）

移植直後	
種　名	コミヤマスミレ
移植元地点	移元 151-11
移植先地点	移先 151-1
撮影日	2023 年 10 月 25 日
移植個体数	45 株
備　考	



移植 1 年後	
種　名	コミヤマスミレ
移植先地点	移先 151-1
撮影日	2024 年 7 月 26 日
移植 1 年後	41 株
備　考	



移植 2 年後	
種　名	コミヤマスミレ
移植先地点	移先 151-1
撮影日	2025 年 5 月 30 日
移植 2 年後	26 株
備　考	



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-40　事後調査実施状況（移植後）

移植直後	
種　名	ホンゴウソウ
移植元地点	移元 151-6 ～10
移植先地点	移先 151-2
撮影日	2023 年 10 月 25 日
移植個体数	86 株
備　考	



移植 1 年後	
種　名	ホンゴウソウ
移植先地点	移先 151-2
撮影日	2024 年 10 月 11 日
移植 1 年後	0 株
備　考	



移植 2 年後	
種　名	ホンゴウソウ
移植先地点	移先 151-2
撮影日	2025 年 9 月 25 日
移植 2 年後	2 株
備　考	



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-41　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	ムカゴネコノメソウ	
移植元地点	移元 151-4	
移植先地点	移先旧ヘリ-2	
撮影日	2023 年 10 月 25 日	
移植個体数	表土移植	
備　考	地上部なし	

移植 1 年後		
種　名	ムカゴネコノメソウ	
移植先地点	移先旧ヘリ-2	
撮影日	2024 年 4 月 17 日	
移植 1 年後	1 株	
備　考		

移植 2 年後		
種　名	ムカゴネコノメソウ	
移植先地点	移先旧ヘリ-2	
撮影日	2025 年 4 月 23 日	
移植 2 年後	3 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-42　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 151-3	
移植先地点	移先 151-1	
撮影日	2023 年 10 月 25 日	
移植個体数	2 株	
備　考		
移植 1 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 151-1	
撮影日	2024 年 7 月 26 日	
移植 1 年後	2 株	
備　考		
移植 2 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 151-1	
撮影日	2025 年 5 月 30 日	
移植 2 年後	2 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-43　事後調査実施状況（移植後）

移植直後	
種　名	ベニシュスラン
移植元地点	移元 151-12、13
移植先地点	移先 151-1
撮影日	2023 年 10 月 25 日
移植個体数	30 株
備　考	



移植 1 年後	
種　名	ベニシュスラン
移植先地点	移先 151-1
撮影日	2024 年 7 月 26 日
移植 1 年後	14 株
備　考	



移植 2 年後	
種　名	ベニシュスラン
移植先地点	移先 151-1
撮影日	2025 年 5 月 30 日
移植 2 年後	4 株
備　考	



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-44　事後調査実施状況（移植後）

移植直後	
種　名	アリドオシ
移植元地点	移元 156-1
移植先地点	移先 156-1
撮影日	2023 年 10 月 26 日
移植個体数	41 株
備　考	



移植 1 年後	
種　名	アリドオシ
移植先地点	移先 156-1
撮影日	2024 年 5 月 24 日
移植 1 年後	36 株
備　考	



移植 2 年後	
種　名	アリドオシ
移植先地点	移先 156-1
撮影日	2025 年 5 月 9 日
移植 2 年後	40 株
備　考	



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-45　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	ベニシュスラン	
移植元地点	移元 156-3	
移植先地点	移先 156-3	
撮影日	2023 年 10 月 26 日	
移植個体数	1 株	
備　考		

移植 1 年後		
種　名	ベニシュスラン	
移植先地点	移先 156-3	
撮影日	2024 年 5 月 24 日	
移植 1 年後	1 株	
備　考		

移植 2 年後		
種　名	ベニシュスラン	
移植先地点	移先 156-3	
撮影日	2025 年 5 月 9 日	
移植 2 年後	0 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-46　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	ホンゴウソウ	
移植元地点	移元 157-2	
移植先地点	移先 157-1	
撮影日	2023 年 10 月 24 日	
移植個体数	16 株	
備　考		

移植 1 年後		
種　名	ホンゴウソウ	
移植先地点	移先 157-1	
撮影日	2024 年 10 月 11 日	
移植 1 年後	6 株	
備　考		

移植 2 年後		
種　名	ホンゴウソウ	
移植先地点	移先 157-1	
撮影日	2025 年 9 月 25 日	
移植 2 年後	2 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-47　事後調査実施状況（移植後）

移植直後	
種　名	コクラン
移植元地点	移元 163-1、2
移植先地点	移先 163-1
撮影日	2023 年 4 月 18 日
移植個体数	8 株
備　考	



移植 1 年後	
種　名	コクラン
移植先地点	移先 163-1
撮影日	2024 年 7 月 25 日
移植 1 年後	5 株
備　考	



移植 2 年後	
種　名	コクラン
移植先地点	移先 163-1
撮影日	2025 年 6 月 10 日
移植 2 年後	1 株
備　考	



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-48　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 165-1、2	
移植先地点	移先 163-2	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	25 株	
備　考		

移植 1 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 163-2	
撮影日	2024 年 7 月 25 日	
移植 1 年後	12 株	
備　考		

移植 2 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 163-2	
撮影日	2025 年 6 月 10 日	
移植 2 年後	1 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-49　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	ナンバンギセル	
移植元地点	移元 165-3	
移植先地点	移先 165-1	
撮影日	2023 年 5 月 22 日	
移植個体数	1 株（ススキ）	
備　考	ススキ株移植	

移植 1 年後		
種　名	ナンバンギセル	
移植先地点	移先 165-1	
撮影日	2024 年 10 月 10 日	
移植 1 年後	58 株	
備　考		

移植 2 年後		
種　名	ナンバンギセル	
移植先地点	移先 165-1	
撮影日	2025 年 9 月 26 日	
移植 2 年後	21 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-50　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	サネカズラ	
移植元地点	移元 166-5、6	
移植先地点	移先 166-2	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	7 株	
備　考		

移植 1 年後		
種　名	サネカズラ	
移植先地点	移先 166-2	
撮影日	2024 年 7 月 25 日	
移植 1 年後	0 株	
備　考		

移植 2 年後		
種　名	サネカズラ	
移植先地点	移先 166-2	
撮影日	2025 年 6 月 10 日	
移植 2 年後	0 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-51　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 166-1～4	
移植先地点	移先 166-3	
撮影日	2023 年 4 月 18 日	
移植個体数	59 株	
備　考		
移植 1 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 166-3	
撮影日	2024 年 7 月 25 日	
移植 1 年後	40 株	
備　考		
移植 2 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 166-3	
撮影日	2025 年 6 月 10 日	
移植 2 年後	8 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-52　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 166-7、11、12	
移植先地点	移先 166-4	
撮影日	2023 年 4 月 19 日	
移植個体数	21 株	
備　考		
移植 1 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 166-4	
撮影日	2024 年 7 月 25 日	
移植 1 年後	17 株	
備　考		
移植 2 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 166-4	
撮影日	2025 年 6 月 10 日	
移植 2 年後	6 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-53　事後調査実施状況（移植後）

移植直後	
種　名	アリドオシ
移植元地点	移元 166-10
移植先地点	移先 166-5
撮影日	2023 年 4 月 20 日
移植個体数	35 株
備　考	



移植 1 年後	
種　名	アリドオシ
移植先地点	移先 166-5
撮影日	2024 年 7 月 25 日
移植 1 年後	33 株
備　考	



移植 2 年後	
種　名	アリドオシ
移植先地点	移先 166-5
撮影日	2025 年 6 月 10 日
移植 2 年後	33 株
備　考	



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-54　事後調査実施状況（移植後）

移植直後	
種　名	クリハラン
移植元地点	移元 166-8、9
移植先地点	移先 166-1
撮影日	2023 年 4 月 20 日
移植個体数	25 株
備　考	



移植 1 年後	
種　名	クリハラン
移植先地点	移先 166-1
撮影日	2024 年 7 月 25 日
移植 1 年後	20 株
備　考	



移植 2 年後	
種　名	クリハラン
移植先地点	移先 166-1
撮影日	2025 年 6 月 10 日
移植 2 年後	20 株
備　考	



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-55　事後調査実施状況（移植後）

移植直後	
種　名	ナンバンギセル
移植元地点	移元 166-13～17
移植先地点	移先 166-8
撮影日	2023 年 4 月 19 日
移植個体数	5 株（ススキ）
備　考	ススキ株移植



移植 1 年後	
種　名	ナンバンギセル
移植先地点	移先 166-8
撮影日	2024 年 10 月 10 日
移植 1 年後	75 株
備　考	



移植 2 年後	
種　名	ナンバンギセル
移植先地点	移先 166-8
撮影日	2025 年 9 月 26 日
移植 2 年後	14 株
備　考	



© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-56　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	ゴンズイ	
移植元地点	移元 168-1～3	
移植先地点	移先 168-1	
撮影日	2023 年 4 月 19 日	
移植個体数	16 株	
備　考		

移植 1 年後		
種　名	ゴンズイ	
移植先地点	移先 168-1	
撮影日	2024 年 7 月 25 日	
移植 1 年後	2 株	
備　考		

移植 2 年後		
種　名	ゴンズイ	
移植先地点	移先 168-1	
撮影日	2025 年 9 月 26 日	
移植 2 年後	0 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-57　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	コクラン	
移植元地点	移元 159-1,4	
移植先地点	移先 159-1	
撮影日	2024 年 12 月 19 日	
移植個体数	1 株	
備　考		

移植 1 年後		
種　名	コクラン	
移植先地点	移先 159-1	
撮影日	2025 年 6 月 11 日	
移植 1 年後	2 株	
備　考		

移植 2 年後		
種　名		
移植先地点		
撮影日		
移植 2 年後		
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-58　事後調査実施状況（移植後）

移植直後		
種　名	ゴンズイ	
移植元地点	移元 161-2, 3	
移植先地点	移先 161-1	
撮影日	2024 年 10 月 30 日	
移植個体数	13 株	
備　考		

移植 1 年後		
種　名	ゴンズイ	
移植先地点	移先 161-1	
撮影日	2025 年 6 月 11 日	
移植 1 年後	5 株	
備　考		

移植 2 年後		
種　名		
移植先地点		
撮影日		
移植 2 年後		
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-59　事後調査実施状況（林内環境維持実施後）

防風ネット設置状況		
種名	サジラン	
保護地点	林保 149-8	
撮影日	2024 年 4 月 11 日	
保護個体数	40 株	
備　考		

1 年後モニタリング		
種名	サジラン	
保護地点	林保 149-8	
撮影日	2024 年 7 月 26 日	
保護個体数	40 株	
備　考		

2 年後モニタリング		
種名	サジラン	
保護地点	林保 149-8	
撮影日	2025 年 6 月 13 日	
保護個体数	120 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-60　事後調査実施状況（林内環境維持実施後）

防風ネット設置状況		
種名	アリドオシ	
保護地点	林保 156-3	
撮影日	2023 年 10 月 26 日	
保護個体数	40 株	
備　考	アリドオシを囲うように防風ネット等を張る。	

1 年後モニタリング		
種名	アリドオシ	
保護地点	林保 156-3	
撮影日	2024 年 6 月 19 日	
保護個体数	65 株	
備　考		

2 年後モニタリング		
種名	アリドオシ	
保護地点	移先 156-3	
撮影日	2025 年 5 月 8 日	
保護個体数	65 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-61　事後調査実施状況（林内環境維持実施後）

<table>
<tr><td colspan="3">防風ネット設置状況</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>エビネ</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 156-4</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2023 年 10 月 26 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>2 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td>改変域側に防風ネット等を張る</td></tr>
<tr><td colspan="3">1 年後モニタリング</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>エビネ</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 156-4</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2024 年 6 月 19 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>7 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">2 年後モニタリング</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>エビネ</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 156-4</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2025 年 5 月 8 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>4 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
</table>

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-62　事後調査実施状況（林内環境維持実施後）

防風ネット設置状況		
種名	ハナミョウガ	
保護地点	林保 163-2	
撮影日	2023 年 6 月 14 日	
保護個体数	1 株	
備　考		

1 年後モニタリング		
種名	ハナミョウガ	
保護地点	林保 163-2	
撮影日	2024 年 10 月 10 日	
保護個体数	2 株	
備　考		

2 年後モニタリング		
種名	ハナミョウガ	
保護地点	林保 163-2	
撮影日	2025 年 6 月 10 日	
保護個体数	4 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-63　事後調査実施状況（林内環境維持実施後）

<table>
<tr><td colspan="3">防風ネット設置状況</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>ハナミョウガ</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 163-1</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2023 年 6 月 14 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>1 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">1 年後モニタリング</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>ハナミョウガ</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 163-1</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2024 年 10 月 10 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>2 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">2 年後モニタリング</td></tr>
<tr><td>種名</td><td>ハナミョウガ</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>保護地点</td><td>林保 163-1</td></tr>
<tr><td>撮影日</td><td>2025 年 6 月 10 日</td></tr>
<tr><td>保護個体数</td><td>6 株</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td></td></tr>
</table>

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.1-64　事後調査実施状況（林内環境維持実施後）

防風ネット設置状況		
種名	オオカナワラビ	
保護地点	林保 165-2	
撮影日	2023 年 6 月 14 日	
保護個体数	1 株	
備　考		
1 年後モニタリング		
種名	オオカナワラビ	
保護地点	林保 165-2	
撮影日	2024 年 10 月 10 日	
保護個体数	2 株	
備　考		
2 年後モニタリング		
種名	オオカナワラビ	
保護地点	林保 165-2	
撮影日	2025 年 6 月 10 日	
保護個体数	2 株	
備　考		

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．２．２　両生類保全に関する資料

1. 捕獲移動実施状況

確認、移動実施状況を表 8.2.2-1～4 に示す。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.2-1（1）　　ヒガシヒダサンショウウオの確認、移動状況（No.1）

確認 状況	 ・ヒガシヒダサンショウウオの確認状況
移動 状況	 ・プラスティック容器に入れて移動
移動先への 放出	 ・移動元と同様のスギ植林林床へ放出

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.2-1（2）　　ヒガシヒダサンショウウオの確認、移動状況（No.1）

移動元 環境	 ・スギ植林の斜面林 ・スギの落葉が堆積した湿潤な部分で確認 ※赤枠の範囲で確認
移動先 環境	 ・スギ植林の斜面林 ・スギの落葉が堆積した湿潤な環境

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.2-2（1）　　アカイシサンショウウオの確認、移動状況（No.2）

確認 状況	 ・確認したアカイシサンショウウオ
移動 状況	 ・プラスティック容器に入れて移動
移動先への 放出	 ・移動元と同様の落葉樹林床へ放出

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.2-2（2）　　アカイシサンショウウオの確認、移動状況（No.2）

移動元 環境	 ・落葉樹の斜面林 ・落葉が堆積した湿潤な部分で確認 ※赤枠の範囲で確認
移動先 環境	 ・落葉樹斜面林 ・落葉が堆積した湿潤な環境

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.2-3（1）　　アカイシサンショウウオの確認、移動状況（No.3）

確認 状況	 ・確認したアカイシサンショウウオ
移動 状況	 ・プラスティック容器に入れて移動
移動先への 放出	 ・移動元と同様の落葉樹林床へ放出

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.2-3（2）　　アカイシサンショウウオの確認、移動状況（No.3）

移動元 環境	 ・スギ植林の斜面林 ・スギの落葉が堆積した湿潤な部分で確認 ※赤枠の範囲で確認
移動先 環境	 ・落葉樹斜面林 ・落葉が堆積した湿潤な環境

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.2-4（1）　　ヒガシヒダサンショウウオの確認、移動状況（No.4）

確認 状況	 ・確認したヒガシヒダサンショウオ
移動 状況	 ・プラスティック容器に入れて移動
移動先への 放出	 ・移動元と同様の落葉樹林床へ放出

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.2-4（2）　　ヒガシヒダサンショウウオの確認、移動状況（No.4）

移動元 環境	 ・スギ植林の斜面林 ・スギの落葉が堆積した湿潤な部分で確認 ※赤枠の範囲で確認
移動先 環境	 ・落葉樹斜面林 ・落葉が堆積した湿潤な環境

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．２．３　クマタカの確認状況

1.　2023 年

事後調査として実施したクマタカ定点観察における 2023 年のクマタカの確認状況を表 8.2.3-1 に示す。

表 8.2.3-1（1）　2023 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
3 月 29 日	1	成鳥	不明	8:58	9:15	ピークの東の斜面のスギ林にとまっている個体を確認。9:06 に飛び立ち、ピーク方向へ飛翔。尾羽上げ V 字ディスプレイをしながら旋回後、旋回上昇して西方向へ飛翔。ピーク南の稜線を越え、尾根陰で消失。	14
	2	成鳥	不明	9:19	9:21	ピーク南を飛翔、ピーク付近の樹木にとまった個体を確認。9:21 に飛び立つと北へ飛翔し、尾根陰で消失。	14、19
	3	成鳥	雌	9:59	10:04	ピーク西に伸びる尾根の北側から旋回上昇してくる個体を確認。高度を上げ東へ向かい、再度旋回上昇。ピークへ向け滑翔し、尾根陰で消失。	19、21
	4	成鳥	不明	10:49	10:49	No.151 鉄塔西を旋回している個体を確認。北東へ滑翔し、尾根陰で消失。	19
	5	成鳥	不明	10:49	12:28	No.151 鉄塔西から南東へ滑翔する個体を確認。No.2-220 鉄塔にとまる。12:28 に西へ飛び、急降下して手前の樹林に隠れ消失。	14、19、21
	6	成鳥	不明	11:28	11:29	ピーク南東を旋回する個体を確認。南へ飛翔し、No.140 鉄塔北西の稜線を西へ飛翔し、尾根陰で消失。	14
	7	不明	不明	11:38	11:38	ピーク南を北東へ滑翔する個体を確認。ピーク南の尾根陰で消失。	14
	8	成鳥	不明	12:38	12:45	福士川左岸の尾根北側を旋回上昇する個体を確認。西北西へ旋回しつつ飛翔。ピークより西に飛翔後滑翔し、尾根陰で消失。	14、19、21
	9	成鳥	不明	12:45	12:47	St.1 北東の谷内を旋回する個体を確認。徐々に西へ飛翔、手前の樹林に隠れ消失。	1
	10	成鳥	不明	12:47	12:48	クマタカ No.9 の個体を観察中に本個体を確認。No.142 鉄塔東を南から北へ飛翔。その後東へ飛翔し、手前の樹林に隠れ消失。	1、14
	11	成鳥	不明	12:52	13:04	ピーク東で V 字飛行をしながら旋回する個体を確認。南西へ飛翔し、途中でクマタカ No.13 の個体と合流。2 個体で西へ飛翔し、尾根陰で消失。	1、14
	12	成鳥	不明	12:58	13:00	No.151 鉄塔西を旋回している個体を確認。高度を下げながら南へ滑翔後、高度を上げながら北に戻り、手前の樹林に隠れ消失。	19
	13	不明	不明	13:01	13:04	クマタカ No.11 の個体を観察中に本個体を確認。2 個体で西へ飛翔し、尾根陰で消失。	14
	14	成鳥	不明	13:07	13:08	ピーク南を旋回する個体を確認。旋回しつつ西へ飛翔し、尾根陰で消失。	19、21
	15	不明	不明	13:09	13:16	ピーク西から北へクマタカ No.16 の個体と同時飛翔する個体を確認。ピーク西で旋回後、尾根陰で消失。	1、14
	16	不明	不明	13:09	13:16	ピーク西から北へクマタカ No.15 の個体と同時飛翔する個体を確認。ピーク西で旋回後、尾根陰で消失。	1、14
	17	成鳥	不明	13:10	13:17	No.2-220 鉄塔南で旋回上昇している個体を確認。高度を下げながら南へ滑翔。谷の中で旋回した後、林内に入り消失。	19、21
	18	不明	不明	13:23	13:25	クマタカ No.19、20 の個体と、St.1 近くを発声しながら南へ飛翔する個体を確認。クマタカ No.19 の個体につっかかりを行い、その後南西へ進路を変えて、尾根陰で消失。	1、14
	19	不明	不明	13:23	13:25	クマタカ No.18、20 の個体と、St.1 近くを南へ飛翔する個体を確認。クマタカ No.18 の個体につっかかりを受ける。その後南西へ進路を変え、尾根陰で消失。	1、14
	20	不明	不明	13:23	13:25	クマタカ No.18、19 の個体と、St.1 近くを南へ飛翔する個体を確認。その後南西へ進路を変え、尾根陰で消失。	1、14
	21	成鳥?	不明	13:38	13:42	ピーク西のヒノキ頂部にとまっている個体を確認。13:42 に飛び立つと、南へ滑翔して尾根陰で消失。	21
	22	成鳥	不明	13:40	13:40	No.21 観察中に確認。ピーク西の落葉広葉樹にとまっていた様で飛翔時に確認。北西へ滑翔するも、No.21 の観察を優先し、すぐに尾根陰で消失。	21
	23	成鳥	不明	13:59	14:04	ピーク北東を北西へ飛翔する個体を確認。ピーク南の尾根陰で消失。	14
	24	成鳥?	不明	14:08	14:13	St21 東の斜面上を旋回する個体を確認。西北西へ滑翔し、尾根陰で消失。	21
	25	成鳥	不明	14:17	14:21	ピーク南西を旋回しながら南へ飛翔する個体を確認。ピーク付近で旋回上昇後、西へ滑翔し、手前の樹林に隠れ消失。	1、14
	26	不明	不明	14:31	14:34	ピーク北で旋回する個体を確認。北へ滑翔し、背景に溶け込み消失。	14
	27	不明	不明	14:47	14:49	南又川右岸でピーク方面へ羽ばたきながら飛翔する個体を確認。ピーク付近西斜面の林内に入り消失。	1
	28	不明	不明	14:48	14:52	クマタカ No.27 の個体とは別にピーク方面へ飛翔する個体を確認。その後、南西へ飛翔し、過年度営巣地付近に入り消失。	1、14
	29	成鳥	不明	15:06	15:08	ピーク西に伸びる尾根で旋回上昇する個体を確認。西南西へ滑翔し、尾根陰で消失。	21

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-1（2）　2023 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
3 月 30 日	30	成鳥	不明	8:27	8:57	No.152 鉄塔北の枯木にとまっている個体を確認。8:55 に飛び立ち、旋回した後東へ飛翔し、手前の尾根陰で消失。	14、19、21
	31	幼鳥	不明	10:37	10:42	No.151 鉄塔付近の尾根上を低空飛翔する個体を確認。カラスに攻撃を受けた後、旋回上昇して北西へ向かい、林内に入り消失。	1、14、19、21
	32	不明	不明	10:46	10:54	No.140 鉄塔北西の尾根を北へ飛翔する個体を確認。尾根上の針葉樹にとまる。同じ木にクマタカ No.34 の個体が飛来しとまる。10:52 に飛び立ち尾根沿いを飛翔後、南西へ滑翔し尾根陰で消失。	14、19
	33	若鳥	不明	10:48	10:50	No.151 鉄塔北尾根上のクマタカ No.31 の個体が消失した付近から地面に降り、とまった個体を確認。10:50 に飛び立ち、再び林縁の林内に入り消失。	21
	34	不明	不明	10:50	11:01	クマタカ No.32 の個体がとまる針葉樹に北から本個体が飛来してとまる。10:53 に飛び立つと、近くの木に 2 回とまった後、西へ降下し尾根陰で消失。	14、19
	35	若鳥	不明	11:04	11:08	No.151 鉄塔北側から南東へ滑翔する個体を確認。途中で鳴いた後、さらに南東へ向かい、林内に入り消失。	19
	36	不明	不明	11:29	11:34	St.19 南東の斜面林上空で旋回上昇する個体を確認。その後東へ飛び、谷上空で再び旋回上昇。西南西へ滑翔して林内に入り消失。	19
	37	成鳥	雌	12:29	14:35	St.19 南側の福士川河川上からクマタカ No.38、39 の個体と一緒に旋回上昇する本個体を確認。南へ飛翔し、ピーク東尾根の北側斜面にとまる。14:05 に飛び立ち、東へ滑翔して河川を越えると北東へ、谷上空で旋回上昇。南南東へ飛翔し、ピーク南で旋回上昇後、ピーク西にとまる。14:20 に飛び立ち、北西へ尾羽上げ V 字ディスプレイをしながら飛翔し、No.151 鉄塔東で旋回上昇。再びピーク方向へ波状飛行を交えながら飛翔し、ピーク付近の林内に入り消失。	19
	38	若鳥	不明	12:29	12:33	St.19 南側の福士川河川上からクマタカ No.37、39 の個体と一緒に旋回上昇する本個体を確認。その後、鳴いて西へ飛翔。クマタカ No.37 の個体を優先して追跡したため、本個体は視野から外れ消失。	19
	39	成鳥	雄？	12:29	12:33	St.19 南側の福士川河川上からクマタカ No.37、38 の個体と一緒に旋回上昇する本個体を確認。その後東へ飛翔、クマタカ No.37 の個体を優先して追跡したため、本個体は視野から外れ消失。	19
	40	成鳥	不明	12:38	12:46	St.14 北東をハシブトガラスに追われながら西へ降下し、カラスの追跡を振り切るように斜面のスギにとまる。すぐに飛び立ち、旋回して谷内を上昇。ピークの西に伸びる尾根陰で消失。	14
	41	成鳥	不明	14:18	14:20	クマタカ No.37 の個体を観察中にピーク西を旋回する個体を確認。ピーク西で急降下し、尾根陰で消失。	19、21
	42	成鳥	不明	14:28	14:36	クマタカ No.37 の個体を観察中に No.151 鉄塔東から飛翔してくる個体を確認。本個体は尾羽上げ V 字ディスプレイをしながらしばらく 2 個体で飛翔。クマタカ No.37 の個体が視野から外れた後、南東へ飛び、尾根陰で消失。	19、21
	43	成鳥	不明	15:23	15:35	ピーク西の谷内を旋回する個体を確認。北へ飛翔し、尾根上の針葉樹にとまる。15:33 に飛び立ち、再び谷方向へ飛翔、ピーク西へ急降下して尾根陰で消失。	19、21
3 月 31 日	44	若鳥	不明	8:09	8:12	ピークを東に飛翔する個体を確認。ピーク北西の谷左岸の林内に入り消失。	19、21
	45	若鳥	不明	10:20	10:28	ピーク北西の谷内にとまりを確認。時折、焦点合わせなど探餌を行う。その後、谷内に降下し消失（足を出し降下したハンティングと思われる）。	19
	46	成鳥	不明	10:23	10:26	St.21 北西をクマタカ No.47 の個体と一緒に旋回している本個体を確認。南へ滑翔し、尾根陰で消失。	19、21
	47	成鳥	不明	10:23	10:26	St.21 北西をクマタカ No.46 の個体と一緒に旋回している本個体を確認した。南へ滑翔し、尾根陰で消失した。	19、21
	48	成鳥	不明	13:43	13:50	ピーク西の巣の辺りより出現。北東へ飛び、ピーク北西尾根上の林内に入る。13:47 に林内に入った同じ辺りより出現し、巣の方向へ飛翔して巣近くの林内に入る。13:49 に出現し、巣付近の手前樹林に隠れ消失。	1
	49	成鳥	不明	14:07	15:00	巣内にいる個体を確認。大きな動きはなく、時折、頭部が動く程度。調査時間終了となり観察を終了。	1
	50	成鳥	不明	15:10	15:14	ピーク北で旋回上昇する個体を確認。南西へ飛翔し、尾根陰で消失。	14、19
	51	成鳥	不明	15:19	15:19	St.21 北を東へ降下していく個体を確認。谷の中に入り、尾根陰で消失。	21
4 月 12 日	52	成鳥	不明	8:35	8:40	St.1 北東を旋回する個体を確認した。北西へ飛翔、ピーク付近の尾根陰で消失した。	1、14
	53	不明	不明	8:46	9:05	ピーク南側で尾羽上げ V 字ディスプレイをしながら旋回する個体を確認した。その後南下し、ピークから西へ伸びる尾根上のモミの横枝にとまる。9:05 に北へ飛び立つが、背景に溶け込み消失した。	14
	54	成鳥	不明	9:26	9:41	クマタカ No.53 の個体がとまった同じモミにとまっている個体を確認した。9:30 に飛び立ち北へ移動した。ピーク南、尾根に近い高さのモミにとまるが、すぐに飛び南下した。最初にとまったモミの少し南、谷をはさんだ尾根上のマツにとまる。9:37 に飛び立ち、営巣木のある谷方向へ飛翔し、谷左岸の林内に入り消失した。	1、14

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-1（3）　2023 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
4 月 12 日	55	成鳥	不明	9:45	11:44	営巣木のある谷左岸を旋回する個体を確認した。左岸斜面の落葉広葉樹にとまる。9:58 に飛び立ち北西へ移動し、ピークから西に伸びる尾根上のモミにとまる。1 時間以上のとまりのあと、11:20 に飛び立ち北上した。ピークの南側で尾羽上げ V 字ディスプレイを行いながら旋回上昇した後、南下し再び同じモミにとまる。暫くして飛び立つと、ピークやや下のモミの横枝へとまる。11:43 に飛び立ち、営巣木のある谷方向へ向かい、巣付近の林内に入り消失した。	1、14
	56	不明	不明	10:05	10:05	ピーク北で南へ滑翔する個体を確認した。すぐに尾根陰で消失した。	19
	57	不明	不明	10:11	10:14	No.151 鉄塔の北西から南東へ旋回する個体を確認した。その後北へ滑翔し、急降下して林内に入り消失した。	1、19、21
	58	成鳥	不明	10:26	10:28	No.152 鉄塔北を旋回している個体を確認した。南東方向へ滑翔後、高度を下げながらさらに南東へ滑翔し、谷の中に入り消失した。	19、21
	59	成鳥	不明	11:48	12:01	巣の付近を旋回する個体を確認した。西へ飛んだ後、ピーク東側を北西へ飛翔した。ピーク南西尾根上のマツにとまる。12:01 に飛び立ち北方向へ向かうが、背景に溶け込み消失した。	1、14
	60	不明	不明	12:12	12:12	巣の北、尾根奥で旋回している個体を確認したが、尾根裏に入り消失した。	21
	61	成鳥	不明	12:56	12:57	ピークから西に延びる尾根上の途中のモミにとまる個体を確認した。すぐに飛び立ち南方向へ向かうが、背景に溶け込み消失した。	14
	62	成鳥	不明	12:57	13:04	ピーク北から南東へ飛翔する個体を確認した。旋回上昇後、東へ急降下し、背景に溶け込み消失した。	1、14、19
	63	成鳥	不明	13:33	14:35	在巣している個体を確認した。抱卵していると考えられる。定点位置移動のため本個体の観察を終了した。	1
4 月 13 日	64	若鳥	不明	7:37	9:32	古巣北の枯木にとまっている個体を確認した。8:38 に飛び立ち、谷の中を旋回して元の枯木に戻った。8:58 に飛び立つが、再び枯木に戻った。9:06 に飛び立ち、谷の中を旋回したあと、元の枯木の近くの別の枯木にとまる。9:24 に飛び立ち谷の中を旋回後、少し旋回上昇し、南東へ滑翔すると尾根陰で消失した。	19、21
	65	不明	不明	9:09	9:15	ピーク付近を旋回する個体を確認した。旋回上昇後南へ滑翔し、手前の樹林に隠れ消失した。	14
	66	成鳥	不明	9:31	9:33	St.2 の南西で足にヘビのようなものを持って飛翔する個体を確認した。時折、旋回を交えながら概ね南西へ移動して行くが、背景に溶け込み消失した。	1
	67	不明	不明	9:33	9:34	ピーク西側尾根奥で旋回している個体を確認した。南東へ向かい、そのまま尾根を越えて消失した。	19
	68	成鳥	不明	9:36	9:36	営巣木の北西側から低く営巣木方向へ飛翔する個体を確認した。営巣木近くの手前の樹林に隠れ消失した。	1
	69	成鳥	不明	10:22	10:30	営巣木付近から出現した。営巣木のある谷内を西へ飛翔後、南又川沿いに下流方向へ低標高域を飛翔した。St.2 の東側で旋回上昇し、高度を上げると北西へ飛翔した。手前の樹林に隠れ消失した。	1
	70	成鳥	不明	10:24	10:36	ピーク東を北へ飛翔する個体を確認した。旋回を交えながら尾羽上げ V 字ディスプレイを行った。ピーク上空付近でクマタカ No.71 の個体を確認した。クマタカ No.71 の個体に 1 度つっかかりをして、2 個体で東へ飛翔した。その後、本個体は St.14 上空を旋回し、北西へ飛翔して手前の樹林に隠れ消失した。	14
	71	成鳥	不明	10:28	10:32	クマタカ No.70 の個体を観察中に本個体を確認した。ピーク上空でクマタカ No.70 の個体に攻撃された後、2 個体で東へ飛翔した。本個体は南東へ滑翔するが、クマタカ No.70 の個体を追跡したため、視野から外れて観察を終了した。	14
	72	不明	不明	10:40	10:40	St.14 でクマタカ No.70 の個体が消失後しばらくして、営巣木の南東側で、樹間越しに飛翔するのを確認した。手前の樹林に隠れ消失した。	1
	73	不明	不明	11:18	11:32	No.152 鉄塔北西の枯木にとまっている個体を確認した。11:32 に飛び立ち、北側の谷へ降下し消失した。	21
	74	成鳥	不明	11:31	11:46	ピーク南東側にある枯木にとまっている個体を確認した。羽づくろい等が確認されたが、11:46 に南東へ飛び、尾根近くへ飛翔するが、手前の樹林に隠れ消失した。	1、14
	75	成鳥	雌	12:12	12:24	営巣木北の枯木にとまっている個体を確認した。12:22 に飛び立ち、旋回上昇したあと南東へ滑翔し、尾根陰で消失した。	19、21
	76	成鳥	不明	13:06	13:08	ピーク東を南東へ飛翔する個体を確認した。手前の樹林に隠れ消失した。	14
	77	成鳥	不明	13:08	13:08	St.14 でクマタカ No.70 の個体が消失後少しして、営巣木の北西側から営巣木方向へ飛翔する個体を確認した。手前の樹林に隠れ消失した。	1
	78	成鳥	不明	13:10	13:25	巣内に座っている個体を確認した。巣内に居るところをしばらく観察したが、大気のかすみ、かげろう等で詳細はわからず、観察を終了した。	1
	79	成鳥	不明	14:43	14:46	古巣北東で旋回上昇している個体を確認した。高度を下げながら南西へ滑翔し、林内に入り消失した。	19、21

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-1（4）　2023 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
4 月 14 日	80	成鳥	雄?	9:07	9:30	カラス類数個体に追われながらピーク北側で旋回する個体を確認した。降下してピークよりやや高い尾根上の枯木にとまる。9:14 にクマタカ No.81 の個体が飛来し、2 個体でとまる。クマタカ No.81 の個体がいなくなった後もとまり続け、9:29 に南東へ飛び立った。尾根近くを飛翔し、尾根陰で消失した。	14、21
	81	成鳥	不明	9:14	9:27	ピークよりやや高い尾根上の枯木にとまるところを確認した。すでにクマタカ No.80 の個体がとまっていて、2 個体でとまる。9:17 に一度飛び、少し旋回上昇するが、再び同じ木にとまる。9:22 に飛び立つと、旋回後東へ低く飛翔し、背景に溶け込み消失した。	14、21
	82	成鳥	雌?	9:30	9:37	ピーク北東を 2 個体で旋回上昇しているのを確認した。クマタカ No.83 の個体が本個体を追いかけるように旋回上昇し、かなり高空へ上がった。その後、北西へ滑翔して行き、手前の樹林に隠れ消失した。	14、21
	83	成鳥	雄?	9:30	9:37	ピーク北東を 2 個体で旋回上昇しているのを確認した。本個体がクマタカ No.82 の個体に数回つっかかるが、同個体はあまり反応がなかった。旋回上昇してかなり高空へ上がり、クマタカ No.82 の個体を追うように北西へ滑翔して行き、手前の樹林に隠れ消失した。	14、21
	84	成鳥	不明	10:07	10:11	St.1 北からハシブトガラスに追われながら南へ飛翔する個体を確認した。その後南東へ飛翔すると、ピーク西の斜面の林内に入り消失した。	1
	85	成鳥	不明	10:16	10:23	巣付近より出現した。営巣木のある谷内を旋回した後、北東へ飛び、右岸尾根のスギにとまる。10:21 に飛び立ち、さらに北東へ飛翔するが、ピーク北西斜面の林内に入り消失した。	1
	86	成鳥	不明	10:26	10:54	クマタカ No.85 の個体消失地点付近の谷内を旋回する本個体を確認した。ピーク方向へ飛翔し旋回上昇した。その後南方向へ滑翔し、ピーク南にとまる。10:42 に飛び立ち旋回後、北東へ滑翔し、背景に溶け込み消失した。	1、19
	87	不明	不明	10:57	10:57	西側から巣の辺りに入る個体を確認した。すぐに手前の樹林に隠れ消失した。	1
	88	成鳥	不明	12:31	12:34	No.151 鉄塔北側から東へ尾羽上げ V 字ディスプレイをしながら旋回する個体を確認した。その後北西方向へ向かい、谷の中へ降下して尾根陰で消失した。	14、19、21
	89	成鳥	不明	12:54	13:11	ピーク西の谷の枯木にとまっている個体を確認した。13:04 に谷内方向へ飛ぶが、U ターンして旋回上昇し、高高度へ上昇した。南南西へ滑翔して行き、手前の樹林に遮られ消失した。	1、19、21
	90	成鳥	不明	13:06	13:17	ピークの東を旋回する個体を確認した。南西へ滑翔し、ピークの尾根陰で消失した。	1、21
	91	成鳥	不明	14:25	15:00	巣内に座っている個体が動いているところを確認した。そのまま調査終了時間となり観察を終了した。	1
5 月 24 日	92	不明	不明	8:49	8:49	No.141 鉄塔周辺を旋回する個体を確認。No.141 鉄塔北側で背景に溶け込み消失。	14
	93	不明	不明	10:19	10:23	巣の辺りより出現。北西へ飛翔し、ピーク東付近の林内に入り消失。	1、14、19
	94	不明	不明	10:26	10:29	St.1 西より出現し、No.142 鉄塔にとまる。すぐに飛び立つと、東方向へ向かった後、北へ飛翔して旋回。その後、南西へ樹冠付近を飛翔し、No.141 鉄塔南側付近の林内に入り消失。	1、14、19
	95	成鳥	不明	11:38	11:39	ピーク北西でクマタカ No.96 の個体と旋回しているのを確認。東へ飛翔するが、クマタカ No.96 の個体を追跡したため、本個体の観察は終了した。	19、21
	96	若鳥	不明	11:38	11:42	ピーク北西でクマタカ No.95 の個体と旋回しているのを確認。旋回後、ピーク北の林内に入り消失。	1、19、21
	97	不明	不明	11:58	12:09	ピーク北西側尾根上で旋回する個体を確認。旋回後、No.2-109 鉄塔に北向きにとまる。12:08 に飛び立ち、北へ飛翔して林内に入り消失。	1、14、19
	98	不明	不明	12:21	12:23	森山上空で旋回上昇している個体を確認。その後、西へ滑翔するが、手前の尾根に遮られ消失。	19、21
	99	若鳥	不明	12:27	12:28	ピーク南西を旋回する個体を確認。旋回後南へ飛翔するが、背景に溶け込み消失。	19
	100	成鳥	不明	12:31	12:34	ピーク付近を旋回する個体を確認。途中、V 字飛行を交えて旋回した後、ピーク北の林内に入り消失。	19
	101	成鳥	不明	12:47	12:56	ピーク東を旋回する個体を確認。南東へ飛翔し、ピーク付近上空で尾羽上げ V 字飛行を行う。急降下し、ピーク北の稜線の尾根陰で消失。	1、14
	102	成鳥	不明	13:01	13:18	ピーク南を旋回する個体を確認。稜線上の枯木にとまる。13:06 に飛び立つと旋回し北西へ飛翔した後、戻るように南東へ飛翔すると、急降下してピーク西斜面の枯木にとまる。13:18 に飛び立ち、すぐに林内に入り消失。	1
	103	不明	不明	13:56	15:00	巣内で動いている個体を確認。そのまま調査終了時間のため観察を終了。	1
	104	成鳥	不明	14:03	14:12	ピーク西側尾根上でクマタカ No.105 の個体と共に旋回する個体を確認。西へ滑翔と旋回を繰り返した後、北西へ滑翔し尾根陰で消失。	14、19
	105	成鳥	不明	14:03	14:12	ピーク西側尾根上でクマタカ No.104 の個体と共に旋回する個体を確認。本個体は旋回しながらV字飛行を行う。西へ滑翔と旋回を繰り返した後、北西へ滑翔し尾根陰で消失。	14、19

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-1 (5)　2023 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
5 月 25 日	106	成鳥	不明	7:59	8:27	No.152 鉄塔北西の枯木にとまっている個体を確認。8:23 に南へ飛び立ち、旋回上昇する。その後北西へ滑翔し、尾根裏へ入り消失。	19、21
	107	成鳥	不明	9:58	10:21	巣近くのモミにとまっている個体を確認。10:03 に北西方向へ飛び、再びスギにとまる。10:08 に北へ飛翔すると、旋回しながら尾羽上げ V 字ディスプレイを行なう。旋回と滑翔を繰り返して西へ移動し、ピーク西で V 字飛行した後、旋回上昇と旋回をして北へ向かう。ピーク近くで向きを変え南方向へ飛翔し、県境付近の林内に入り消失。	1、14
	108	不明	不明	10:35	10:36	ピーク北斜面上空を旋回する個体を確認。南へ飛翔し、尾根陰で消失。	19
	109	不明	不明	10:37	10:48	ピーク近くを旋回している個体を確認。旋回上昇しながら北東へ U ターンし、ピーク方向へ向かう。その後、西へ旋回移動するが、再び U ターンしてピーク方向へ向かい、尾根裏へ入り消失。	19、21
	110	成鳥	不明	11:25	11:31	No.141 鉄塔の南斜面低空を飛翔する個体を確認。旋回上昇と降下を繰り返し、斜面上を飛翔。No.140 鉄塔北側の林内に入り消失。	1、14、19
	111	不明	不明	11:49	11:49	No.141 鉄塔と No.142 鉄塔の間の伐採地低空を南に飛翔する個体を確認。そのまま林内に入り消失。	1
	112	成鳥	不明	12:30	12:32	ピーク西で旋回する個体を確認。ピーク方向へ波状飛行し、降下した際に尾根陰で消失。	19
	113	成鳥	不明	12:31	12:40	営巣地付近から飛翔する個体を確認。旋回しながら探餌を行い、谷内を上流方向へ飛翔。谷上部のモミにとまるが、すぐに飛び立ち、やや北のモミにとまる。12:40 に飛び立つと南へ飛翔し、尾根陰で消失。	1
	114	不明	不明	13:23	13:26	No.152 鉄塔北西の枯木にとまっている個体を確認。13:26 に南東方向へ飛び、その後東へ飛翔。手前の尾根に遮られ消失。	21
	115	不明	不明	13:27	13:35	ピーク南東を旋回する個体を確認。ピーク付近で旋回上昇後、南東方向へ滑翔。ピーク北斜面上空で旋回上昇後、さらに南東方向へ飛翔し、尾根陰で消失。	14、19、21
	116	不明	不明	13:52	13:52	ピーク南東側尾根上を旋回している個体を確認。そのまま尾根裏へ入り消失。	21
5 月 26 日	117	不明	不明	9:18	9:18	ピーク北で旋回する個体を確認。旋回しながら西へ飛翔し、尾根陰で消失。	14
	118	不明	不明	9:40	9:51	ピーク南東の谷上空で旋回する個体を確認。旋回しながら北東方向へ向い、森山南斜面の針葉樹横枝にとまる。すぐに飛び立ち、旋回と旋回上昇をした後、南東方向へ滑翔して尾根陰で消失。	14、19、21
	119	成鳥	不明	10:12	10:15	St.1 東を旋回する個体を確認。西へ飛翔し、尾根陰で消失。	1、14
	120	成鳥	不明	10:59	11:02	St.1 西より出現。St.1 の南側を回るように飛んだ後、St.1 上空を西へ通過して、再び手前の樹林に隠れ消失。	1
	121	成鳥	不明	11:02	11:04	No.2-121 鉄塔南側を西へ旋回する個体を確認。その後西へ滑翔し、尾根陰で消失。	21
	122	成鳥	不明	12:00	12:08	巣の付近から出現し、ピーク西斜面で旋回を交えながら飛翔。巣の南東斜面の林内に入り消失。	1
	123	不明	不明	12:59	13:05	ピーク北斜面上空を旋回上昇している個体を確認。高空を南方向へ滑翔して、貫ヶ岳北の尾根裏へ消失。	19、21
	124	雛	不明	13:15	14:30	巣の中にいる雛を確認。13:26 にクマタカ No.125 の個体がヘビ類を持ち飛来し、給餌を受ける。そのまま巣内にとまっていたが、調査地点移動により観察を終了。	1
	125	成鳥	不明	13:26	14:11	巣内の雛（クマタカ No.124）を観察中に巣へ餌（ヘビ類）を持って飛来。雛へ給餌したのち、14:07 に飛び立つと、ピーク西の谷内を旋回上昇した後、巣のある谷左岸の林内に入り消失。	1
	126	不明	不明	13:50	13:51	ピーク北斜面を旋回する個体を確認。降下すると斜面に沿って南西に飛翔し、背景に溶け込み消失。	19
6 月 28 日	127	成鳥	不明	9:41	9:43	ピーク北上空を旋回する個体を確認。西へ滑翔し、雲に隠れ消失。	14
	128	成鳥	不明	9:47	9:53	No.152 鉄塔北の枯木上空を旋回する個体を確認。北西へ滑翔した後、東へ向かい、森山西の林内に入り消失。	14、19
	129	不明	不明	12:40	12:40	ピーク西の尾根を飛翔する個体を確認。尾根を回り込み南東へ向かい、尾根陰で消失。	19
	130	成鳥	不明	12:57	13:01	ピーク北斜面上空を尾羽上げ V 字ディスプレイで旋回する個体を確認。南南西へ向かい、波状飛行を行った後、南へ尾根を越え、谷上空で浅い尾羽水平ディスプレイで旋回。北へ滑翔し、尾根陰で消失。	19、21
6 月 29 日	131	成鳥	不明	10:37	10:40	営巣林近傍上空を旋回する個体を確認。その後、巣のある谷を旋回上昇し、東へ飛翔してピーク南の尾根陰で消失。	1
	132	成鳥	雄?	11:09	11:14	森山南東の斜面林中空を帆翔する個体を確認。旋回しながら西方向へ徐々に上昇。飛来してきたハチクマ No.3 の個体に威嚇されるが、本個体も威嚇し返す。クマタカ No.133 の個体が接近してくると近づいて威嚇した後、クマタカ No.133 を追尾して北西へ飛翔し、尾根陰で消失。	14、21
	133	成鳥	雌?	11:13	11:14	森山北西の尾根上空で V 字飛行しながらクマタカ No.132 の個体に接近。クマタカ No.132 の個体に威嚇された後、同クマタカに追尾されて北西へ滑翔し、尾根陰で消失。	14、21
	134	不明	不明	12:31	12:32	森山西の斜面林上空を帆翔する個体を確認。西へ飛翔し尾根陰で消失。	21

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-1 (6)　2023 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
6 月 29 日	135	幼鳥	不明	13:10	14:50	巣内にいる幼鳥を確認。時折、周囲を見回す様子が見られた。14:09 にクマタカ No.136 の個体がエサを持って飛来し、14:50 にエサを持って飛び去る。本個体はそのまま巣内にいた。地点移動のため本個体の観察を終了。	1
	136	成鳥	不明	14:09	14:34	クマタカ No.135 の個体を観察中に巣に飛来。脚に持っていたと思われるエサ（哺乳類、種不明）をついばむ。14:30 にエサを持って飛び立ち、営巣木のある谷右岸を旋回するが、背景に溶け込み消失。	1
	137	成鳥	雄?	15:23	15:25	ピーク北西の樹林上空を旋回する個体を確認。東へ帆翔し、少し旋回した後、北西へ帆翔して尾根陰で消失。	21
6 月 30 日	138	幼鳥	不明	10:00	15:00	巣内にいる幼鳥を確認。巣内の見えない所にいるのか、時折巣の端に出て来て羽づくろいをする。調査終了までそのまま巣内に在巣。	1
	139	成鳥	不明	11:55	12:00	No.152 鉄塔北の枯木上空付近を旋回する個体を確認。ピーク方向へ飛翔し、ピーク付近の尾根陰で消失。	14、19、21
	140	成鳥	不明	12:01	12:03	ピーク南西の谷上空を旋回する個体を確認。ピーク方向へ波状飛行しながら飛翔し、ピーク西の林内に入り消失。	19、21
	141	成鳥	不明	12:03	12:05	クマタカ No.140 の個体が消失した後すぐに、ピーク北を尾羽上げ V 字ディスプレイをしながら旋回している個体を確認。東へ飛翔し、尾根陰で消失。	1､19､21
7 月 25 日	142	不明	不明	9:33	9:33	ピーク北を北北西へ飛翔する個体を確認。降下気味に飛翔し、背景に溶け込み消失。	14
	143	成鳥	雄?	10:22	10:23	ピーク南東でエサを持ち飛翔する個体を確認。旋回後、営巣地方向へ降下し、尾根陰で消失。	14
	144	成鳥	不明	10:26	10:26	巣の南から巣の場所へ進入する個体を確認。手前の林に隠れ消失。	1
	145	成鳥	雄?	10:42	11:51	巣の付近から出現。巣のある谷内を旋回後、北西へ飛翔して旋回上昇。St.1 西で手前の林に隠れ消失。	1
	146	成鳥	雄?	10:54	10:58	ピーク付近を旋回する個体を確認。旋回後、南東の営巣地方向へ飛翔し、尾根陰で消失。	14
	147	幼鳥	不明	11:12	12:30	巣にとまっている幼鳥の個体を確認。途中、飛来した No.148 の個体に給餌を受け、エサを食べている様子が多く見られた。巣の奥に移動して姿が見えなくなり、そのまま観察を終了。	1
	148	成鳥	不明	12:04	12:07	エサを持って巣に飛来した個体を確認。No.147（幼鳥）の個体へエサを与えた後、本個体も少しエサをついばんだ。12:06 に飛び立つと、巣周辺を旋回し、背景に溶け込み消失。	1
	149	成鳥	雌？	12:11	12:13	ピーク北で旋回する個体を確認。旋回後、波状ディスプレイをしながら北へ飛翔し、手前の林に隠れ消失。	14
	150	成鳥	不明	13:45	13:49	ピーク北の谷内より旋回上昇してくる個体を確認。高空へ旋回上昇後、南東方向へ滑翔し貫ヶ岳方向へ向かい、背景に溶け込み消失。	1､19､21
7 月 26 日	151	成鳥	不明	11:28	11:35	ピーク上空で旋回する本個体を確認。旋回上昇した後、南へ尾羽上げ V 字ディスプレイをしながら滑翔。送電線上空付近を旋回後、クマタカ No.152 の個体を追うように西へ飛翔、尾根陰で消失。	1､14
	152	成鳥	不明	11:30	11:34	クマタカ No.151 の個体を観察中に、No.140 鉄塔の南で旋回する本個体を確認。クマタカ No.151 の個体と旋回後、西へ飛翔し尾根陰で消失。	1､14
	153	成鳥	雌？	11:35	11:52	St.1 南を旋回上昇する個体を確認。その後南へ飛翔し、営巣木のある谷の西の谷左岸へ向かうと、背景に溶け込み消失。	1､14
7 月 27 日	154	若鳥?	不明	11:04	11:08	St.21 北の谷方向より出現。旋回上昇し、南西方向へ向う。ST.21 の西で尾根を越えて消失。	21
	155	成鳥	不明	11:34	11:40	ピーク北西斜面上空を旋回上昇している個体を確認。尾羽水平 V 字ディスプレイで旋回上昇しながらピーク方向へ向かう。その後、波状ディスプレイを行い、下から上昇して来たクマタカ No.156、157 の個体を追うように降下するが、U ターンしてピーク北西斜面へ急降下し消失。	1 、14 、19､21
	156	成鳥	不明	11:36	11:39	クマタカ No.155 の個体を観察中に下から本個体が上昇して来た。尾羽水平 V 字ディスプレイしながら旋回上昇した後、波状ディスプレイを行った。貫ヶ岳方向へ向かい、クマタカ No.157 が消失した方向へ急降下し消失した。	1 、14 、19､21
	157	成鳥	不明	11:37	11:39	クマタカ No.156 の個体を観察中に下を旋回上昇してくる本個体を確認。貫ヶ岳方向へ旋回して行き、降下して手前の尾根に遮られ消失。	1 、14 、19､21
	158	成鳥	雌?	14:23	14:30	St.14 北で旋回上昇する個体を確認した。その後西へ滑翔し、尾根陰で消失。	14､19

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2. 2024 年

事後調査として実施したクマタカ定点観察における 2024 年のクマタカの確認状況を表 8.2.3-2 に示す。

表 8.2.3-2（1） 2024 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
3 月 27 日	1	成鳥	不明	8:23	8:53	ピーク東の小尾根上のモミにとまっている個体を確認した。時折見廻しや羽づくろい等して落ち着いてとまっていた。8:50 に飛び立つと、旋回しながら徐々に西へ移動した後、南へ飛翔してさらに南東へ滑空した。南又川を越え、過年度営巣林右岸尾根上部へ飛ぶと手前の樹林に隠れ消失した。	1､14､19
	2	成鳥	雄?	8:55	10:37	ピーク南の樹木にとまっている個体を確認した。9:34 に飛び立つと北へ飛翔し、再び樹木にとまった。10:28 に飛び立ち、過年度の巣のある右岸尾根沿いを北西へ飛翔した。送電線南で旋回上昇後再び北西へ向かい、St.1 の西で旋回から旋回上昇した。その後、西へ滑空して主稜線上空に達すると北上した。ピーク東の尾根上のモミにとまった。ノスリ、オオタカ程度の大きさの猛禽類に攻撃され始めるとすぐ下方へ降下し、尾根陰で消失した。	1、14
	3	成鳥	不明	9:55	10:12	森山南側の斜面上を東へ飛翔する個体を確認した。旋回上昇後、旋回及び移動でピーク付近上空へ向かい、尾羽上げ V 字ディスプレイ飛翔をおこなった。すると別の 2 個体（クマタカ No.4、クマタカ No.5）が上空を飛翔し、その 2 個体を追うように北西へ飛翔して手前の樹林に隠れ消失した。	14、21
	4	成鳥	不明	10:04	10:11	森山の北側でクマタカ No.5 の個体と旋回する本個体を確認した。ピーク上空で旋回上昇後、2 個体で北西へ飛翔し、手前の樹林に隠れ消失した。	21
	5	成鳥	不明	10:04	10:11	森山の北側でクマタカ No.4 の個体と旋回する本個体を確認した。ピーク上空で旋回上昇後、2 個体で北西へ飛翔し、手前の樹林に隠れ消失した。	21
	6	成鳥	不明	11:34	11:47	St.1 の東側で旋回から旋回上昇する個体を確認した。南西に移動し、ピーク付近で尾羽上げ V 字ディスプレイにより旋回上昇及び旋回をして、その後波状飛行も行った。東へ移動し、営巣谷付近上空で旋回後、北西へ滑空した。手前の樹林に隠れ消失した。	1、14
	7	不明	不明	11:42	11:46	クマタカ No.6 の個体飛翔時に本個体を確認した。ピーク南西を尾羽上げ V 字ディスプレイ及び弱く波状飛行しながら南東へ飛翔後、尾根陰で消失した。	1
	8	幼鳥	不明	11:52	11:58	過年度の巣近くの落葉広葉樹にとまっている個体を確認した。11:58 に飛び立つと、右岸斜面のスギ林内に入り消失した。	1
	9	成鳥	不明	12:18	12:24	ピーク西の谷上空を旋回する個体を確認した。南西へ飛翔し、背景に溶け込み消失した。	21
	10	幼鳥	不明	12:27	12:41	過年度の巣のある右岸斜面を飛翔後、落葉広葉樹にとまった個体を確認した。12:30 に飛び立ち、近くのスギにとまった。すぐに飛んで別の近くのスギにとまった。12:32 に飛び立ち、ゆっくり北西へ飛翔した。南又川を通過して旋回上昇した後、南西へ進路を変えピーク東の谷内に入り消失した。	1
	11	成鳥	不明	12:33	12:45	ピーク南東を他の 2 個体と旋回している本個体を確認した。本個体とクマタカ No.12 の個体でクマタカ No.13 の個体を追っているようだった。クマタカ No.13 の個体が離れると尾羽上げ V 字ディスプレイしながら旋回上昇した。その後、クマタカ No.12 の個体に一度つっかかりをして離れ旋回上昇した。南へ移動し波状ディスプレイしながら St.19 北側までくると、急降下して手前の樹林に隠れ消失した。	19
	12	不明	不明	12:33	12:44	ピーク南東を他の 2 個体と旋回している本個体を確認した。本個体はクマタカ No.11 の個体のあとをついて行くように飛んでいた。クマタカ No.13 の個体が離れると 2 個体で旋回上昇した。その後、クマタカ No.11 の個体に一度つっかかられ、離れ行き旋回上昇した。そまま北西方向へ飛び消失した。	19
	13	不明	不明	12:33	12:35	ピーク南東を他の 2 個体と旋回している本個体を確認した。本個体はクマタカ No.11、12 の個体とやや離れて旋回していた。クマタカ No.11 の個体に追われ、尾羽水平 V 字ディスプレイをして西方向へ離れて行き消失した。	19
	14	成鳥	不明	13:30	13:37	ピーク西斜面上の枯木にとまっている個体を確認した。13:37 に飛び立ち、斜面を西へ降りるように飛翔して尾根陰で消失した。	21
	15	成鳥	不明	13:43	14:06	鉄塔 No.151 北の枯木にとまっている個体を確認した。14:06 に下へ降りるように飛び立ち、すぐに尾根陰で消失した。	21
	16	成鳥	不明	14:10	14:14	ピークの北を旋回する個体を確認した。ハシボソガラスに追われながら北西へ飛翔し、ピーク南東の尾根陰で消失した。	14、19、21

© 2026 電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-2（2）　2024 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
3 月 28 日	17	成鳥	雌	8:57	9:13	鉄塔 No.151 北の枯木にとまっている個体を確認した。9:10 にクマタカ No.18 雄の個体が飛来し交尾をした。9:12 に飛び立ち、旋回するがすぐ U ターンして最初の枯木より西側の落葉広葉樹にとまった。すぐに北へ飛び、手前の尾根陰で消失した。	21
	18	成鳥	雄	9:10	9:10	クマタカ No.17 雌の個体を観察中に北西から飛来する本個体を確認した。クマタカ No.17 の個体の隣にとまり、すぐに交尾をした。交尾後すぐに飛び立ち、谷内へ降下して見えなくなり消失した。	21
	19	成鳥	不明	9:33	9:43	鉄塔 No.152 北を旋回する個体を確認した。森山方向へ移動し、ピーク西の林内に入り消失した。	14、21
	20	不明	不明	10:19	10:20	鉄塔 No.152 北側の谷内をクマタカ No.21 の個体と旋回している本個体を確認した。2 個体でつっかかりをし合った。低くなり見え隠れしながらそのまま尾根陰で消失した。	21
	21	不明	不明	10:19	10:20	鉄塔 No.152 北側の谷内をクマタカ No.20 の個体と旋回している本個体を確認した。2 個体でつっかかりをし合った。低くなり見え隠れしながらそのまま尾根陰で消失した。	21
	22	成鳥	不明	10:24	10:32	鉄塔 No.2－122 の南東で旋回しながら北へ飛翔する個体を確認した。旋回上昇後、再び南東へ戻るように飛翔した。ピーク北の谷内に降下し、尾根陰で消失した。	19
	23	成鳥	不明	10:46	11:08	石合川右岸のスギにとまっている個体を確認した。10:54 に飛び立ち、近くのスギにとまった。11:08 に飛び立つと、近くの林内に入り消失した。	19
	24	不明	不明	10:47	10:47	森山西をカラス 2 個体に追われて尾根を超える個体を確認した。そのまま見えなくなり消失した。	21
	25	成鳥	雄?	11:39	11:40	ピーク西を南へ飛翔する個体を確認した。東斜面の背景に溶け込み消失した。	14、19
	26	成鳥	不明	13:29	13:33	ピーク西の尾根上の枯木にとまっている個体を確認した。南の谷側へ降りるように消失した。	19、21
	27	成鳥	雌	13:35	15:34	ピーク北の木でクマタカ No.28 の個体と交尾している本個体を確認した。交尾後もそのままとまって羽づくろいをしていた。15:34 に西方向へ飛び消失した。	21
	28	成鳥	雄	13:35	13:45	ピーク北の樹木でクマタカ No.27 の個体と交尾している本個体を確認した。その後、クマタカ No.27 の個体がとまっている上の枝に移動した。13:45 に谷内へ降下し消失した。	19、21
	29	幼鳥	不明	13:45	14:05	営巣谷の下流右岸斜面の落葉広葉樹枯木にとまっている個体を確認した。枝を歩いて先端近くに移動したり、とまりの向きを変える等した。14:05 に飛ぶと、谷を横断して対岸の尾根近くへ飛翔し、手前の樹林に隠れ消失した。	1
	30	成鳥	雄	14:05	15:36	ピーク北斜面のスギにとまっている個体を確認した。15:36 に飛び立ち、北へ降下し消失した。	19
	31	成鳥	雄?	14:37	14:45	St.1 の南西を旋回する個体を確認した。北西へ移動し途中旋回上昇した。ピークの南付近で南方向へ飛翔し旋回上昇後、鉄塔 No.140 北の尾根陰で消失した。	1、14
3 月 29 日	32	成鳥	不明	10:50	10:51	中部横断道長瀞橋付近上空で旋回する個体を確認した。徐々に北上して行き、橋の北側付近で見えなくなり消失した。	12’
	33	成鳥	雌	13:01	13:38	過年度営巣林付近上空で旋回する個体を確認した。北北東へ移動後、急降下してピーク西の谷の右岸尾根の枯木にとまった。13:09 にクマタカ No.35 の個体が飛来し交尾をした。13:31 に飛び立つと谷内を旋回後、先程の枯木よりも下方尾根近くの枯木にとまった。枝移り後、枯枝をくわえ 13:38 に飛び立った。谷右岸尾根西斜面を北西に降下して行き、手前の樹林に隠れ消失した。	12’、21
	34	成鳥	雄	13:03	13:06	クマタカ No.33 の個体を観察中に本個体が出現した。本個体と 2 個体で北へ移動した後、再び南へ飛翔し、ピーク西の谷内へ急降下して尾根陰で消失した。	12’、21
	35	成鳥	雄	13:09	13:33	クマタカ No.33 の個体がとまっている枯木に飛来し、交尾をする本個体を確認した。13:21 に北方向へ飛び立つが、戻って来て再び同じ枯木にとまった。13:25 に飛び立ち、斜面西側のスギにとまった。13:30 に飛び立ち、斜面上空を旋回後、交尾した木の尾根下の枯木にとまった。13:30 に谷内へ飛び、尾根陰で消失した。	12’、21
	36	成鳥	雄	13:37	13:46	ピーク西の尾根上のスギにとまっている個体を確認した。13:45 に南西方向へ飛び、ピーク北の谷内へ飛翔して尾根陰で消失した。	12’、19、21
	37	不明	不明	13:45	14:03	ピーク西の林上で旋回上昇している個体を確認した。その後東方向へ移動し、ピーク西の尾根上の針葉樹にとまった。13:58 に飛び立ち、尾根下の枯木にとまった。14:03 に飛び立ち、谷内へ降下して尾根陰で消失した。	12’、19、21

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-2（3）　2024 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間 始	確認時間 終	確認状況	確認定点
3 月 29 日	38	成鳥	不明	13:59	14:03	クマタカ No.33 の個体が交尾した木よりも、尾根上部の枯木にとまっている個体を確認した。とまっていたクマタカ No.37 の個体と並びどまりをした。14:00 に交尾木より尾根下方の枯木に移動した。14:02 に飛ぶと同尾根付近からピーク西の谷内で旋回等飛翔し、左岸尾根陰で消失した。	12’、19、21
	39	成鳥	不明	14:03	14:11	ピーク西の谷内でクマタカ No.40 の個体と飛翔する本個体を確認した。尾根上の枯木にとまった。14:11 に飛び立つと、谷内へ降下して尾根陰で消失した。	12’、21
	40	成鳥	不明	14:05	14:12	ピーク西の谷右岸尾根の西側斜面上空で旋回する個体を確認した。ピーク西の谷内へ移動し、クマタカ No.39 の個体と飛翔した。旋回飛翔後、谷内林道近くのスギ頂部にとまった。14:10 に飛び立つと、右岸尾根西側へ移動して行き、右岸尾根の肩から北西へ延びる尾根陰で消失した。	21
	41	成鳥	不明	14:11	14:21	ピーク西を東へ飛翔する個体を確認した。ピークの南斜面の枯木にとまった。14:20 に飛び立ち、旋回しながら南へ移動して尾根陰で消失した。	12’、21
	42	成鳥	不明	14:18	14:18	ピーク西側で旋回する個体を確認した。脚に何か枝のようなものを持って飛翔していた。ピーク西の谷左岸尾根を越え谷内へ向かい、尾根陰で消失した。	21
	43	成鳥	雄?	14:23	14:35	ピーク西の谷右岸尾根の下方のモミにとまっている個体を確認した。14:23 に飛び立ち、同尾根上空から尾根西斜面上を飛翔した後、同尾根上部の枯木にとまった。14:35 に下方へ降下し、手前の樹林に隠れ消失した。	12’、21
	44	成鳥	雄	14:34	15:04	ピーク西の尾根上の枯木にとまっている個体を確認した。14:40 に飛び立ち、同尾根下方のクマタカ No.46 の個体がとまっている同じ木にとまると、交尾をした。14:43 に飛び立ち北へ旋回した後、再び南へ飛翔し、最初の枯木にとまった。14:58 に飛び立ち、ピーク西の谷右岸尾根西斜面の針葉樹にとまった。15:03 に飛び立つと南下して行き、左岸尾根陰で消失した。	12’、21
	45	成鳥	雌	14:37	15:09	ピーク西の谷右岸尾根の交尾した枯木にとまっている個体を確認した。14:40 に飛び立ち、同尾根下方の枯木にとまった。クマタカ No.44 の個体が飛来し交尾した。その後しばらくとまり続け、15:05 に南へ飛び立つと、左岸側の木にとまった。15:08 に西へ飛翔後南下した。南東へ降下し手前の樹林に隠れ消失した。	12’、21
	46	成鳥	雌	15:17	15:55	ピーク西の谷右岸尾根の交尾した枯木にとまっている個体を確認した。15:46 に飛び立ちピーク西の谷内、尾根上空等を飛翔後、先程とまった枯木より尾根上部の枯木にとまった。すぐにクマタカ No.47 の個体が飛来し交尾をした。その後もとまり続けるが、調査終了時間となり観察を終了した。	12’、21
	47	成鳥	雄	15:50	15:51	クマタカ No.46 の個体のもとへ飛来し交尾を行った。濃霧が濃くなった際にいなくなり、そのまま消失した。	21
4 月 24 日	48	成鳥	不明	11:23	11:24	ピーク西の谷の右岸尾根上の枯れ木にとまっている個体を確認した。11:24 に飛び立つと南へ飛翔するが、霧の中に入ったため消失した。	12’
4 月 25 日	49	成鳥	不明	8:58	9:12	ピーク西の谷の右岸尾根上の針葉樹にとまっている個体を確認した。9:12 に飛び立ち南東へ飛翔。旋回上昇後も南東へ移動し尾根陰で消失した。	19、21
	50	成鳥	不明	9:00	9:01	過年度の営巣木（Ib）の斜面やや上方、針葉樹にとまっている個体を確認した。9:01 西南西へ飛び立ち徐々に降下すると尾根陰で消失した。	21
	51	成鳥	不明	9:09	9:10	鉄塔 No.151 の北で旋回する個体を確認した。北西へ向かい尾根陰で消失した。	14
	52	成鳥	不明	9:28	9:36	森山の南で旋回している個体を確認した。北西に飛翔しクマタカ No.53 に一度つっかかった。波状飛行後再び旋回し、森山の南斜面の林内に入り消失した。	14、21
	53	不明	不明	9:30	9:36	ピークの北西で旋回上昇をしている個体を確認した。その後旋回中にクマタカ No.52 に一度つっかかられた。東方向へ徐々に移動していき、森山南斜面で斜面背景に溶け込み消失した。	14、21
	54	成鳥	不明	9:50	9:52	森山の南で旋回している個体を確認した。南東へ飛翔し、ピーク北斜面の林内に入り消失した。	14、19、21
	55	不明	不明	10:13	10:58	過年度の営巣木（Ma）よりも谷奥のモミ横枝にとまっている個体を確認。足元に何か黄色っぽいものが見えたが餌かどうかは不明。10:58 に北へ飛び立つと、過年度の営巣木（Ma）よりもやや斜面上方にあるモミのかたまりの東側へ飛翔。手前樹林に隠れ消失した。	1
	56	成鳥	不明	10:41	10:44	ピーク西の谷の右岸尾根上空で旋回している個体を確認した。南へ滑翔後、途中から南東へ向きを変え、貫ヶ岳から西へ延びる尾根陰で消失した。	21
	57	成鳥	不明	10:44	10:44	クマタカ No56 の後を追うように南東へ滑翔する個体を確認した。クマタカ No.56 と同様、尾根陰で消失した。	21
	58	成鳥	不明	12:54	13:10	ピーク西の谷の右岸尾根上の枯れ木にとまっている個体を確認した。13:06 に南へ飛び立ち旋回上昇により少しずつ高度を上げながら南へ飛翔。尾根陰で消失した。	19、21

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-2（4）　2024 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
4 月 26 日	59	成鳥	不明	8:27	8:41	ピーク西の谷内を旋回する個体を確認した。しばらく旋回後、右岸尾根上の枯れ木の枝にとまった。とまっている間、枝の上をあちこち移動していた。8:41 南西へ飛び立ち、林内へ降下したため消失した。	19、21
	60	成鳥	不明	9:50	9:50	ピーク西の浅い谷付近を飛翔する個体を確認した。すぐに同谷内の林内に入り消失した。	21
	61	成鳥	不明	10:40	10:51	St.1 南で旋回している個体を確認した。旋回上昇後旋回を交えながら西から北方向へ飛翔。その後は南東方向へ飛翔し波状飛行を行ったあと、降下して尾根陰で消失した。	1、14
	62	成鳥	不明	11:47	11:50	貫ヶ岳周辺でノスリを追うように南東へ飛翔している個体を確認した。途中で北西に戻るように飛翔し、尾根陰で消失した。	21
	63	成鳥	不明	12:09	12:13	ピーク南の枯れ木に止まっている個体を確認した。12:10 に飛び立ち、旋回した後南へ滑翔していくと尾根陰で消失した。	1
	64	成鳥	不明	12:56	13:01	ピーク北北西、南又川の右岸斜面上空で旋回している個体を確認した。上流方向へ飛翔するが途中で戻り、同斜面の林内に入り消失した。	1、14
	65	成鳥	不明	14:24	14:27	ピーク北西とピーク西の谷上空で旋回上昇している個体を確認した。クマタカ No.66 が下方より出現し、足を出したが直接の絡みはなかった。2 個体で並列飛行を行い、そのまま降下していき過年度の営巣木（Ib）の北側林内に入り消失した。	21
	66	成鳥	不明	14:25	14:27	ピーク北西とピーク西の谷上空で旋回上昇しているクマタカ No.65 の下方から旋回上昇してくる個体を確認した。足を出すなどするが絡みはなく、2 個体で並列飛行を行った。その後並列飛行のまま降下していき、過年度の営巣木（Ib）の北側林内に入り消失した。	21
	67	成鳥	不明	14:28	14:51	ピークよりも上部尾根上のモミ横枝にとまっている個体を確認した。14:51 飛び立ち下方へ降下し消失した。	14
5 月 29 日	68	成鳥	不明	11:21	11:51	ピーク南東斜面の枯れ木にとまっている個体を確認した。下方に降りるように飛び立ち、すぐに林内に入り消失した。	1、14
	69	不明	不明	11:23	11:52	ピーク南東斜面のモミにとまっている個体を確認した。飛び立った後、尾根上空を南東へ飛翔し、西に向きを変えて尾根陰で消失した。	1、14
	70	不明	不明	13:23	13:30	ピーク西の谷の右岸尾根上の枯れ木にとまっている個体を確認した。13:24 に一度飛び立つがすぐに戻り、同じ枯れ木にとまった。13:28 ハシブトガラスを追いかけ西に飛び立ち、その後北へ飛翔し、右岸尾根の肩から北西へつづく尾根上のスギにとまったが、足場が悪かったのかとまり切れず、尾根の北側へ降下し、尾根陰で消失した。	21
	71	成鳥	不明	14:04	14:07	ピーク西の谷の左岸尾根付近上空で旋回している個体を確認した。徐々に南東へ移動し、途中から翼をすぼめて降下していくと、貫ヶ岳の尾根陰で消失した。	19、21
	72	成鳥	不明	15:00	15:06	ピーク上空で旋回している個体を確認した。旋回上昇後南へ滑翔し、ピーク北東の林内に入り消失した。	1
	73	成鳥	不明	15:06	15:06	南又川の谷上空で、西北西へ羽ばたき飛翔している個体を確認した。そのまま西北西へ羽ばたき飛翔をつづけ、St.1 北側の尾根陰で消失した。	14
5 月 30 日	74	成鳥	不明	8:53	8:54	ピークの南で旋回している個体を確認した。同ピーク付近を西へ向かうと尾根陰で消失した。	14
	75	成鳥	不明	9:18	9:20	St.12’の北東上空から西へ飛翔している個体を確認した。中部横断自動車道富士川第一橋南の尾根上のスギにとまった。すぐに飛び立つと、クマタカ No.76 が出現し、2 個体で旋回後南西へ飛翔すると手前尾根陰で消失した。	19、21
	76	不明	不明	9:19	9:20	中部横断自動車道富士川第一橋南側付近上空で、クマタカ No.75 の近くで旋回している個体を確認した。旋回後南西に飛翔していくと、手前尾根陰で消失した。	19、21
	77	成鳥	不明	12:04	12:10	鉄塔 No.2-113 周辺上空で旋回している個体を確認した。東へ移動しながら旋回上昇し北へ飛翔した。ピーク東で旋回上昇後西へ飛翔し、同ピーク付近の尾根陰で消失した。	1、14
	78	成鳥	雄	13:36	13:41	ピークの北側でゆっくりと旋回上昇する個体を確認した。その後南東へ滑翔すると尾根陰で消失した。	1、19
	79	不明	不明	14:04	14:04	ピークの北西で、南東に飛翔している個体を確認した。同ピークの北の尾根陰で消失した。	14、19
	80	成鳥	不明	14:29	14:33	ピーク西の谷の右岸尾根上の枯れ木にとまっている個体を確認した。14:30 に飛び立つと、旋回しながら東へ移動し、ピーク付近で手前尾根陰で消失した。	19、21
	81	成鳥	不明	14:27	14:38	St.1 の北側から南東へ滑翔降下する個体を確認した。南又川右岸斜面に達すると下流方向へ旋回をまじえ移動した。St.2 の東側で旋回上昇後、東へ移動し St.14 の南側から南下しはじめ、ピークの尾根北側斜面上を通過し、ピーク北側林内に進入し消失した。	1、14

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-2（5）　2024 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
5 月 30 日	82	不明	不明	14:34	14:34	ピークの北東から南南東へ滑翔していく個体を確認した。同ピーク付近尾根陰で消失した。	19
	83	成鳥	雄	14:34	14:39	ピークの北側で旋回している個体を確認した。旋回後南南東へ飛翔していくと、貫ヶ岳の北側林内に進入し消失した。	19、21
	84	成鳥	不明	14:35	14:54	ピーク西側の谷内から V 字飛翔により旋回上昇する個体を確認した。同谷の右岸尾根上の枯れ木にとまるがすぐに飛び立ち、ピーク南西斜面のスギにとまった。再びすぐに飛び立ち旋回しながら南へ飛翔、降下し斜面のスギにとまった。ここまで飛翔時は常に V 字飛翔で飛翔していた。14:53 西に飛び立つと谷内へ降下し、尾根陰で消失した。	19、21
5 月 31 日	85	成鳥	不明	10:58	11:39	過年度の営巣地(Ib)の北側上空で旋回している個体を確認した。旋回上昇後東へ飛翔し、過年度の営巣地(Ia)付近の枯れ木にとまった。11:19 に飛び立ち尾根上の別の枯れ木にとまった。11:21 飛び立ち再び同じ枯れ木にとまった。11:23 飛び立つと東へ旋回し、ピーク付近を飛翔中のクマタカ No.86 に近づき一度絡んだ後も V 字飛翔を行いながらクマタカ No.86 のあとを追うように飛翔し、さらに絡んだ。その後クマタカ No.86 を追って北北西へ滑翔し、送電線を北側へ越え森山の南東へ飛翔するが手前尾根陰で消失した。	12’、19、21
	86	不明	不明	11:29	11:39	ピーク付近で旋回している個体を確認した。クマタカ No.85 に追われるように飛翔し、二度ほど絡まれた。その後ピーク付近上空から北北西へ滑翔していくがこの時もクマタカ No.85 に追われながら飛翔した。送電線を北側へ越え森山の南東へ飛翔するが手前尾根陰で消失した。	12’、19、21
	87	成鳥	不明	11:49	12:00	鉄塔 No.153 西側で旋回上昇する個体を確認した。南東へ滑翔しピークの北側で再び旋回上昇しながら同ピーク上空へ移動した。旋回後、南西へ降下すると谷内に進入し尾根陰で消失した。	19、21
	88	幼鳥	不明	12:32	12:33	ピークの東でハシブトガラス 4～5 個体に囲まれながら旋回している個体を確認した。その後東北東へまっすぐ飛翔すると尾根陰で消失した。	14
	89	成鳥	不明	13:14	13:23	鉄塔 No.152 北の枯れ木にとまっている個体を確認した。途中クマタカ No.90 と絡むが詳細は不明であった。13:23 に飛び立つと谷内に飛翔し尾根陰で消失した。	21
	90	不明	不明	13:18	13:22	クマタカ No.89 を観察中、同じ枯れ木に飛来しとまる個体を確認した。途中 2 個体が絡むが詳細は不明であった。13:22 に飛び立ち谷内へ飛翔すると尾根陰で消失した。	21
6 月 25 日	91	成鳥	不明	11:36	11:39	鉄塔 No.141 付近の上空を南へ飛翔する個体を確認した。ピーク南東の尾根陰で消失した。	1
6 月 26 日	92	不明	不明	9:36	9:37	ピーク東で旋回する個体を確認した。西へ飛翔し、ピーク付近の尾根陰で消失した。	14
	93	不明	不明	11:17	11:21	ピーク南東で旋回上昇する個体を確認した。北西へ飛翔しピーク東斜面で手前樹林に隠れ消失した。	1、14
	94	成鳥	不明	12:08	12:12	ピーク付近上空で旋回する個体を確認した。旋回しながら南へ移動後、東へ飛翔すると尾根陰で消失した。	19、21
	95	不明	不明	12:19	12:19	ピーク上空を北西に飛翔する個体を確認した。鉄塔 No.140 の北側で急降下し、手前尾根陰で消失した。	14
	96	不明	不明	14:03	14:11	ピーク東で旋回する個体を確認した。尾羽上げ V 字ディスプレイを行いながら旋回し北へ移動した。ピーク東でクマタカ No.97 と合流し 2 個体で北へ飛翔した。ピーク南を西へ飛翔すると尾根陰で消失した。	1、14
	97	不明	不明	14:07	14:09	クマタカ No.96 観察中、ピーク東で確認した。2 個体で飛翔するが、クマタカ No.96 を追跡していたため視野からはずれ、そのまま観察終了した。	14
7 月 24 日	98	成鳥	不明	9:34	9:36	ピーク南東斜面を北東へ飛翔した。ピーク上空で旋回後、尾根陰で消失した。	14
	99	成鳥	不明	9:37	9:39	クマタカ No.100 とピーク東で旋回した。西へ移動したが、クマタカ No.100 を追跡するため視野から外れて消失した。	1、14
	100	成鳥	不明	9:37	9:42	クマタカ No.99 とピーク東で旋回。西へ移動して旋回上昇後、北西へ飛翔し、尾根陰で消失。	1、14
	101	成鳥	不明	9:59	10:09	旋回している個体を確認した。少し旋回上昇したのち、南へ滑翔した。再び旋回上昇をはじめ、少し旋回上昇をした後、南東へ移動し尾根陰で消失した。	19、21
	102	成鳥	不明	10:00	10:03	ピーク西の谷の中を旋回していた。ピーク西の尾根上の広葉樹にとまった際に、手前樹林に隠れて消失した。	19、21
	103	成鳥	不明	12:35	13:09	ピーク西の谷（落葉広葉樹林）中空を旋回し、徐々に上昇。旋回後、滑翔して針葉樹上部に南向きにとまった。とまり中は飛来してきたカケス 1 羽にモビングされるが、しばらくしてカケスは飛び去った。その後、羽繕いして休息した。下方を注視して探餌した後に飛び立ち、滑翔降下して落葉広葉樹に飛び込み林内に消失した。狩りの可能性が高い。	1
	104	成鳥	不明	13:12	13:12	落葉広葉樹林（クマタカ No.103 が飛び込んだ樹林）から飛び出してはばたき後、少し旋回。旋回後、滑翔していき、尾根陰で消失した。	1

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-2（6）　2024 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
7 月 24 日	105	成鳥	不明	14:16	14:19	ピーク南東より旋回しながら少しずつ南下した。降下し、斜面背景に溶け込み消失した。	19、21
	106	不明	不明	14:27	14:35	ピーク上空で旋回している個体を発見した。北へ移動し、旋回上昇後、再びピーク方向へ飛翔した。ピーク南の林内に入り消失した。木にとまった可能性がある。	14
	107	成鳥	不明	14:46	14:49	ピーク北で V 字ディスプレイしながら旋回しているのを確認。北へ移動した後、ピーク南を西へ飛翔し、尾根陰で消失した。	14
7 月 25 日	108	若鳥	不明	9:16	9:31	ピークの南東で、クマタカ No.109 と 2 個体で旋回しているのを確認した。旋回上昇後、北へ移動し、鉄塔 No.140 北東の広葉樹にとまった。9:23 に飛び立つと北側へ飛翔し、旋回上昇後南下し、鉄塔 No.2-109 にとまった。9:30 に飛び立つと再び北側へ飛翔し、旋回上昇後降下して、斜面の樹林に隠れ消失した。	1、14、19
	109	成鳥	不明	9:16	9:21	ピークの南東で、クマタカ No.108 と 2 個体で旋回しているのを確認した。旋回上昇中、尾羽上げ V 字飛翔を行い、クマタカ No.108 の後から北上するが、クマタカ No.108 を追跡していたため視野からはずれ消失した。	1、14、19
	110	成鳥	不明	9:23	9:26	飛び立ったクマタカ No.109 のあとを追うように飛翔する個体を確認した。ピークの西側で旋回後、尾上げ V 字飛翔をしながら旋回上昇し、南下した。クマタカ No.108 を追跡していたため、視野から外れ消失した。	14
	111	成鳥	不明	9:29	9:29	St.21 西の針葉落葉混交樹林中空をハシブトガラス 2 羽にモビングされながら、はばたきを交えて帆翔していた。尾根陰で消失した。	21
	112	成鳥	不明	9:30	9:44	飛び立ったクマタカ No.108 の近くを飛翔する個体を確認した。ピークの南西で旋回上昇後、尾上げ V 字飛翔をして南下し、鉄塔 No.140 にとまった。9:44 飛び立ち、南へ飛翔し、ピーク北側の尾根陰で消失した。	1、14
	113	成鳥	不明	9:46	10:33	鉄塔 No.2-109 の南より飛来し、同鉄塔にとまった。南東へ飛び立ち、ピーク東斜面の林内に入り消失した。	1、14
	114	不明	不明	9:47	9:47	鉄塔 No.2-109 付近上空を北西へ飛翔し、ピーク付近の尾根陰で消失した。	1、14
	115	成鳥	不明	9:50	9:53	針葉樹林中空を旋回し、徐々に上昇した。旋回後、針葉樹林上空を滑翔していき、尾根陰で消失した。	21
	116	成鳥	不明	10:16	11:59	クマタカ No.113 観察中に、鉄塔 No.2-109 に飛来してとまった。北へ飛び立ち、St.1 西側の手前樹林に隠れて消失した。	1、14
	117	成鳥	雄?	10:41	10:44	ピーク南東で波状飛行した。北へ飛翔し、St.1 西側の手前樹林に隠れて消失した。	1
	118	成鳥	雄?	10:48	10:52	St.1 南で旋回しているところを確認。北へ飛翔し、St.1 東側の手前樹林に隠れて消失した。	1
	119	不明	不明	12:00	12:01	鉄塔 No.140 の東をクマタカ No.120 とともに南へ飛翔した。クマタカ No.120 追跡のため、視野から外れて消失した。	1
	120	成鳥	不明	12:00	12:02	鉄塔 No.140 の東をクマタカ No.119 とともに南へ飛翔した。ピーク南東で旋回後、尾根陰で消失した。	1
7 月 26 日	121	成鳥	雄？	10:07	10:24	ピーク東側の針葉樹林中空を旋回し、徐々に上昇した。滑翔してモミにとまっていたクマタカ No.122 を攻撃して威嚇後、同個体を追跡してはばたきを交えて帆翔した。V 字飛行しながら旋回後、波状飛行を繰り返した。その後、V 字飛翔しながらクマタカ No.122、No.123 とともに旋回した。No.122 を追跡して滑翔後、No.122、No.123 と離れて旋回したのち、旋回上昇した。滑翔後、No.123 と旋回した後、No.123 と離れて旋回した。クマタカ No.123 の観察を優先したため視野から外れて消失した。	1、14、19
	122	若鳥	不明	10:11	10:21	ピーク南東のモミ上部に下向きにとまっているところを確認した。接近してきたクマタカ No.121 に攻撃されて飛び立ち、No.121 に追跡されてはばたき飛翔した。針葉樹林中空を旋回し、徐々に上昇した。クマタカ No.121、No.123 とともに旋回後、No.121、123 に追跡されながら滑翔した。No.121、No.123 の観察を優先したため視野から外れて消失した。	1、14、19
	123	成鳥	雌?	10:13	11:31	ピーク東側の針葉樹林中空で V 字飛行しながら旋回し、徐々に上昇した。クマタカ No.121、No.122 とともに旋回後、No.121 とともに No.122 を追跡して滑翔した。No.121、No.122 が離れた後も滑翔した。その後、針広落混交林中空を旋回した。接近してきた No.121 とともに旋回した後、No.121 と離れて滑翔し、鉄塔 No.140 上部に南西向きでとまった。とまり中は No.124 方向を注視して誇示していると思われた。その後飛び立ち、No.124 を攻撃して威嚇後、鉄塔 No.2-109 頂部に南西向きにとまった。とまり中は周囲を見回しており、誇示しているものと思われた。羽づくろいした後飛び立ち、はばたきを交えて帆翔した。低い雲（ガス）に遮られて消失した。	1、14、19
	124	成鳥	不明	10:25	10:50	鉄塔 No.2-109 頂部に南向きにとまっているところを確認した。とまり中は休息しているものと思われた。飛来してきたクマタカ No.123 に攻撃されて飛び立ち、はばたきを交えて帆翔した。尾根陰に隠れて消失した。	1、14

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-2（7）　2024 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
7 月 26 日	125	成鳥	不明	11:24	11:32	過年度の営巣地（Ia）北側の斜面で旋回しているのを確認した。Ia 尾根上の針葉樹にとまった。飛び立ち旋回後、北東へ飛翔し、ピーク西の林に入り消失した。	19、21
	126	成鳥	不明	12:53	13:04	ピーク上空でクマタカ No.127 と旋回しているのを確認した。クマタカ No.127 に数回つっかかった。旋回上昇後、2 個体で南へ滑翔し、尾根陰で消失した。	21
	127	成鳥	不明	12:53	13:04	ピーク上空でクマタカ No.124 と旋回し、No.126 に数回つっかかられた。旋回上昇後、2 個体で南に滑翔し、尾根陰で消失した。	21

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

3. 2025 年

事後調査として実施したクマタカ定点観察における 2025 年のクマタカの確認状況を表 8.2.3-3 に示す。

表 8.2.3-3 (1)　2025 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
3 月 26 日	1	成鳥	不明	10:14	10:15	St.1 の西側で南西へ飛翔する個体を確認した。鉄塔 No.2-110 北側で旋回し、高度が低くなった際に手前樹林に隠れ消失した。	1
	2	成鳥	不明	12:41	12:41	St.21 の北東側で、北東へ飛翔する個体を確認した。そのまま滑翔し、ピーク西斜面の比較的低標高の林内へ入り消失した。	21
	3	成鳥	不明	12:53	13:30	既知の営巣地（Ma）の巣内にとまっている個体を確認した。巣内に座っており抱卵中であると考えられる。地点移動のためそのまま観察を終了した。	22
	4	成鳥	不明	13:05	13:09	過年度の営巣地（Ib）上空で飛翔している個体を確認した。斜面のスギにとまるが少しして飛び立ち、旋回しながら北方向へ飛翔していくと、尾根陰で消失した。	19,21
	5	成鳥	不明	13:26	13:31	過年度の営巣地（Ib）北側で旋回する個体を確認した。旋回しながら南下し、旋回上昇後再び旋回しながら南下した。ピークの北側から南方向へ滑翔すると、尾根陰で消失した。	21
	6	成鳥	不明	14:46	15:50	過年度の営巣地（Ib）付近のスギにとまっている個体を確認した。南側を向いてとまっている。調査終了時間となり、観察を終了した。	21
3 月 27 日	7	成鳥	不明	9:20	9:21	St.21 の北側で旋回している個体を確認した。その後北東方向へ滑翔するが、カラス類に追われ飛翔した。過年度の営巣地（Ib）付近の林内へ入り消失した。	21
	8	不明	不明	9:23	9:23	過年度の営巣地（Ib）の北側を北方向へ低く飛翔する個体を確認した。高度が下がると周りの樹林で見えなくなり消失した。	19
	9	成鳥	不明	12:21	12:21	既知の営巣地（Ma）のある谷内を、西側から巣方向へ飛翔する個体を確認した。巣に進入するように降下し、手前樹林に隠れ消失した。	1
	10	成鳥	不明	13:00	15:00	既知の営巣地（Ma）の巣内にとまっている個体を確認した。クマタカ No.13 が飛来し巣にとまった。本個体はまもなく飛び立ち、付近の谷内を旋回後北東へ飛翔し旋回上昇した。その後南東へ降下し、ピーク北側の落葉広葉樹にとまった。調査終了時間となり観察を終了した。	1
	11	成鳥	不明	13:14	13:19	St.14 の北西側を、クマタカ No.12 と 2 個体で飛翔する個体を確認した。旋回後、旋回上昇し東方向へ滑翔すると手前樹林で消失した。	14
	12	成鳥	不明	13:14	13:15	St.14 の北西側を、クマタカ No.11 と 2 個体で飛翔する個体を確認した。旋回後、旋回上昇し北東方向へ飛翔するが、クマタカ No.141 の観察を優先したため視野から外れそのまま消失した。	14
	13	成鳥	雄	13:40	14:20	クマタカ No.10 を観察中に既知の営巣地（Ma）の巣内へ飛来しとまる個体を確認した。クマタカ No.140 が飛び立った後もとまり続けた。他所観察のため観察を終了した。	1
	14	成鳥	不明	15:10	15:22	過年度の営巣地（Ib）南側の谷上空でカラス類に追われながら旋回する個体を確認した。旋回しながら北東へ移動後、南へ飛翔した際に一度カラス類に攻撃を行った。さらに旋回しながら東方向へ飛翔後、ピークの南側を南東へ滑翔していくと、貫ヶ岳北側の尾根陰で消失した。	19,21
3 月 28 日	15	成鳥	不明	10:12	10:12	鉄塔 No.142 の南側で旋回する個体を確認した。北東へ移動していくと、St.1 東側の尾根陰で消失した。	1
	16	不明	不明	12:42	12:49	ピークの北側を飛翔する個体を確認した。波状飛行を行った後、V 字飛行を行いながらピーク東側の谷の下流方向へ飛翔した。その後谷奥方向へ戻り再び下流方向へ飛翔後、旋回上昇し高度を上げると西方向へ滑翔した。ピーク西側付近へ飛翔していくが手前の尾根陰で消失した。	14,19,21
4 月 24 日	17	成鳥	不明	12:36	12:36	既知の営巣地（Ma）の巣付近から南へ飛翔する個体を確認した。すぐに林内に進入し消失した。	1
	18	成鳥	不明	12:40	12:40	クマタカ No.17 を消失した地点付近の林内より出現する個体を確認した。過年度の営巣木（Ma）付近へ飛翔するが、手前樹林に隠れ消失した。	1
4 月 25 日	19	成鳥	不明	11:40	11:50	ピークの西側尾根近くの立ち枯れにとまっている個体を確認した。飛び立つとすぐ近くの立ち枯れにとまった。飛び立ち北側で旋回後南東へ飛翔し、ピークの南西側の尾根付近にとまるような様子が見られたが、手前樹林で隠れ消失した。	19,21
	20	成鳥	不明	12:07	12:21	ピークの東側斜面でとまっている個体を確認した。飛び立つと南へ飛翔し、尾上げ V 字ディスプレイをしながら飛翔後、波状ディスプレイを行った。ピークの北西側の尾根陰で消失した。	19

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-3 (2)　2025 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
4 月 25 日	21	成鳥	不明	12:07	14:40	既知の営巣地（Ma）の巣内にいる個体を確認した。時折立ち上がり羽繕いをする様子が確認された。調査終了時間となり観察を終了した。	22
	22	成鳥	不明	13:26	13:31	過年度の営巣地（Ib）付近上空で旋回する個体を確認した。北へ飛翔しピークの北西側斜面上で旋回を行った。途中で出現したクマタカ No.23 とつっかかり合いながら南へ飛翔し、過年度の営巣木（Ia）北側の林内に進入し消失した。	19,21
	23	成鳥	不明	13:28	13:31	クマタカ No.22 を観察中に付近を飛翔する本個体を確認した。2 個体でつっかかり合いながら南へ飛翔し、過年度の営巣木（Ia）北側の林内に進入し消失した。	19
	24	成鳥	不明	13:36	13:39	既知の営巣地（Ma）の巣内へ北東側から飛来し、とまる個体を確認した。すぐに飛び立ち巣の北側でしばらく旋回後、営巣木のある谷の右岸尾根付近の林内に進入し消失した。	22
	25	成鳥	不明	14:51	14:51	過年度の営巣地（Ia）付近から別の過年度の営巣木（Ib）方向へ低空を飛翔する個体を確認した。降下し尾根陰で消失した。	12’
5 月 28 日	26	成鳥	不明	9:45	9:48	ピークの東側斜面上で旋回する個体を確認した。北へ飛翔し、St.1 西側の手前樹林に隠れ消失した。	1
	27	成鳥	不明	9:49	9:50	ピークの南東側斜面上を南へ飛翔する個体を確認した。すぐに尾根陰で消失した。	1
	28	成鳥	不明	9:58	10:04	St.1 の西側斜面上を飛翔する個体を確認した。旋回等を交え飛翔し、鉄塔 No.141 の北側の樹林に入るがすぐに出て再び斜面上を飛翔した。旋回上昇後旋回し、再度旋回上昇した後、鉄塔 No.140 北側の樹林へ急降下していくが、手前樹林に隠れ消失した。	1,14
	29	成鳥	不明	10:18	10:19	鉄塔 No.2-109 付近からピーク方向へ飛翔する個体を確認した。同ピーク南東の尾根上空で尾上げ V 字ディスプレイを行いながら降下し尾根陰で消失した。	1,14
	30	成鳥	不明	10:23	10:25	ピークの南東側尾根上空を北東へ飛翔する個体を確認した。同ピーク東斜面を北へ飛翔し鉄塔 No.140 東側の樹林へ降下した。手前樹林に隠れ消失した。	1,14
	31	成鳥	不明	12:32	13:30	既知の営巣地（Ma）の巣内にとまり、巣内雛(クマタカ No.32)へ給餌を行う個体を確認した。給餌後も巣内にとまり続けたが、地点移動のためそのまま観察を終了した。	22
	32	幼鳥	不明	12:32	13:30	既知の営巣地（Ma）の巣内に雛を確認した。クマタカ No.31 から給餌を受けていた。地点移動のためそのまま観察を終了した。	22
	33	成鳥	不明	13:35	13:39	ピークの南側で旋回する個体を確認した。同ピーク付近まで北上後、再び南へ向きを変えＶ字ディスプレイを行いながら飛翔した。南南東へ急降下を行うと手前樹林の陰で消失した。	19,21
	34	成鳥	不明	14:37	14:38	過年度の営巣地(Ia、Ib)の北側斜面上空で旋回する個体を確認した。その後、過年度の営巣地(Ia)の尾根陰で消失した。	21
5 月 29 日	35	幼鳥	不明	13:00	14:35	既知の営巣地（Ma）の巣内に雛を確認した。時折羽を動かす動きが確認された。地点移動のためそのまま観察を終了した。	22
	36	成鳥	不明	13:47	13:59	ピークの西側尾根斜面上のスギ頂部にとまっている個体を確認した。飛び立つと同尾根上の立ち枯れにとまった。13:51 飛び立ち一度周りを旋回後、同尾根やや上部の立ち枯れにとまった。二度ほど枝移りを行った後の 13:58 に飛び立つと、北へ低く飛翔し斜面の樹林で見えなくなり消失した。	21,23
5 月 30 日	37	成鳥	不明	9:00	9:10	過年度の営巣地(Ib)の西上空で旋回する個体を確認した。旋回後東へ飛翔し、ピーク南西の谷内を旋回し南へ飛翔した。途中林内に進入するが、少しして付近を旋回しさらに南へ飛翔した。ピーク南の尾根陰で消失した。	19,21
	38	成鳥	不明	9:28	9:29	ピーク付近を旋回する個体を確認した。旋回を終えると南東へ飛翔し、ピーク南の尾根陰で消失した。	21
	39	成鳥	不明	11:55	11:59	ピークの北東側上空を北東へ飛翔する個体を確認した。鉄塔 No.2-113 南側で南西へ転じると、ピーク南東側で旋回上昇を行いながら南西へ飛翔した。同ピーク南側の尾根陰で消失した。	1
	40	幼鳥	不明	13:35	14:30	既知の営巣地（Ma）の巣内に雛を確認した。地点移動のためそのまま観察を終了した。	22
	41	成鳥	不明	14:01	14:05	ピーク南東側尾根上空で旋回上昇する個体を確認した。尾羽上げＶ字ディスプレイを行いながら飛翔した。高度を上げディスプレイを終えるとピーク南の主稜線付近まで滑翔し、主稜線付近を南へ飛翔した。ピーク北側の樹林へ降下し林内に入ったため消失した。	2

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-3 (3)　2025 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
6 月 25 日	42	幼鳥	不明	11:34	13:20	既知の営巣地（Ma）の巣内に雛を確認した。羽づくろい、巣内を歩く等の様子を確認した。地点移動のためそのまま観察を終了した。	22
	43	成鳥	不明	12:34	12:35	過年度の営巣地(Ib)の斜面下にとまりを確認した。すぐに飛び立ち南東方向へ飛翔し、南側の谷内へ進入すると尾根陰で消失した。	21
	44	不明	雄?	12:38	12:42	ピーク西側上空で旋回上昇する個体を確認した。旋回上昇を行いながら南東へ移動し、途中から滑翔すると尾根陰で消失した。	19,21
	45	不明	不明	12:38	12:44	ピーク南側で旋回する個体を確認した。北方向へ飛翔し、同ピーク北西側斜面上のスギにとまった。飛び立つと南へ飛翔し同ピーク南西側斜面の落葉広葉樹にとまった。飛び立ち南東へ飛翔すると、樹林の陰で消失した。	21
	46	成鳥	雄	13:43	13:50	St.21 東側斜面上で旋回上昇する個体を確認した。St.21 上空でクマタカ No.47 と 2 個体で旋回後、南東へ飛翔した。その後北東へ滑翔していき貫ヶ岳西側の谷へ降下すると尾根陰で消失した。	19,21
	47	不明	雌?	13:45	13:50	ピーク西側で旋回する個体を確認した。St.21 上空へ移動するとクマタカ No.46 と 2 個体で旋回し、その後本個体は南西方向へ飛翔後尾根陰で消失した。	21
6 月 26 日	48	成鳥	不明	11:42	11:44	St.21 南西側谷奥で旋回する個体を確認した。東へ滑翔後旋回し、南へ向かうと尾根陰で消失した。	21
	49	成鳥	不明	12:00	13:30	既知の営巣地（Ma）の南側上空から降下してくる個体を確認した。脚に何か餌らしきものを持っており、巣に入するとすぐに飛び立ち谷右岸尾根のスギにとまった。少しして飛び立つと近くのスギにとまるが、すぐに飛び立ち付近を旋回後、同尾根のやや標高の低い位置のスギにとまった。落ち着いてとまっていたが、12:20～13:00 くらいの間カケスに何度も攻撃された。調査終了時間となり観察を終了した。	1
	50	幼鳥	不明	12:02	12:50	クマタカ No.49 が既知の営巣地（Ma）のある谷付近を旋回中、営巣地（Ma）巣内に雛の姿を確認した。しばらくの間巣の外側に近い場所に立っていたが、クマタカ No.49 観察中に姿が見えなくなった。	1
6 月 27 日	51	成鳥	不明	7:53	7:55	St.2 南西側の尾根及び谷上空で旋回する個体を確認した。徐々に北西へ移動後、北へ滑翔していくと、手前樹林で消失した。	2
	52	成鳥	不明	8:01	8:03	St.1 の南東側の谷及び斜面上空で旋回する個体を確認した。西へ移動後、東へ飛翔し、その後北へ飛翔した。途中から St.1 方向へ滑翔すると手前樹林で消失した。	2
	53	不明	不明	8:06	8:07	St.1 東側斜面上空で旋回する個体を確認した。旋回しながら南へ移動後、西へ滑翔すると、谷内へ進入し消失した。	1,19
	54	成鳥	不明	9:46	9:48	過年度の営巣地(Ib)南側の谷、右岸斜面上空で旋回する個体を確認した。旋回しながら南西へ移動後、南へ滑翔すると、手前樹林で消失した。	19,21
	55	成鳥	不明	9:47	10:07	St.1 南東側斜面上空で旋回する個体を確認した。南へ移動後、旋回上昇すると北東へ飛翔した。St.2 東側、南又川右岸斜面の林内に進入するがすぐに出てくると、ピーク方向へ移動し、付近を飛翔していたクマタカ No.56 と 2 個体で旋回上昇を行った。その後も 2 個体で飛翔し南下していくと、ピークの尾根陰で消失した。	1,2,19
	56	成鳥	不明	9:56	10:07	ピークの西側で飛翔する個体を確認した。同ピーク上空をクマタカ No.55 と 2 個体で旋回上昇し南下していくと、ピークの尾根陰で消失した。	1,2,19
	57	成鳥	不明	10:24	10:25	ピークの南東側尾根上空で飛翔する個体を確認した。V 字ディスプレイを行いながら飛翔し、徐々に東へ移動後、谷内へ進入すると尾根陰で消失した。	2
	58	成鳥	不明	10:47	10:56	St.21 東側、石合川右岸斜面上空で旋回する個体を確認した。しばらく旋回後、南東側で旋回上昇し南東へ滑翔した。その後南へ降下していくと尾根陰で消失した。	19,21
	59	成鳥	不明	11:17	11:20	ピークの南東側尾根上空で旋回する個体を確認した。北西へ移動し同ピーク上空を通過後さらに北西へ滑翔すると、手前樹林で消失した。	2
	60	成鳥	不明	12:43	12:48	St.21 の南側尾根上空で旋回する個体を確認した。南西方向へ降下すると尾根陰で消失した。	21
	61	幼鳥	不明	13:52	14:20	既知の営巣地（Ma）の巣内に雛 1 個体を確認した。時折頭が動いており、14:06 立ち上がる姿を確認した。調査終了時間となり観察を終了した。	1
	62	成鳥	不明	14:29	14:33	ピークの北東側上空、比較的高空で旋回する個体を確認した。その後南西へ滑翔し、ピーク上空を通過後さらに南西へ滑翔していくと、ピーク北側斜面背景に溶け込みそのまま消失した。	2
	63	成鳥	不明	14:57	15:02	St.21 の南東側尾根上空で旋回する個体を確認した。斜面沿いに徐々に北へ移動後旋回上昇し高度を上げると、東へ滑翔し尾根陰で消失した。	21

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.3-3（4）　2025 年クマタカ確認状況表

調査日	No.	成幼	雌雄	確認時間		確認状況	確認定点
				始	終		
7 月 30 日	64	成鳥	不明	11:48	11:50	St.21 南西側の谷斜面付近で飛翔する個体を確認した。南へ旋回後、東へ飛翔し手前樹林に隠れ消失した。	21
	65	成鳥	不明	12:05	12:10	ピークの東側で旋回する個体を確認した。北方向へ飛翔し、St.22 の西側の樹林に隠れ消失した。	22
	66	成鳥	不明	12:24	12:35	過年度の営巣地(Ib)付近を旋回している個体を確認した。斜面上を北方向へ飛翔し旋回後、南へ戻り、再び北へ飛翔する。その後、旋回しながら南へ移動し、旋回上昇後、南東方向へ滑翔してピーク付近で斜面背景に溶け込み消失した。	19,21
	67	成鳥	不明	13:18	13:21	貫ヶ岳の西側斜面上空で旋回する個体を確認した。北へ飛翔し、ピークの北東で旋回後、南東方向へ降下し尾根陰で消失した。	21
	68	成鳥	不明	13:33	13:36	ピークの西側で旋回する個体を確認した。過年度の営巣地(Ia)付近で南方向へ飛翔する。ピークの東で旋回後、さらに南方向へ飛翔し尾根陰で消失した。	21
	69	幼鳥	不明	13:46	14:00	既知の営巣地（Ma）の北西から飛来し巣にとまる個体を確認した。そのままとまり続け、調査終了時間のため観察終了した。	22
7 月 31 日	70	成鳥	不明	8:53	8:54	St.1 の北側で旋回する個体を確認した。北方向へ飛翔し、手前樹林に隠れ消失した。	22
	71	成鳥	不明	10:38	10:46	徳間峠上空で旋回する個体を確認した。旋回上昇後、旋回しながら北東方向へ移動すると、南方向へ滑翔した。徐々に降下し、ピークの西側の尾根陰で消失した。	2,22
	72	成鳥	不明	11:07	11:13	ピーク付近で尾上げ V 字ディスプレイを行いながら旋回する個体を確認した。同ピーク方向へ急降下後、北東へ飛翔し再び尾上げ V 字ディスプレイを行いながら旋回上昇する。その後、波状飛行を行うと、クマタカ No.73 が付近に出現し、その個体を追って北西方向へ飛翔する。ピークの西側で手前樹林に隠れ消失した。	2,22
	73	若鳥	不明	11:10	11:13	クマタカ No.72 を観察中に付近で旋回する本個体を確認した。クマタカ No.72 に先行して北西方向へ飛翔し、ピークの西側で手前樹林に隠れ消失した。	2,22
	74	不明	不明	12:17	12:18	ピークの西側で尾上げ V 字ディスプレイを行いながら旋回する個体を確認した。北西方向へ飛翔し尾根陰で消失した。	2,22
	75	成鳥	不明	12:19	12:20	ピークの西側で旋回する個体を確認した。東方向へ飛翔すると手前樹林に隠れ消失した。	23
	76	成鳥	不明	13:20	13:20	既知の営巣地（Ma）に餌（種不明）を持って飛来し、巣内に餌を置く。すぐにクマタカ No.77 が飛来すると、本個体は飛び立ち、巣付近の林内に入り消失した。	22
	77	幼鳥	不明	13:20	13:45	クマタカ No.76 を観察中に、既知の営巣地（Ma）に飛来する本個体を確認した。巣内で摂餌し、そのまま調査終了時間のため観察終了した。	22
	78	不明	不明	11:42	11:44	ピーク北西側の尾根上で旋回する個体を確認した。南東方向へ飛翔し尾根陰で消失した。	19,21
	79	幼鳥	不明	11:47	12:15	既知の営巣地（Ma）の巣内にとまっている個体を確認した。餌（種不明）を持ち上げるが、摂餌せず置く様子が見られた。12:15 に北方向へ飛び立ち、手前樹林に隠れ消失した。	22

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．３　変更届に関する資料

８．３．１　変更届の添付資料

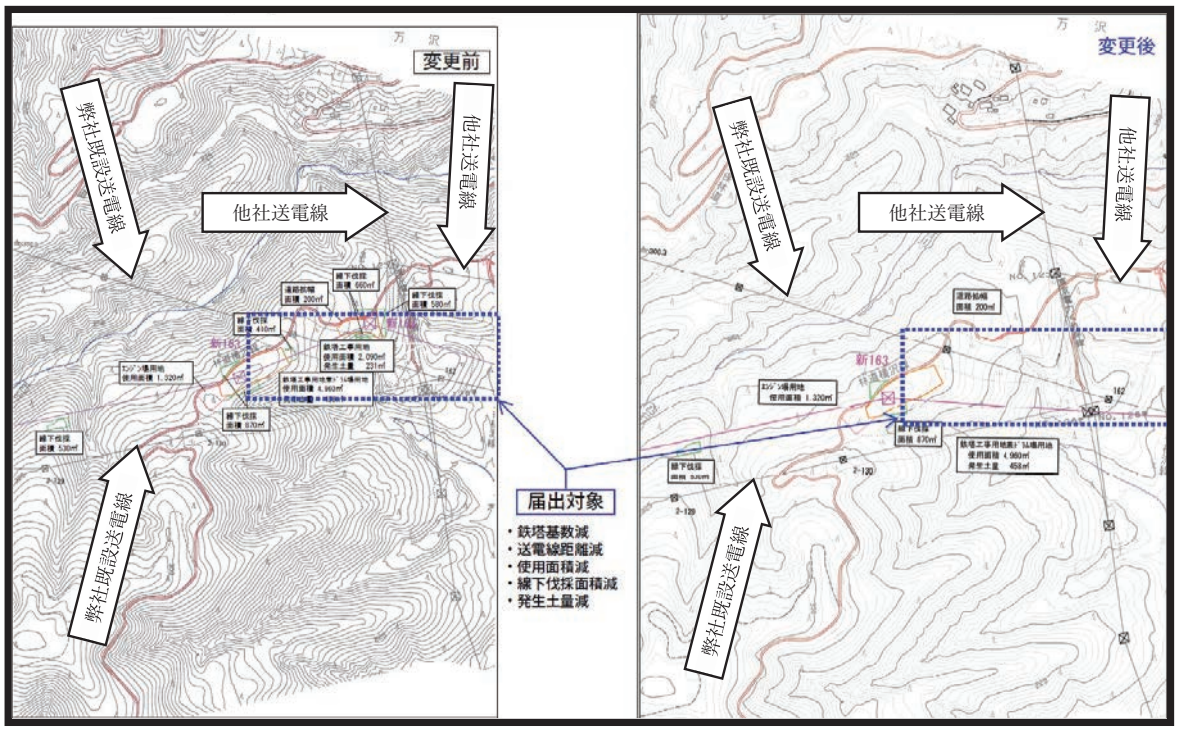
＜別紙＞　修正理由

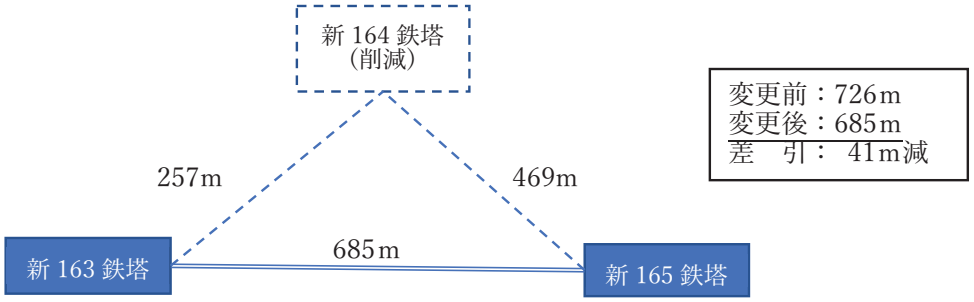
修正理由を以下の通り示すものである。

【修正事項(1)】建替え鉄塔の基数減：新１６４鉄塔

新 163 鉄塔から新 165 鉄塔の区間は、弊社の既設送電線と他社送電線が複数存在しており、各送電線の運用（電気を流している）状態において、送電線同士の接近による電気事故を防止するために、法定離隔を確保する必要がある。そこで、この区間の中間支持の役目として、新 164 鉄塔が他の送電線に接近しない様に電線を支持する計画であった。

その後、技術検討と各送電線の管理者との協議等により、新 163 鉄塔から新 165 鉄塔へ直線的なルートにすることが可能になり、この結果、中間支持の新 164 鉄塔を削減できることになり、環境影響も低減できる見通しが得られたことから、鉄塔１基を削減することにした。



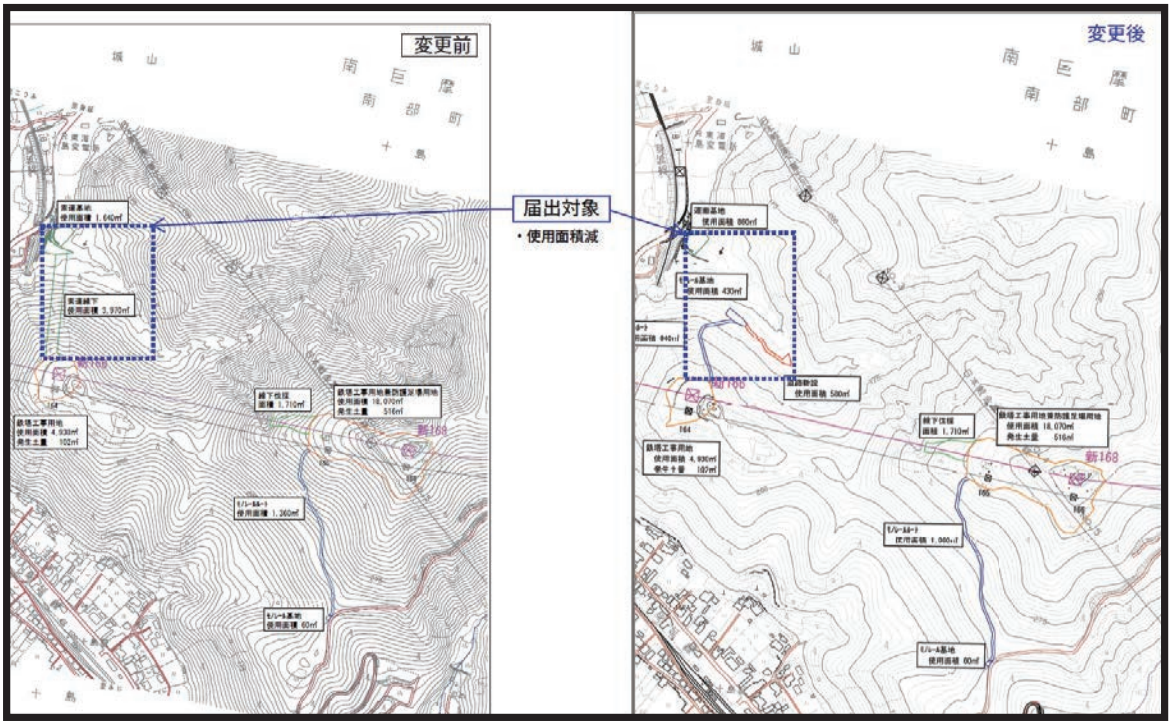


© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

【修正事項⑵】運搬用仮設備の一部変更：新１６６鉄塔工事用

新１６６鉄塔工事用の運搬用仮設備は、当初計画（補正評価書）では運搬距離を最短にする「索道」で計画していた。地権者には本事業に対する理解と立入承諾を得て、調査測量や環境保全措置（植物移植）を実施してきたが、昨今の自然災害による土砂崩れに対する不安が高まったこと等から、伐採範囲を縮小するよう要請を受けた。

このため、近隣の既存林道を活用し、途中で分岐して道路とモノレールを設置することにより、伐採範囲を縮小し、環境影響が低減できる見通しが得られたことから、運搬用仮設備を変更することにした。



項目		変更前	変更後	増減（▲:減）
計画面積（㎡）	索道基地⇒運搬基地	1,640	860	▲780
	索道線下	3,970	0	▲3,970
	道路新設	0	580	580
	モノレール基地	0	430	430
	モノレールルート	0	640	640
	合計	5,610	2,510	▲3,100
仮設備数量（m）	索道	240	0	▲240
	道路新設	0	110	110
	モノレール	0	160	160

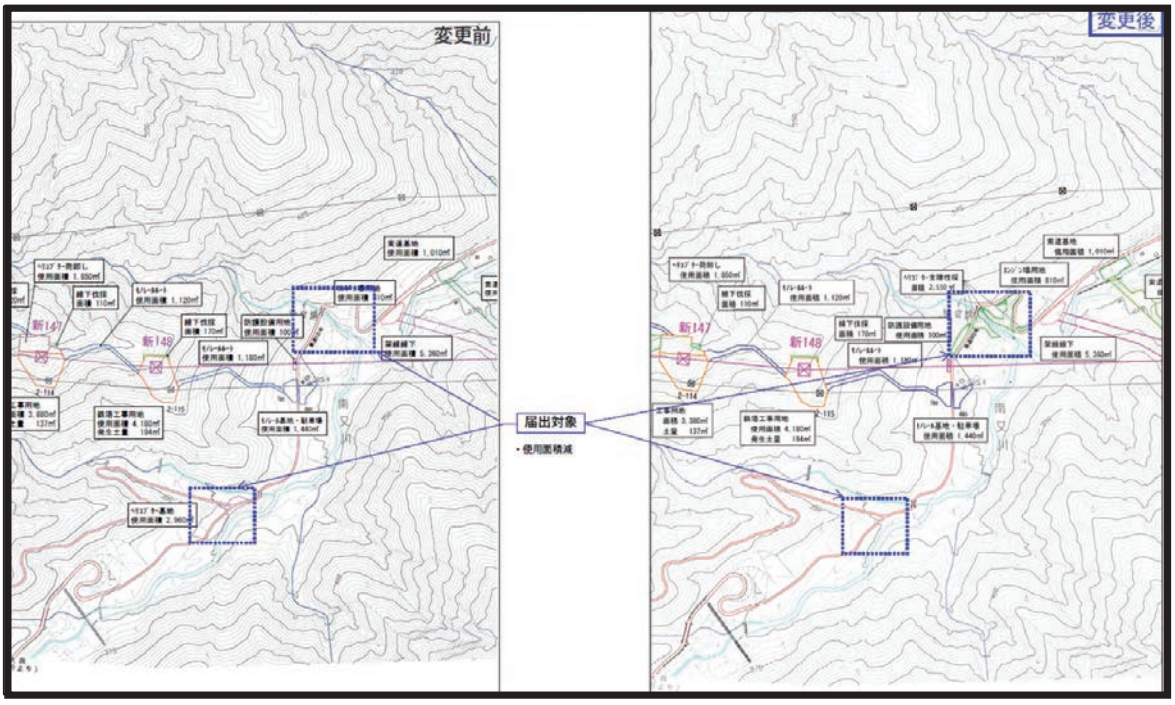
© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

【修正事項(3)】運搬用仮設備の一部変更：ヘリコプター基地

ヘリコプター基地（第２）は、当初計画（補正評価書）では県道を挟んで山林を伐採及び造成して設営する計画であった。県道も使用することから、県道管理者と事前協議を開始したが、アセス評価書手続後の申請前に道路占用不可との判断が示された。

そのため、代替地を検討していたところ、工事計画策定時には谷地だった地点（当初計画より北方向へ約 300m の位置で県道沿い）に弊社事業外で「土捨場」が造成された。この土捨場の南側範囲は、現在も谷埋めによる残土処分中であるが、ヘリコプター基地で使用する北側範囲は造成済であり、使用期間中の土地形状変更予定も無い。

よって、航空安全上必要な範囲の伐採（ヘリコプターのアプローチと吊り荷接触防止）は要するが、山林伐採と造成が不要であり、県道通行止めも不要により、環境影響が低減できる見通しが得られたことから、ヘリコプター基地を変更することにした。



項目		変更前	変更後	増減
ヘリコプター基地（第２）	計画面積(㎡)	2,960	（造成無） 0	▲2,960
	伐採面積(㎡)	2,960	（航空安全必要範囲のみ） 2,550	▲410

以上

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

＜添付資料目録＞

１．届出対象図

２．修正比較図

３．修正比較表

４．環境影響の説明表

５．【修正事項⑵】植物保全状況（新 166 鉄塔工事用）

６．【修正事項⑶】植物保全状況（ヘリコプター基地）

７．補正評価書：修正抜粋版（第１章）

８．補正評価書：修正抜粋版（第８章）

９．補正評価書：修正抜粋版（非公開資料：保全すべき動植物種の確認位置図）

10．補正評価書：修正抜粋版（非公開資料：生態系　クマタカ）

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

＜添付資料１＞

届出対象図

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

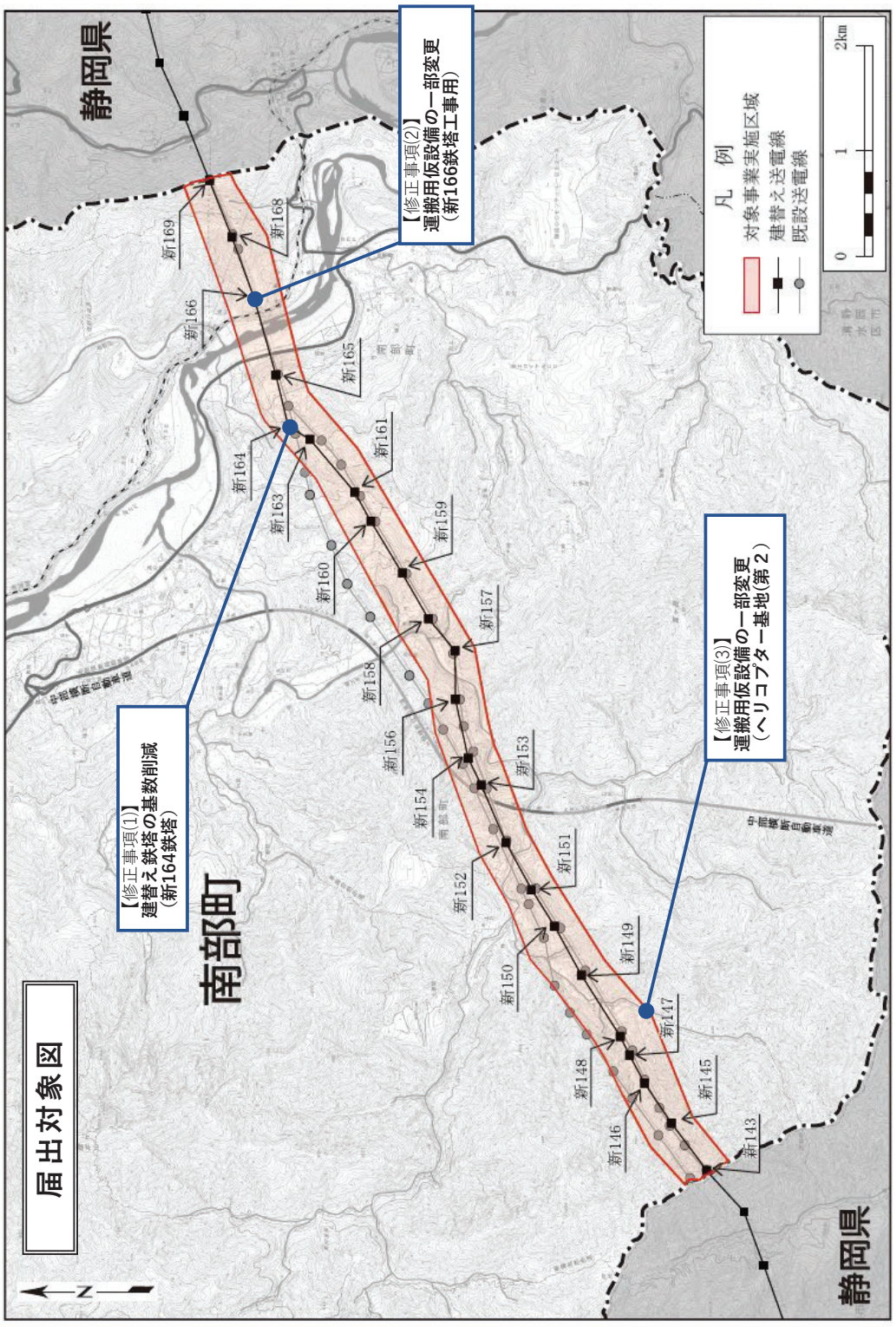


図 1.4-2　　対象事業実施区域（概況図）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

(p.1-1)

(p.1-1)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

＜添付資料２＞

修正比較図

凡例				
改変域	用途	工作物	伐採	造成
	鉄塔工事用地	有（仮設、鉄塔）	有	有
	ヘリコプター基地 ヘリコプター荷卸し	有（仮設）	有	有
	モノレール基地 モノレールルート	有（仮設）	有	有
	索道基地 索道線下	有（仮設）	有	有
	道路新設 道路拡幅	有（仮設）	有	有
	エンジン場用地	有（仮設）	有	有
	防護設備用地	有（仮設）	有	無
	架線線下	無	有	無
	線下伐採 ヘリコプター支障伐採	無	有	無

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

修正比較図【修正事項(1)】建替え鉄塔基数の削減（新164鉄塔：１／２）

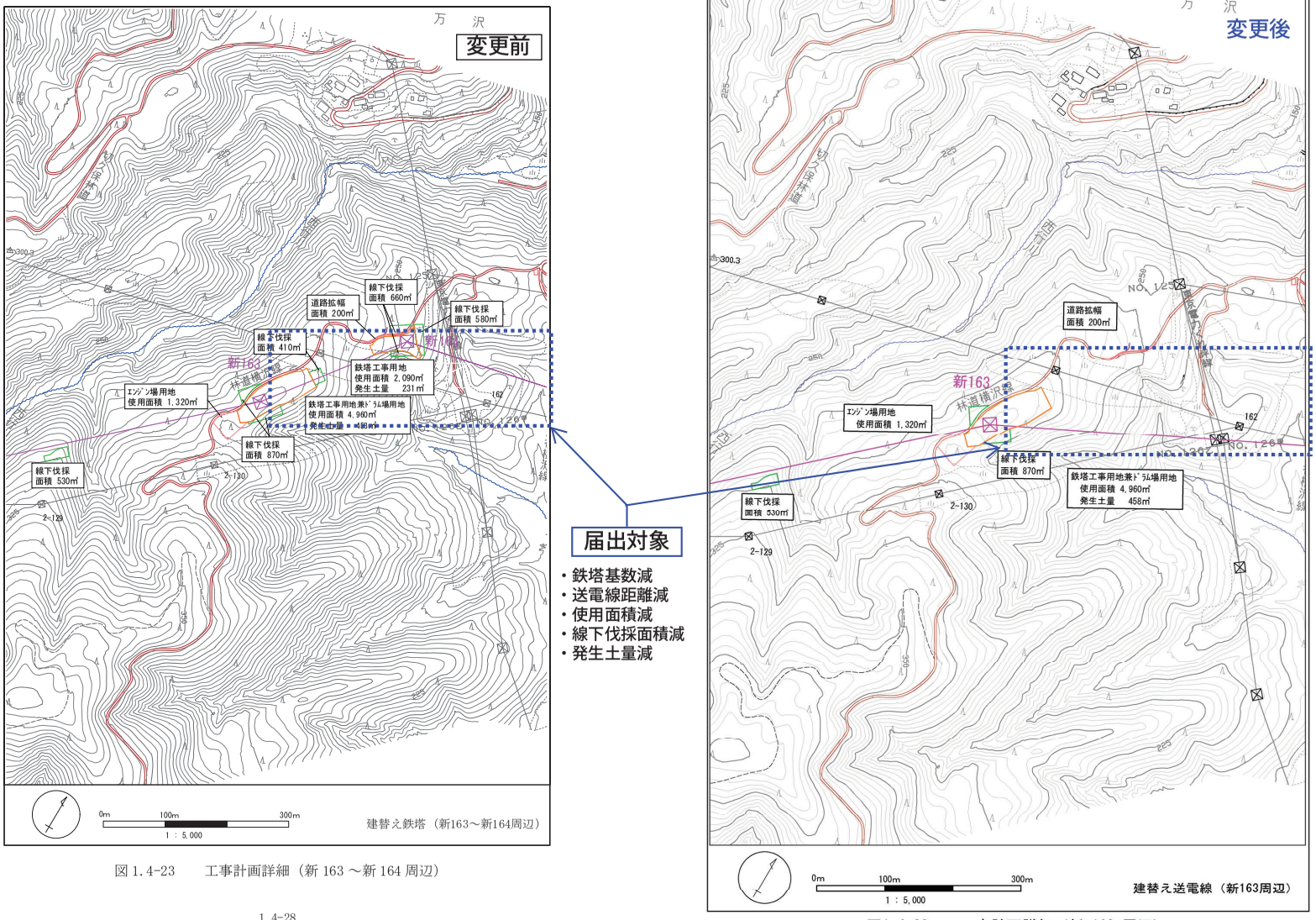


図 1.4-23　工事計画詳細（新 163 ～新 164 周辺）

図1.4-23　工事計画詳細（新 163 周辺）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

修正比較図【修正事項(1)】建替え鉄塔の基数の削減（新164鉄塔：２／２）

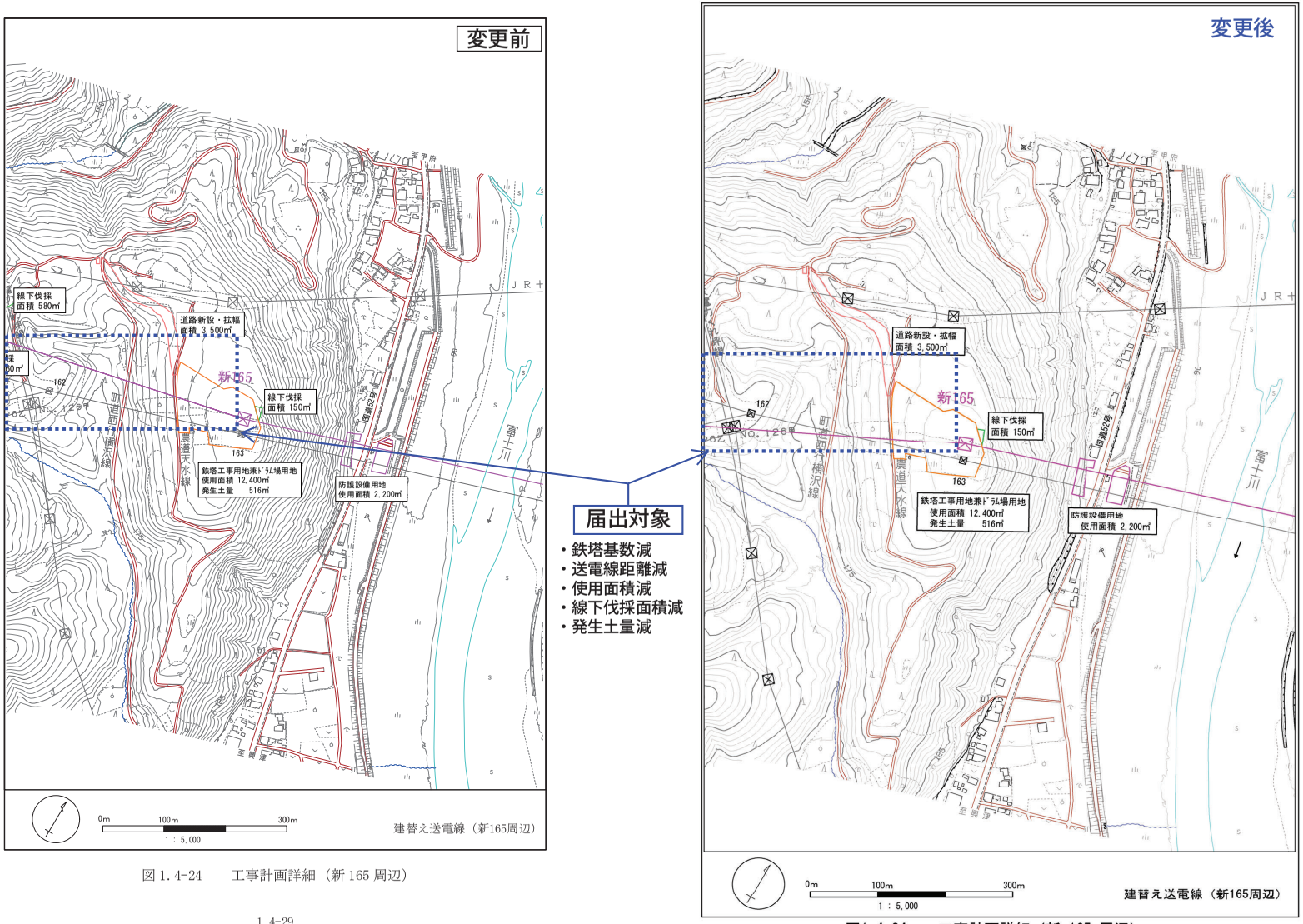


図 1.4-24　工事計画詳細（新 165 周辺）

図1.4-24　工事計画詳細（新 165 周辺）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

(p.2-2)

(p.2-2)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

修正比較図【修正事項(2)】運搬用仮設備の一部変更（新166鉄塔工事用：１／２）

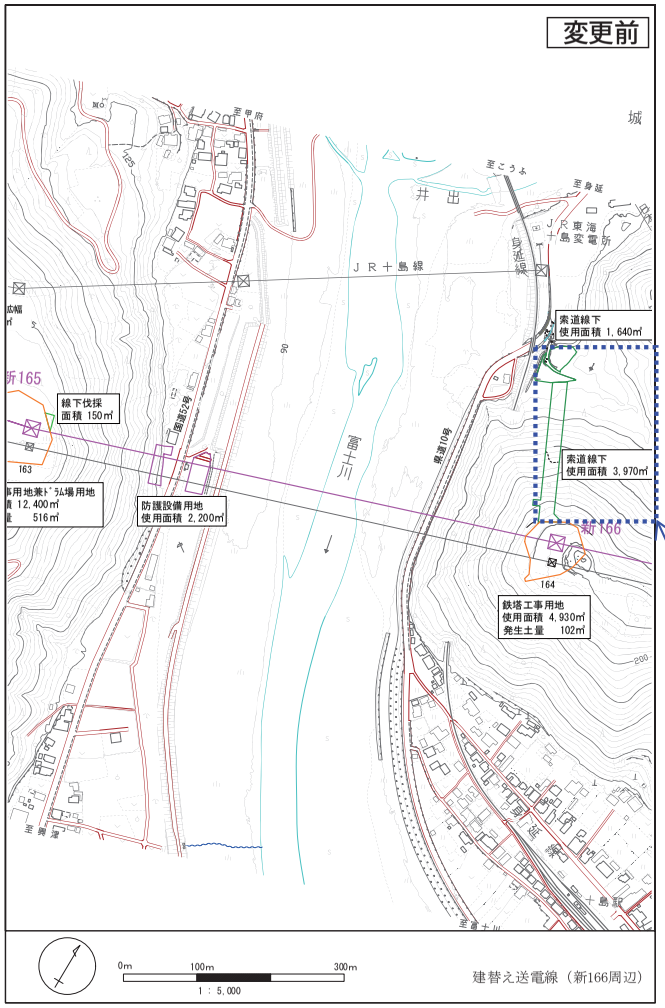
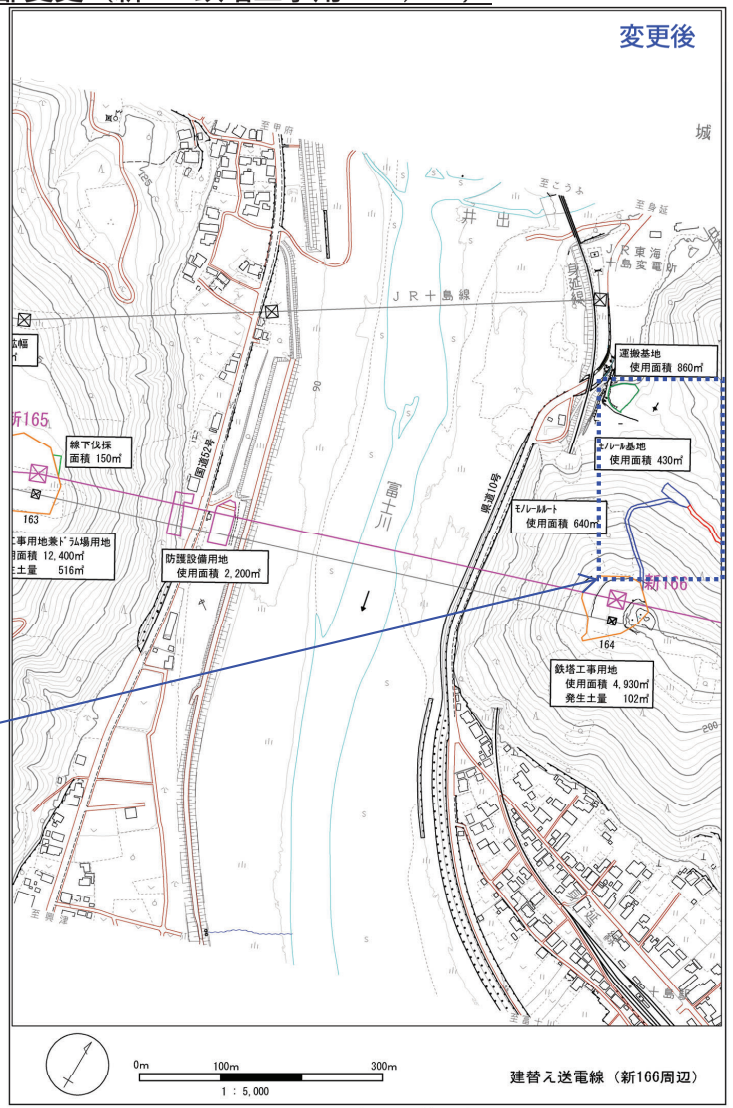


図 1.4-25　工事計画詳細（新 166 周辺）



届出対象
・使用面積減

図1.4-25　工事計画詳細（新 166 周辺）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

修正比較図【修正事項(2)】運搬用仮設備の一部変更（新166鉄塔工事用：２／２）

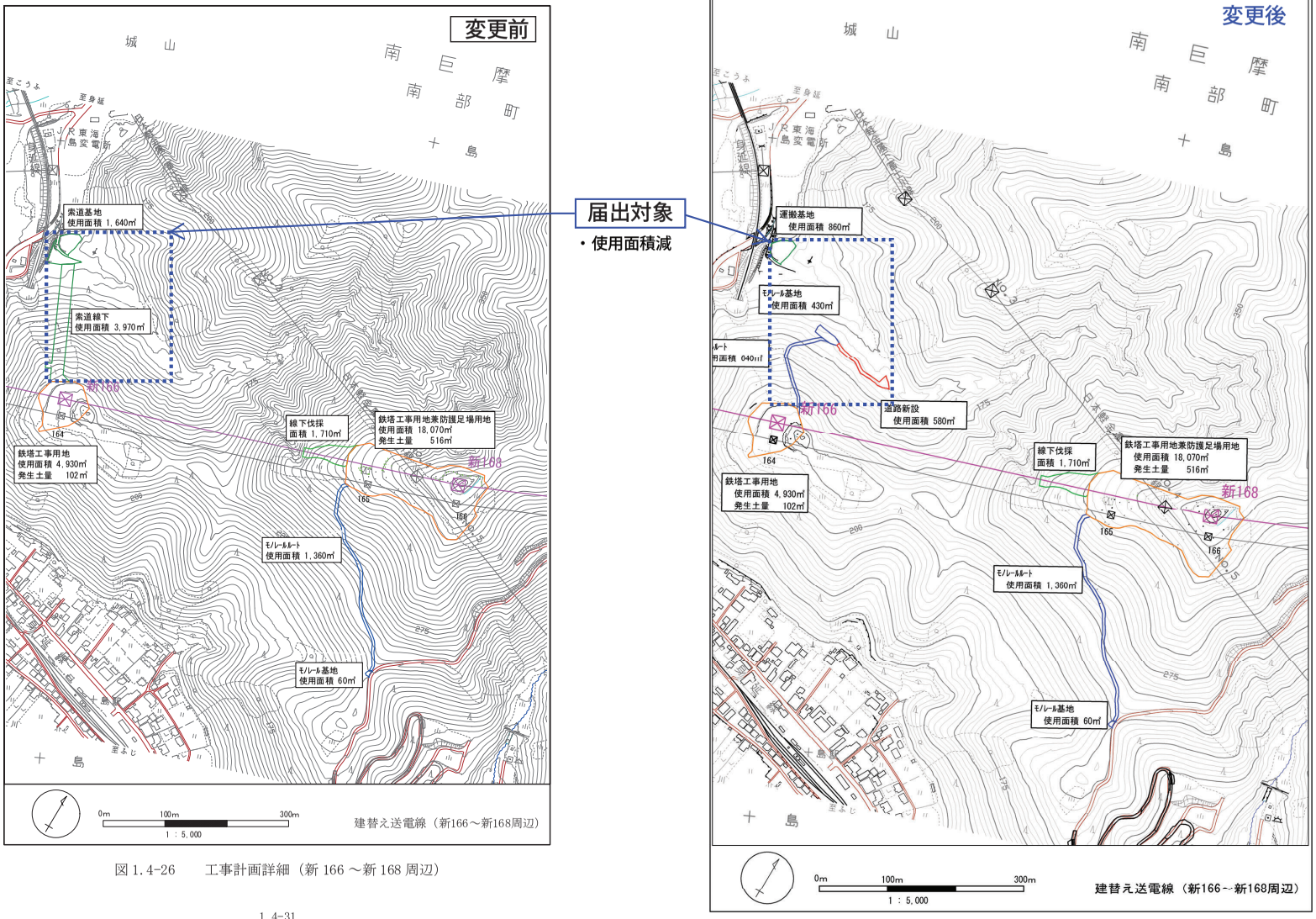


図 1.4-26　工事計画詳細（新 166 ～新 168 周辺）

図1.4-26　工事計画詳細（新 166 ～新 168 周辺）

(p.2-4)

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

(p.2-4)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

修正比較図【修正事項(3)】運搬用仮設備の一部変更（ヘリコプター基地(第２)）

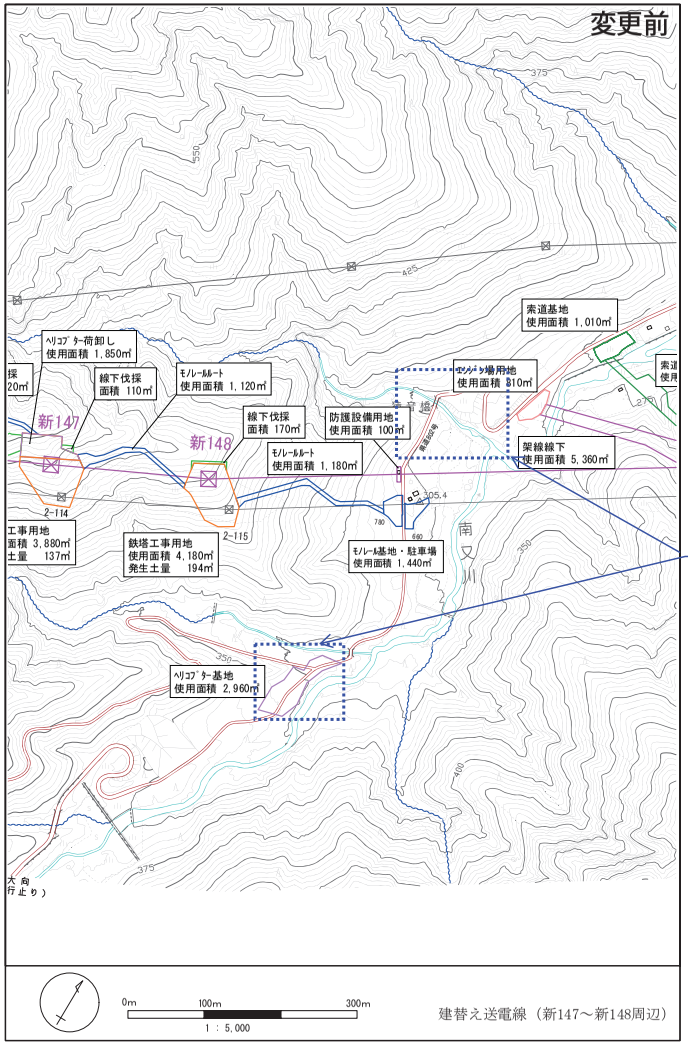


図 1.4-13　工事計画詳細（新 147 ～新 148 周辺）

届出対象

・使用面積減

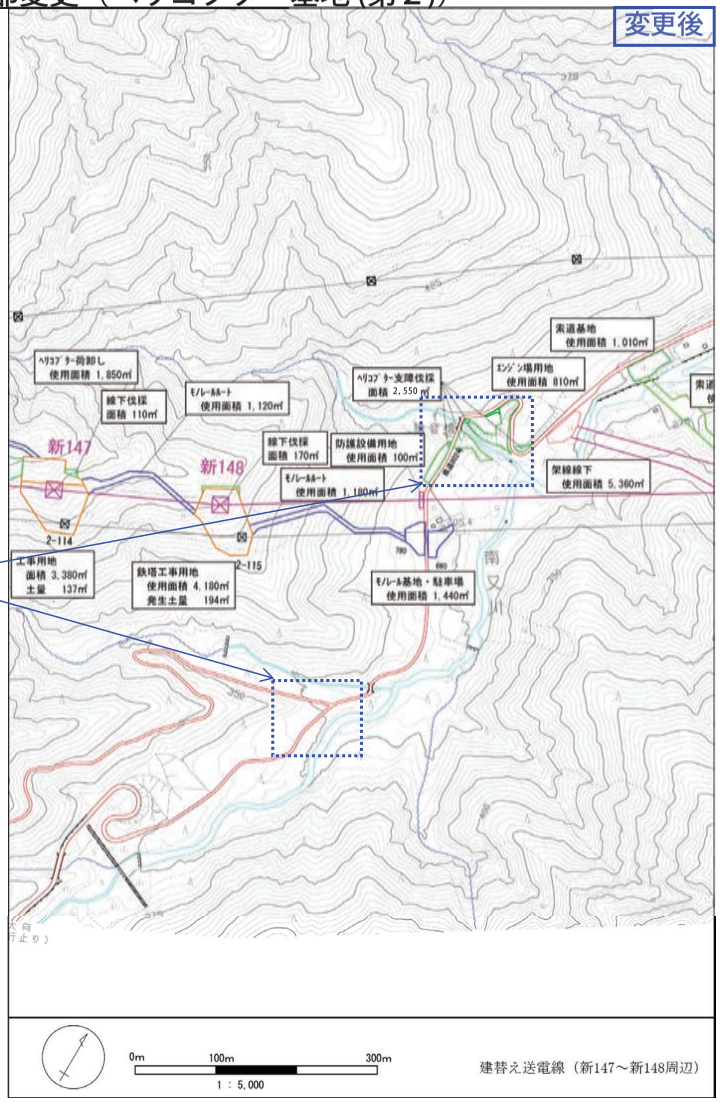


図 1.4-13　工事計画詳細（新 147～新 148 周辺）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱
(p.2-5)

(p.2-5)

＜添付資料３＞

修正比較表

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

(p.3-1)

修正比較表

修正事項	修正概要	修正項目			修正比較 単位	当初 2023年1月 補正評価書	修正 2024年4月 今回届出	増減 （▲は減）	備考 （修正の補足説明）	『参考』 補正評価書該当頁 （通算頁）
総括	土地利用計画	鉄塔数			基	23	22	▲ 1	＜要因＞(1)	P12、15-17、20
		発生土量（設計値）			㎥	5,306	5,075	▲ 231	＜要因＞(1)	P77
		計画	鉄塔用地		㎡	17,000	16,260	▲ 740	＜要因＞(1)	P20-21
			鉄塔周辺工事用地(鉄塔用地除く)		㎡	72,320	70,970	▲ 1,350	＜要因＞(1)	
			仮設備用地		㎡	88,920	82,860	▲ 6,060	＜要因＞(2)、(3)	
			合計		㎡	178,240	170,090	▲ 8,150	-0.82ha	
		仮設備	仮設道路		m	480	1,060	580	＜要因＞(2)道路	
			索道		m	1,050	810	▲ 240	＜要因＞(2)	
			モノレール		m	4,400	4,560	160	＜要因＞(2)	
			ヘリコプター	基地	箇所	2	2	0		
				荷卸し場	箇所	4	4	0		
			架線工事用地	エンジン場	箇所	3	3	0		
				ドラム場	箇所	4	4	0		
			防護足場		箇所	3	3	0		
		伐採	鉄塔用地		㎡	17,000	16,260	▲ 740	＜要因＞(1)	
			鉄塔周辺工事用地(鉄塔用地除く)		㎡	72,320	70,970	▲ 1,350	＜要因＞(1)	
			仮設備用地		㎡	88,920	85,410	▲ 3,510	＜要因＞(2)、(3)	
			保安伐採		㎡	16,080	14,430	▲ 1,650	＜要因＞(1)	
			合計		㎡	194,320	187,070	▲ 7,250		
(1) 建替え鉄塔の基数削減	・対象：新164鉄塔 ・内容：工作物減と改変面積減	計画	鉄塔用地		㎡	740	0	▲ 740		P40、67、790
			鉄塔工事用地		㎡	1,350	0	▲ 1,350		
		伐採	鉄塔用地		㎡	740	0	▲ 740		
			鉄塔工事用地		㎡	1,350	0	▲ 1,350		
		保安伐採	線下伐採		㎡	410	0	▲ 410		
			線下伐採		㎡	660	0	▲ 660		
			線下伐採		㎡	580	0	▲ 580		
			合計		㎡	3,740	0	▲ 1,650		
		景観・風景	主要な眺望景観の現状と予測結果	篠井山	基	10	9	▲ 1		P790
(2) 運搬用仮設備の一部変更	・対象：新166鉄塔工事用 ・内容：運搬方法変更と改変面積減	計画	索道基地⇒運搬基地		㎡	1,640	860	▲ 780	運搬基地として、範囲縮小して継続使用	P42-43
			索道線下		㎡	3,970	0	▲ 3,970		
			道路新設		㎡	0	580	580	既存林道から分岐して延長	
			モノレール基地		㎡	0	430	430		
			モノレールルート		㎡	0	640	640	本事業で用いている同等規格のﾓﾉﾚｰﾙを使用	
			合計			5,610	2,510	▲ 3,100		
		仮設備	索道		m	240	0	▲ 240		
			道路		m	0	110	110		
			モノレール		m	0	160	160		
		伐採	索道基地⇒運搬基地		㎡	1,640	860	▲ 780		
			索道線下		㎡	3,970	0	▲ 3,970		
			道路		㎡	0	580	580		
			モノレール基地		㎡	0	430	430		
			モノレールルート		㎡	0	640	640		
			合計		㎡	5,610	2,510	▲ 3,100		

(p.3-1)

修正事項	修正概要	修正項目					修正比較			備考 （修正の補足説明）	『参考』 補正評価書該当頁 （通算頁）
							単位	当初 2023年1月 補正評価書	修正 2024年4月 今回届出	増減 （▲は減）	
(3) 運搬用仮設備の一部変更	・対象：ヘリコプター基地(第２) ・内容：位置変更と改変面積減	位置	変更距離				m	—	—	300	北方向に変更	P30、45、72
			標高				m	330	300	▲ 30	
		計画	ヘリコプター基地（使用面積）				㎡	2,960	0	▲ 2,960	新基地は、既存土捨場の利用により造成無し
		伐採	ヘリコプター基地伐採				㎡	2,960	0	▲ 2,960	
			ヘリコプター支障伐採				㎡	0	2,550	2,550	航空安全上（吊り荷接触防止等）の伐採のみ
						合計	㎡	2,960	2,550	▲ 410	
		騒音	運航計画	パターンＣ	運搬１回あたり所要時間		分	約8	約8	0	運搬再計算の結果、当初計画と変わらず	P348
					うち運航時間		分	4	4	0		
					うち積込・積降時間		分	4	4	0		
					１日当たり運搬回数		往復	37	37	0		
			最寄人家	騒音予測結果	パターンＣ：Lden		ﾃﾞｼﾍﾞﾙ	47	47	0	距離減衰計算式より算出 ⇒高高度飛行等により増加抑制する。	
			クマタカ営巣地	ヘリコプター運航時		騒音値	ﾃﾞｼﾍﾞﾙ	約53～59	約51～57	▲ 2	距離減衰計算式より算出	【別冊】 P195～200、 P202～204、 P208～209
						継続時間	分	296	296	0		
				営巣期に伝搬する最大騒音		騒音値	ﾃﾞｼﾍﾞﾙ	約59	約57	▲ 2	距離減衰計算式より算出	
				ヘリコプター運航①（南又川ペアへの影響）	巣との距離	ヘリ基地	m	約1,100	約1,400	300	巣から離れる	
						飛行ルート	m	約1,100～2,000	約1,400～2,000	300	巣から離れる	
					ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ視認時間	1日延べ	分	約220～260	約220～260	0		
					最大騒音	値	ﾃﾞｼﾍﾞﾙ	約59	約58	▲ 1	距離減衰計算式より算出	
						発生地点	—	基地	飛行ﾙｰﾄ	—		
					最大継続時間	1日延べ	分	約30～40	約30～40	0		
					騒音値		ﾃﾞｼﾍﾞﾙ	約53～59	約53～58	▲ 1	距離減衰計算式より算出	
					継続時間	1日延べ	分	296	296	0		
				ヘリコプター運航②参考（石合川ペアへの影響）	巣との距離	ヘリ基地	m	約3,000	約3,000	0		
						飛行ルート	m	約3,000～5,000	約2,700～5,000	▲ 300	巣に近づく	
					ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ視認時間	1日延べ	分	0	0	0		
					最大騒音	値	ﾃﾞｼﾍﾞﾙ	約51	約51	0	距離減衰計算式より算出 ⇒高高度飛行等により増加抑制する。	
						発生地点	—	基地	飛行ﾙｰﾄ	—	折り返し地点（既設鉄塔上空通過）	
					最大継続時間	1日延べ	分	約20～30	約20～30	0		
					騒音値		ﾃﾞｼﾍﾞﾙ	約43～51	約43～51	1	距離減衰計算式より算出	
					継続時間	1日延べ	分	296	296	0		
				ヘリコプター基地造成時(伐採)		騒音値	ﾃﾞｼﾍﾞﾙ	44	42	▲ 2	距離減衰計算式より算出	

(p.3-2)

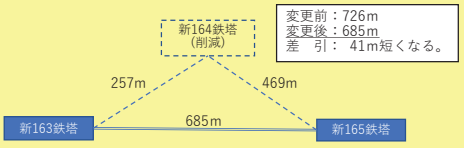
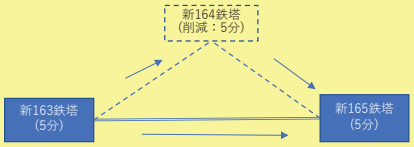
© 2026 電源開発送変電ネットワーク㈱

＜添付資料４＞

環境影響の説明表

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

環境影響の説明表：【修正事項(1)】建替え鉄塔の基数減（新164鉄塔）

佐久間東西幹線他増強工事計画に係る環境影響評価補正評価書（2023年1月）				修正に伴う環境影響の説明
環境要素の区分	環境影響要因の区分	選定	選定する理由または選定しない理由	
大気汚染	工事用資材の搬入出	△	工事による影響が最大になると想定される基礎工事の時期でも、工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）及び建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、排ガス発生源となる機械の稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いことから、生活環境に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、工事用車両と通勤車両の走行台数、建設機械の稼働台数と稼働期間についても減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。** **補足として、下図の通り中間の新164鉄塔の削減により、新163鉄塔と新165鉄塔の区間距離は短くなる。また、新164鉄塔を経由して電線を張って固定する作業（補正評価書p26：架線工事）も不要になり、作業時間も短縮する。** 
	建設機械の稼働	△		
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、大気汚染は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
悪臭	工事用資材の搬入出		工事中及び鉄塔・電線の存在時に、悪臭は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
騒音	工事用資材の搬入出	○	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる運搬（実働5時間程度/日、最長40日程度）については、人家に対する一時的な影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。	**ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ運搬計画は無いことから該当せず。**
	建設機械の稼働	△	建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、かつ至近に人家が存在しないことから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、建設機械の稼働台数も減少する。至近に人家が存在しないことも変わり無く、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	△	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる延線については、短時間（2時間程度/日）、短期間（最大4日程度）、稀頻度（数ヵ月ごとに1日）の作業であり、使用するヘリコプターは小型の機体を選定することから、生活環境に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ延線は鉄塔と鉄塔の間に延線用ロープを張っていくが、下図の通り、新163鉄塔から新165鉄塔へロープをかけていくため、新164鉄塔分の作業時間が1日当り約5分間短縮できる。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。** 
	送電線路の存在	△	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる巡視については、定期は年１回、台風や落雷等の自然災害による被害確認のために臨時で年数回の頻度で通過時間は数分程度である。使用するヘリコプターは小型の機体を選定することから、生活環境に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**鉄塔１基分の巡視量が減少することから、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰの通過時間は更に減少する。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
低周波音	工事用資材の搬入出	△	工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）及び建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、かつ至近に人家が存在しないことから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、工事用車両と通勤車両の走行台数、建設機械の稼働台数と稼働期間についても減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△		
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、低周波音は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
振動	工事用資材の搬入出	△	工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）及び建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、かつ至近に人家が存在しないことから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、建設機械の稼働台数も減少する。至近に人家が存在しないことも変わり無く、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△		
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、振動は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
水質汚濁	工事用資材の搬入出		工事用資材等の搬入出に伴い、濁水は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働	△	雨水により濁水が周辺河川に流入するおそれがあるが、造成規模は小規模であり、河川等に水質汚濁物質は排出しないことから、影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、雨水による濁水が生じることも減少する。そのため、一般的な環境保全措置で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、濁水は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
水象	工事用資材の搬入出		河川に鉄塔を設置しないため、水象を変化させるおそれはないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
地盤沈下	工事用資材の搬入出		地下水の汲み上げは行わないため、地盤沈下のおそれはないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

佐久間東西幹線他増強工事計画に係る環境影響評価補正評価書（2023年1月）				修正に伴う環境影響の説明
環境要素の区分	環境影響要因の区分	選定	選定する理由または選定しない理由	
土壌汚染	工事用資材の搬入出		有害物質の使用及び排出作業はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
地形・地質	工事用資材の搬入出		重要な地形及び地質の改変は行わないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
日照阻害	工事用資材の搬入出		日照阻害が生じるような構造物は設置しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
植物	工事用資材の搬入出		工事用車両及び通勤車両の走行、建設機械の稼働による直接的な植物への影響はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工	○	保全すべき植物種または植物群落が生育する場合には、造成等の施工による一時的な影響が考えられることから、生育状況を確認するため環境影響評価の項目に選定する。	**鉄塔１基分の工事用地が減少することから、植物の影響も低減する。**
	送電線路の存在	○	保全すべき植物種または植物群落が生育する場合には、保安伐採による影響が考えられることから、生育状況を確認するため環境影響評価の項目に選定する。	**鉄塔１基分の設置用地が減少することから、植物の影響も低減する。**
動物	工事用資材の搬入出	○	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる運搬（実働5時間程度/日、最長40日程度）については、猛禽類への影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、動物に与える影響は小さいことから、一般的な環境保全対策で対応する。	**ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ運搬計画は無いことから該当せず。** **鉄塔１基分の工事量が減少することから、工事用車両と通勤車両の走行台数も減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△	建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いことから、動物に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、建設機械の稼働台数と稼働期間も減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	○	伐採、仮設備の設置、掘削については、保全すべき動物が生息する場合には、造成等の施工による一時的な影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる延線については、短時間（2時間程度/日）、短期間（最大4日程度）、稀頻度（数ヵ月ごとに1日）の作業であり、使用するﾍﾘｺﾌﾟﾀｰは小型の機体を選定することから、動物に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応する。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、動物への影響が低減する。** **鉄塔１基分の減少により送電線区間距離が短縮するこから、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ延線の時間も約5分間短縮する。そのため、一般的な環境保全対策で対応することに変化無し。**
	送電線路の存在	○	保安伐採については、保全すべき動物が生息する場合には、保安伐採による影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる巡視については、定期は年１回、台風や落雷等の自然災害による被害確認のために臨時で年数回の頻度で通過時間は数分程度である。使用するﾍﾘｺﾌﾟﾀｰは小型の機体を選定することから、動物に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応する。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、動物への影響が低減する。** **鉄塔１基分の減少により送電線区間距離が短縮することから、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ巡視の時間が短縮する。そのため、一般的な環境保全対策で対応することに変化無し。**
生態系	工事用資材の搬入出	○	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる運搬（実働5時間程度/日、最長40日程度）については、生態系への影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）及び通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、生態系に与える影響は小さいことから、一般的な環境保全対策で対応する。	**ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ運搬計画は無いことから該当せず。** **鉄塔１基分の工事量が減少することから、工事用車両と通勤車両の走行台数も減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△	建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いことから、生態系に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、建設機械の稼働台数と稼働期間についても減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	○	造成等の施工により一時的な影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、生態系への影響も低減する。** **本修正(全体)の環境類型区分は常緑針葉樹林であり、約0.82haの改変域が減少する。各注目種における対象事業実施区域の事業実施前後の変化量-10.08haに対して-9.26ha(約8.1%減)により、改変の影響が低減される。**
	送電線路の存在	○	保安伐採による影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。	**鉄塔１基分の減少により送電線区間距離が短縮するこから、保安伐採量も減少する。削減に伴う新163～新165の区間の保安伐採は無し。（ただし、変更前後に関わらず、本送電線の使用開始後、周辺樹木の成長により、電線との法定離隔（約5m）を確保する必要が生じた場合には、伐採する可能性有り。）**
景観・風景	工事用資材の搬入出		建設機械等による景観・風景への影響は一時的であることから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在	○	鉄塔・電線の存在に伴い、景観・風景への影響が生じるおそれがあることから、環境影響評価の項目に選定する。	**主要な眺望景観「篠井山」の視野全体に占める鉄塔基数（10基⇒9基）が減少し、景観への影響が更に低減する。**

(p.4-2)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

佐久間東西幹線他増強工事計画に係る環境影響評価補正評価書（2023年1月）				修正に伴う環境影響の説明
環境要素の区分	環境影響要因の区分	選定	選定する理由または選定しない理由	
人と自然との触れ合いの活動の場	工事用資材の搬入出		工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）及び通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、建設機械の稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いため、主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
廃棄物・発生土	工事用資材の搬入出	△	主な資材等（鉄塔材、生コン等）では、多くが梱包不要であり、梱包材等の廃棄物発生量が少量であることから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、廃棄物発生量も更に低減することから、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働		建設機械の稼働に伴い、廃棄物・発生土は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	造成等の施工	△	建設発生土は、発生を抑制する設計としており、発生量が少量であるため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**鉄塔１基分の工事量が減少することから、建設発生土も当初から少量であるが更に低減することから、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、廃棄物・発生土は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
大気汚染物質・水質汚染物質	工事用資材の搬入出		工事中及び鉄塔・電線の存在時に、大気汚染物質、水質汚濁物質は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
温室効果ガス等	工事用資材の搬入出		工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）及び通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、建設機械の稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いため、温室効果ガス等の発生はごく少量であることから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、温室効果ガス等は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
放射線の量	工事用資材の搬入出		工事中及び鉄塔・電線の存在時に、放射性物質は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			

(p.4-3)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

環境影響の説明表：【修正事項(2)】運搬用仮設備の一部変更（新166鉄塔工事用）

佐久間東西幹線他増強工事計画に係る環境影響評価補正評価書（2023年1月）				修正に伴う環境影響の説明
環境要素の区分	環境影響要因の区分	選定	選定する理由または選定しない理由	
大気汚染	工事用資材の搬入出	△	工事による影響が最大になると想定される基礎工事の時期でも、工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）及び建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、排ガス発生源となる機械の稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いことから、生活環境に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存林道の利用と道路新設及びﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小することから、工事用車両と通勤車両の走行台数、建設機械の稼働台数と稼働期間については、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。** **運搬距離は添付資料３に示しており、索道もモノレールも１回当りの積載可能な運搬量は同じであり、運搬回数も同じになる。また、運搬時間は、いずれも１回当り約10分で同等である。**
	建設機械の稼働	△		
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、大気汚染は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
悪臭	工事用資材の搬入出		工事中及び鉄塔・電線の存在時に、悪臭は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
騒音	工事用資材の搬入出	○	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる運搬（実働5時間程度/日、最長40日程度）については、人家に対する一時的な影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。	**ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰは使用しないことから該当せず。**
	建設機械の稼働	△	建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、かつ至近に人家が存在しないことから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存林道の利用と道路新設及びﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小することから、建設機械の稼働台数も減少する。運搬する起点と終点は変わらず、経由地には人家も存在しないことに変わりなく、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	△	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる延線については、短時間（2時間程度/日）、短期間（最大4日程度）、稀頻度（数ヵ月ごとに1日）の作業であり、使用するヘリコプターは小型の機体を選定することから、生活環境に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰは使用しないことから該当せず。**
	送電線路の存在	△	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる巡視については、定期は年１回、台風や落雷等の自然災害による被害確認のために臨時で年数回の頻度で通過時間は数分程度である。使用するヘリコプターは小型の機体を選定することから、生活環境に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**仮設備により該当せず。**
低周波音	工事用資材の搬入出	△	工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）及び建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、かつ至近に人家が存在しないことから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存林道の利用と工事用道路とﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小することから、工事用車両と通勤車両の走行台数、建設機械の稼働台数と稼働期間については、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△		
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、低周波音は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
振動	工事用資材の搬入出	△	工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）及び建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、かつ至近に人家が存在しないことから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存林道の利用と道路新設及びﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小することから、建設機械の稼働台数も減少する。運搬する起点と終点は変わらず、経由地には人家も存在しないことに変わりなく、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△		
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、振動は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
水質汚濁	工事用資材の搬入出		工事用資材等の搬入出に伴い、濁水は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働	△	雨水により濁水が周辺河川に流入するおそれがあるが、造成規模は小規模であり、河川等に水質汚濁物質は排出しないことから、影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**富士川から離れる変更であり、既存林道の利用と道路新設とﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小することから、雨水による濁水が生じることも減少する。そのため、一般的な環境保全措置で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、濁水は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
水象	工事用資材の搬入出		河川に鉄塔を設置しないため、水象を変化させるおそれはないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
地盤沈下	工事用資材の搬入出		地下水の汲み上げは行わないため、地盤沈下のおそれはないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
土壌汚染	工事用資材の搬入出		有害物質の使用及び排出作業はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
地形・地質	工事用資材の搬入出		重要な地形及び地質の改変は行わないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			

(p.4-4)

(p.4-4)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

佐久間東西幹線他増強工事計画に係る環境影響評価補正評価書（2023年1月）				修正に伴う環境影響の説明
環境要素の区分	環境影響要因の区分	選定	選定する理由または選定しない理由	
日照阻害	工事用資材の搬入出		日照阻害が生じるような構造物は設置しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
植物	工事用資材の搬入出		工事用車両及び通勤車両の走行、建設機械の稼働による直接的な植物への影響はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工	○	保全すべき植物種または植物群落が生育する場合には、造成等の施工による一時的な影響が考えられることから、生育状況を確認するため環境影響評価の項目に選定する。	**既存林道の利用と道路新設及びﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小するが、改変域に確認済の以下の植物種を移植した。** **・「ｶﾝｱｵｲ属の一種」「ｳﾗｼﾏｿｳ」（詳細は、添付資料５参照）**
	送電線路の存在	○	保全すべき植物種または植物群落が生育する場合には、保安伐採による影響が考えられることから、生育状況を確認するため環境影響評価の項目に選定する。	**仮設備により該当せず。**
動物	工事用資材の搬入出	○	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる運搬（実働5時間程度/日、最長40日程度）については、猛禽類への影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、動物に与える影響は小さいことから、一般的な環境保全対策で対応する。	**ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ運搬計画は無いことから該当せず。** **既存林道の利用と道路新設及びﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小することから、工事用車両と通勤車両の走行台数も減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△	建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いことから、動物に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存林道の利用と道路新設及びﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小することから、建設機械の稼働台数と稼働期間も減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	○	伐採、仮設備の設置、掘削については、保全すべき動物が生息する場合には、造成等の施工による一時的な影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる延線については、短時間（2時間程度/日）、短期間（最大4日程度）、稀頻度（数ヵ月ごとに1日）の作業であり、使用するﾍﾘｺﾌﾟﾀｰは小型の機体を選定することから、動物に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応する。	**既存林道の利用と道路新設及びﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小することから、動物への影響が低減する。** **補正評価書（表8.3.3-4 保全すべき動物に係る環境保全措置）に示す通り、「ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ」「ｶﾓｼｶ」の移動経路の分断を避けるために、ﾓﾉﾚｰﾙは乗り越えられる、又はﾓﾉﾚｰﾙの下を通過することが可能な構造にする。** **なお、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ延線は該当せず。**
	送電線路の存在	○	保安伐採については、保全すべき動物が生息する場合には、保安伐採による影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる巡視については、定期は年１回、台風や落雷等の自然災害による被害確認のために臨時で年数回の頻度で通過時間は数分程度である。使用するﾍﾘｺﾌﾟﾀｰは小型の機体を選定することから、動物に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応する。	**仮設備により該当せず。**
生態系	工事用資材の搬入出	○	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる運搬（実働5時間程度/日、最長40日程度）については、生態系への影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）及び通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、生態系に与える影響は小さいことから、一般的な環境保全対策で対応する。	**ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ運搬計画は無いことから該当せず。** **既存林道の利用と道路新設及びﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小することから、工事用車両と通勤車両の走行台数も減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△	建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いことから、生態系に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存林道の利用と道路新設及びﾓﾉﾚｰﾙに変更することで改変面積を縮小することから、建設機械の稼働台数と稼働期間についても減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	○	造成等の施工により一時的な影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。	**既存林道の利用と道路新設及びﾓﾉﾚｰﾙに変更する事で改変面積を縮小することから、生態系への影響も低減する。** **本修正(全体)の環境類型区分は常緑針葉樹林であり、約0.82haの改変域が減少する。各注目種における対象事業実施区域の事業実施前後の変化量-10.08haに対して-9.26ha(約8.1%減)により、改変の影響が低減される。**
	送電線路の存在	○	保安伐採による影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。	**仮設備により該当せず。**
景観・風景	工事用資材の搬入出		建設機械等による景観・風景への影響は一時的であることから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在	○	鉄塔・電線の存在に伴い、景観・風景への影響が生じるおそれがあることから、環境影響評価の項目に選定する。	**仮設備により該当せず。**
人と自然との触れ合いの活動の場	工事用資材の搬入出		工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）及び通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、建設機械の稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いため、主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。

(p.4-5)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

佐久間東西幹線他増強工事計画に係る環境影響評価補正評価書（2023年1月）				修正に伴う環境影響の説明
環境要素の区分	環境影響要因の区分	選定	選定する理由または選定しない理由	
廃棄物・発生土	工事用資材の搬入出	△	主な資材等（鉄塔材、生コン等）では、多くが梱包不要であり、梱包材等の廃棄物発生量が少量であることから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**仮設備により廃棄物はほとんど発生しないことから、一般的な環境保全措置で対応し、環境影響評価の変更に伴う特段の変化無し。**
	建設機械の稼働		建設機械の稼働に伴い、廃棄物・発生土は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	造成等の施工	△	建設発生土は、発生を抑制する設計としており、発生量が少量であるため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**仮設備により工事後は原状回復することから該当せず。**
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、廃棄物・発生土は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
大気汚染物質・水質汚染物質	工事用資材の搬入出		工事中及び鉄塔・電線の存在時に、大気汚染物質、水質汚濁物質は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
温室効果ガス等	工事用資材の搬入出		工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）及び通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、建設機械の稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いため、温室効果ガス等の発生はごく少量であることから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、温室効果ガス等は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
放射線の量	工事用資材の搬入出		工事中及び鉄塔・電線の存在時に、放射性物質は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			

(p.4-6)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

環境影響の説明表：【修正事項⑶】運搬用仮設備の一部変更（ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ基地(第２)）

佐久間東西幹線他増強工事計画に係る環境影響評価補正評価書（2023年1月）				修正に伴う環境影響の説明
環境要素の区分	環境影響要因の区分	選定	選定する理由または選定しない理由	
大気汚染	工事用資材の搬入出	△	工事による影響が最大になると想定される基礎工事の時期でも、工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）及び建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、排ガス発生源となる機械の稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いことから、生活環境に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰの吊り荷と接触する可能性の有る立木の伐採のみ行う。以下「ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採」と略す。)面積を縮小することから、工事用車両と通勤車両の走行台数、建設機械の稼働台数と稼働期間については、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△		
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、大気汚染は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
悪臭	工事用資材の搬入出		工事中及び鉄塔・電線の存在時に、悪臭は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
騒音	工事用資材の搬入出	○	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる運搬（実働5時間程度/日、最長40日程度）については、人家に対する一時的な影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。	**補正評価書の「騒音に係る環境保全措置」の高高度運航により、予測地点(人家)の騒音（ﾊﾟﾀｰﾝC）予測値を増加しないようにすることから、影響変化無し。**
	建設機械の稼働	△	建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、かつ至近に人家が存在しないことから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採のみ)面積を縮小することから、建設機械の稼働台数も減少する。至近に人家が存在しないことも変わり無く、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	△	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる延線については、短時間（2時間程度/日）、短期間（最大4日程度）、稀頻度（数ヵ月ごとに1日）の作業であり、使用するヘリコプターは小型の機体を選定することから、生活環境に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**本基地が送電線ﾙｰﾄに近づけて位置変更したことから、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ延線で本基地を利用する場合には、飛行時間が短縮する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	送電線路の存在	△	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる巡視については、定期は年１回、台風や落雷等の自然災害による被害確認のために臨時で年数回の頻度で通過時間は数分程度である。使用するヘリコプターは小型の機体を選定することから、生活環境に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**仮設備により該当せず。**
低周波音	工事用資材の搬入出	△	工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）及び建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、かつ至近に人家が存在しないことから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採のみ)面積を縮小することから、工事用車両と通勤車両の走行台数、建設機械の稼働台数と稼働期間については、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△		
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、低周波音は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
振動	工事用資材の搬入出	△	工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）及び建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、かつ至近に人家が存在しないことから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採のみ)面積を縮小することから、建設機械の稼働台数も減少する。至近に人家が存在しないことも変わり無く、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△		
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、振動は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
水質汚濁	工事用資材の搬入出		工事用資材等の搬入出に伴い、濁水は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働	△	雨水により濁水が周辺河川に流入するおそれがあるが、造成規模は小規模であり、河川等に水質汚濁物質は排出しないことから、影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**福士川の支流付近に位置するが、既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採のみ)面積を縮小することから、雨水による濁水が生じることも減少する。そのため、一般的な環境保全措置で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。なお、伐採に伴い次の通り土砂流出防止対策をする。 ・河川付近の伐採は高切りとして、根を残す。 ・河川付近で伐採した木は、河川から離れた場所に集積する。**
	造成等の施工	△		
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、濁水は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
水象	工事用資材の搬入出		河川に鉄塔を設置しないため、水象を変化させるおそれはないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
地盤沈下	工事用資材の搬入出		地下水の汲み上げは行わないため、地盤沈下のおそれはないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
土壌汚染	工事用資材の搬入出		有害物質の使用及び排出作業はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
地形・地質	工事用資材の搬入出		重要な地形及び地質の改変は行わないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			

(p.4-7)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

佐久間東西幹線他増強工事計画に係る環境影響評価補正評価書（2023年1月）				修正に伴う環境影響の説明
環境要素の区分	環境影響要因の区分	選定	選定する理由または選定しない理由	
日照阻害	工事用資材の搬入出		日照阻害が生じるような構造物は設置しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
植物	工事用資材の搬入出		工事用車両及び通勤車両の走行、建設機械の稼働による直接的な植物への影響はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工	○	保全すべき植物種または植物群落が生育する場合には、造成等の施工による一時的な影響が考えられることから、生育状況を確認するため環境影響評価の項目に選定する。	**現況調査(2020年)で確認済の植物種について、現地確認(2024年)した結果は添付資料6.【修正事項(3)】植物保全状況（ヘリコプター基地）による。** **回避する種に関して、伐採による環境変化や季節の変化で出現する種については、補正評価書の保全措置で定める事後調査で確認し、影響を受けて保全の必要が生じた場合には、専門家の助言を得て、ヘリコプター基地周辺の類似環境に林縁植栽等を行う。** **なお、今回使用するヘリコプター機体（AS332L）の吹き降ろし推定風速は、台風（風速25m/秒）並みであり、回避する種の対策は行わない。**
	送電線路の存在	○	保全すべき植物種または植物群落が生育する場合には、保安伐採による影響が考えられることから、生育状況を確認するため環境影響評価の項目に選定する。	**仮設備により該当せず。**
動物	工事用資材の搬入出	○	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる運搬（実働5時間程度/日、最長40日程度）については、猛禽類への影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）、通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、動物に与える影響は小さいことから、一般的な環境保全対策で対応する。	**補正評価書(表8.3.3-4 保全すべき動物に係る係る環境保全措置)に示す通り、「ﾊﾔﾌﾞｻ」の繁殖期にﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ運航しない。** **既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採のみ)面積を縮小することから、工事用車両と通勤車両の走行台数も減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△	建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いことから、動物に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採のみ)面積を縮小することから、建設機械の稼働台数と稼働期間も減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	○	伐採、仮設備の設置、掘削については、保全すべき動物が生息する場合には、造成等の施工による一時的な影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる延線については、短時間（2時間程度/日）、短期間（最大4日程度）、稀頻度（数ヵ月ごとに1日）の作業であり、使用するﾍﾘｺﾌﾟﾀｰは小型の機体を選定することから、動物に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応する。	**既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採のみ)面積を縮小することから、動物への影響が低減する。** **補正評価書(表8.3.3-4 保全すべき動物に係る係る環境保全措置)に示す通り、希少両生類の生息調査(2024年5月)をした結果、「ｱｶｲｼｻﾝｼｮｳｳｵ」と「ﾋｶﾞｼﾋﾀﾞｻﾝｼｮｳｳｵ」は確認されなかった。** **本基地が送電線ﾙｰﾄに近づけて位置変更したことから、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ延線で本基地を利用する場合には、飛行時間が短縮する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	送電線路の存在	○	保安伐採については、保全すべき動物が生息する場合には、保安伐採による影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる巡視については、定期は年１回、台風や落雷等の自然災害による被害確認のために臨時で年数回の頻度で通過時間は数分程度である。使用するﾍﾘｺﾌﾟﾀｰは小型の機体を選定することから、動物に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応する。	**仮設備により該当せず。**
生態系	工事用資材の搬入出	○	ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる運搬（実働5時間程度/日、最長40日程度）については、生態系への影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。ただし、工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）及び通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、生態系に与える影響は小さいことから、一般的な環境保全対策で対応する。	**補正評価書(表8.4.10-5 生態系(ｸﾏﾀｶ)に係る環境保全措置)に示す通り、「ｸﾏﾀｶ」の営巣期のﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ運搬を制限する等の措置を実施する。** **既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採のみ)面積を縮小することから、工事用車両と通勤車両の走行台数も減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	建設機械の稼働	△	建設機械の稼働台数（同時稼働4台程度/基）は少なく、稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いことから、生態系に与える影響は小さい。そのため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採のみ)面積を縮小することから、建設機械の稼働台数と稼働期間についても減少し、更に影響が低減する。そのため、一般的な環境保全対策で対応し、環境影響評価の項目に選定しないことに変化無し。**
	造成等の施工	○	造成等の施工により一時的な影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。	**既存土捨場の利用で改変(造成せず、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ支障伐採のみ)面積を縮小することから、生態系への影響も低減する。** **補正評価書(表8.4.10-5 生態系(ｸﾏﾀｶ)に係る環境保全措置)に示す通り、「ｸﾏﾀｶ」の営巣期の伐採を制限する等の措置を実施する。** **本修正(全体)の環境類型区分は常緑針葉樹林であり、約0.82haの改変域が減少する。各注目種における対象事業実施区域の事業実施前後の変化量-10.08haに対して-9.26ha(約8.1%減)により、改変の影響が低減される。**
	送電線路の存在	○	保安伐採による影響が考えられることから、環境影響評価の項目に選定する。	**仮設備により該当せず。**
景観・風景	工事用資材の搬入出		建設機械等による景観・風景への影響は一時的であることから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在	○	鉄塔・電線の存在に伴い、景観・風景への影響が生じるおそれがあることから、環境影響評価の項目に選定する。	**仮設備により該当せず。**

(p.4-8)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

佐久間東西幹線他増強工事計画に係る環境影響評価補正評価書（2023年1月）				修正に伴う環境影響の説明
環境要素の区分	環境影響要因の区分	選定	選定する理由または選定しない理由	
人と自然との触れ合いの活動の場	工事用資材の搬入出		工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）及び通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、建設機械の稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いため、主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響はないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
廃棄物・発生土	工事用資材の搬入出	△	主な資材等（鉄塔材、生コン等）では、多くが梱包不要であり、梱包材等の廃棄物発生量が少量であることから、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**仮設備により廃棄物はほとんど発生しないことから、一般的な環境保全措置で対応し、環境影響評価の変更に伴う特段の変化無し。**
	建設機械の稼働		建設機械の稼働に伴い、廃棄物・発生土は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	造成等の施工	△	建設発生土は、発生を抑制する設計としており、発生量が少量であるため、一般的な環境保全対策で対応することとし、環境影響評価の項目に選定しない。	**仮設備であり造成しないことから該当せず。**
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、廃棄物・発生土は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
大気汚染物質・水質汚染物質	工事用資材の搬入出		工事中及び鉄塔・電線の存在時に、大気汚染物質、水質汚濁物質は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			
温室効果ガス等	工事用資材の搬入出		工事用車両の走行台数（1日平均15台程度/基、最大4日程度）及び通勤車両の走行台数（1日平均5台程度/基）は少なく、建設機械の稼働期間（4ヵ月程度/基）も短いため、温室効果ガス等の発生はごく少量であることから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在		鉄塔・電線の存在に伴い、温室効果ガス等は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
放射線の量	工事用資材の搬入出		工事中及び鉄塔・電線の存在時に、放射性物質は発生しないことから、環境影響評価の項目に選定しない。	変化無し。
	建設機械の稼働			
	造成等の施工			
	送電線路の存在			

(p.4-9)

(p.4-9)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

＜添付資料５＞

【修正事項⑵】植物保全状況（新 166 鉄塔工事用）

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

【修正事項(2)】植物保全状況（１／２）変更対象箇所：ﾓﾉﾚｰﾙﾙｰﾄ

環境保全の観点から非公開にしました

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

【修正事項(2)】植物保全状況（２／２）当初計画：索道

環境保全の観点から非公開にしました

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

環境保全の観点から非公開にしました

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

＜添付資料６＞

【修正事項⑶】植物保全状況（ヘリコプター基地）

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

環境保全の観点から非公開にしました

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

【修正事項(3)】植物保全状況

環境保全の観点から非公開にしました

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

＜添付資料７＞

補正評価書：修正抜粋版

（第１章　事業計画の概要）

赤文字追記は、本修正事項関連

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

第　1　章

事業計画の概要

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前



図 1.4-1　　対象事業実施区域（位置図）

© 2023（電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

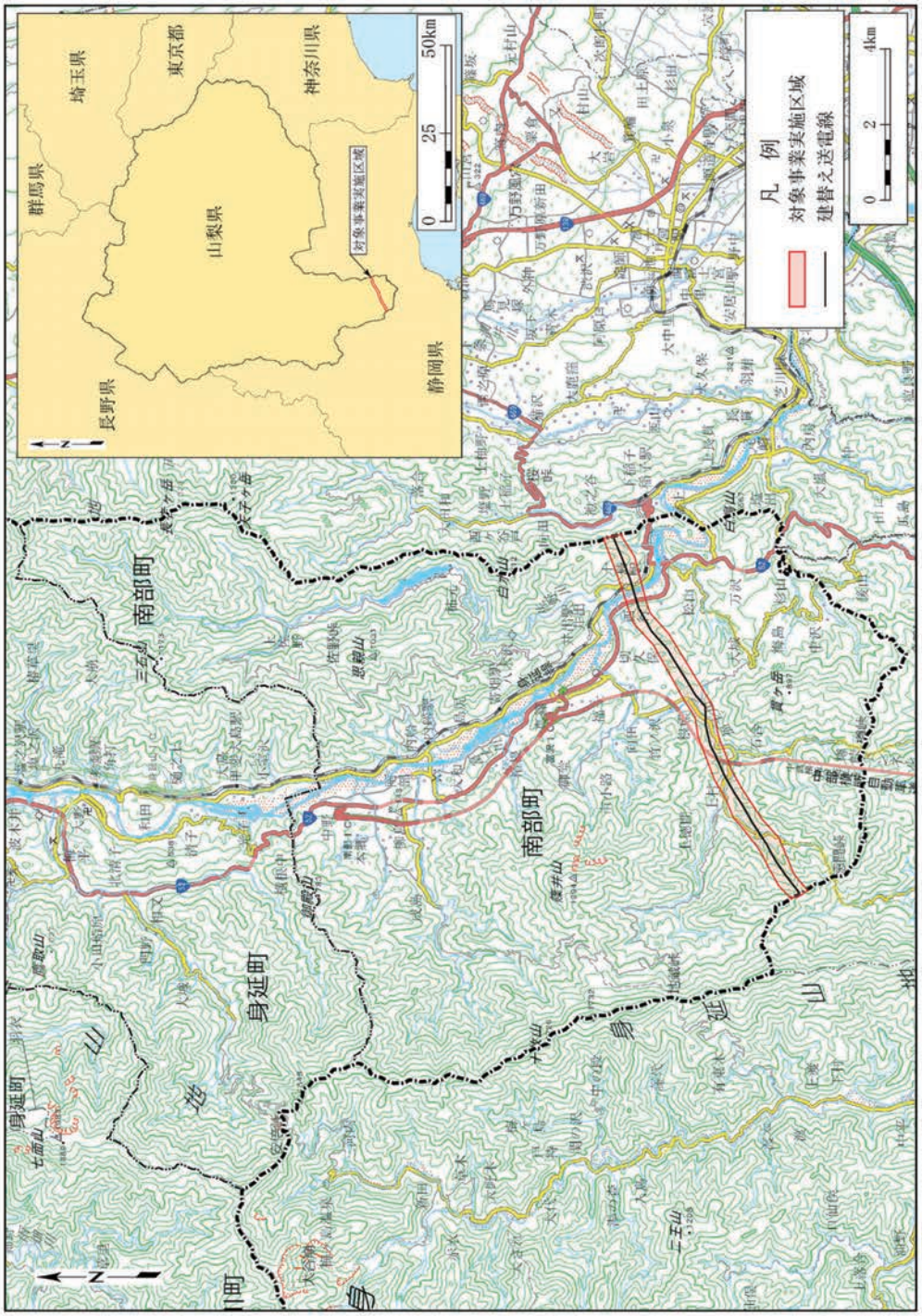


図1.4-1　対象事業実施区域（位置図）

(p.7-3)

(p.7-3)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

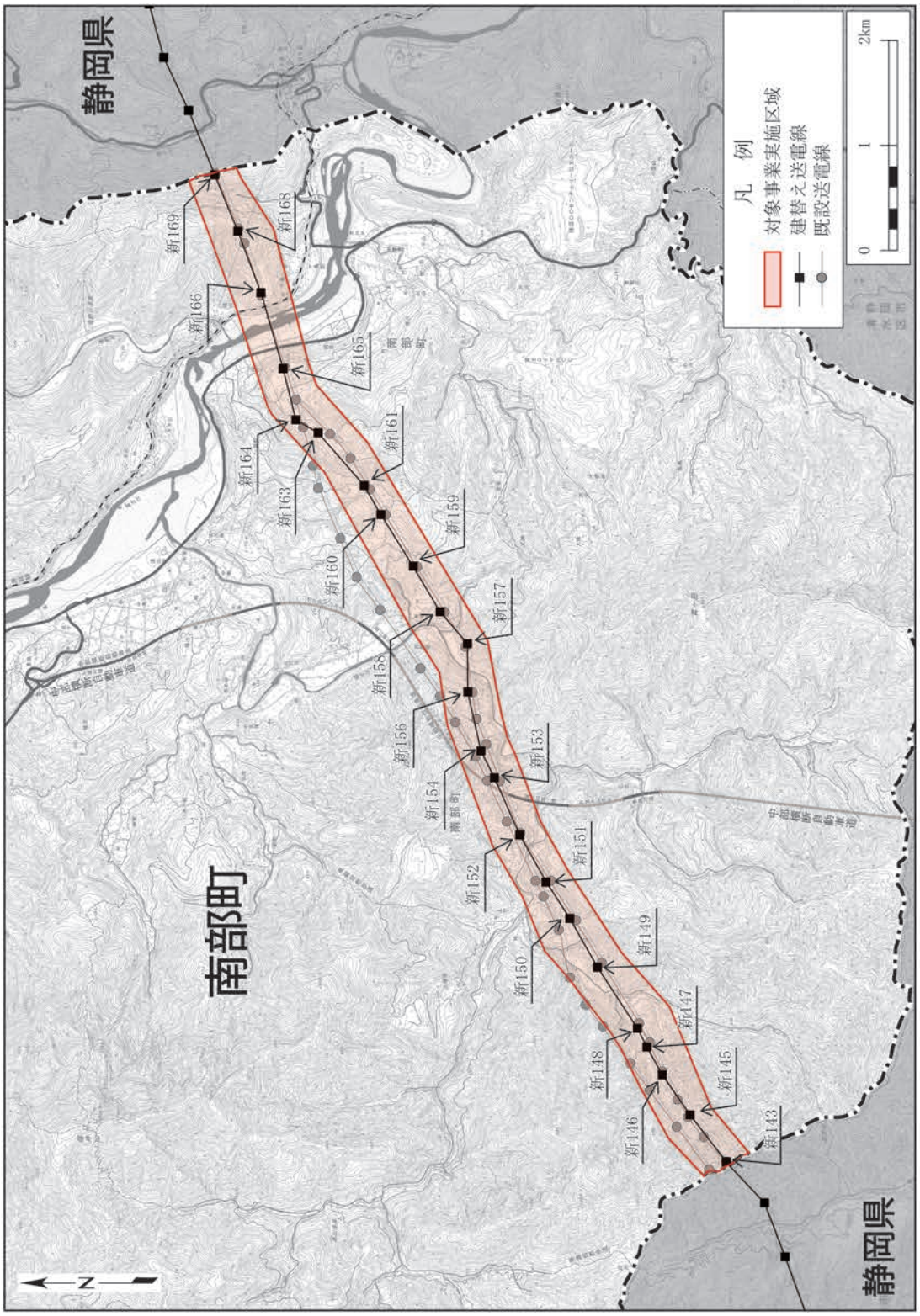


図 1.4-2　　対象事業実施区域（概況図）

(p.7-4)

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

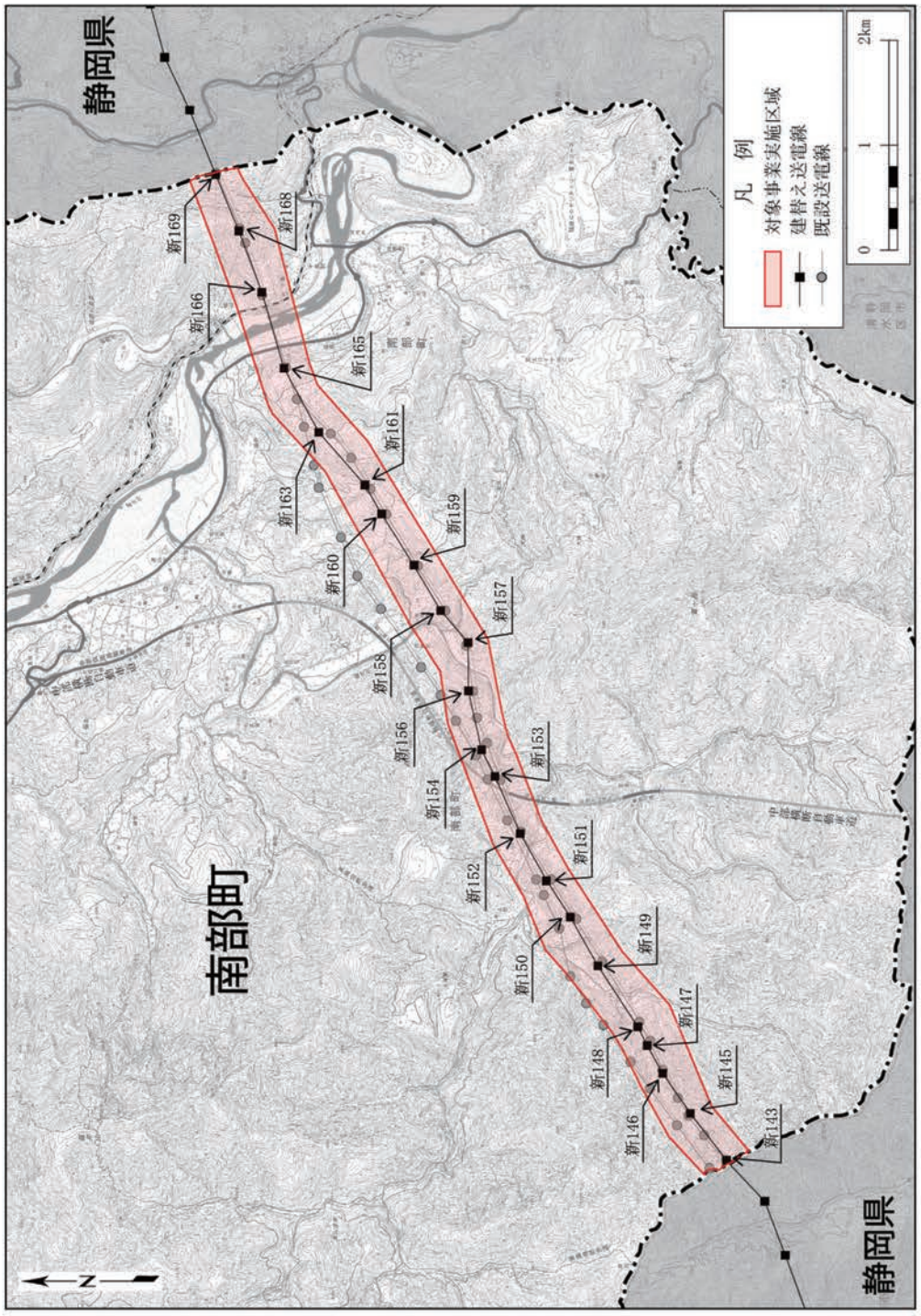


図1.4-2　　対象事業実施区域（概況図）

(p.7-5)

(p.7-5)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

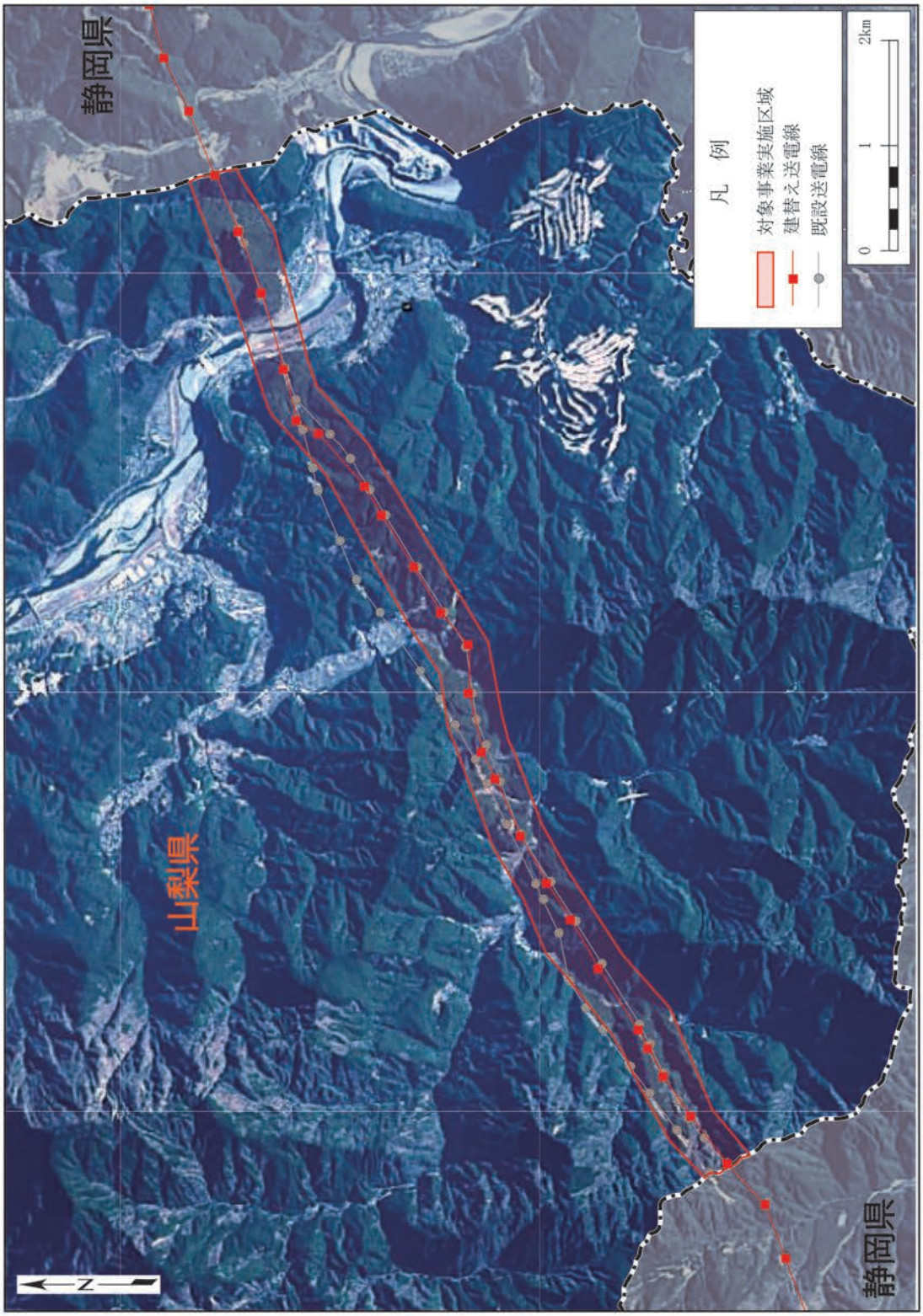


図 1.4-3　　対象事業実施区域（空中写真）

© 2023（電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

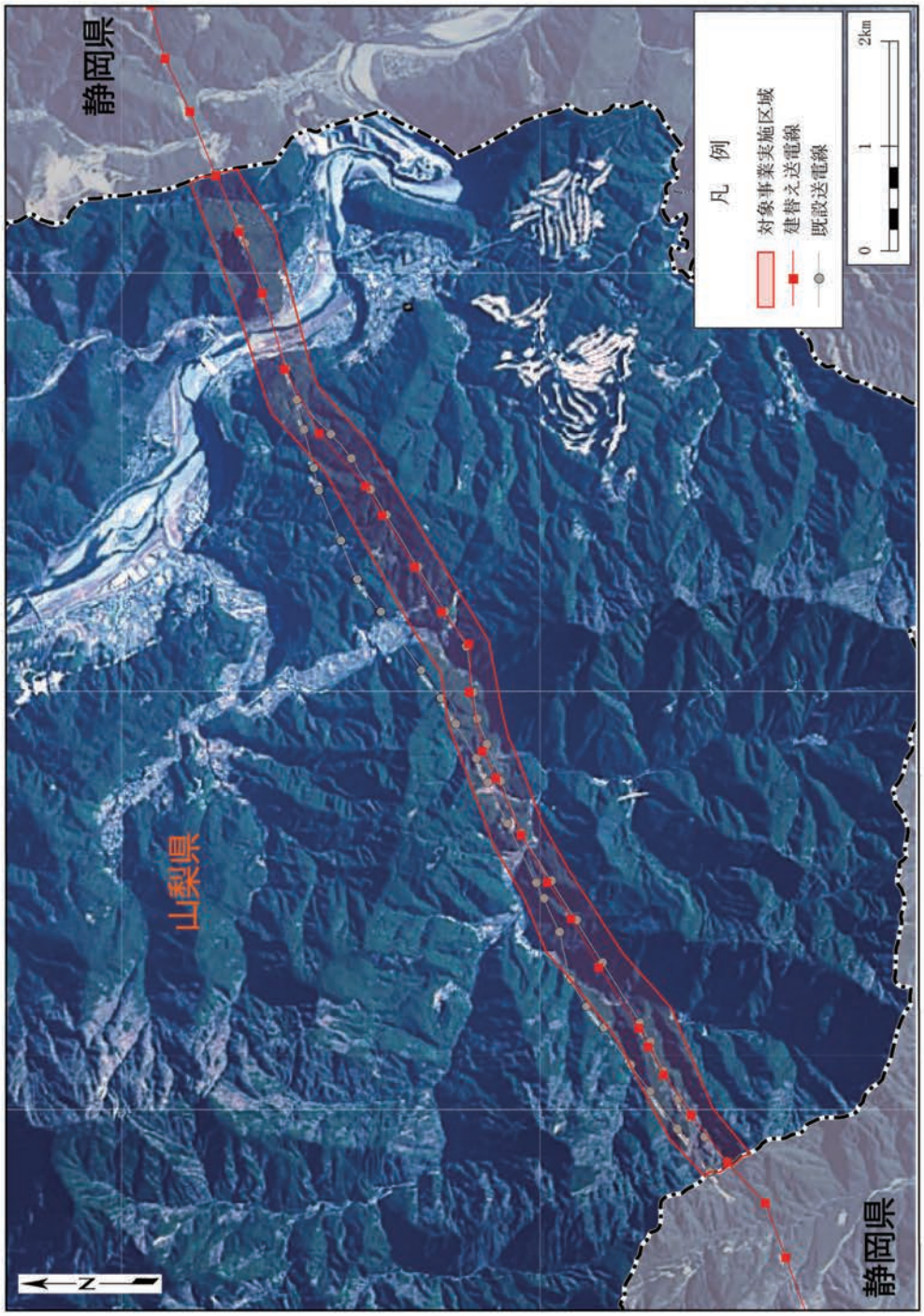


図1.4-3　　対象事業実施区域（空中写真）

(p.7-7)

(p.7-7)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

１．４．２　対象事業計画

1.　設備計画の概要

対象事業における設備計画の概要は、表1.4-1に示すとおりであり、鉄塔の構造及びその基礎の形状は、図1.4-4及び図1.4-5に示すとおりである。

表1.4-1　　設備計画の概要

項　目		計 画 設 備
区　間		図1.4-1～3参照
亘　長		約11km
電　圧		275kV
回線数		2回線
鉄塔基数		23基　⇒22基
鉄塔構造		垂直配列鉄塔
鉄塔高さ		約40m～80m （平均約60m）
鉄塔色彩		無彩色（N7.0）※1、※2
電　線	種類	アルミ覆鋼心耐熱アルミ合金より線 （TACSR/AC）
	サイズ	410mm²及び610mm²
	導体数	4導体
線　幅		14m～17m
経過市町		南巨摩郡南部町

※1：無彩色は亜鉛メッキの色（グレー）、Nは無彩色を表す記号、7.0は明度区分（0が黒、10が白を表す）を示す。

※2：無彩色（N7.0）を基本とするが、鉄塔高さまたは電線地上高が60mを超える場合は、航空法に基づき航空障害灯の設置または鉄塔を赤白塗装にする必要がある。また、安全確保を目的に「ヘリコプター安全標識」として送電線が交差、分岐している鉄塔（前後の鉄塔も含む）については頂部を黄色に塗装する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2. 土地利用計画

対象事業における土地利用計画の概要は、表1.4-2に示すとおりである。

鉄塔は、鉄塔用地に傾斜があっても地形に合わせて設計・建設するため、鉄塔用地の造成は基本行わない。

鉄塔周辺工事用地（鉄塔用地除く）、仮設備用地は、整地（地ならし、抜根等）を行い、工事完了後は可能な限り原状回復する計画である。

表1.4-2　土地利用計画の概要

土地利用計画

用　途	内　容
鉄塔用地	鉄塔23基
送電線線下用地	亘長約11kmの線下
工事一時使用地	鉄塔周辺工事用地（鉄塔用地除く）、仮設備用地

計画面積

用　途	総面積（m^2）	基当たり平均面積（m^2）
鉄塔用地	17,000 ⇒16,260	約740
鉄塔周辺工事用地（鉄塔用地除く）	72,320 ⇒70,970	約3,150
仮設備用地	88,920 ⇒82,860	約3,870
合　計	178,240 ⇒170,090	約7,760

仮設備の延長距離または箇所数

用　途		延長距離または箇所数
仮設道路		480（m） ⇒1,060（m）
索　道		1,050（m） ⇒ 810（m）
モノレール		4,400（m） ⇒4,560（m）
ヘリコプター	基　地	2（箇所）
	荷卸し場	4（箇所）
架線工事用地	エンジン場	3（箇所）
	ドラム場	4（箇所）
防護設備		3（箇所）

© 2023（電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

3. 伐採計画

伐採面積は表1.4-3に示すとおりである。なお、保安伐採範囲以外の面積は、表1.4-2のうち計画面積の総面積と同値を記載している。

表1.4-3　伐採面積

用　途	伐採面積（m²）
鉄塔用地	17,000 ⇒16,260
鉄塔周辺工事用地 （鉄塔用地除く）	72,320 ⇒70,970
仮設備用地	88,920 ⇒85,310
保安伐採※範囲	約16,080 ⇒14,430
合　計	約194,320 ⇒186,970

※：保安伐採とは、「電気設備に関する技術基準を定める省令」で定められた、架空電線と植物との離隔距離確保のために樹木を伐採すること。保安伐採は根元で切り、伐根しない。

4. 道路計画

工事中の主要な交通ルートは図1.4-6に示すとおりである。工事の実施にあたっては、資材等の搬入出及び工事中における通勤車両は、主として中部横断自動車道（富沢IC）、一般国道は52号・469号、主要地方道は県道10号、一般県道は801号・802号を通行する計画である。なお、静岡県との県境付近に位置する対象事業実施区域への交通ルートは、静岡県側の国道または林道（大平治山運搬路、大平保安林管理道）を通行する計画である。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

次ページより見開き表示のため、白紙

(p.7-11)

(p.7-11)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

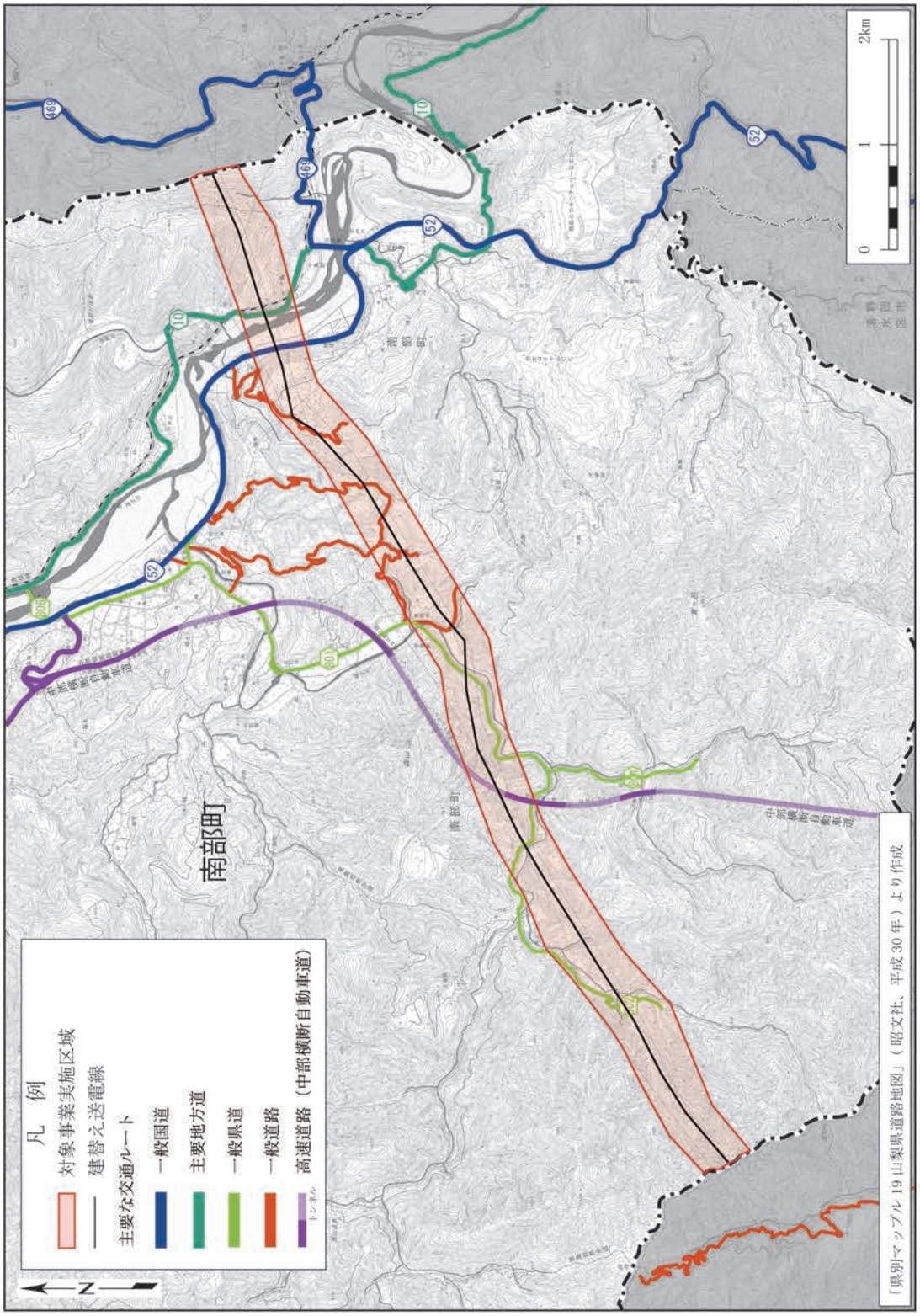


図 1.4-6　　工事中の主要な交通ルート

© 2023（電源開発送変電ネットワーク㈱

(p.7-12)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

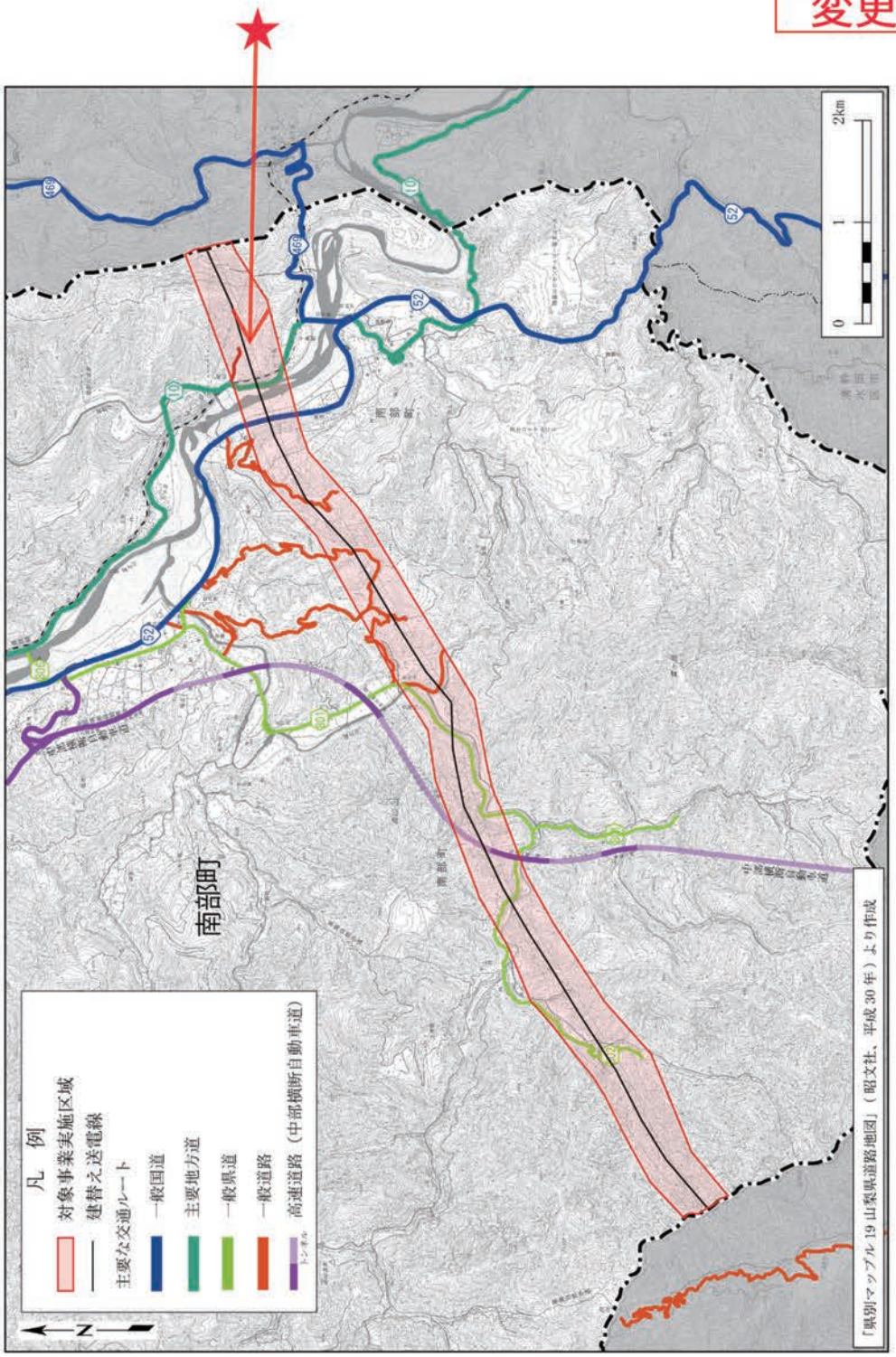


図1.4-6　　工事中の主要な交通ルート

注・「★印部分について」：新№１６６鉄塔において、運搬用仮設備を
「索道」から「既設林道＋モノレール」に変更したため、主要地方道（県道10号線）から
新№１６６鉄塔モノレール基地につながる既設林道（一般道路）を追記した。

(p.7-13)　　(p.7-13)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

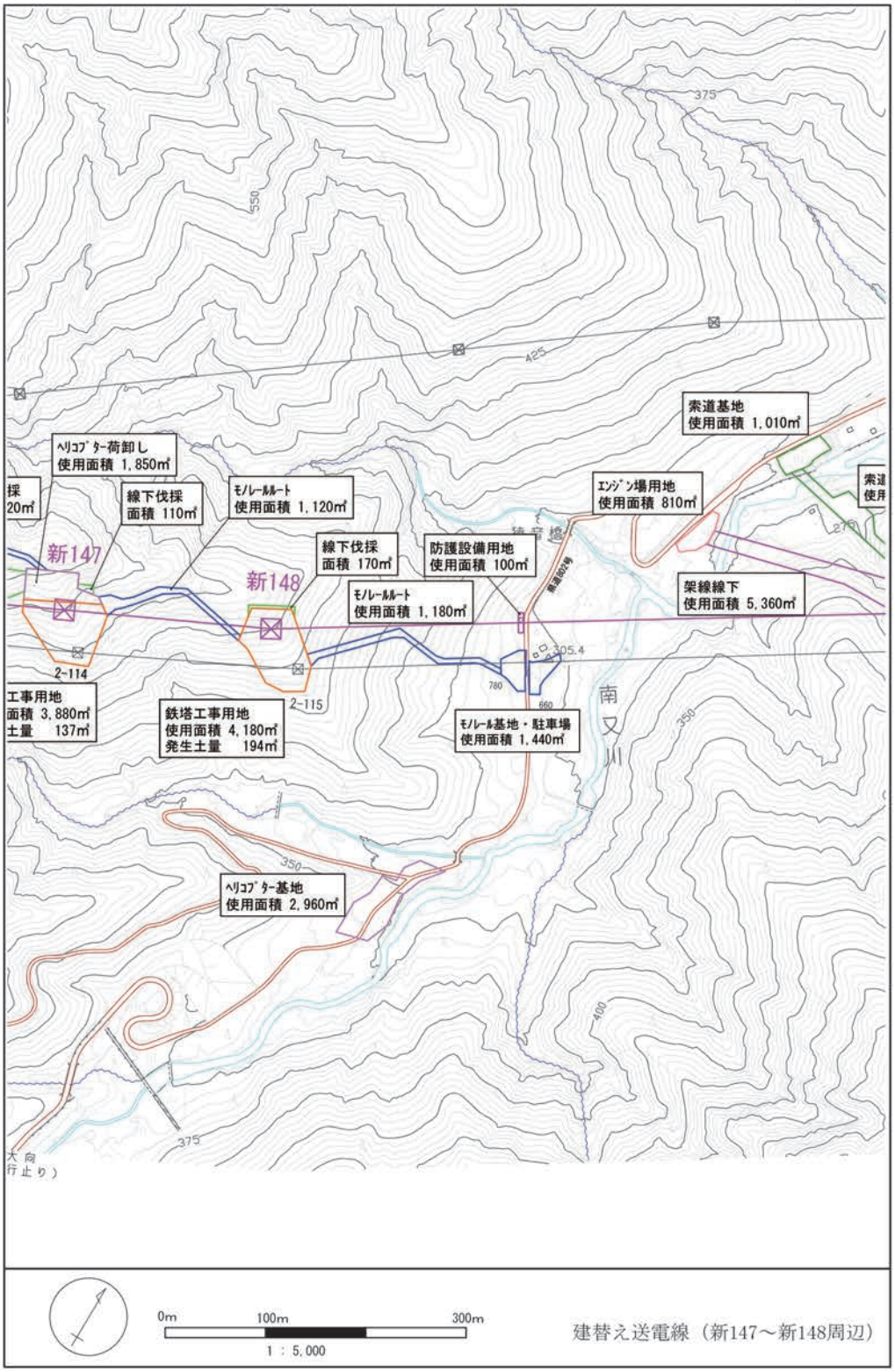


図 1.4-13　工事計画詳細（新 147 ～新 148 周辺）

© 2023（電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

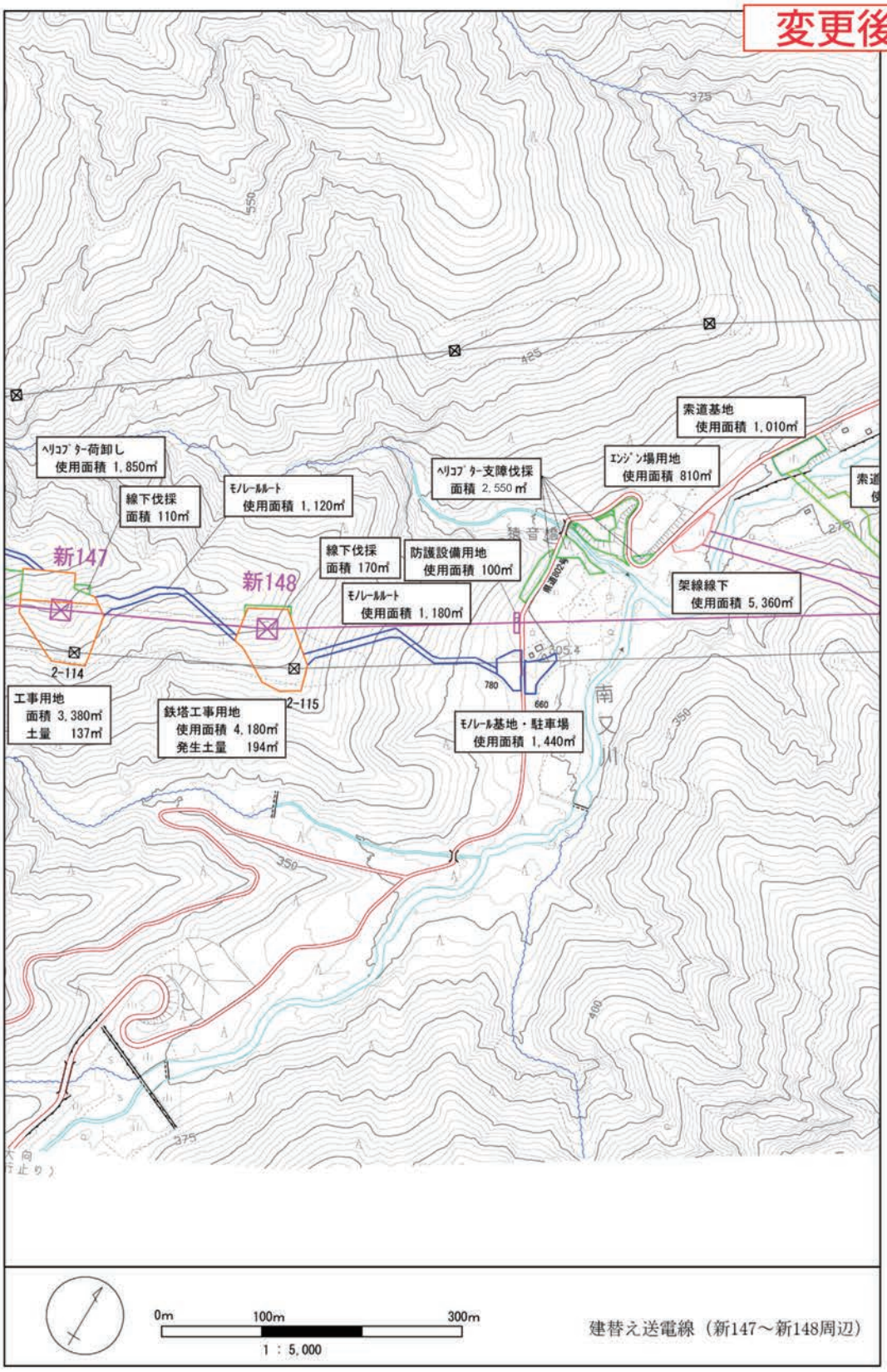


図 1.4-13　工事計画詳細（新 147～新 148 周辺）

(p.7-15)　(p.7-15)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

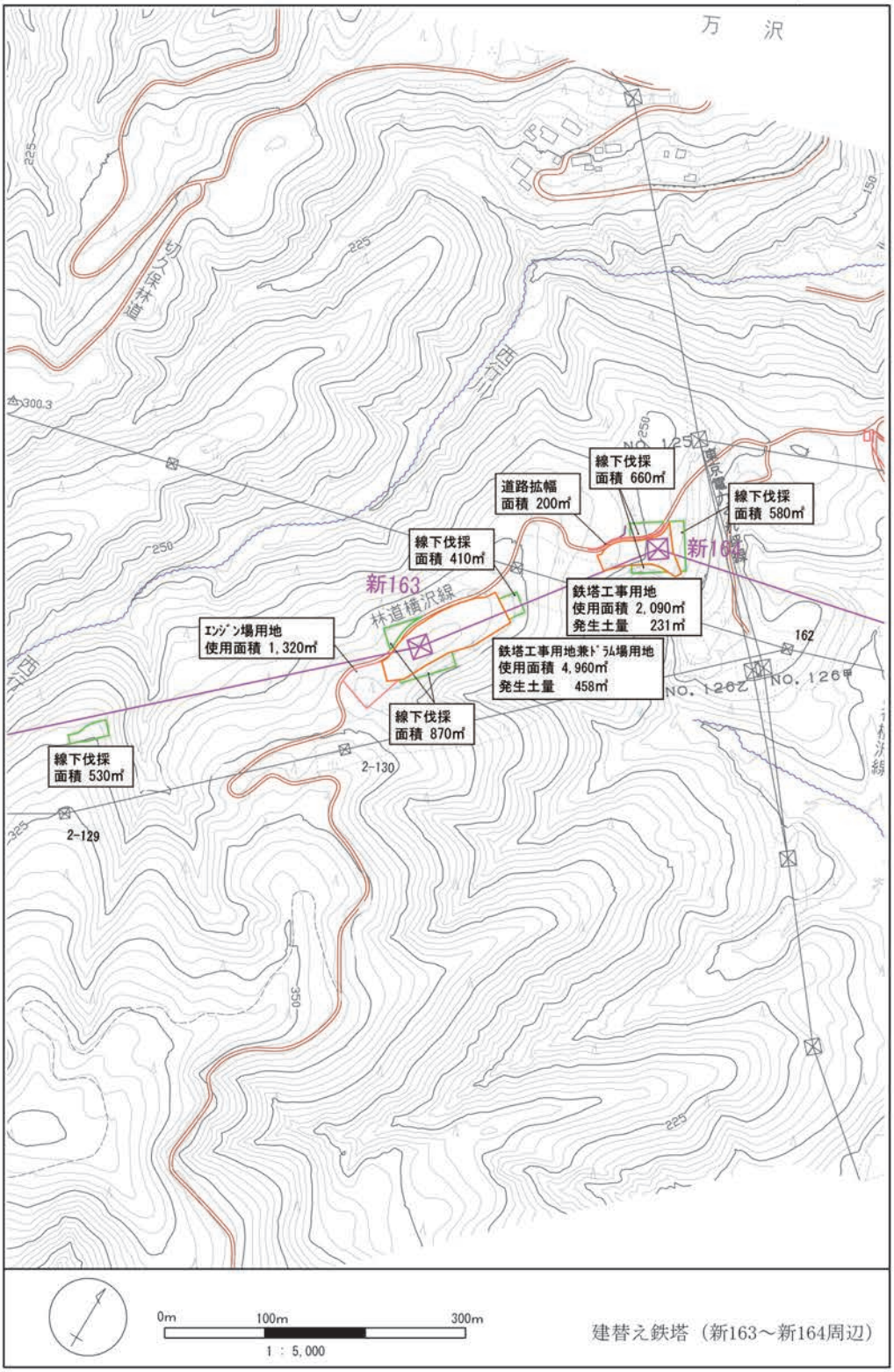


図 1.4-23　　工事計画詳細（新 163 ～新 164 周辺）

© 2023（電源開発送変電ネットワーク㈱

(p.7-16)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

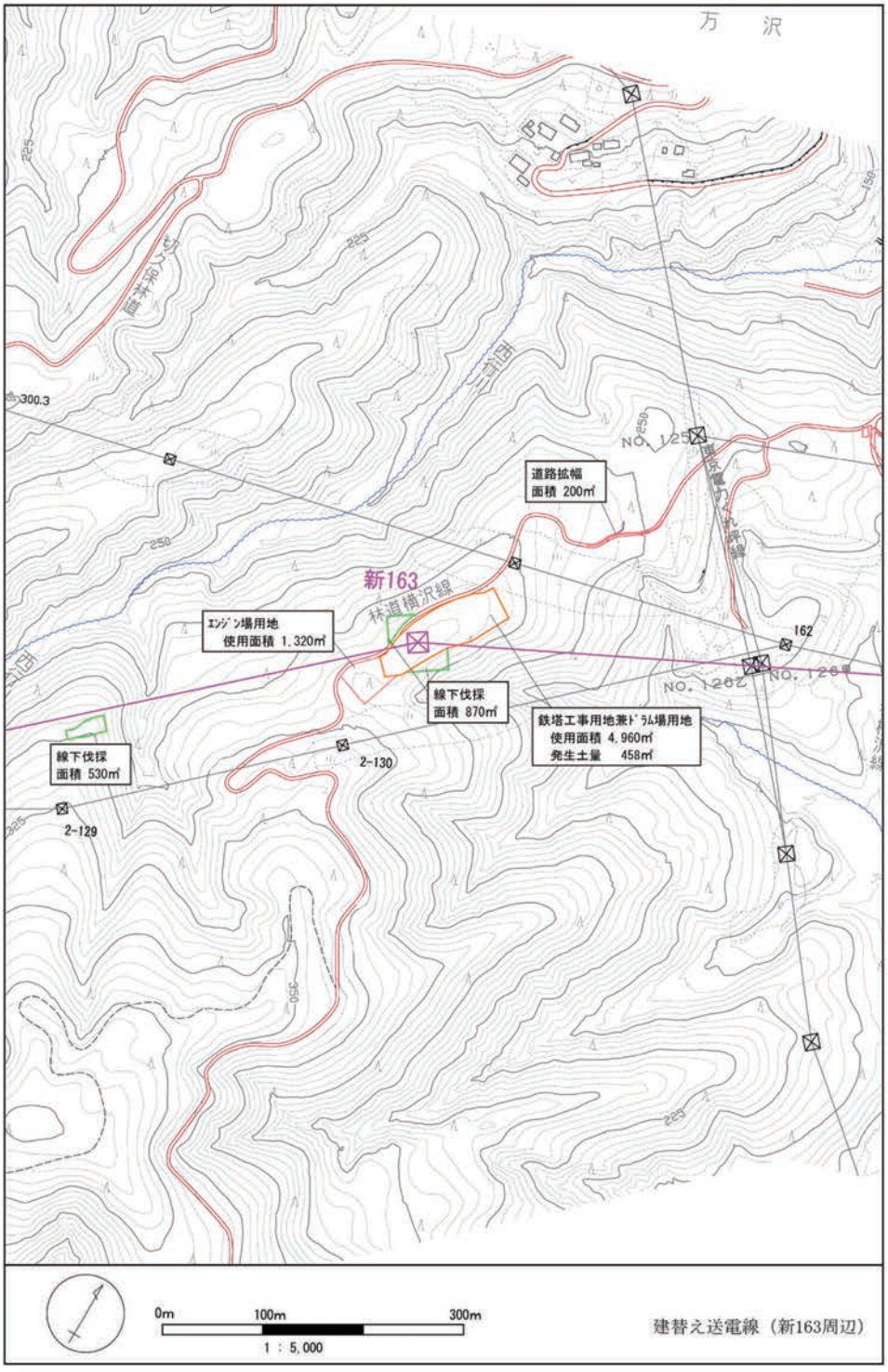


図 1.4-23　　工事計画詳細（新 163 周辺）

(p.7-17)

(p.7-17)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

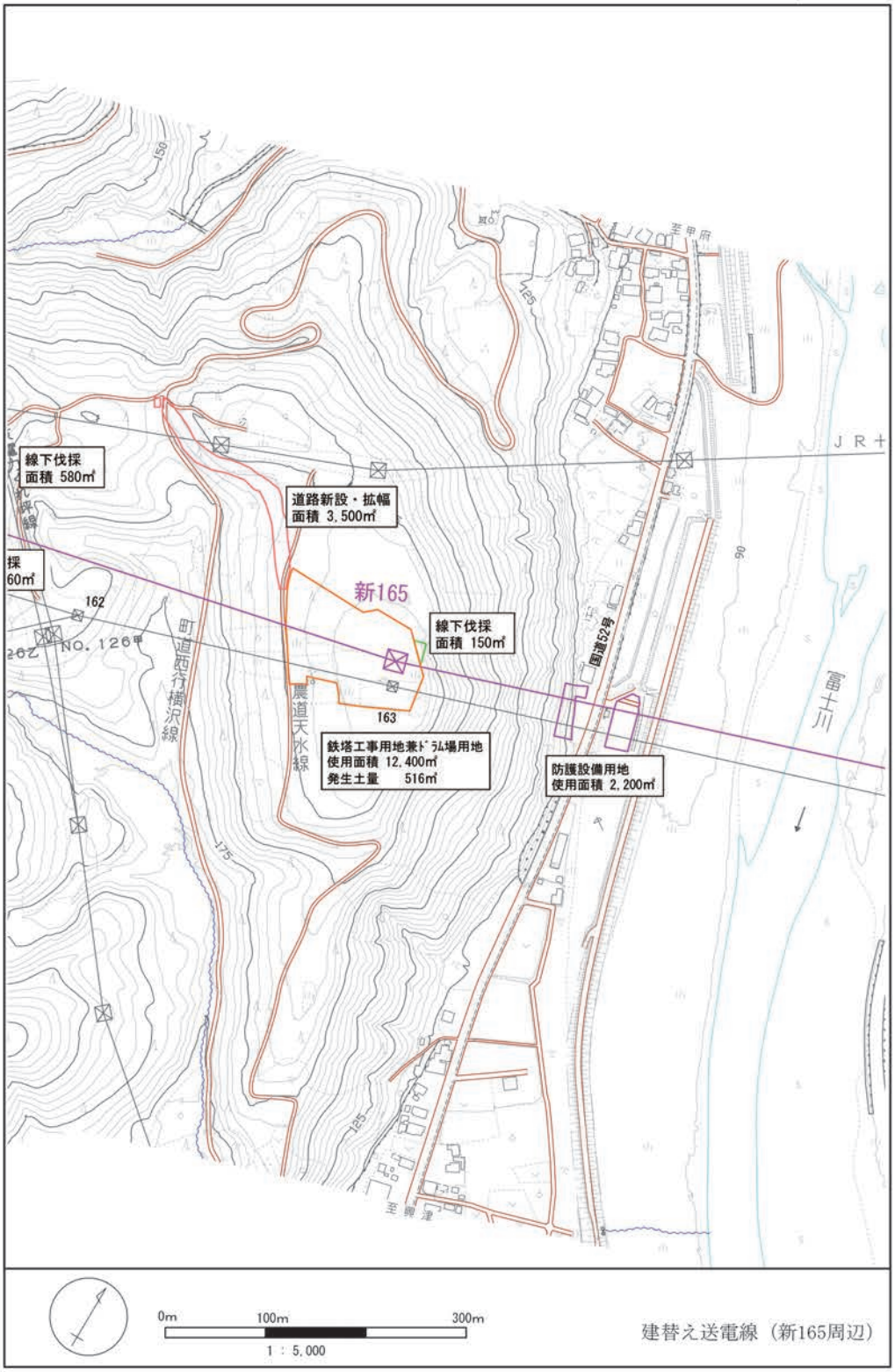


図 1.4-24　工事計画詳細（新 165 周辺）

(p.7-18)

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

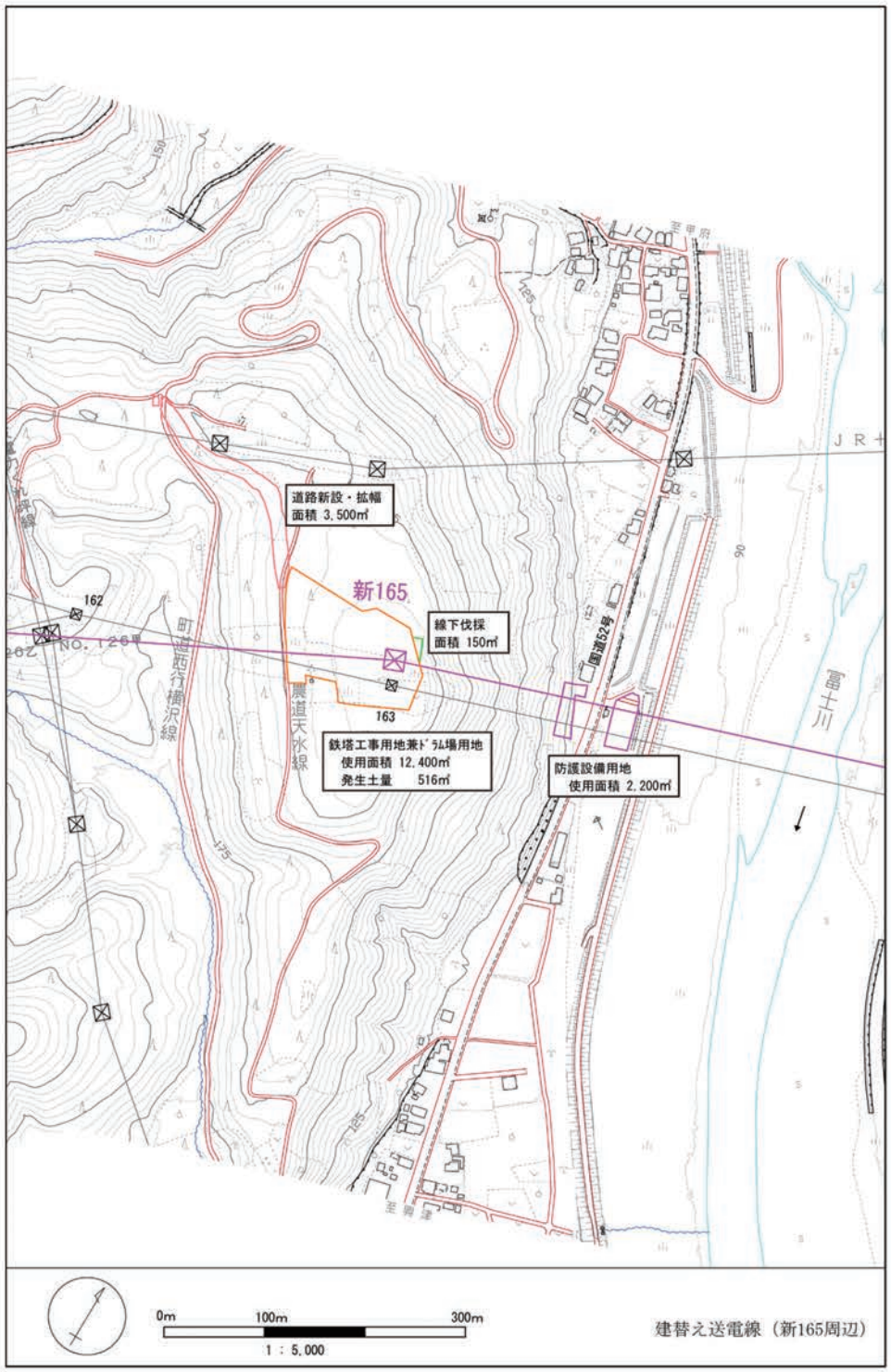


図 1.4-24　工事計画詳細（新 165 周辺）

(p.7-19)

(p.7-19)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

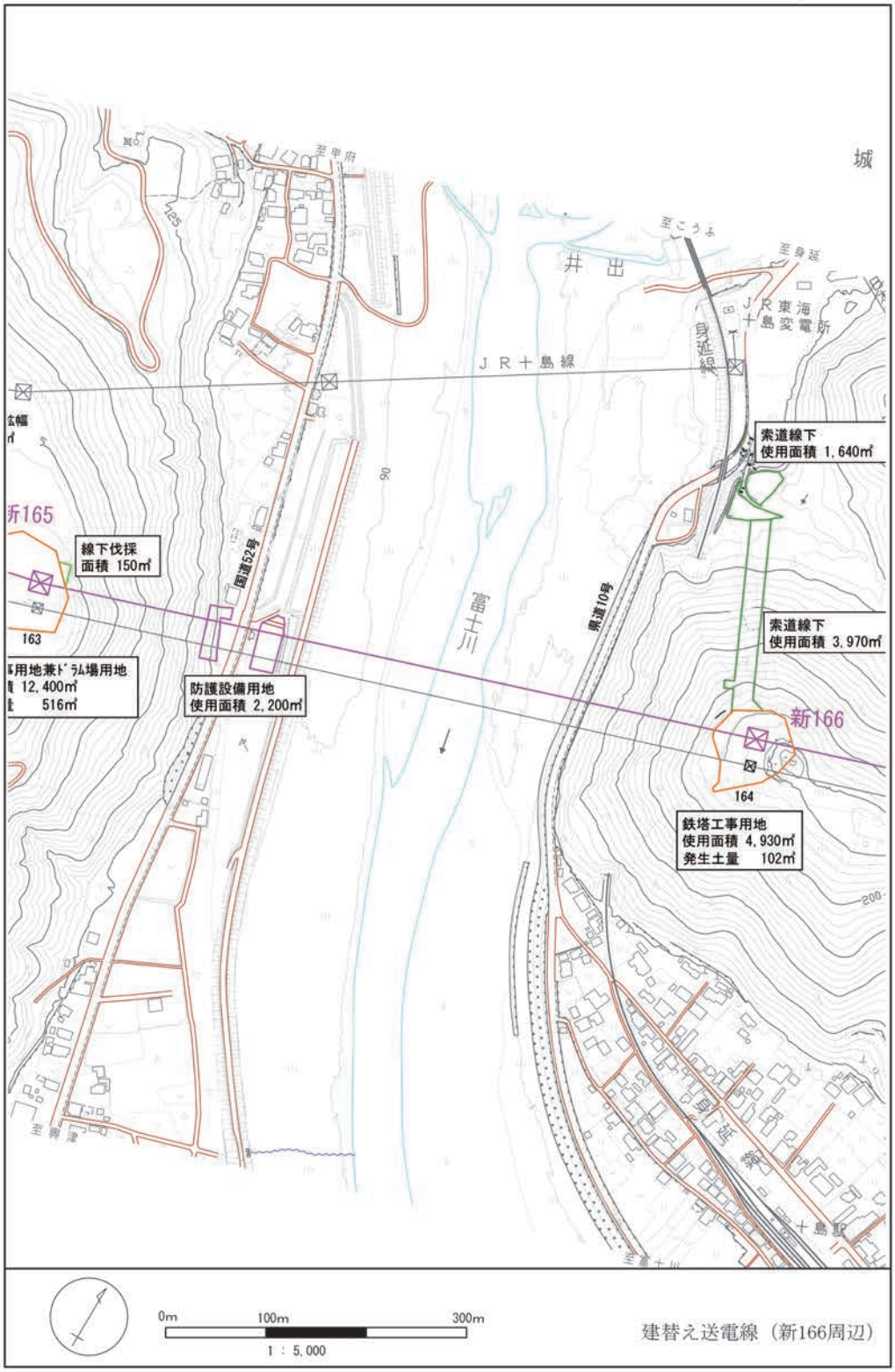


図 1.4-25　　工事計画詳細（新 166 周辺）

© 2023（電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

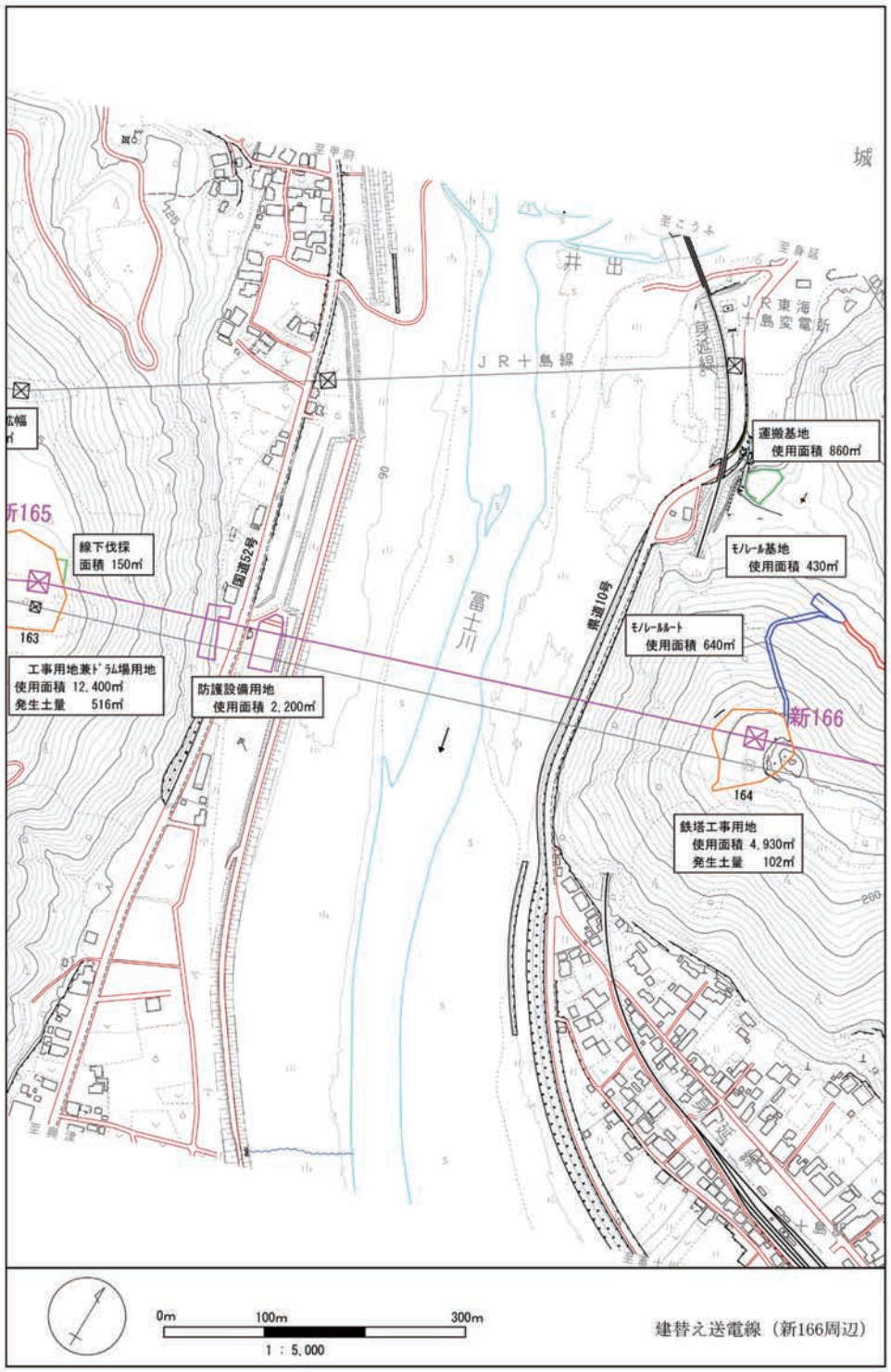


図 1.4-25　工事計画詳細（新 166 周辺）

(p.7-21)

(p.7-21)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

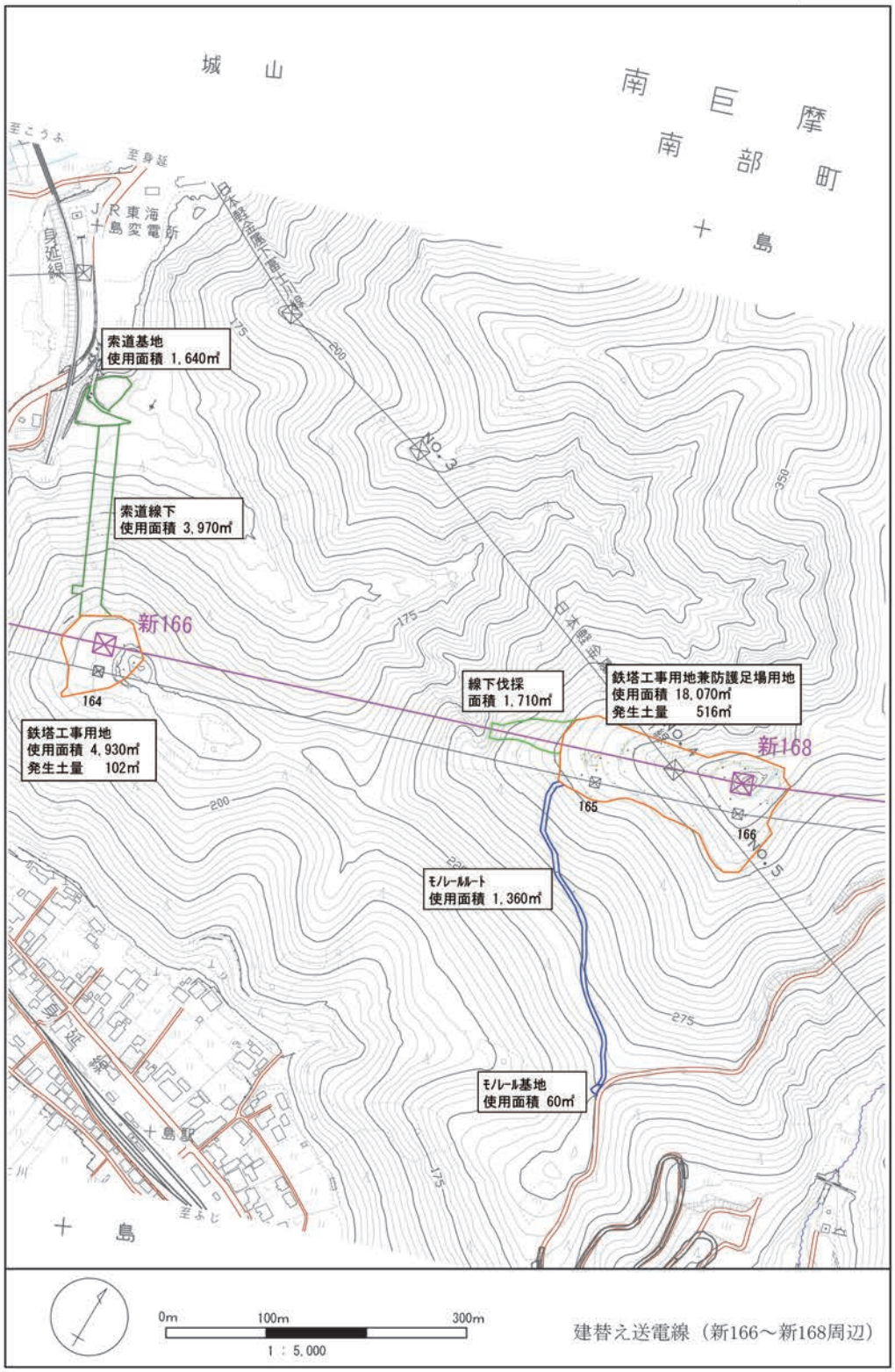


図 1.4-26　工事計画詳細（新 166 ～新 168 周辺）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

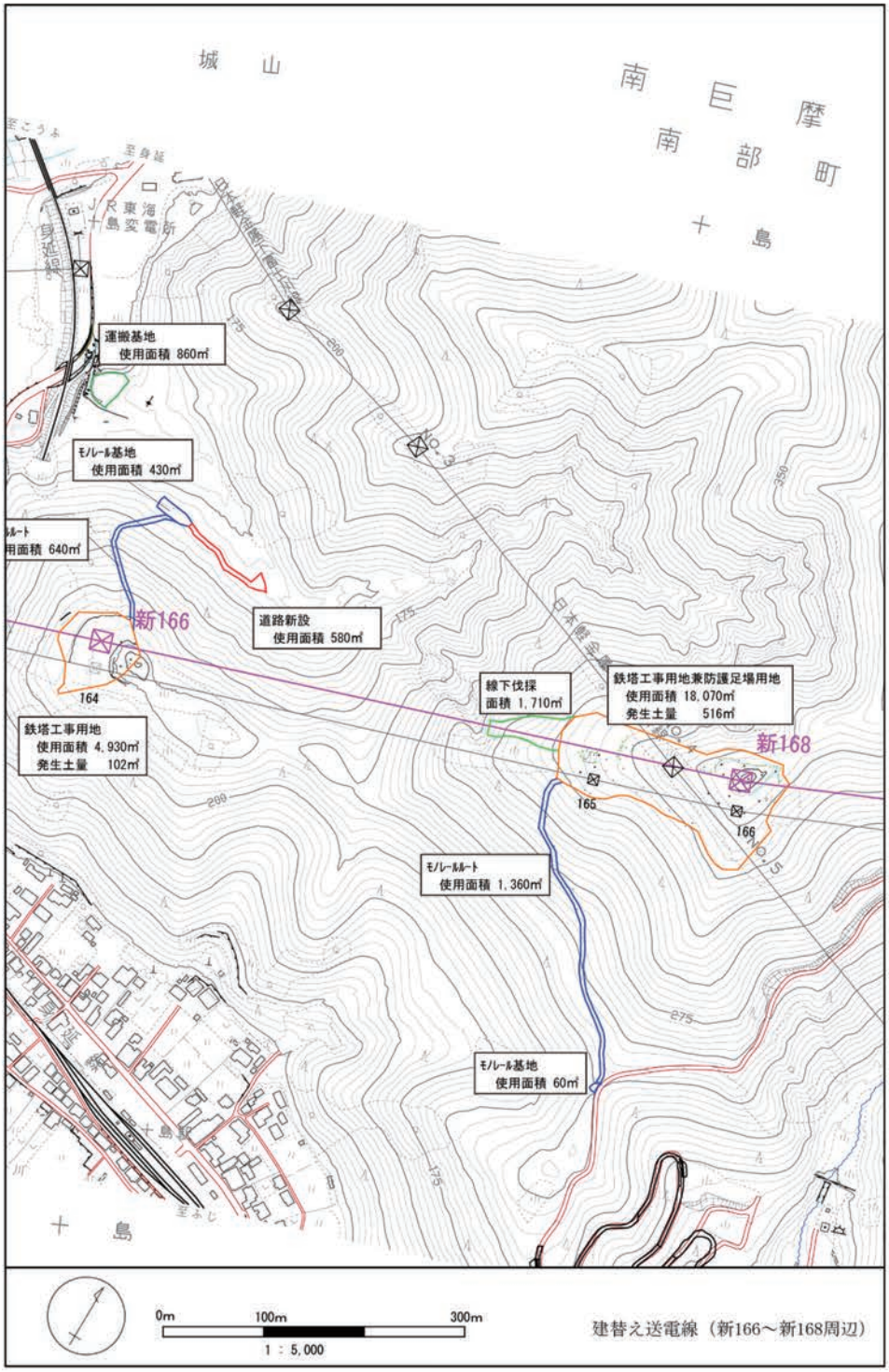


図 1.4-26　工事計画詳細（新 166～新 168 周辺）

(p.7-23)

(p.7-23)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

(2) 改変域の土砂流出防止

① 河川付近の改変域

図1.4-11～27に基づき、河川付近における改変域は表1.4-5に示すとおりである。

表1.4-5 河川付近における改変域

改変域	建替え送電線	河川名
道路新設・拡幅	新 152	福士川・東沢
	新 158	根熊川・沢
索道基地	新 149	福士川
	新 166	富士川
索道基地兼ドラム場用地	新 149	福士川
索道基地兼エンジン場用地	新 158	陰沢川
索道線下	新 149、新 150	福士川
モノレール基地（駐車場を含む）	新 148	南又川
	新 150、新 151、新 154、新 156	福士川
	新 157	福士川・陰沢川
ヘリコプター基地	第 2	南又川
エンジン場用地	新 149	福士川
ドラム場用地	新 158	根熊川
防護設備用地	新 148～新 149（県道 802 号）	南又川・支流
	新 165～新 166（国道 52 号）	富士川
架線線下	新 149	福士川
	新 158	根熊川

② 土砂流出防止対策

改変域の土砂流出防止対策は、図 1.4-28～30 に示すとおりである。これら対策は、送電線建設工事において採用実績が多く、本事業においても採用する計画である。

建替え鉄塔敷地等での土砂流出防止対策施工計画は、図 1.4-31～58 に示すとおりである。

なお、施工した土砂流出防止対策は、現場状況に応じて変更する場合がある。また、工事中には目視点検を１回/週行い、この結果に応じて補修、補強、拡張等の措置を講じることにより機能維持を図る。

(p.7-24)

© 2023 電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026 電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

(2) 改変域の土砂流出防止

① 河川付近の改変域

図1.4-11～27に基づき、河川付近における改変域は表1.4-5に示すとおりである。

表1.4-5 河川付近における改変域

改変域	建替え送電線	河川名
道路新設・拡幅	新 152	福士川・東沢
	新 158	根熊川・沢
索道基地	新 149	福士川
	新 166	富士川
索道基地兼ドラム場用地	新 149	福士川
索道基地兼エンジン場用地	新 158	陰沢川
索道線下	新 149、新 150	福士川
モノレール基地（駐車場を含む）	新 148	南又川
	新 150、新 151、新 154、新 156	福士川
	新 157	福士川・陰沢川
ヘリコプター基地	新第 2	南又川・支流
エンジン場用地	新 149	福士川
ドラム場用地	新 158	根熊川
防護設備用地	新 148～新 149（県道 802 号）	南又川・支流
	新 165～新 166（国道 52 号）	富士川
架線線下	新 149	福士川
	新 158	根熊川

② 土砂流出防止対策

改変域の土砂流出防止対策は、図 1.4-28～30 に示すとおりである。これら対策は、送電線建設工事において採用実績が多く、本事業においても採用する計画である。

建替え鉄塔敷地等での土砂流出防止対策施工計画は、図 1.4-31～58（49 は欠番）に示すとおりである。

なお、施工した土砂流出防止対策は、現場状況に応じて変更する場合がある。また、工事中には目視点検を 1 回/週行い、この結果に応じて補修、補強、拡張等の措置を講じることにより機能維持を図る。

(p.7-25)

(p.7-25)

© 2026 電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

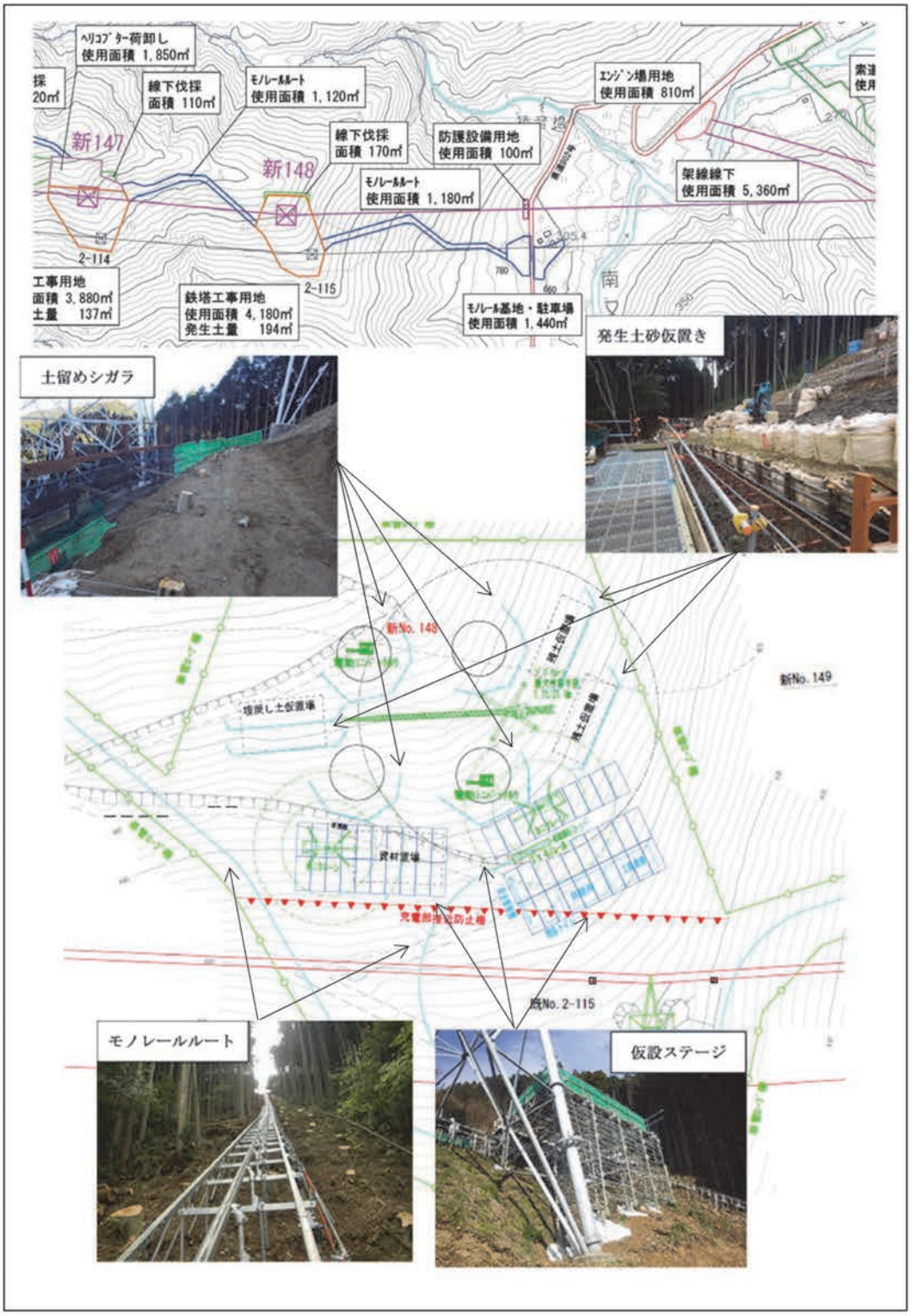


図 1.4-35　土砂流出防止対策計画図（新 148 鉄塔敷地）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

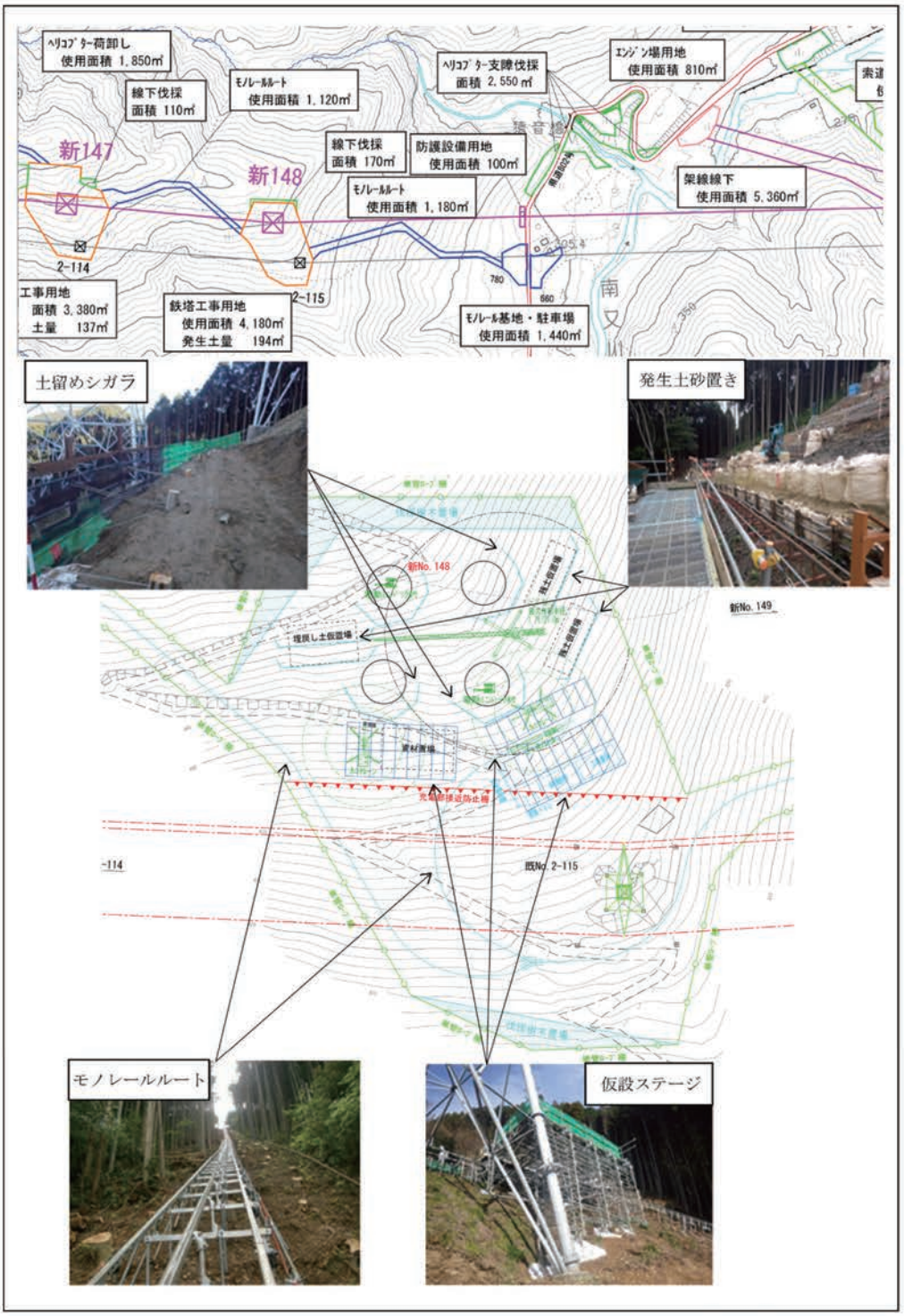


図1.4-35　土砂流出防止対策計画図（新148鉄塔敷地）

(p.7-27)

(p.7-27)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

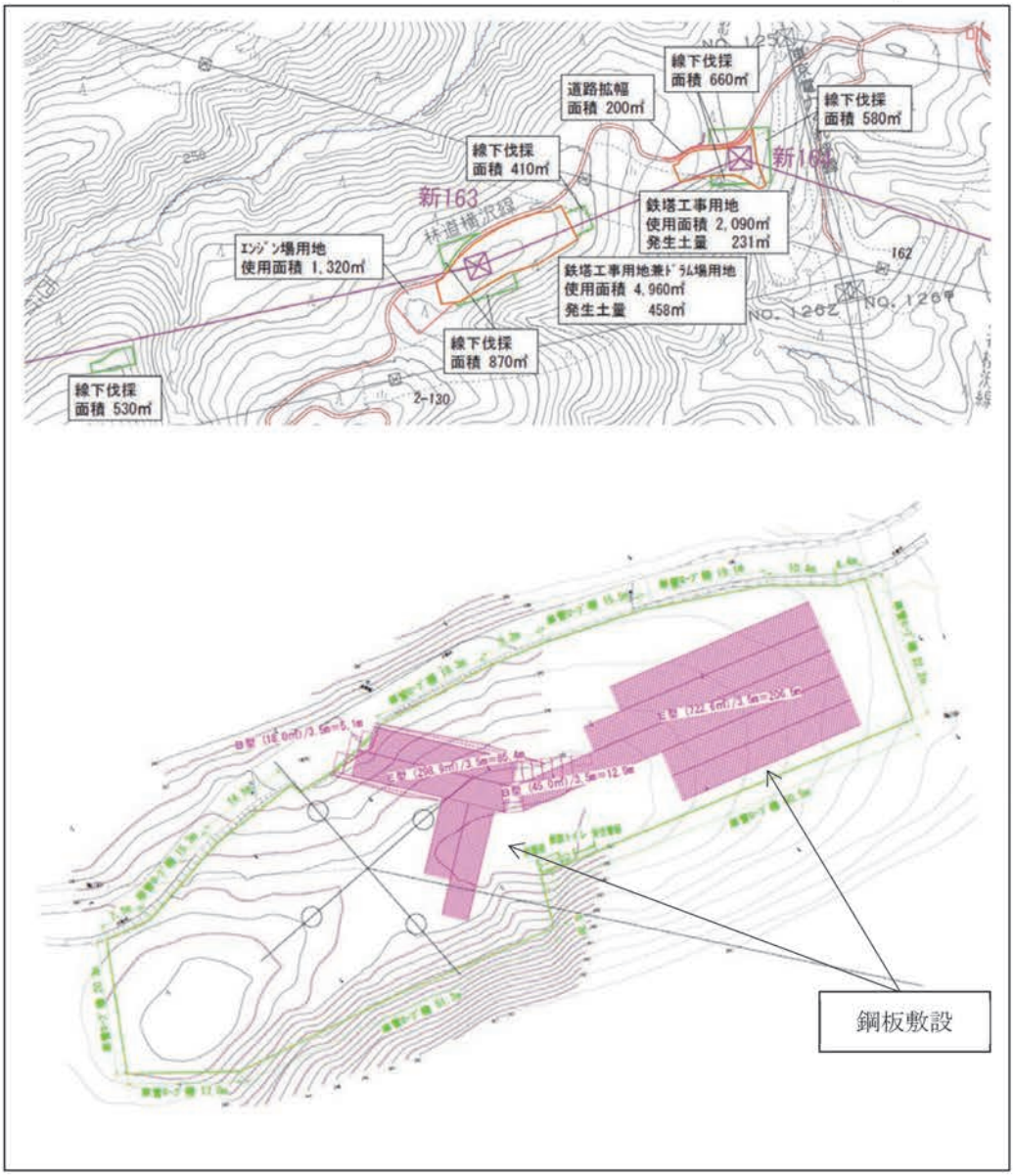


図 1.4-48　土砂流出防止対策計画図（新 163 鉄塔敷地）

© 2023（電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

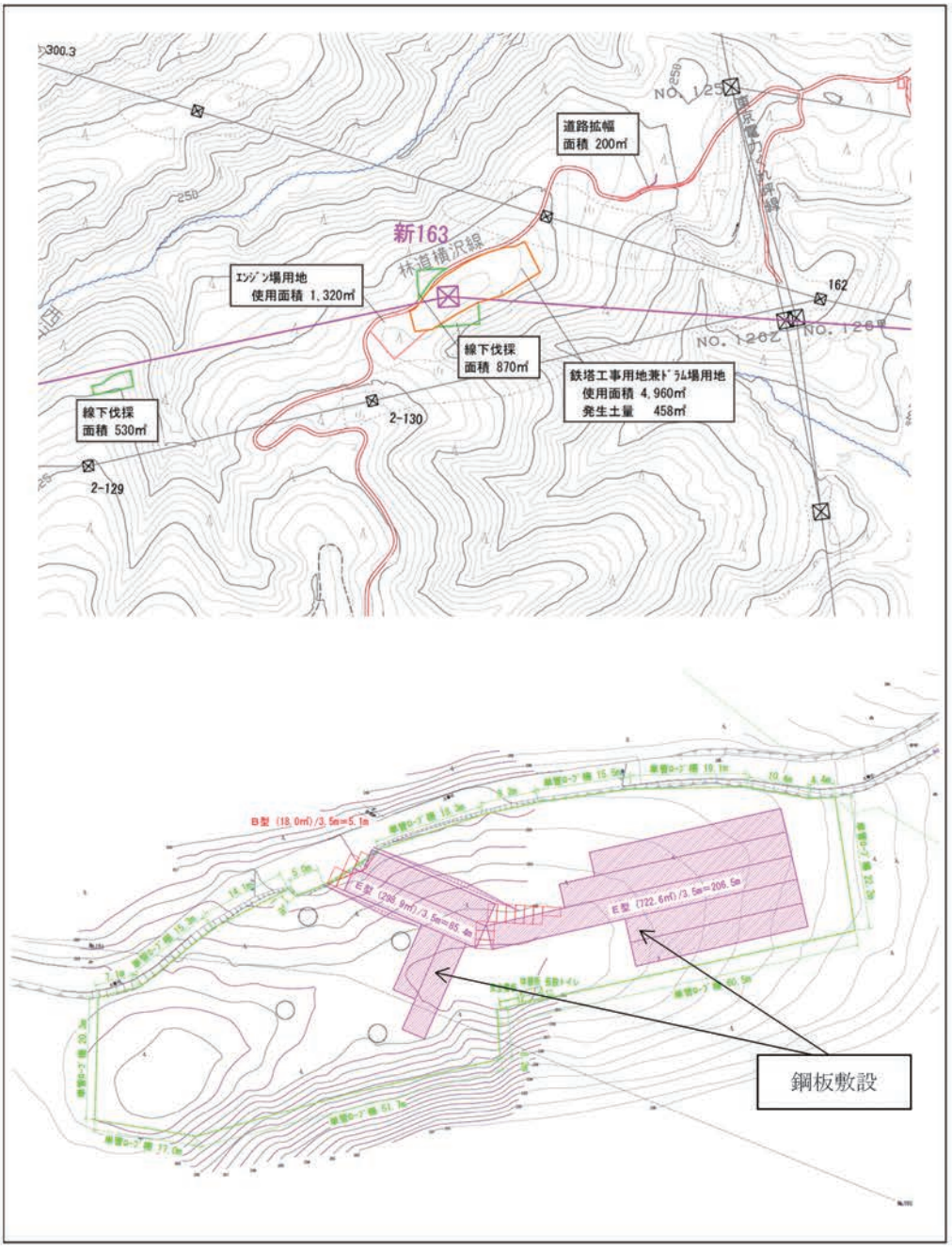


図1.4-48　土砂流出防止対策計画図（新163鉄塔敷地）

(p.7-29)

(p.7-29)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

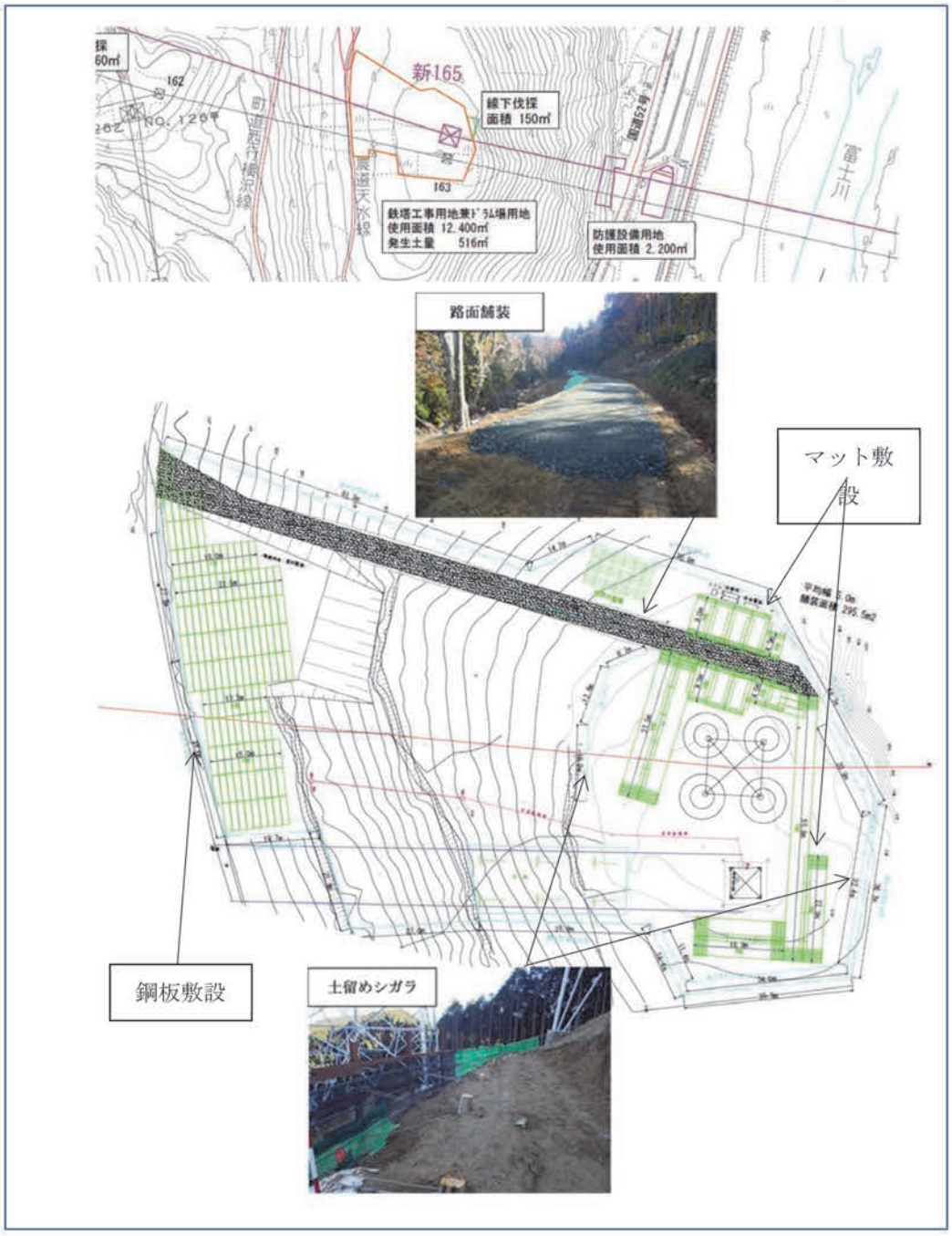


図 1.4-50　土砂流出防止対策計画図（新 165 鉄塔敷地）

© 2023（電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

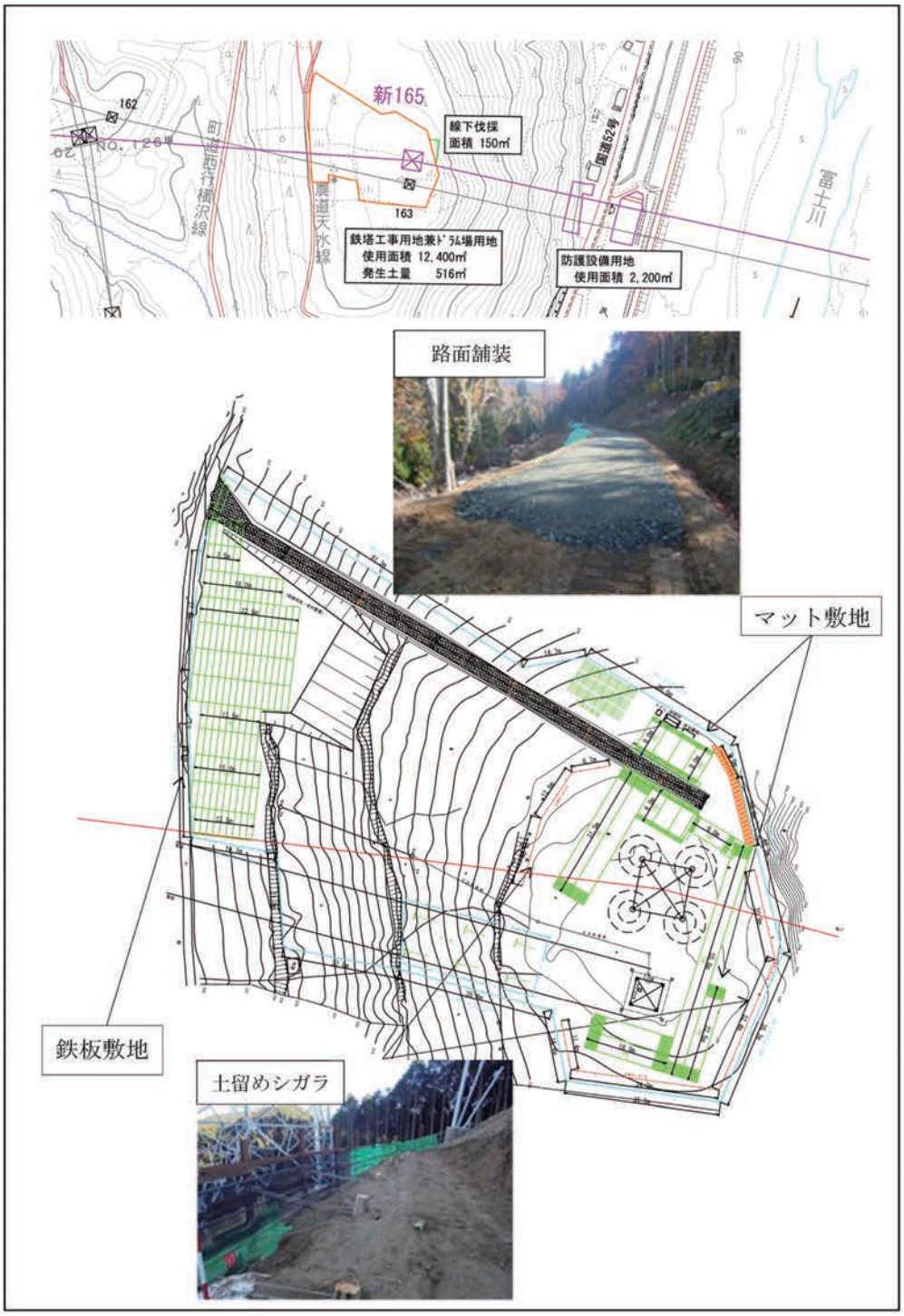


図1.4-50　土砂流出防止対策計画図（新165鉄塔敷地）

(p.7-31)

(p.7-31)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

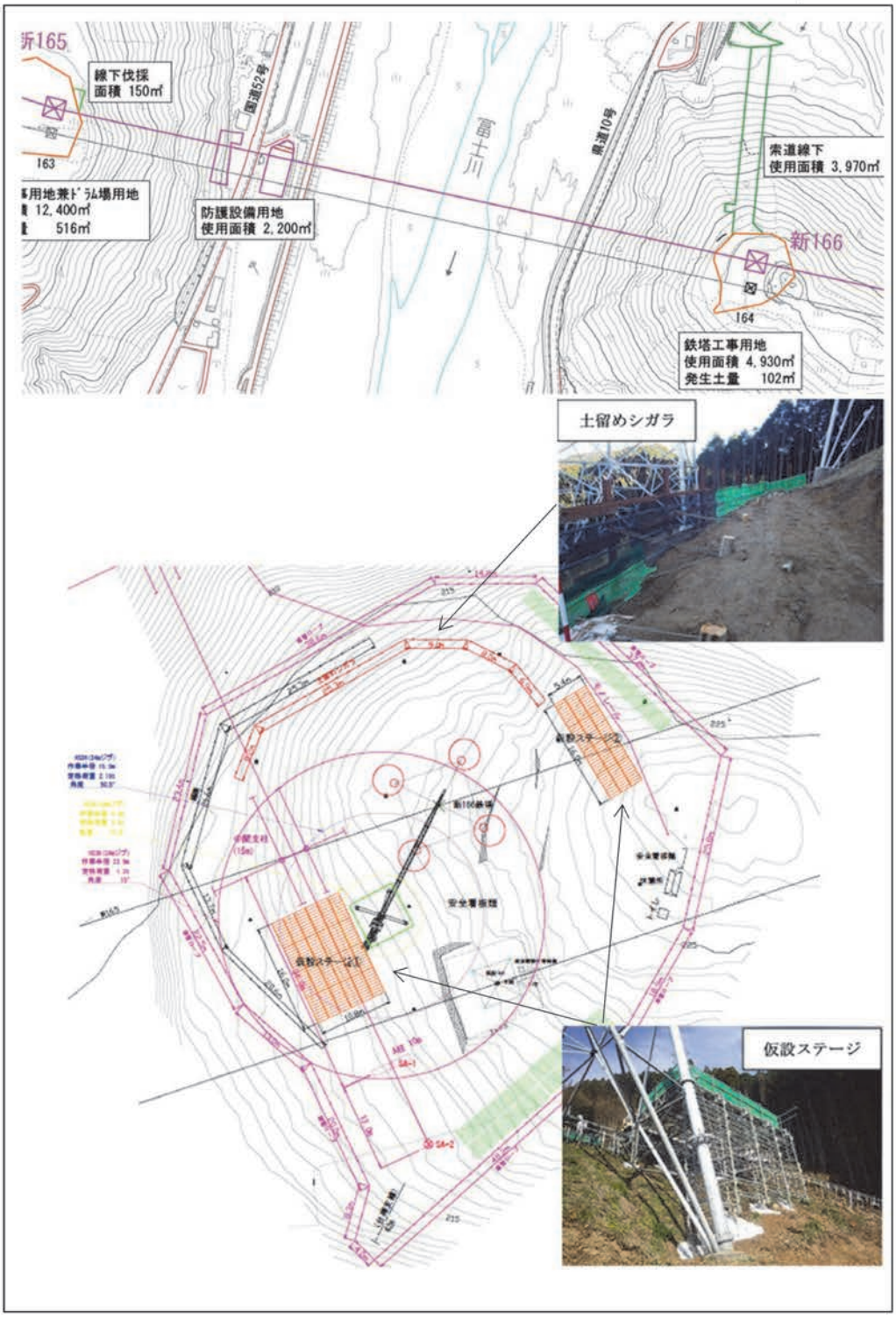


図 1.4-51　土砂流出防止対策計画図（新 166 鉄塔敷地）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

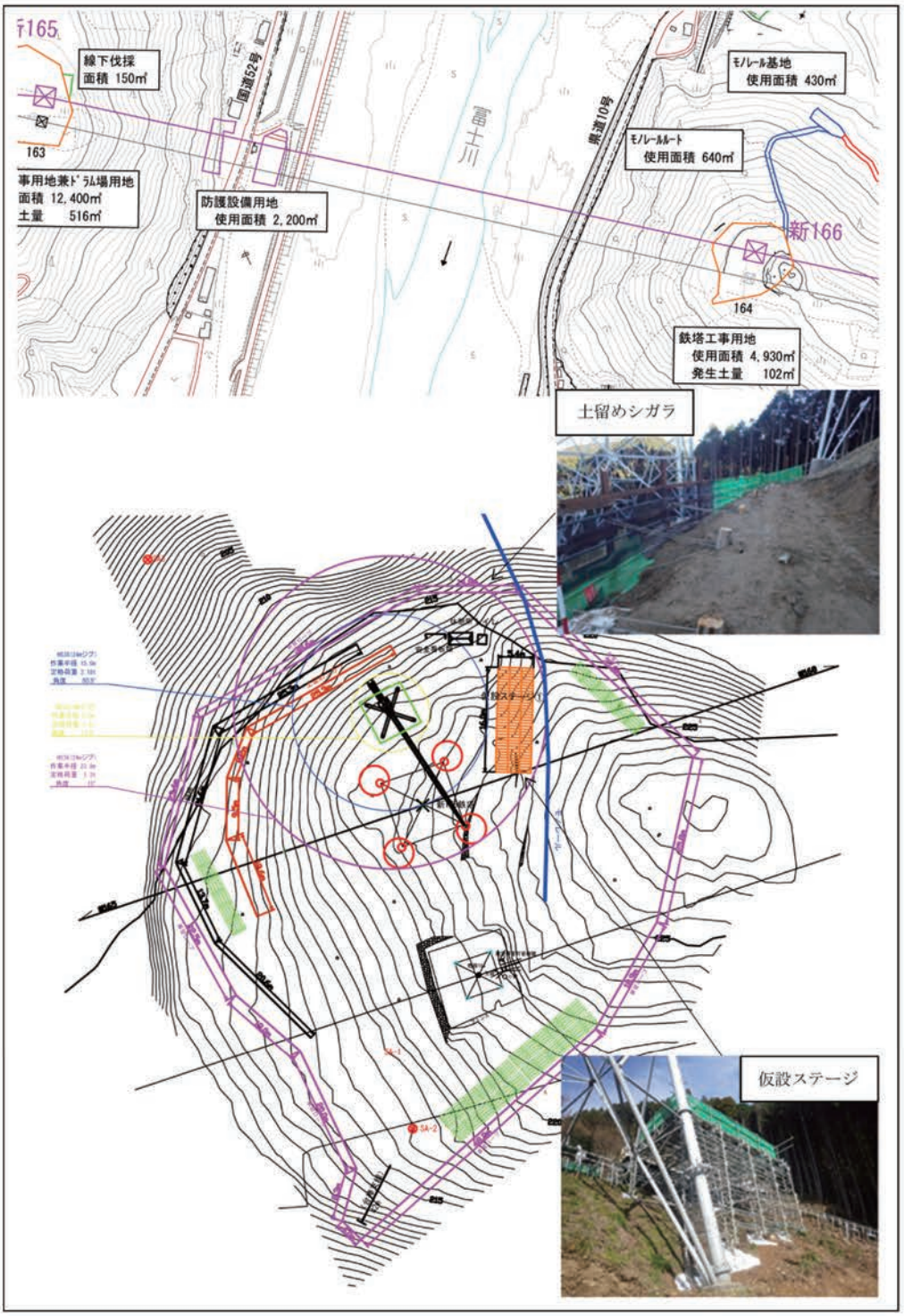


図1.4-51　土砂流出防止対策計画図（新166鉄塔敷地）

(p.7-33)　(p.7-33)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

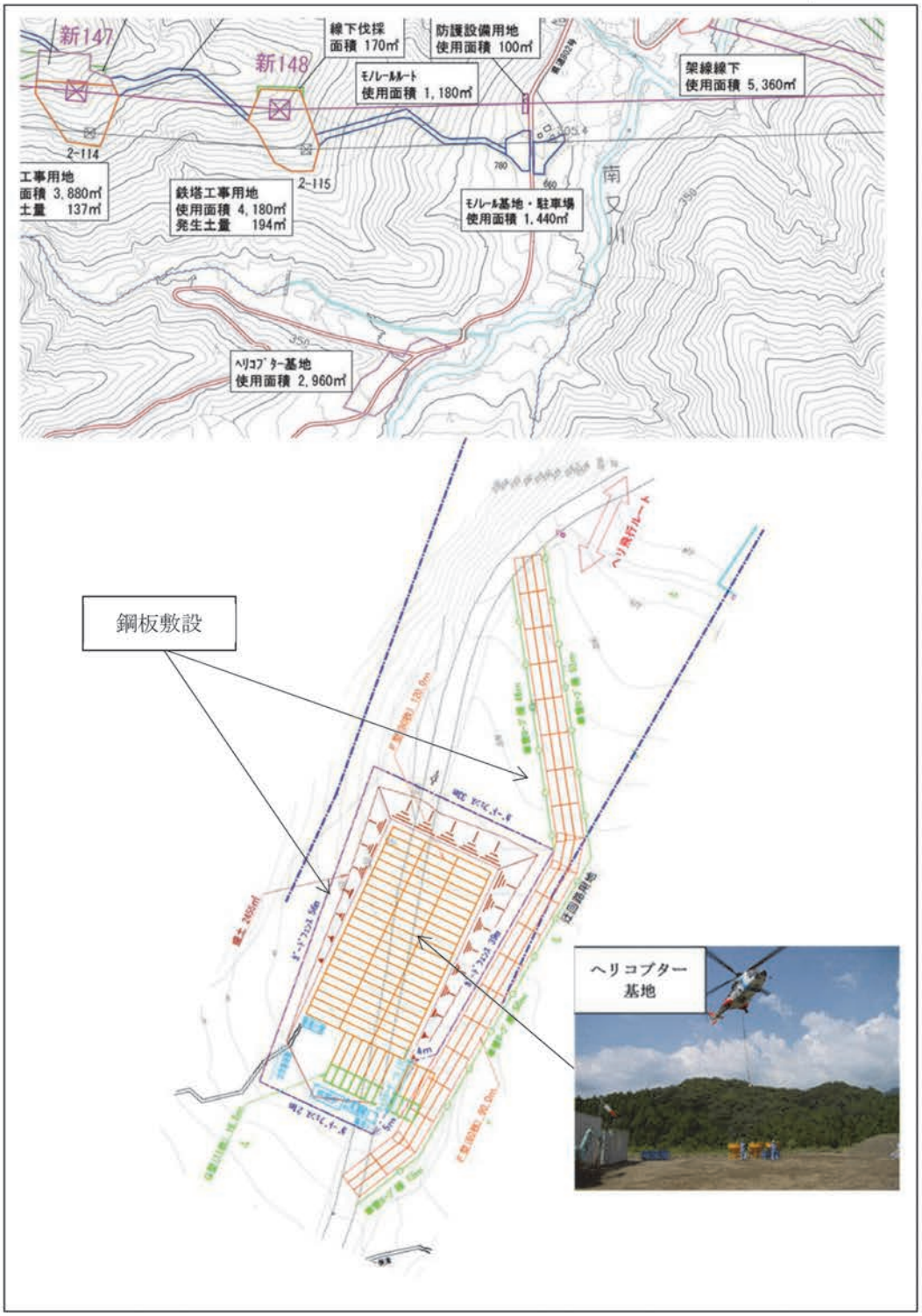


図 1.4-54　土砂流出防止対策計画図（ヘリコプター基地（第２））

© 2023（電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

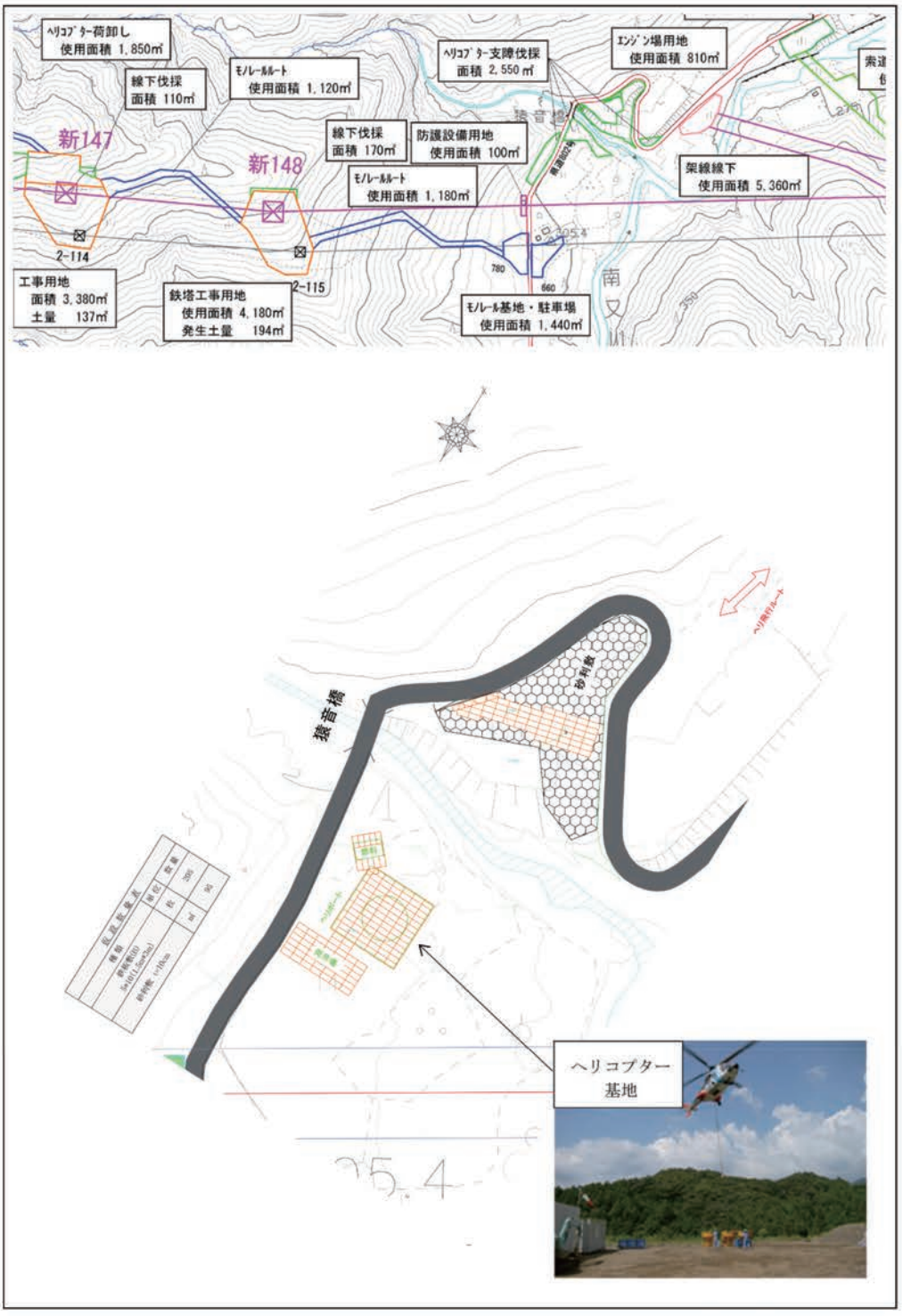


図1.4-54　土砂流出防止対策計画図（ヘリコプター基地(第２)）

(p.7-35)　(p.7-35)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

変更前

(3) その他

① 排水

今回の鉄塔を設置する箇所は地質調査の結果から湧水の少ない場所と考えている。雨水や掘削により発生した湧水については、ポンプで汲み上げて工事用地に排出し、自然浸透させる計画である。また、現場で排出されるし尿については、仮設トイレを設置して対応する計画である。

② 用水

工事中は粉じん対策として散水を予定しているが、散水用水はすべてタンク等で持ち込み、河川等の水は使用しない計画である。

③ 緑化

鉄塔用地（傾斜地）には土砂流出を防止するため、張芝等の緑化対策（在来種を基本とする）を実施する計画である。

④ 建設発生土

工事に伴い発生する建設発生土は、表 1.4-6 に示すとおりである。

表 1.4-6 鉄塔基礎掘削に伴う発生土量（設計値）

鉄塔番号	円形逆T字型基礎	深礎基礎	① 掘削土量(m³)	② 埋戻等土量(m³)	③=①−② 搬出土量(m³)
新 143		●	403	96	307
新 145		●	287	93	194
新 146	●		449	395	54
新 147		●	224	87	137
新 148		●	281	87	194
新 149		●	324	102	222
新 150	●		362	299	63
新 151	●		414	362	52
新 152		●	294	100	194
新 153		●	471	108	363
新 154		●	353	93	260
新 156		●	382	94	288
新 157		●	382	94	288
新 158		●	382	94	288
新 159	●		362	263	99
新 160	●		425	275	150
新 161		●	324	93	231
新 163		●	559	101	458
新 164		●	324	93	231
新 165		●	637	121	516
新 166	●		388	286	102
新 168		●	637	121	516
新 169	●		362	263	99
23 基	7 基	16 基	9,026	3,720	5,306

(p.7-36)

1.4-65
(77)

© 2023 電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026 電源開発送変電ネットワーク㈱

変更後

(3) その他

① 排水

今回の鉄塔を設置する箇所は地質調査の結果から湧水の少ない場所と考えている。雨水や掘削により発生した湧水については、ポンプで汲み上げて工事用地に排出し、自然浸透させる計画である。また、現場で排出されるし尿については、仮設トイレを設置して対応する計画である。

② 用水

工事中は粉じん対策として散水を予定しているが、散水用水はすべてタンク等で持ち込み、河川等の水は使用しない計画である。

③ 緑化

鉄塔用地（傾斜地）には土砂流出を防止するため、張芝等の緑化対策（在来種を基本とする）を実施する計画である。

④ 建設発生土

工事に伴い発生する建設発生土は、表 1.4-6 に示すとおりである。

表 1.4-6 鉄塔基礎掘削に伴う発生土量（設計値）

鉄塔番号	円形逆T字型基礎	深礎基礎	① 掘削土量(m³)	② 埋戻等土量(m³)	③=①−② 搬出土量(m³)
新 143		●	403	96	307
新 145		●	287	93	194
新 146	●		449	395	54
新 147		●	224	87	137
新 148		●	281	87	194
新 149		●	324	102	222
新 150	●		362	299	63
新 151	●		414	362	52
新 152		●	294	100	194
新 153		●	471	108	363
新 154		●	353	93	260
新 156		●	382	94	288
新 157		●	382	94	288
新 158		●	382	94	288
新 159	●		362	263	99
新 160	●		425	275	150
新 161		●	324	93	231
新 163		●	559	101	458
新 165		●	637	121	516
新 166	●		388	286	102
新 168		●	637	121	516
新 169	●		362	263	99
22 基	7 基	15 基	8,702	3,627	5,075

(p.7-37)

(p.7-37)

© 2026 電源開発送変電ネットワーク㈱

＜添付資料８＞

補正評価書：修正抜粋版

（第８章）

赤文字追記は、本修正事項関連

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

第　8　章

環境影響評価の結果

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

(p.8-1)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．１　騒　音

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱
(p.8-2)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．１．２　予測の結果

1. 工事の実施（工事用資材等の搬入出）

(1) 予測地域

ヘリコプターの運航に伴う航空機騒音の伝搬特性を考慮して、騒音に係る環境影響を受けるおそれがある地域として、対象事業実施区域及びその周辺を設定した。

ヘリコプターの運航経路は図8.1.2-1に示すとおりである。

(2) 予測地点

予測地点は、現地調査（2020年）のうえ、表8.1.2-1に示すとおりヘリコプター運航経路の最寄りの住居の1地点とした。予測地点の位置は、図8.1.2-1に示すとおりである。

表 8.1.2-1　　予測地点候補および選定結果

建物	地区	ヘリコプター運航経路からの距離(km)	生活感等	選定
A	南又	0.75	有（住居）	
B	南又	0.74	有（住居）	○
C	南又	0.41	無（小屋）	
D	南又	0.37	無（小屋）	
E	石合	1.17	有（施設）	
F	石合	0.19	無（小屋）	

(3) 予測対象時期

予測対象時期は、ヘリコプターによる工事用資材等の搬入出に伴う航空機騒音に係る環境影響が最大となる運航経路をヘリコプターが運航した時とする。

© 2023 電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

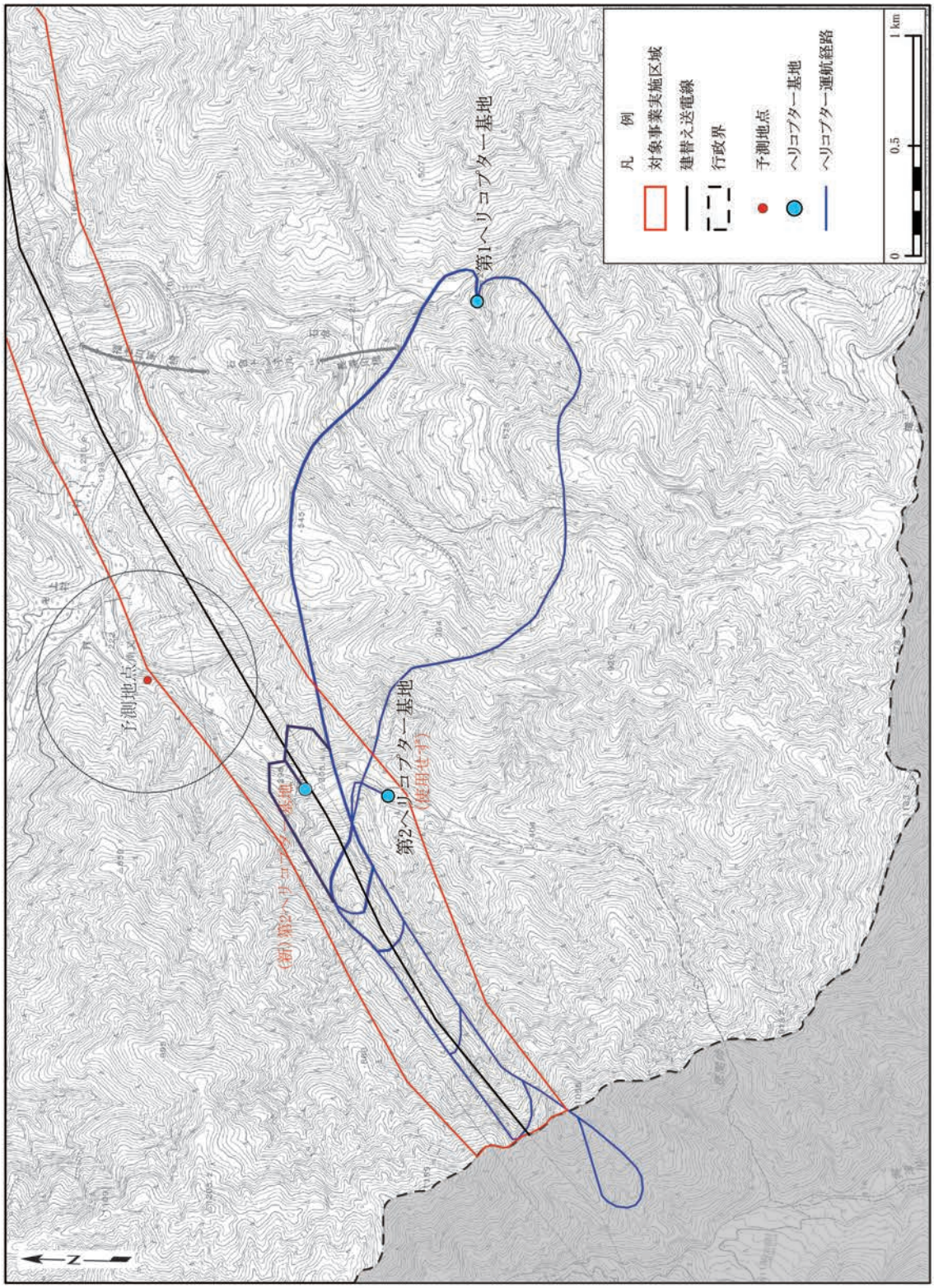


図 8.1.2-1　ヘリコプターの運航経路と予測地点の位置

(p.8-4)

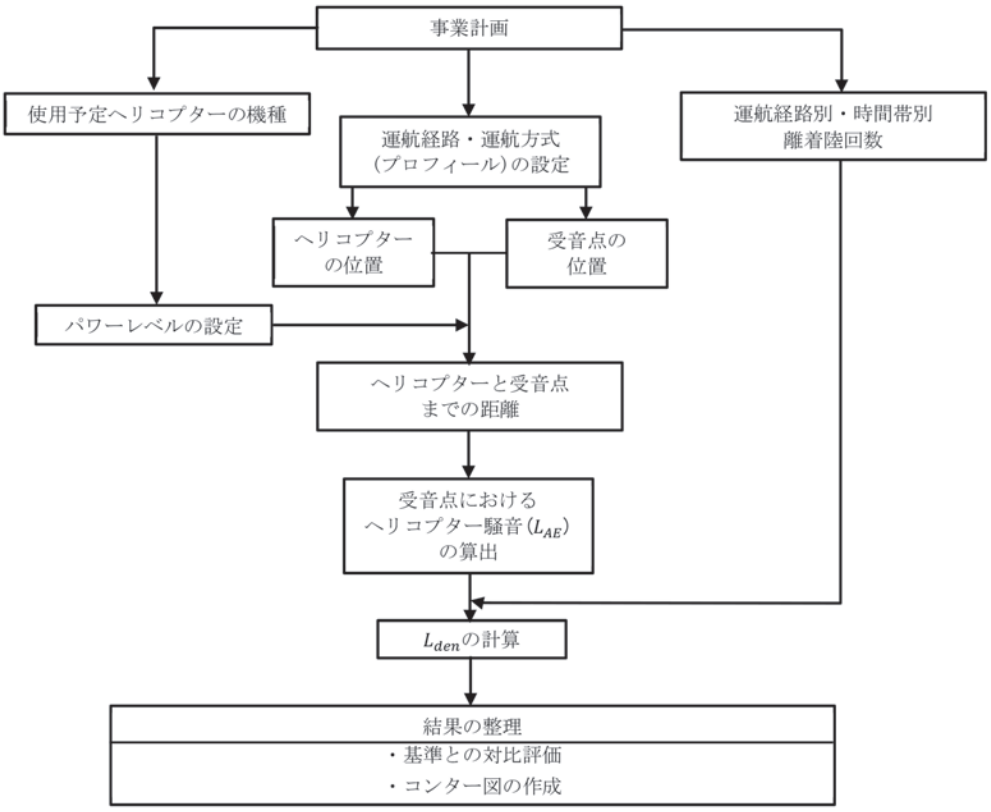
8.1-5
(339)

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱
(p.8-4)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

（4）予測評価手順

ヘリコプターの運航に伴う航空機騒音の予測評価手順は、図8.1.2-2に示すとおりである。



注：L_{AE} ：単発騒音暴露レベル（デシベル）
L_{den}：時間帯補正等価騒音レベル（デシベル）

図 8.1.2-2　　ヘリコプターの運航に伴う航空機騒音の予測と評価の手順

© 2023 (p8-5)電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

(5) 予測式

予測の基本的な手法は、「ヘリコプター騒音のL_{AE}の簡易予測方法」（社団法人日本騒音制御工学会、平成8年）を参考とした。

参考：朴永珉，高木興一，松井利仁：ヘリコプター騒音のL_{AE}の簡易予測方法，騒音制御 Vol.20, No.6, 1996, pp385-391.

① 受音点の騒音レベル算出式

上記の文献では、遠距離伝搬における空気による音の吸収の影響を考慮するため、通常の距離減衰を表す式に伝搬距離の4乗の項を加えた式で表現している。ヘリコプターが運航経路上の距離x(m)の位置にある時、受音点における騒音レベルL_Aは、発生源のパワーレベルをL_Wとすると、空気吸収を含む減衰式は次式で表される。

$$L_A = L_W + 10\log_{10}\left[\frac{1}{4\pi}\cdot\frac{1}{(d^2+x^2)+a(d^2+x^2)^2}\right] - \Delta L_{AS} \cdots\cdots\cdots\cdots (1)$$

$$d = \sqrt{l^2 + h^2 \cdot cos^2\theta}$$

［記号］

a ：定数（≥0）〔$=3\cdot10^{-7}$〕

L_W ：音源のパワーレベル（dB(A)）

x ：最短傾斜距離となる運航経路上の点から音源位置までの経路にそった距離(m)

d ：受音点から運航経路までの最短距離（m）

l ：受音点から運航経路の地上航跡までの最短距離（m）

h ：その位置での運航高度（m）

θ ：飛行角度（rad）

ΔL_{AS}：地形による回折減衰量（dB(A)）

地形回折の計算は、「前川チャートの数式表示について」（社団法人日本騒音制御工学会、平成3年）に示された以下の式を用いた。

出典：山本貢平，高木興一：前川チャートの数式表示について，騒音制御 Vol.15, No.4, 1991, pp202-205.

但し、地形による回折は、地形凸部のうち最大経路差を示す凸部による1回回折とし、安全側となるよう配慮した。

$$\Delta L_{AS} = \begin{cases} 10log_{10}N + 13 \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots N \geq 1 \\ 5 \pm \dfrac{8}{sinh^{-1}(1)}\cdot sinh^{-1}(|N|^{0.485}) \cdots\cdots\cdots\cdots -0.324 \leq N < 1 \\ 0 \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots N < -0.324 \end{cases}$$

（上式の＋符号は$N > 0$のとき，－符号は$N < 0$の場合のとき）

なお、上式中の $sinh^{-1}x$ は次式で求められる。

© 2023 電源開発送変電ネットワーク㈱
(p.8-6)

© 2026 電源開発送変電ネットワーク㈱

$$sinh^{-1}x = l_n\left(x + \sqrt{x^2+1}\right)$$

［記号］

ΔL_{AS}：回折減衰の大きさ

N　：フレネル数（$N = 2\delta/\lambda = \delta \cdot f/170$）

δは経路差(m)、λは音の波長(m)、fは音の周波数(Hz)

②　受音点単発騒音暴露レベル算出式

任意の運航経路での受音点における単発騒音暴露レベルL_{AE}を予測するには、運航経路をいくつかの有限な直線で近似し、各々の有限区間でのL_{AE}を加算することで得られるものとした。有限区間におけるL_{AE}の算出式は以下に示すとおりである。

なお、騒音の伝搬特性として(1)式を仮定すると、有限区間x_1～x_2（進行方向に番号が増える）を対象とするとx_1及びx_2は最短距離となる運航経路上の位置x_0から見た符号（進行方向を正）を持つ。

$$L_{AE} = L_W + 10\log_{10}\left[\frac{1}{4\pi v d}\cdot\left\{\tan^{-1}\frac{x_2}{d} - \tan^{-1}\frac{x_1}{d} + CC\right\}\right] - \Delta L_{AS}$$

$$CC = -b\left(\tan^{-1}\frac{b\cdot x_2}{d} - \tan^{-1}\frac{b\cdot x_1}{d}\right)$$

ここで、

$$a = 3\cdot 10^{-7}$$

$$b = \sqrt{\frac{ad^2}{ad^2+1}}$$

［記号］

L_W　：音源のパワーレベル（dB(A)）

ΔL_{AS}：地形による回折減衰値（dB(A)）

v　：運航速度（m/s）

d　：受音点から運航経路までの最短距離(m)

③　時間帯補正等価騒音レベルの予測式

受音点における時間帯補正等価騒音レベルL_{den}の予測は、運航騒音等の単発騒音暴露レベルL_{AE}より、それぞれのL_{den}を算出し、それらを合成することにより行った。

運航騒音及び地上騒音のL_{AE}の算出結果を以下の式によりエネルギー加算し平均してL_{den}を求めた。

$$L_{den} = 10\log_{10}\left\{\frac{T_0}{T}\left(\sum_i 10^{\frac{L_{AE,di}}{10}} + \sum_j 10^{\frac{L_{AE,ej}+5}{10}} + \sum_k 10^{\frac{L_{AE,nk}+10}{10}}\right)\right\}$$

© 2023 (p8-7)電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

［記号］

i, j, k：それぞれ昼間、夕方、夜間の時間帯に発生した単発騒音を表す添字

$L_{AE,di}$ ：午前7時から午後7時までの時間帯における i 番目の L_{AE}

$L_{AE,ej}$ ：午後7時から午後10時までの時間帯における j 番目の L_{AE}

$L_{AE,nk}$ ：午前0時から午前7時まで及び午後10時から午後12時までの時間帯における k 番目の L_{AE}

T_0 ：基準の時間（1秒）

T ：観測一日の時間（86, 400秒）

なお、昼間は午前7時から午後7時まで、夕方は午後7時から午後10まで、夜間は午後10時から午前7時までである。

【解説】

○L_A（騒音レベル）

L_A（騒音レベル）とは、人の感覚を考慮して音圧レベルを周波数毎に補正したものである。A特性音圧レベルとも呼ばれる。

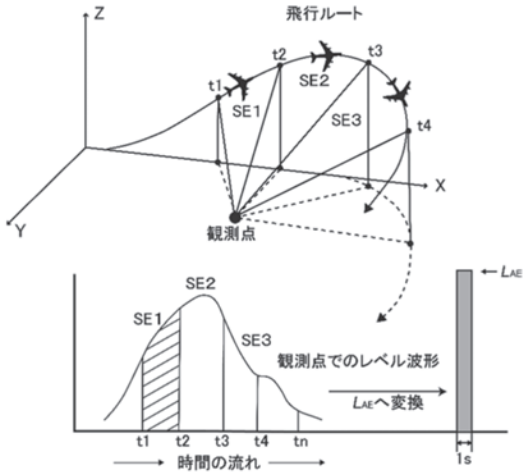
○L_{AE}（単発騒音暴露レベル）

L_{AE}（単発騒音暴露レベル）とは、単発的に発生する騒音の継続時間内の総エネルギー量と同じエネルギー量をもつ、継続時間1秒の定常音（変化しない音）の騒音レベルをいう

○飛行騒音

飛行騒音はセグメント処理により計算した。

セグメント処理とは、飛行経路を幾つかの線分と円弧（又は点列）で構成される有限長のセグメントの集まりで表し、個々のセグメントを航空機が所定の条件で飛行するときに予測点にもたらされる騒音暴露エネルギーを合算することで、飛行経路全体からもたらされる騒音暴露総量を算定し、単発騒音暴露レベルL_{AE}を評価することを基本としたものである。



© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱
(p.8- 8)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

○L_{eq}（等価騒音レベル）

L_{eq}（等価騒音レベル）とは、騒音レベルが時間とともに不規則かつ大幅に変化している場合（非定常音、変動騒音）に、ある時間内で変動する騒音レベルをパワー平均した値をいう。

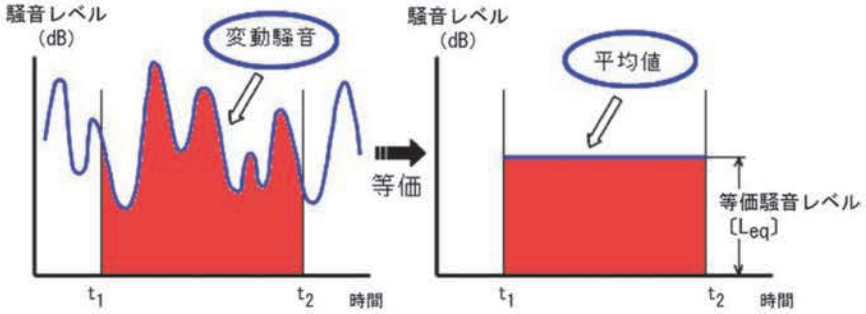


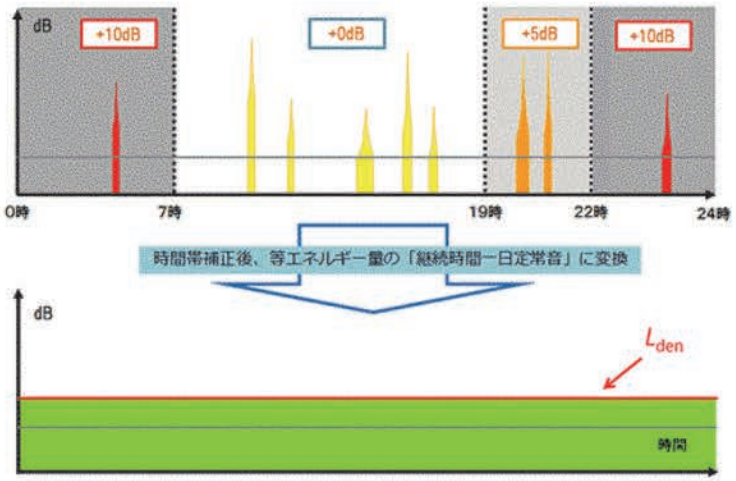
図1：時間とともに騒音レベルが変動する騒音　　図2：時間によらず騒音レベルが一定の音

〔 図出典：「等価騒音レベル（L_{eq}）」（横浜市ホームページ） 〕

○L_{den}（時間帯補正等価騒音レベル）

L_{den}（時間帯補正等価騒音レベル）とは、時間帯ごとのL_{eq}に対して、昼間（7～19時）は +0 dB、夕方（19時～22時）は +5 dB、夜間（22時～7時）は +10 dBの時間帯補正を行い、時間帯補正後に等エネルギー量の「継続時間一日定常音」に変換（パワー平均）した値をいう。

AEQ



〔 図出典：「成田空港環境こみゅにてぃ」（成田国際空港株式会社ホームページ） 〕

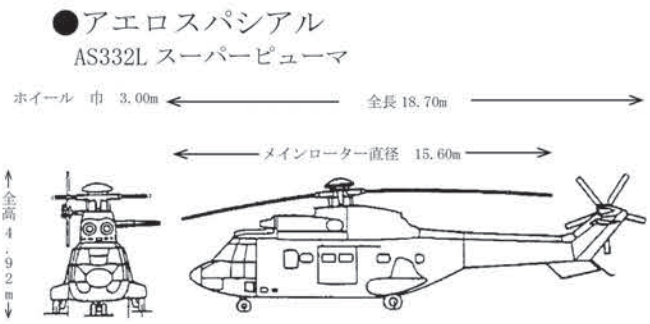
© 2023 電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

(6) 予測条件

① 航空機種類

工事用資材等の搬入出に使用する機材は、アエロスパシアル社製 AS332L 型ヘリコプターとした。ヘリコプターの仕様は、図8.1.2-3に示すとおりであり、同機の最大離陸重量は、8,600 kgである。



エンジン	マキラ4A×2	乗客数	20名
最大出力	1,636馬力×2	最高速度	310km/h
常用出力	1,515馬力×2	巡航速度	260km/h
最大重量	8,600kg	実用上昇限度	6,100m
自重	4,800kg	航続時間	3～4.5h
積載量	3,000～3,650kg	航続距離	1,000km
搭乗員数	1～2名	燃料消費量	170ガロン

図 8.1.2-3　ヘリコプター仕様

② 航空機のパワーレベル

ヘリコプターのパワーレベルは、「ヘリコプター騒音のL_{AE}の簡易予測方法」（社団法人日本騒音制御工学会、平成8年）において、ヘリコプターの最大離陸重量に応じて設定されている。それに基づき次に示すパワーレベルとした。

・運航モード時 135dB(A)
・地面効果のある高度でのホバリング時（HIGE；Hovering In Ground Effect）
（AS332L 型ヘリコプターは地上8m以下の高度でのホバリング時）130dB(A)
・地面効果の無い高度でのホバリング時（HOGE；Hovering Out of Ground Effect）
（AS332L 型ヘリコプターは地上8m以上の高度でのホバリング時）135dB(A)
・地上でのアイドリング時 110dB(A)

③ 予測検討ケース

予測検討ケースは、図8.1.2-4に示す3パターンの運航経路とした。各パターンの運航計画（運航回数、運航高度等）は表8.1.2-2に示すとおりである。

© 2023 電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026 電源開発送変電ネットワーク㈱

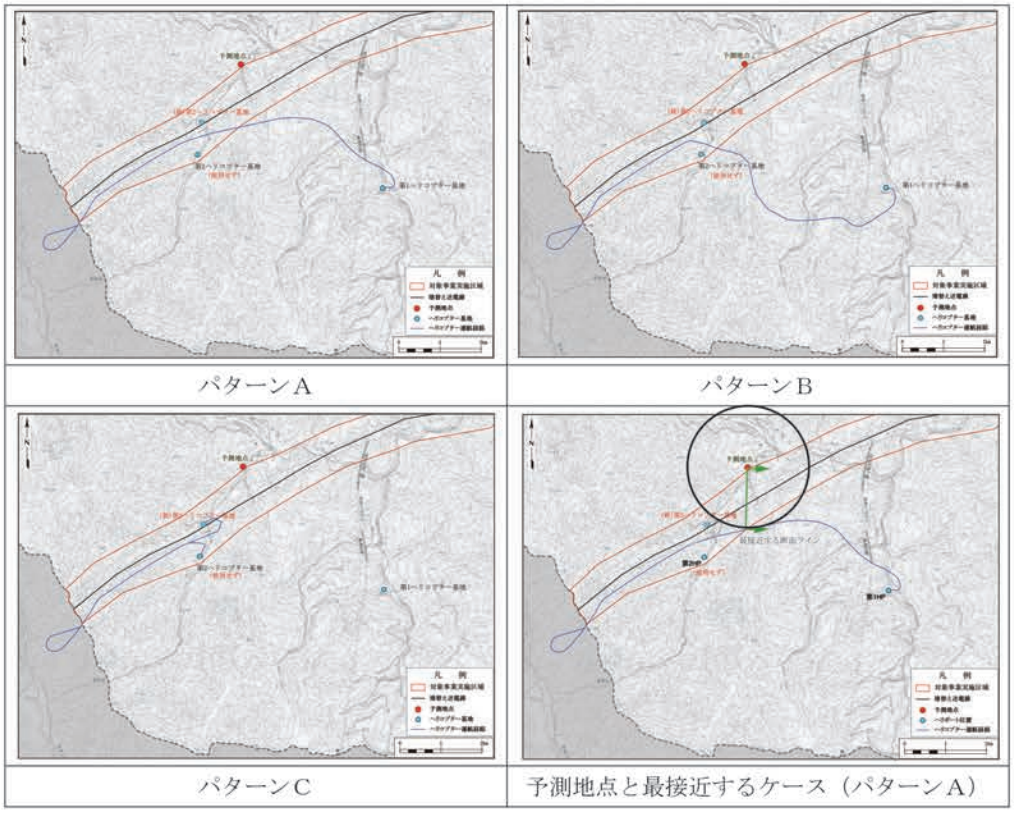


図 8.1.2-4　航空機の運航経路パターン

表 8.1.2-2　各パターンの運航計画

運航計画	パターンA	パターンB	パターンC
使用するヘリコプター基地	第1ヘリコプター基地 （石合基地）	第1ヘリコプター基地 （石合基地）	(新)第2ヘリコプター基地 （南又基地）
運航経路	北回り	南回り	—
荷卸場	新No. 142鉄塔付近	新No. 142鉄塔付近	新No. 142鉄塔付近
運搬1回あたり所要時間	約12 分	約12分	約8 分⇒約8分
うち運航時間	8 分	8 分	4 分⇒ 4分
うち積込・積卸時間	4 分	4 分	4 分
1日当たり運搬回数	26 往復	26 往復	37 往復⇒37往復
運航速度	約 90 km/h	約 90 km/h	約 90 km/h
水平運航高度(標高)	約 1,090 m	約 1,090 m	約 1,090 m
運航時期等	8月～12月の 主ルート	8月～12月の 副ルート	6月～12月 （主に6月～7月）

注：1. 運搬実施日には、事前に別途1往復の試験運航を行っており、L_{den}の計算には試験運航を含めている。（ただし、試験運航については積込・積卸時間を考慮しない。）
：2. 水平運航高度は、運航経路の最も標高の高い地点から約45m上空とした。
：3. パターンBは、パターンAの気象条件（風・濃霧等）に応じた代替ルートとして運航する。

© 2023 電源開発送変電ネットワーク㈱

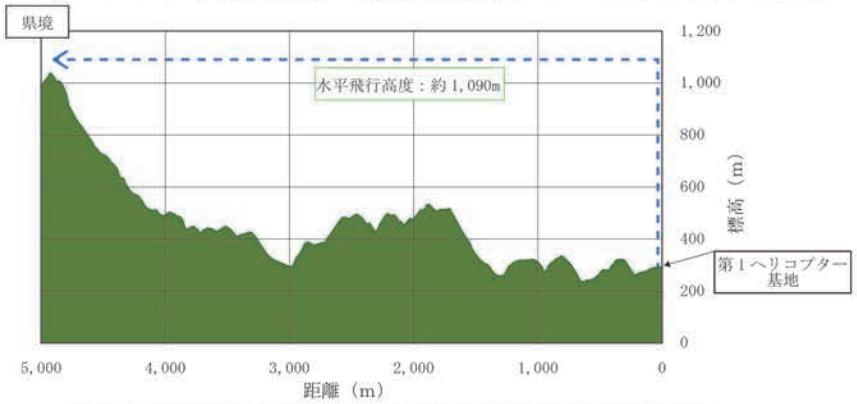
© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

④　その他予測条件

・毎日の運搬作業は、9時頃に作業を開始し、16時頃まで（実働5時間程度/日、最長40日程度）に終了するものとした。
（従って、L_{den}の時間区分では全て昼間の運航となる。）
・第1ヘリコプター基地（石合基地）は、標高270mである。
・(新)第2ヘリコプター基地（南又基地）は、標高330m⇒300mである。
・各ヘリコプター基地の荷揚場でのホバリング高さは地上13mとした。
・鉄塔付近の荷卸場でのホバリング高度は地上15mとした。

⑤　運航経路と予測地点が最接近するケースの立体的概要

図 8.1.2-4 の予測地点に最接近するケースであるパターンＡの進行方向縦断面は図 8.1.2-5 に、予測地点との最接近断面は図 8.1.2-6 に示すとおりである。



注：1. 第１ヘリコプター基地の上昇は予測計算上直上にして予測。
2. 県境越えのために水平飛行高度を一定にして予測。

図 8.1.2-5　　パターンＡの進行方向縦断面図

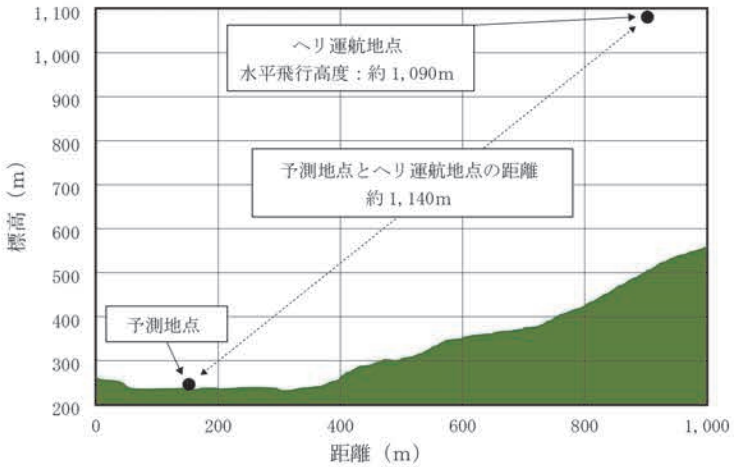


図 8.1.2-6　　予測地点との最接近断面

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

(7) 予測結果

L_{den}の予測結果は表 8.1.2-3に、「環境基本法」に基づく、航空機騒音に係る環境基準は表8.1.2-4に示すとおりである。

L_{den}が予測地点で最も高い値となったのは、パターンAの場合であり、その値は49デシベルであった。パターンAの騒音予測結果コンターは、図8.1.2-7に示すとおりである。

ヘリコプターの運航に伴う航空機騒音について、対象事業実施区域周辺に航空機騒音に係る基準値であるL_{den}の値が57デシベル、62デシベルをそれぞれ超えると予測される範囲が見られるが、対象事業実施区域周辺は類型指定がなされておらず、またこの範囲内に保全対象となる住居等は存在しないことから、影響は少ないものと予測する。

表 8.1.2-3　予測地点における騒音予測結果

予測ケース	L_{den}（単位：デシベル）
パターンA	49
パターンB	47
パターンC	47⇒同等抑制

表 8.1.2-4　航空機騒音に係る環境基準

類型	L_{den}（単位：デシベル）	区分
I	57	専ら住居の用に供される地域
II	62	I 以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域

注：対象事業実施区域周辺は類型指定されていない。

© 2023 (旧)電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

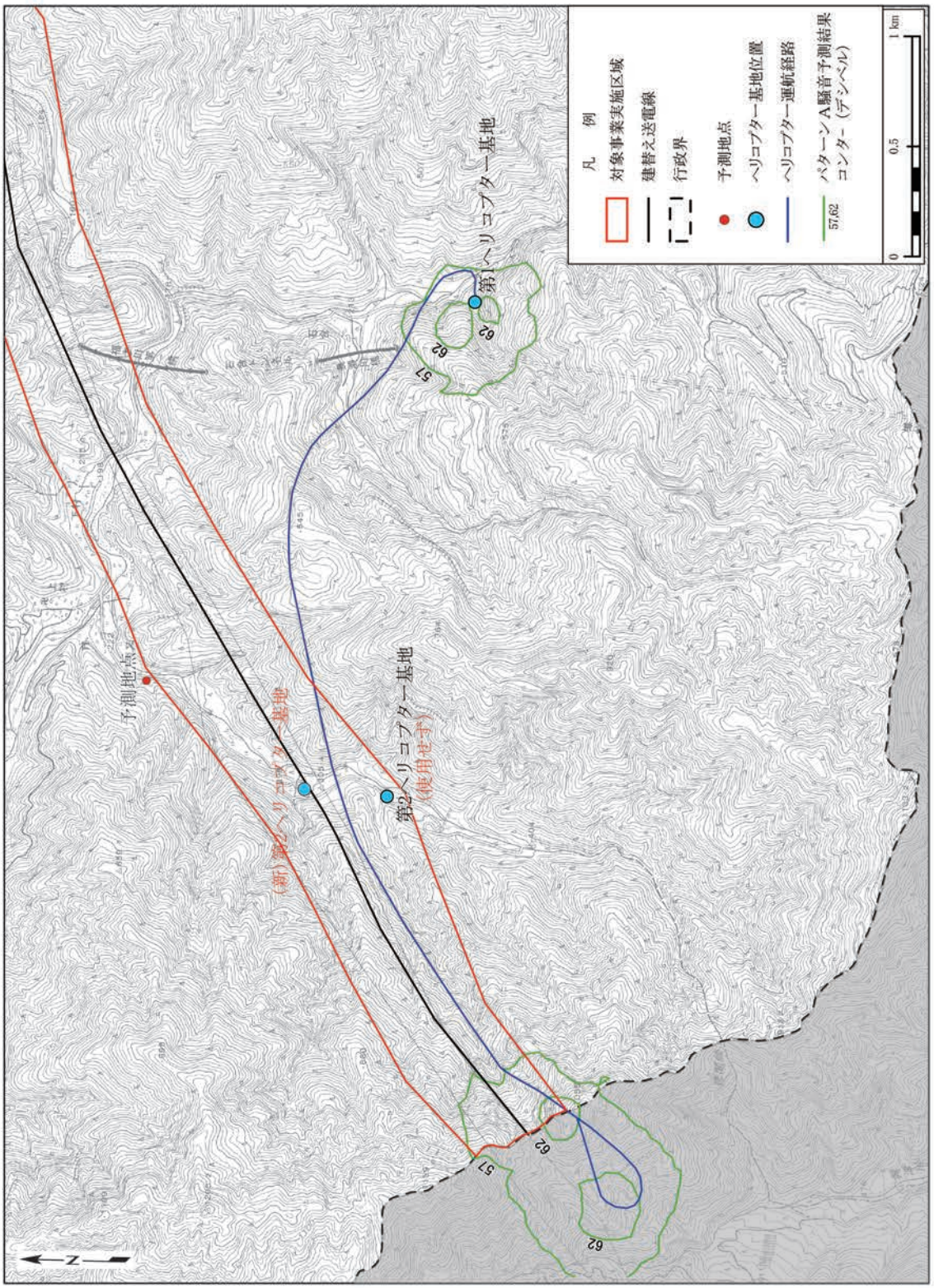


図 8.1.2-7　パターンＡの騒音予測結果コンター（L_{den}）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．１．３　環境保全のための措置及び検討経緯

1. 環境保全措置

工事の実施（ヘリコプターの運航）にあたっては、「第6章　環境影響評価の項目」の表6.1-3（p6.1-7）で記載したように、騒音に係る一般的な環境保全対策を表8.1.3-1のとおり実施する。

表8.1.3-1　　騒音に係る一般的な環境保全対策

対　象	一般的な環境保全対策
騒　音	・工事時間は8～17時を基本とし、原則夜間工事は行わない計画とする。
	・ヘリコプターは不必要な飛行を避け、夜間の飛行は行わない。

これらの保全対策を実施することを踏まえ、ヘリコプターの運航に伴う航空機騒音の予測を行った結果は「8.1.2　予測の結果」のとおりであり、影響は少ないものと予測した。しかしながら、当該地域は静穏な環境であることから、影響をより低減すため、表8.1.3-2に示す環境保全措置を実施する。

表 8.1.3-2　　騒音に係る環境保全措置

対　象	環境保全措置	
	種類	内　容
騒　音	最小化	工事用資材等の搬入出におけるヘリコプターの運航にあたり、以下の措置を講じる。 ・離隔距離を確保できるよう極力住居から離れた運航経路を選択する。 ・可能な範囲で高高度運航する。 ・可能な範囲で速度を抑えた運航とする。

© 2023 (p8-15) 電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．１．４　評　価

1. 評価の手法

調査及び予測並びに環境保全の検討結果を踏まえ、ヘリコプターの運航に伴う航空機騒音の影響が事業者の実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされているか評価した。

2. 評価の結果

ヘリコプターの運航に伴う航空機騒音について、対象事業実施区域周辺に航空機騒音に係る基準値であるL_{den}の値が 57 デシベル、62 デシベルをそれぞれ超えると予測される範囲が見られるが、対象事業実施区域周辺は類型指定がなされておらず、またこの範囲内に保全対象となる住居等は存在していないことから、影響は少ないものと予測した。なお、予測地点付近において、ヘリコプター通過時には 50～60 デシベルの音が聞こえることが予想される。50～60 デシベルは表 8.1.4-1 に示すとおり走行中の自動車内などの音とされており、聴覚的目安は普通である。

表 8.1.4-1　　騒音の大きさの目安

会話が成り立つ目安	聴覚的目安	騒音の大きさ	騒音の具体例	人の声での例
不可能	聴力機能に障害	120 デシベル 110デシベル	飛行機のエンジン近く	
ほとんど不可能	極めてうるさい	100デシベル	電車が通過するときのガード下 地下鉄の構内	声楽のプロが歌う声
		90デシベル	カラオケ音（店内中央） 犬の鳴き声（直近）	怒鳴り声
大声で 0.3m 以内で可能	うるさい	80デシベル	走行中の電車内 救急車のサイレン（直近） パチンコ店内	かなり大きな声
大声で 1m 以内で可能		70デシベル	高速走行中の自動車内 騒々しい事務所の中 セミの鳴き声（直近）	大きな声
大声で 3m 以内で可能	普通	60デシベル	走行中の自動車内 普通の会話 デパートの店内	普通の声
普通の声で 3m 以内で可能		50デシベル	家庭用エアコンの室外機（直近） 静かな事務所の中	小さな声
普通の声で 10m 以内で可能	静か	40デシベル	清閑な住宅地の昼 図書館内	ささやき声
5m 先の囁き声が聞こえる		30デシベル	深夜の郊外 鉛筆での執筆音	ちいさな囁き声
	きわめて静か	20デシベル	木の葉の触れ合う音 雪の降る音	小さな寝息

注：上記は目安であり、その場の状況や条件により感じ方や大きさは違う。あくまでも参考としての目安である。

〔出典：「騒音の大きさの目安」（深谷市ホームページ）より作成〕

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

このように、ヘリコプター運航による近隣住居等への影響は少ないものと予測したが、当該地域は静穏な環境であることから、さらなる影響の低減を図るため、住居から離れた運航経路を選択し、高高度及び速度を抑えた運航を行う環境保全措置を講じることで、影響を最小化することとした。

以上のことから、環境保全についての配慮は適正に行われ、事業者の実行可能な範囲で環境への影響ができる限り緩和されていると評価する。

８．１．５　環境保全措置の成功基準と事後調査の有無

騒音に係る環境保全措置の成否を判断するための成功基準及び事後調査の有無は表8.1.5-1に示すとおりである。

ヘリコプター運航に伴う航空機騒音の予測手法は、日本騒音制御工学会から提案されている科学的知見に基づくものであり、不確実性が少ないこと及び実効性のある環境保全措置を講じることから、事後調査は実施しない計画である。

表 8.1.5-1　騒音に係る環境保全措置の成功基準と事後調査の有無

対　象	環境保全措置	成功基準	事後調査	
			有無	理由
騒　音	工事用資材等の搬入出におけるヘリコプターの運航にあたり、以下の措置を講じる。 ・離隔距離を確保できるよう極力住居から離れた運航経路を選択する。 ・可能な範囲で高高度運航する。 ・可能な範囲で速度を抑えた運航とする。	保全措置が適正に行われていること	無	予測手法は、日本騒音制御工学会から提案されている科学的知見に基づくものであり不確実性は少ないものであること及び実効性のある環境保全措置を講じることから、事後調査は実施しない。

© 2023 (p8-17) 電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．２　植　物

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．２．５　環境保全措置の成功基準と事後調査の有無

保全すべき植物に係る環境保全措置の成否を判断するための成功基準及び事後調査の有無は表 8.2.5-1 に示すとおりである。

タキミシダ等新規林縁に生育している種及びハシゴシダ等移植を実施する種については、工事の実施による影響の有無（生育状況）及び移植後の活着状況を確認するため、事後調査を実施する計画である。

表 8.2.5-1 (1)　保全すべき植物に係る環境保全措置の成功基準と事後調査の有無

対　象	環境保全措置		成功基準	事後調査	
	種類	内容		有無	理由
カンアオイ属の一種 ヨウラクラン カヤラン ツルシロカネソウ ムカゴネコノメソウ	回避	・改変域に生育していることから、工事における改変域の使用方法を検討し、生育環境を改変しないことで回避する。 ・回避にあたっては、作業員の生育地への立ち入りを避けるため、区画等を設置する。	環境保全措置が適正に行われていること	無	事業の実施による保全すべき種について、生育地は改変域や新規林縁に含まれず現状のまま維持されることから、事後調査は実施しない。
タキミシダ アマクサシダ チャセンシダ オオカナワラビ ハカタシダ サジラン クリハラン シキミ カゴノキ エビネ ギンラン ベニシュスラン コクラン ヨウラクラン クモラン カヤラン ヒトツボクロ ハナミョウガ ハナネコノメ ムカゴネコノメソウ イワユキノシタ コミヤマスミレ ゴンズイ アリドオシ	最小化	・新規林縁（改変域から 30m 以内）に生育していることから、防風ネット、林縁植栽等により林内環境を維持する。 ・作業員の新規林縁への不要な立ち入りを制限する。	工事の実施による影響が認められないこと	有	工事の実施による影響の有無（生育状況）を確認するため、事後調査を実施する。

注：1. ツルシロカネソウ、ムカゴネコノメソウは、環境保全措置として、回避することとしているが、生育地が改変域と接しており回避できない場合には、必要に応じて専門家の助言を受け、移植による影響の代償を行うこととする。

2. クリハラン、カゴノキ、ヒトツボクロ、ゴンズイは、環境保全措置として、最小化を図ることとしているが、生育地が改変域と接しており最小化できない場合には、必要に応じて専門家の助言を受け、移植による影響の代償を行うこととする。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

表 8.2.5-1 (2)　保全すべき植物に係る環境保全措置の成功基準と事後調査の有無

対　象	環境保全措置		成功基準	事後調査	
	種類	内容		有無	その理由
ハシゴシダ （クリハラン） サネカズラ カナクグノキ （カゴノキ） ホンゴウソウ エビネ キンラン クマガイソウ ベニシュスラン ハクウンラン属の一種 コクラン （ヒトツボクロ） （ツルシロカネソウ） ユズリハ （ムカゴネコノメソウ） コミヤマスミレ （ゴンズイ） アリドオシ ナンバンギセル イワシャジン	代償	・改変域に生育しており、工事における改変域の使用状況から回避が困難であるため、必要に応じて専門家の助言を受けながら、移植による影響を代償する。	専門家の助言を基に判断する。	有	移植後の活着状況を確認するため、事後調査を実施する。

注：1. ツルシロカネソウ、ムカゴネコノメソウは、環境保全措置として、回避することとしているが、生育地が改変域と接しており回避できない場合には、必要に応じて専門家の助言を受け、移植による影響の代償を行うこととする。
2. クリハラン、カゴノキ、ヒトツボクロ、ゴンズイは、環境保全措置として、最小化を図ることとしているが、生育地が改変域と接しており最小化できない場合には、必要に応じて専門家の助言を受け、移植による影響の代償を行うこととする。

© 2023 電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．４　生態系

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

また、図1.4-11～図1.4-27（p1.4-16～p1.4-32）に示すように、鉄塔工事用地、ヘリコプター荷卸し場は稜線に近い場所に、モノレール基地、エンジン場、ドラム場、索道基地、ヘリコプター基地は道路沿いに設置する。モノレールルートは鉄塔工事用地に向けて山の斜面に設置され、沢を横断する場所があるが、沢の流水部に支柱を設置する計画はない。索道及び架線が沢、河川などを横断する箇所が複数発生するものの、流水部に構造物を設置するものではなく、索道及び架線が空中を通過する。従って、本事業の工事の実施にあたり、沢、河川などの流水部を改変し、構造物を設置することはない。

なお、「第１章 事業計画の概要 1.4 山梨県環境影響評価条例対象事業の内容 1.4.3 工事の概要」（p1.4-65～66）に記載したように、鉄塔敷地等の造成で発生した不要な土砂は直ちにフレキシブルコンテナバッグに詰め、その口を封印するなどして、雨水等の浸水と土砂流出を防ぐ対策を実施する。また、鉄塔敷地は、緑化工事を行い、浸食防止を図る。

現地調査により、改変域の一部で、保全すべき爬虫類、両生類、昆虫類、その他の無脊椎動物を確認したことから、表8.3.2-2（p8.3-79～99）に示すように、工事による影響を予測し、 その影響は少ない、あるいは影響はほとんどないという結果を得た。

ただし、保全すべき希少両生類については、繁殖期以外の時期には成体が林内に生息している可能性があることから、工事の実施による影響を受ける可能性があると予測した。そのため、表8.3.3-4（p8.3-102）に示すように、生息する可能性がある改変域の林内にて、工事の実施前に再度調査し、生息が確認された場合には必要な対策を取ることとした。

さらに、流域内で7基の鉄塔を建替える計画である南又川（対象事業実施区域の西端）と、対象事業実施区域内の東側に位置する十島川（富士川左岸）について、水質浄化、水源かん養の観点で地形の変化の影響について検討した。南又川及び十島川の流域面積と流域内の改変域の面積は表8.4.1-2に示すとおりである。

表8.4.1-2　南又川及び十島川の流域面積と流域内の改変域の面積

河川名	流域面積（km²）	流域内工事用地	改変面積（km²）
南又川	約7.1	新143、新145、新146、新147、新148、新149、新150の各鉄塔工事用地、ヘリコプター荷下ろし場、モノレール基地、モノレールルート線下伐採、架線線下、索道線下及び(新)第2ヘリポート	約0.07
十島川	約1.2	新168と新169の鉄塔工事用地と線下伐採	約0.008

注：1. 南又川、十島川の流域面積は、「地理院地図」（国土地理院地図ホームページ）から算出した数値である。
2. 改変面積は、図1.4-11～図1.4-27に記載されている数値等から算出した数値である。

南又川の流域面積（約7.1km²）に対し、改変域の面積（約0.07km²）は流域面積の約1.0%に、十島川の流域面積（約1.2km²）に対し、改変域の面積（約0.008km²）は流域面積の約0.7%に相当する。改変域においても地面への浸透があることから、改変域での水

※今回の変更による元第２ヘリポート（基地）の造成面積減は、
約0.296ha（0.00296k㎡）により、改変面積に大きく変わり無い。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

質浄化機能が0ではないが、仮に水質浄化機能が0と仮定しても、工事が水質浄化機能に与える影響はほとんどないと考えられる。水源かん養の観点では、裸地の貯留機能は森林の貯留機能の約30%、草地の貯留機能は森林の貯留機能の約50%とされており（「水源涵養機能」林野庁ホームページ）、水質浄化機能と同様に、工事が水源かん養機能に与える影響はほとんどないと考えられる。

以上より、一時的に現在の地形を狭い範囲で変化させるものの地形は元の形状に復元すること、沢、河川などの流水部に構造物を設置しないことから、工事の実施による水質浄化、水源かん養、浸食防止への影響はほとんどないと考えられる。したがって、生態系の果たす重要な機能である水源かん養等が変化することはほとんどなく、「地形の変化」に関して生態系を影響評価する必要はないと考えられる。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b.　植生概要調査

調査地域における環境類型区分図は図 8.4.3-18 のとおりであり、環境類型区分及び対応する植生は表 8.4.3-11 に示すとおりである。また、調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積は表 8.4.3-12 に示すとおりである。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

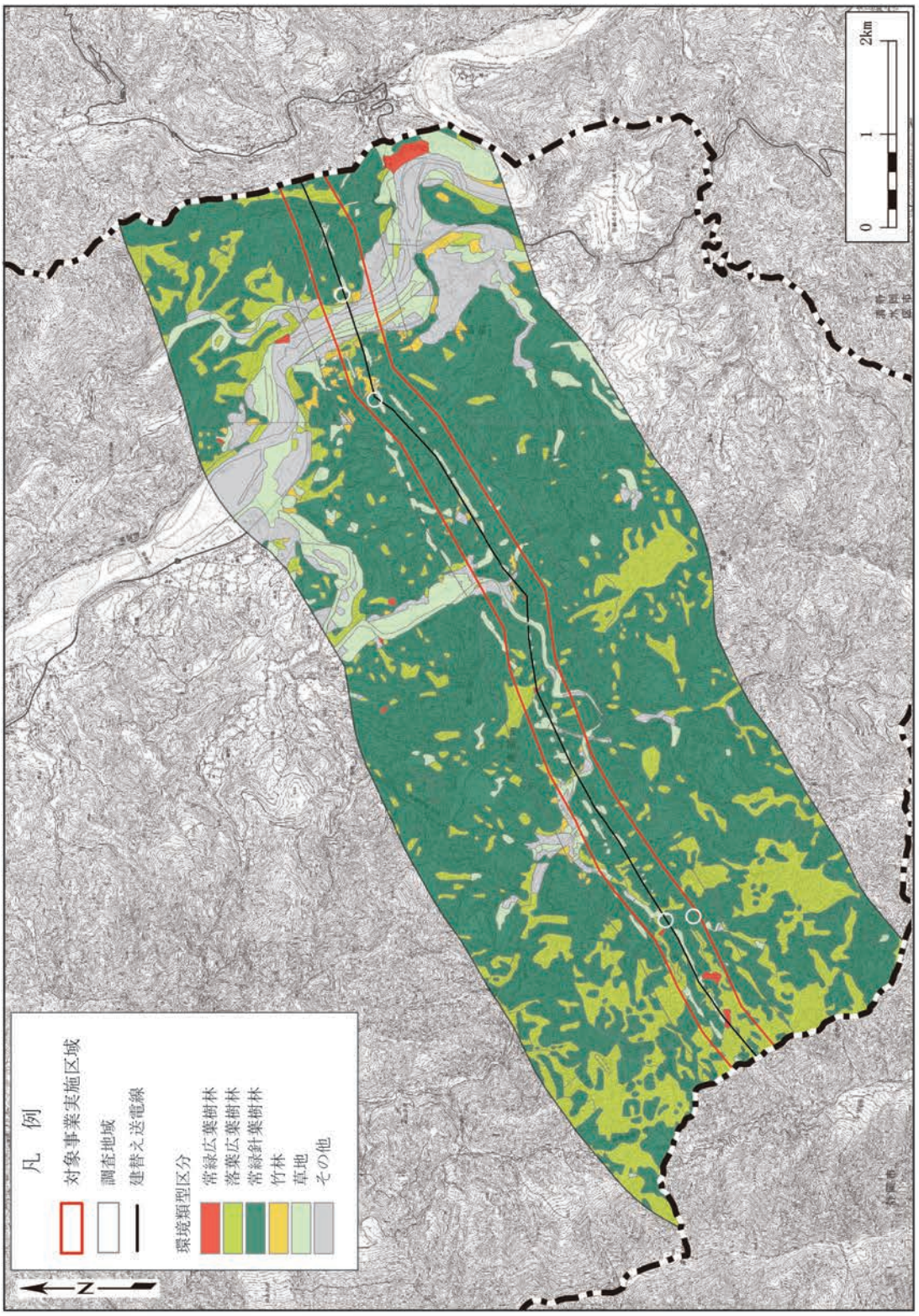


図 8.4.3-18　環境類型区分図

『凡例』白丸◎：今回の変更箇所
（伐採、造成減：主に常緑針葉樹林）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2.　予測の結果

(1)　工事の実施（工事用資材等の搬入出、造成等の施工）、工作物の存在（送電線路の存在）

①　予測地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

②　予測対象時期

工事による影響が最大になると想定される基礎工事の時期及び使用開始後（令和10年度）とした。

③　予測手法

クマタカの営巣期高利用域、繁殖行動、好適営巣環境、好適採食環境及び餌資源を整理し、事業の実施に伴うクマタカの繁殖及び採餌への影響を予測した。

④予測結果

a.　繁殖への影響

(a)　営巣期高利用域への影響

クマタカの営巣期高利用域は図8.4.3-10に示すとおりであり、営巣期高利用域は主に対象事業実施区域の中央から西側を含んでいる。高利用域内のうち対象事業実施区域と重なるのは表8.4.3-22に示すように、南又川ペアで17.3%、石合川ペアで17.7%であり、事業の実施により影響を及ぼす可能性がある。しかし、既設鉄塔より建替え鉄塔を高くし線下伐採の面積を減らすことで、改変範囲を縮小すること、工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化すること等により、樹木伐採の改変範囲を必要最小限とすることから、事業の実施によるクマタカの営巣期高利用域への影響は少ないものと予測する。

表 8.4.3-22　　対象事業実施区域と営巣期高利用域の重なり

	南又川ペア	石合川ペア
営巣期高利用域	17.3%	17.7%

(b)　繁殖行動への影響

クマタカの繁殖行動の確認位置は図8.4.3-11に示すとおりであり、営巣期に餌運びやＶ字ディスプレイ等が確認されており、また、対象事業実施区域周辺では営巣地（2箇所）が存在している。工事中は樹木伐採やヘリコプターによる工事用資機材等の運搬を計画しており、これらが実施されると、クマタカの繁殖に影響を及ぼす可能性がある。

しかし、樹木伐採等の改変範囲を必要最小限とし、ヘリコプターは不必要な飛行を避け夜間の飛行は行わないことから、事業の実施によるクマタカの繁殖行動（営巣）への影響は少ないものと予測する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

(c)　好適営巣環境への影響

クマタカの好適営巣環境は図8.4.3-15に示すとおりであり、対象事業実施区域はクマタカ高利用域内の好適営巣環境の一部と重なるが（表8.4.3-23）、営巣中心域とはほとんど重ならない。また、樹林伐採等の改変範囲を必要最小限とする。このことから、工事の実施及び工作物の存在によるクマタカの好適営巣環境への影響は少ないものと予測する。

なお、調査地域内では2つがい（南又川ペア、石合川ペア）の存在が確認されているが、両ペアの巣（南又川ペアは推定）から対象事業実施区域までの距離は何れも1km以上離れている。

表 8.4.3-23　　対象事業実施区域と好適営巣環境の重なり

	高利用域内メッシュ数	対象事業実施区域内メッシュ数
好適営巣環境	214	48

上記(a)～(c)の営巣期高利用域、繁殖行動及び好適営巣環境が重なる地域は、対象事業実施区域及びその周辺に生息するクマタカの繁殖にとって重要な地域と考えられるが、営巣中心域は図8.4.3-10に示すとおり対象事業実施区域の南側～南西側に広く分布している。営巣期高利用域と重なる重要と考えられる地域では、改変範囲を必要最小限とすること等から、工事の実施及び工作物の存在によるクマタカの繁殖への影響は少ないものと予測する。

b.　採餌への影響

(a)　好適採食環境への影響

事業実施前後での好適採食環境の面積の変化は表8.4.3-24に示すとおりであり、クマタカ高利用域内の好適採食環境の面積は1,326.4haで、工事の実施及び工作物の存在に伴う樹木伐採等により、好適採食環境は8.4ha減少する。しかし、事業実施前後での好適採食環境の変化割合が極めて小さいこと、建替え送電線の建設に支障となる既設送電線の撤去工事を行うことで植生の回復を図ることから、工事の実施及び工作物の存在によるクマタカの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。

表8.4.3-24　　事業実施前後での好適採食環境の変化

	事業実施前	事業実施後	変化量
好適採食環境	1,326.4ha	1,318.0ha	-8.4ha

※今回の変更によるクマタカ高利用域内の造成面積減は、約0.296haにより、事業実施後数量に大きく変わり無い。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

(b) **餌資源への影響**

餌資源への影響については、事業実施前後での餌量指数ランクの変化を用いて予測した。

事業実施前後での餌量指数ランクの変化は、クマタカの高利用域内における餌量指数ランクのメッシュ数について、営巣期及び非営巣期に区分して算出した。

事業実施前後での餌量指数ランクの変化は表 8.4.3-25 及び表 8.4.3-26 に示すとおりであり、餌量指数ランクは事業実施前後において営巣期でAランクとBランク、非営巣期でAランクとDランクがわずかに減少した。

事業実施前後での餌量指数ランクの変化割合は少ないこと、建替え送電線の建設に支障となる既設送電線の撤去工事を行うことで植生の回復を図ることから、工事の実施及び工作物の存在によるクマタカの餌資源への影響はほとんどないものと予測する。

表 8.4.3-25　事業実施前後での餌量指数ランクの変化（営巣期）

餌量指数ランク	餌量指数ランク別メッシュ数		
	事業実施前	事業実施後	変化量
A	160	158	-2
B	84	76	-8
C	16	24	+8
D	2	3	+1
E	1	2	+1

注：餌量指数ランクの区分は、表8.4.3-20に示す。

表 8.4.3-26　事業実施前後での餌量指数ランクの変化（非営巣期）

餌量指数ランク	餌量指数ランク別メッシュ数		
	事業実施前	事業実施後	変化量
A	100	96	-4
B	79	82	+3
C	44	46	+2
D	24	23	-1
E	16	16	0

注：餌量指数ランクの区分は、表8.4.3-20に示す。

上記 (a)～(b)から、工事の実施及び工作物の存在によるクマタカの採餌への影響はほとんどないものと予測する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b.　**生息環境分布調査**

環境類型区分及び対応する植生は表8.4.4-6、調査地域、対象事業実施区域における環境類型区分の面積は表8.4.4-7、環境類型区分図は図8.4.4-5に示すとおりである。

表 8.4.4-6　　環境類型区分及び対応する植生

環境類型区分	植　生
常緑広葉樹林	ウラジロガシ二次林、シラカシ二次林
落葉広葉樹林	アカシデーイヌシデ群落、イロハモミジーケヤキ群集、オニシバリーコナラ群集、クヌギーコナラ群集、クリーコナラ群集、その他植林（落葉広葉樹）、フサザクラ群落、ヤナギ高木群落
常緑針葉樹林	アカマツ群落、シキミーモミ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林
竹　林	竹林
草　地	オギ群集、カワラハハコーヨモギ群団、クズ群落、ススキ群団、チガヤーススキ群落、ツルヨシ群集、ヨシクラス、水田雑草群落、畑雑草群落、伐採跡地群落、路傍・空地雑草群落
その他	開放水域、工場地帯、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、自然裸地、緑の多い住宅地

表 8.4.4-7　　調査地域、対象事業実施区域における環境類型区分の面積

環境類型区分	占有面積(ha)	
	調査地域	対象事業実施区域
常緑広葉樹林	3.72	3.72
落葉広葉樹林	144.07	74.20
常緑針葉樹林	758.06	387.87
竹　林	20.46	10.78
草　地	103.37	67.55
その他	61.77	23.59

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

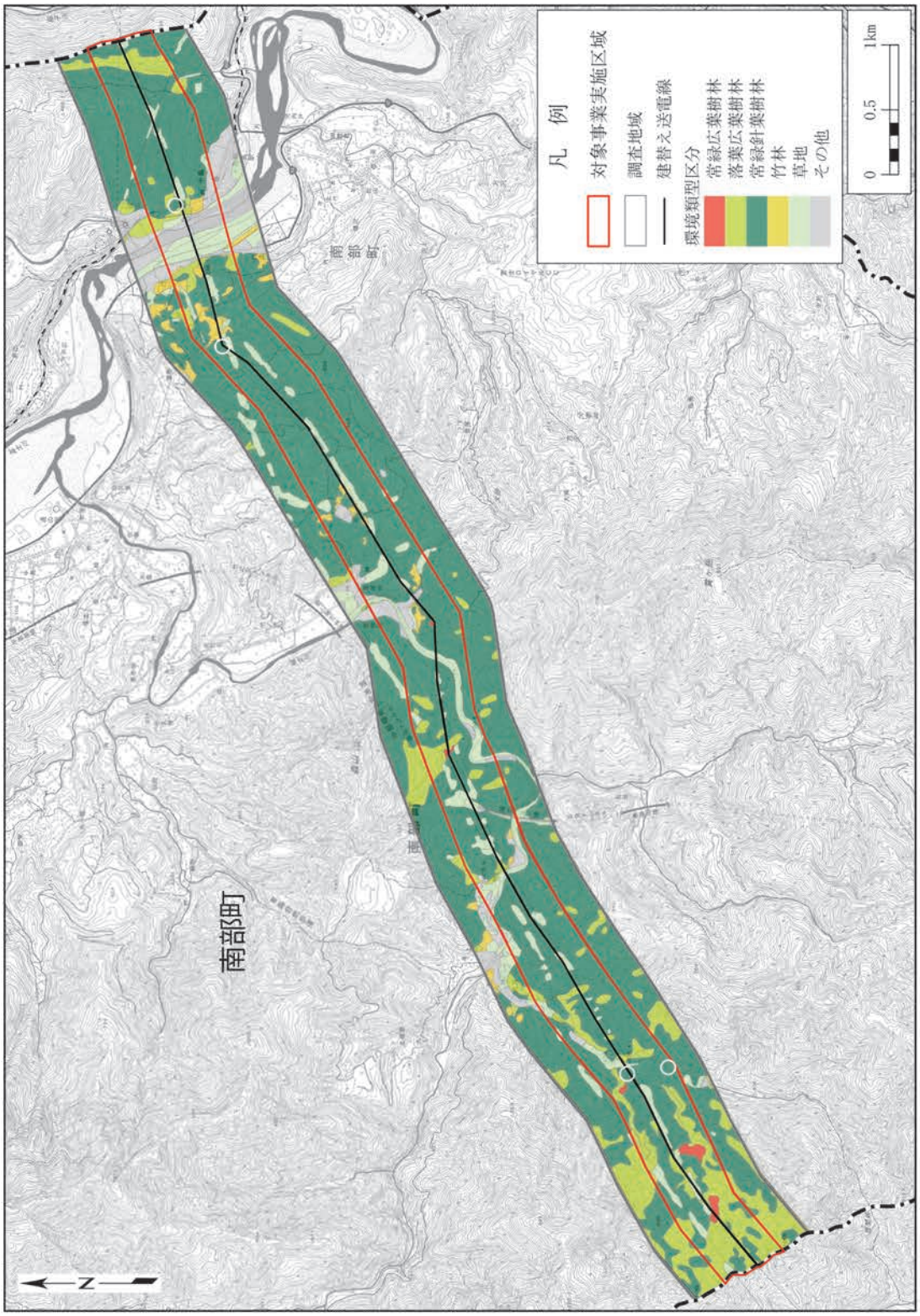


図 8.4.4-5　環境類型区分

〖凡例〗 白丸◎：今回の変更箇所
（伐採、造成減：主に常緑針葉樹林）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2. 予測の結果

(1) 工事の実施（工事用資材等の搬入出、造成等の施工）、工作物の存在（送電線路の存在）

① 予測地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

② 予測対象時期

工事による影響が最大になると想定される基礎工事の時期及び使用開始後（令和10年度）とした。

③ 予測手法

イタチの生息状況及び改変量をもとに、イタチへの影響を推定し、事業の実施に伴うイタチを上位性の指標とする地域を特徴づける生態系への影響を予測した。

④ 予測結果

a. 生息環境への影響

イタチの事業実施前後での主要な生息環境（常緑針葉樹林、竹林、草地）の面積変化は表8.4.4-11に示すとおりである。

事業の実施により10.08haの常緑針葉樹林、0.28haの竹林及び6.91haの草地が消失し、これは調査地域における常緑針葉樹林の1.3%、竹林の1.4%、草地の6.7%に該当する。対象事業実施区域では常緑針葉樹林の2.6%、竹林の2.6%、草地の10.2%に該当する。

事業の実施により消失する割合は草地が10%程度、常緑針葉樹林及び竹林がそれぞれ3%未満であり、同様の環境は周辺にも広く分布すること、保安伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられること、一方で、保安伐採により、一時的に草地環境が創出されることから、イタチの生息環境への影響は少ないものと予測する。

表 8.4.4-11　事業実施前後での主要な生息環境の面積変化

		事業実施前	事業実施後	変化量
常緑針葉樹林	調査地域	758.06 ha	747.98 ha	-10.08 ha
	対象事業実施区域	387.87 ha	377.79 ha	
竹　林	調査地域	20.46 ha	20.18 ha	-0.28 ha
	対象事業実施区域	10.78 ha	10.50 ha	
草　地	調査地域	103.37 ha	96.46 ha	-6.91 ha
	対象事業実施区域	67.55 ha	60.64 ha	

注：「変化量」は、四捨五入の関係で一致しないことがある。

※今回の変更による全造成面積の減少は、約0.82ha（常緑針葉樹林）により、事業実施後数量と変化量も減少する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b.　餌資源への影響

イタチの事業実施前後での主要な生息環境の餌資源変化(個体数)は、表8.4.4-12に示すとおりである。

調査地域の餌資源の現存量は、事業実施前は8,838.0個体であるが、事業実施後には8,644.3個体となり、193.6個体減少する。事業の実施により常緑針葉樹林において88.7個体、竹林において10.3個体、草地において94.7個体が消失し、これは調査地域における常緑針葉樹林の1.3%、竹林の1.4%、草地の6.7%に該当する。対象事業実施区域では常緑針葉樹林の2.6%、竹林の2.6%、草地の10.2%に該当する。

事業の実施により草地が10%程度、常緑針葉樹林及び竹林が3%未満消失することとなり、そこに生息している餌資源も減少するが、同様の環境は周辺部にも広く分布する。また、常緑針葉樹林については事業の実施により裸地化した場所が草地環境に変化した場合、小型哺乳類の生息数は改変後に増加するものと考えられる。さらに、保安伐採により草地環境は一時的に創出されることとなる。

以上のことから、イタチの餌資源への影響は少ないものと予測する。

表 8.4.4-12　事業実施前後での主要な生息環境の餌資源変化(個体数)

		事業実施前	事業実施後	変化量
常緑針葉樹林	調査地域	6,670.9	6,582.2	-88.7
	対象事業実施区域	3,413.3	3,324.6	
竹　林	調査地域	750.9	740.6	-10.3
	対象事業実施区域	395.6	385.4	
草　地	調査地域	1,416.2	1,321.5	-94.7
	対象事業実施区域	925.4	830.8	
合　計	調査地域	8,838.0	8,644.3	-193.6
	対象事業実施区域	4,734.3	4,540.7	

注:「変化量」は、四捨五入の関係で一致しないことがある。

上記　a.～b.から、工事の実施及び工作物の存在によるイタチへの影響は少ないものと予測する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b. **植生概要調査**

環境類型区分及び対応する植生は表8.4.5-7、調査地域、対象事業実施区域における環境類型区分の面積は表8.4.5-8、環境類型区分図は図8.4.5-7に示すとおりである。

表 8.4.5-7　環境類型区分及び対応する植生

環境類型区分	植　生
常緑広葉樹林	ウラジロガシ二次林、シラカシ群集、シイ・カシ二次林、イノデータブノキ群集
落葉広葉樹林	アカシデーイヌシデ群落、イロハモミジーケヤキ群集、オニシバリーコナラ群集、クヌギーコナラ群集、クリーコナラ群集、その他植林（落葉広葉樹）、フサザクラ群落、ヤナギ高木群落、ヤナギ低木群落、オオモミジーケヤキ群集、フクオウソウーミズナラ群集、スズタケーブナ群集、ヤマタイミンガサーサワグルミ群集
常緑針葉樹林	アカマツ群落、アカマツ植林、カラマツ植林、シキミーモミ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ群落、コカンスゲーツガ群集
竹　林	竹林、アズマネザサ群落、モウソウチク林
草　地	オギ群集、カワラハハコーヨモギ群団、クズ群落、ススキ群団、チガヤーススキ群落、ツルヨシ群集、ヨシクラス、水田雑草群落、畑雑草群落、伐採跡地群落、路傍・空地雑草群落、果樹園、茶畑、河辺一年生草本群落、牧草地・ゴルフ場・芝地、アズマネザサーススキ群集
その他	開放水域、工場地帯、残存・植栽樹群をもった公園、自然裸地、緑の多い住宅地、市街地、造成地

表 8.4.5-8　調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積

環境類型区分	占有面積(ha)	
	調査地域	対象事業実施区域
常緑広葉樹林	10.96	3.72
落葉広葉樹林	783.22	74.20
常緑針葉樹林	2,895.24	387.87
竹　林	40.22	10.78
草　地	341.15	67.55
その他	336.01	23.59

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

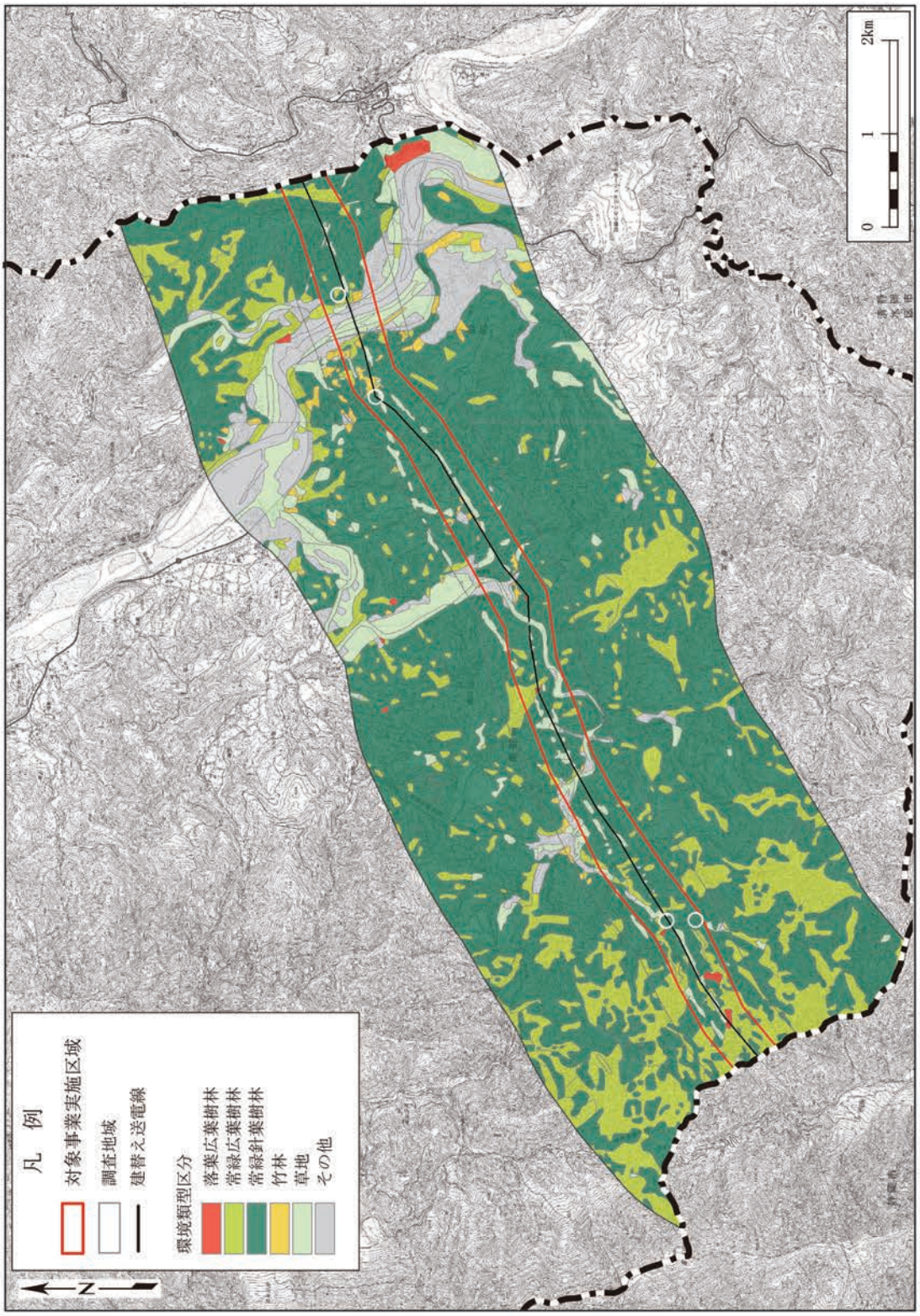


図 8.4.5-7　環境類型区分

〖凡例〗白丸◎：今回の変更箇所
（伐採、造成減：主に常緑針葉樹林）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2. 予測の結果

(1) 工事の実施（工事用資材等の搬入出、造成等の施工）、工作物の存在（送電線路の存在）

① 予測地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

② 予測対象時期

工事による影響が最大になると想定される基礎工事の時期及び使用開始後（令和10年度）とした。

③ 予測手法

ノスリの生息状況及び改変量をもとに、ノスリへの影響を推定し、事業の実施に伴うノスリを上位性の指標とする地域を特徴づける生態系への影響を予測した。

④ 予測結果

a. 生息環境への影響

現地調査結果及び表8.4.5-2の記載によれば、ノスリの主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑針葉樹林、草地と考えられることから、これらの主要な生息環境における事業実施前後の面積変化は、表8.4.5-9に示すとおりである。

事業の実施により、1.62haの落葉広葉樹林、10.08haの常緑針葉樹林及び6.91haの草地が消失し、これは調査地域における落葉広葉樹林の0.2%、常緑針葉樹林の0.3%、草地の2.0%に該当する。対象事業実施区域では落葉広葉樹林の2.2%、常緑針葉樹林の2.6%、草地面積の10.2%に該当する。

事業の実施により消失する割合は落葉広葉樹林及び常緑針葉樹林が3%未満、草地が10%程度であり、同様の環境は周辺部にも広く分布すること、保安伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられること、一方で、保安伐採により、一時的に草地環境が創出されることから、ノスリの生息環境への影響は少ないものと予測する。

表 8.4.5-9　事業実施前後での主要な生息環境の面積変化

		事業実施前	事業実施後	変化量
落葉広葉樹林	調査地域	783.22ha	781.60ha	-1.62ha
	対象事業実施区域	74.20ha	72.58ha	
常緑針葉樹林	調査地域	2,895.24ha	2,885.16ha	-10.08ha
	対象事業実施区域	387.87ha	377.79ha	
草　地	調査地域	341.15ha	334.24ha	-6.91ha
	対象事業実施区域	67.55ha	60.64ha	

注：「変化量」は、四捨五入の関係で一致しないことがある。

※今回の変更による全造成面積の減少は、約0.82ha（常緑針葉樹林）により、事業実施後数量と変化量も減少する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b.　繁殖行動への影響

ノスリの繁殖行動の確認位置は図8.4.5-5に示すとおりであり、対象事業実施区域で波状ディスプレイが2回、攻撃行動が2回確認され、対象事業実施区域外では餌運搬が1回確認されている。

しかしながら、その後確認が散発的であったこと、繁殖指標行動も確認されなかったことから、調査地域に営巣地はなく、調査地域外で繁殖している個体が飛来している可能性が考えられる。

以上のことから、ノスリの繁殖行動への影響は少ないものと予測する。

上記 a.～b.から、工事の実施及び工作物の存在によるノスリへの影響は少ないものと予測する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b.　**生息環境分布調査**

現存植生図を整理した環境類型区分及び植生は表8.4.6-6、環境類型区分図は、図8.4.6-4、調査地域内の各環境類型区分の面積は表8.4.6-7に示すとおりである。

表 8.4.6-6　　環境類型区分及び対応する植生

環境類型区分	植　生
常緑広葉樹林	ウラジロガシ二次林、シラカシ二次林
落葉広葉樹林	アカシデーイヌシデ群落、イロハモミジーケヤキ群集、オニシバリーコナラ群集、クヌギーコナラ群集、クリーコナラ群集、その他植林（落葉広葉樹）、フサザクラ群落、ヤナギ高木群落
常緑針葉樹林	アカマツ群落、シキミーモミ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林
竹　林	竹林
草　地	オギ群集、カワラハハコーヨモギ群団、クズ群落、ススキ群団、チガヤ-ススキ群落、ツルヨシ群集、ヨシクラス、水田雑草群落、畑雑草群落、伐採跡地群落、路傍・空地雑草群落
その他	開放水域、工場地帯、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、自然裸地、緑の多い住宅地

表 8.4.6-7　　調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積

環境類型区分	占有面積(ha)	
	調査地域	対象事業実施区域
常緑広葉樹林	3.72	3.72
落葉広葉樹林	144.07	74.20
常緑針葉樹林	758.06	387.87
竹　林	20.46	10.78
草　地	103.37	67.55
その他	61.77	23.59

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

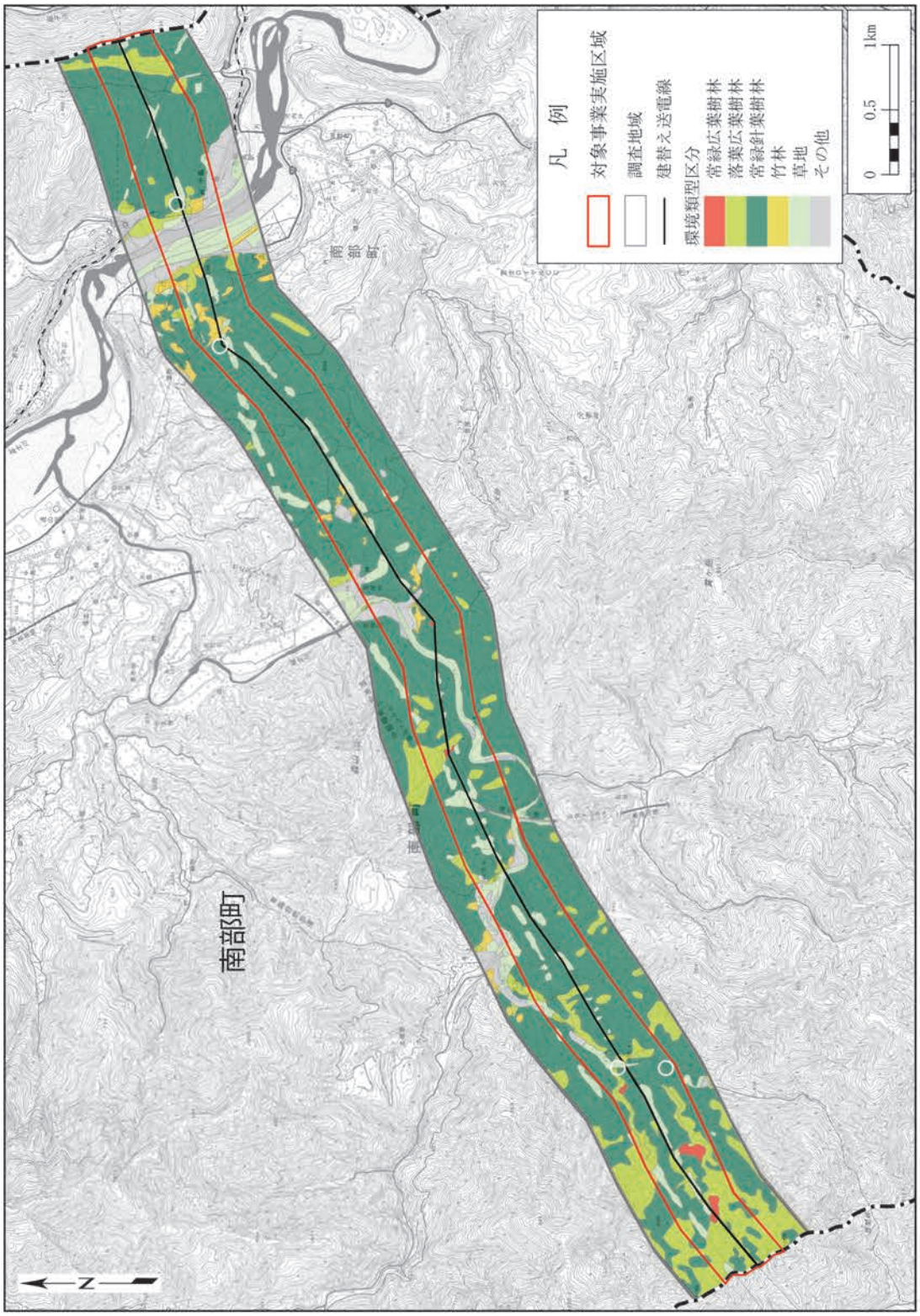


図 8.4.6-4　環境類型区分

〖凡例〗白丸◎：今回の変更箇所
（伐採、造成減：主に常緑針葉樹林）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2. 予測の結果

(1) 工事の実施（工事用資材等の搬入出、造成等の施工）、工作物の存在（送電線路の存在）

① 予測地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

② 予測対象時期

工事による影響が最大になると想定される基礎工事の時期及び使用開始後（令和10年度）とした。

③ 予測手法

シジュウカラの生息状況、餌量及び改変量をもとに、シジュウカラへの影響を推定し、事業の実施に伴うシジュウカラを典型性の指標とする地域を特徴づける生態系への影響を予測した。

④ 予測結果

a. 生息環境の変化

調査地域内の各環境類型区分事業実施前後の面積については、表8.4.6-16に示すとおりである。全ての環境類型区分が事業により改変の影響を受ける。

表 8.4.6-16　調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積

環境類型区分	占有面積(ha) 調査地域 事業実施前	占有面積(ha) 調査地域 事業実施後	変化量	占有面積(ha) 対象事業実施区域 事業実施前	占有面積(ha) 対象事業実施区域 事業実施後	変化量
常緑広葉樹林	3.72	3.39	-0.33	3.72	3.39	-0.33
落葉広葉樹林	144.07	142.45	-1.62	74.20	72.58	-1.62
常緑針葉樹林	758.06	747.98	-10.08	387.87	377.79	-10.08
竹　林	20.46	20.18	-0.28	10.78	10.50	-0.28
草　地	103.37	96.46	-6.91	67.55	60.64	-6.91
その他	61.77	61.52	-0.25	23.59	23.34	-0.25
合計	1,091.45	1,071.98	-19.47	567.71	548.24	-19.47

注：「変化量」は、四捨五入の関係で一致しないことがある。

※今回の変更による全造成面積の減少は、約0.82ha（常緑針葉樹林）により、事業実施後数量と変化量も減少する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b.　生息個体数への影響

シジュウカラの事業実施前後での生息個体数の変化は、表8.4.6-17に示すとおりである。

調査地域及び対象事業実施区域において、繁殖期の春季では概ね2個体が影響を受け、夏季には概ね3個体が影響を受ける。個体数が最も多い非繁殖期である秋季で概ね9個体が影響を受け、冬季では概ね2個体が影響を受ける。これは全季を通じて対象事業実施区域に生息する個体の5%以下（平均4.2%）である。

以上のことから、シジュウカラの生息個体数への影響は少ないものと予測する。

表 8.4.6-17　　シジュウカラの事業実施前後での推定生息個体数の変化

				事業実施前	事業実施後	変化量
調査地域	生息環境	面積		1091.45ha	1071.98ha	−19.47ha
	シジュウカラ個体数	繁殖期	春季	128.71個体	126.74個体	−1.97個体
			夏季	161.53個体	158.39個体	−3.14個体
		非繁殖期	秋季	317.77個体	309.26個体	−8.51個体
			冬季	106.84個体	104.68個体	−2.16個体
対象事業実施区域	生息環境	面積		567.71ha	548.24ha	−19.47ha
	シジュウカラ個体数	繁殖期	春季	65.10個体	63.13個体	−1.97個体
			夏季	83.32個体	80.18個体	−3.14個体
		非繁殖期	秋季	174.24個体	165.73個体	−8.51個体
			冬季	55.62個体	53.46個体	−2.16個体

注：1. 繁殖期、非繁殖期の期間は図8.4.6-1による。
2. 推定生息個体数は表8.4.6-5に示した季節別、環境類型区分別生息密度に表8.4.6-16の事業実施前後における調査地域、対象事業実施区域の面積を乗じることで算出した。
3. 調査地域合計、対象事業実施区域合計には、環境類型区分「その他」は集計していない。
4. 表中の数値は、四捨五入の関係で個別の計算値と一致しないことがある。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

c. **餌資源への影響**

事業実施前後における昆虫類の生息現存量の変化は表8.4.6-18のとおりである。対象事業実施区域における繁殖期の餌動物の現存量は、事業実施前は360.23kg（落下糞量344.77kg、採集調査15.46kgの合計）であるが、事業実施後には347.83kg（落下糞量333.32kg、採集調査14.51kgの合計）となり、12.40kg減少する。また、非繁殖期では餌動物は937.30kg（落下糞量933.15kg、採集調査4.15kgの合計）であるが、事業実施後には909.51kg（落下糞量905.62kg、採集調査3.89kgの合計）となり、餌動物は27.79kg減少する。

また、対象事業実施区域における繁殖期の餌植物の現存量は、事業実施前は14,792.64kgであるが、事業実施後には14,464.56kgとなり、328.08kg減少する。なお、非繁殖期では餌植物は4,118.11kgであるが、事業実施後には3,918.00kgとなり、餌植物は200.11kg減少する。

表8.4.6-18　事業実施前後でのシジュウカラ餌量の変化

				事業実施前	事業実施後	変化量（変化率）
調査地域	生息環境	面積		1,091.45ha	1,071.98ha	-19.47ha（1.78%）
	シジュウカラ餌量	繁殖期	餌動物（落下糞量）	659.21kg	647.75kg	-11.46kg（-1.74%）
			餌動物（採集調査）	27.07kg	26.12kg	-0.95kg（-3.51%）
			餌植物	28,708.95kg	28,380.87kg	-328.08kg（-1.14%）
		非繁殖期	餌動物（落下糞量）	1,791.69kg	1,764.15kg	-27.53kg（-1.54%）
			餌動物（採集調査）	7.22kg	6.96kg	-0.26kg（-3.60%）
			餌植物	6,543.92kg	6,343.81kg	-200.11kg（-3.06%）
対象事業実施区域	生息環境	面積		567.71ha	548.24ha	-19.46ha（3.43%）
	シジュウカラ餌量	繁殖期	餌動物（落下糞量）	344.77kg	333.32kg	-11.45kg（-3.32%）
			餌動物（採集調査）	15.46kg	14.51kg	-0.95kg（-6.14%）
			餌植物	14,792.64kg	14,464.56kg	-328.08kg（-2.22%）
		非繁殖期	餌動物（落下糞量）	933.15kg	905.62kg	-27.53kg（-2.95%）
			餌動物（採集調査）	4.15kg	3.89kg	-0.26kg（-6.27%）
			餌植物	4,118.11kg	3,918.00kg	-200.11kg（-4.86%）

注：1. 繁殖期、非繁殖期の期間は図8.4.6-1による。
2. 餌量は表8.4.6-12、表8.4.6-13、表8.4.6-14、表8.4.6-15に示した季節別、環境類型区分別現存量に表8.4.6-16の調査地域、対象事業実施区域の面積を乗じることで算出した。
3. 調査地域合計、対象事業実施区域合計には、環境類型区分「その他」は集計していない。
4. 表中の数値は、四捨五入の関係で個別の計算値と一致しないことがある。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

シジュウカラ餌量の必要量は表8.4.6-19に示すとおりである。

表 8.4.6-19　　シジュウカラ餌量の必要量

区分		エネルギー量または餌量	計算方法
シジュウカラの生重量：平均体重（W）		15.5g	
シジュウカラが1日に必要なエネルギー（Y）		31.49kJ	$Y=5.45W^{0.640}$
餌動物（昆虫類）の場合	乾燥重量1g当たりのエネルギー(a)	21.61kJ	
	1日の必要量	1.46g	Y/a
餌植物（樹木種子）の場合	乾燥重量1g当たりのエネルギー(b)	19.85kJ	
	1日の必要量	1.59g	Y/b

注：エネルギー量の算出式は、「鳥類の食物連鎖と住環境に関する一考察」（青島正和、大成建設技術研究所法第33号、平成12年）に基づく。

シジュウカラ成鳥1個体が1日に必要な餌動物の現存量は、餌動物の乾燥重量1gあたりのエネルギー量から試算すると1.46g、餌植物（樹木種子）の乾燥重量1gあたりのエネルギー量から試算すると1.59gとなる。

繁殖期である5月～7月までの間の92日間では餌動物で134.32g、餌植物（樹木種子）で146.28gとなる。シジュウカラは繁殖期においてはほぼ完全な昆虫食性鳥類であることから、餌動物の必要量について予測した。

1羽（個体）の雛が育つのに必要な餌量は乾燥重量で平均11.25gが必要であることが報告されている（「森に棲む野鳥の生態学」（創文、昭和63年））。1巣あたりの卵数は7～10個であることから、最大10個体の雛が育つと考えると、繁殖期に必要な餌量は以下に示すとおり、成鳥2個体（1つがい）と雛10個体で381.14gとなる。

対象事業実施区域の繁殖期の主な餌となる餌動物量360.23kgは、945.14つがいの繁殖に必要な餌量に相当する。事業の実施により減少する繁殖期の餌量12.40kgは32.53つがいの繁殖に必要な餌量に相当する。

一方、現地調査で推定された対象事業実施区域のシジュウカラの個体数春季65.10個体、夏季83.32個体、秋季174.24個体、冬季55.62個体であり、文献その他の資料（表8.4.6-1の文献番号②）で一夫一妻とされていることから、繁殖期後半の夏季の推定個体数を基準とすれば42つがいが繁殖すると考えられる。

対象事業実施区域には945.14つがいの繁殖に必要な餌量が存在する。事業の実施により、そのうち32.53つがい分の餌量が減少するが912.61つがい分の餌量が残存する。対象事業実施区域に生息するシジュウカラは42つがいであることから、事業実施後も繁殖に必要な十分な餌量が残存しており、事業の実施による餌量の減少の影響はほとんどないものと考えられる。

以上のことから、シジュウカラの餌資源への影響はほとんどないものと予測する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

上記　a.～c.から、工事の実施及び工作物の存在によるシジュウカラへの影響は少ないものと予測する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b.　**生息環境分布調査**

環境類型区分及び対応する植生は表8.4.7-7、調査地域、対象事業実施区域における環境類型区分の面積は表8.4.7-8、環境類型区分図は図8.4.7-5に示すとおりである。

表 8.4.7-7　　環境類型区分及び対応する植生

環境類型区分	植　生
常緑広葉樹林	ウラジロガシ二次林、シラカシ二次林
落葉広葉樹林	アカシデーイヌシデ群落、イロハモミジーケヤキ群集、オニシバリーコナラ群集、クヌギーコナラ群集、クリーコナラ群集、その他植林（落葉広葉樹）、フサザクラ群落、ヤナギ高木群落
常緑針葉樹林	アカマツ群落、シキミーモミ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林
竹　林	竹林
草　地	オギ群集、カワラハハコーヨモギ群団、クズ群落、ススキ群団、チガヤーススキ群落、ツルヨシ群集、ヨシクラス、水田雑草群落、畑雑草群落、伐採跡地群落、路傍・空地雑草群落
その他	開放水域、工場地帯、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、自然裸地、緑の多い住宅地

表 8.4.7-8　　調査地域、対象事業実施区域における環境類型区分の面積

環境類型区分	占有面積(ha)	
	調査地域	対象事業実施区域
常緑広葉樹林	3.72	3.72
落葉広葉樹林	144.07	74.20
常緑針葉樹林	758.06	387.87
竹　林	20.46	10.78
草　地	103.37	67.55
その他	61.77	23.59

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

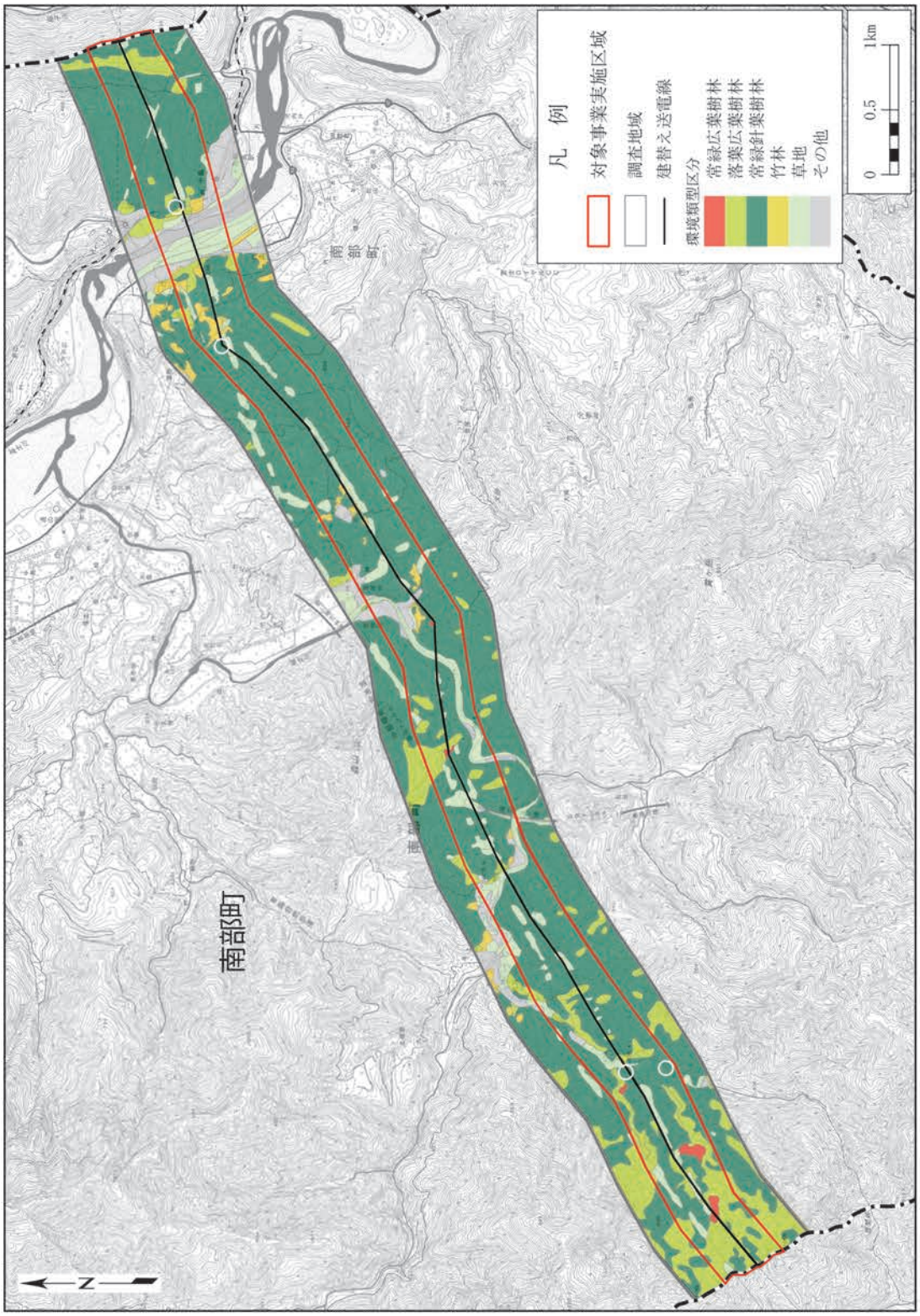


図 8.4.7-5　環境類型区分

『凡例』 白丸◎：今回の変更箇所
（伐採、造成減：主に常緑針葉樹林）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2. 予測の結果

(1) 工事の実施（工事用資材等の搬入出）、工作物の存在（送電線路の存在）

① 予測地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

② 予測対象時期

工事による影響が最大になると想定される基礎工事の時期及び使用開始後（令和10年度）とした。

③ 予測手法

ニホンジカの生息状況及び改変量をもとに、ニホンジカへの影響を推定し、事業の実施に伴うニホンジカを典型性の指標とする地域を特徴づける生態系への影響を予測した。

④ 予測結果

a. 生息環境への影響

ニホンジカの事業実施前後での主要な生息環境（常緑針葉樹林及び草地）の面積変化は、表8.4.7-9に示すとおりである。

事業の実施により10.08haの常緑針葉樹林及び6.91haの草地が消失し、これは調査地域における常緑針葉樹林面積の1.3%、草地面積の6.7%に該当する。対象事業実施区域では常緑針葉樹林面積の2.6%、草地面積の10.2%に該当する。

事業の実施により消失する割合は常緑針葉樹林が3%未満、草地が10%程度であり、同様の環境は周辺部にも広く分布すること、保安伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられること、一方で、保安伐採により、一時的に採餌場となる草地環境が創出されることから、ニホンジカの生息環境への影響は少ないものと予測する。

表 8.4.7-9　事業実施前後での主要な生息環境の面積変化

		事業実施前	事業実施後	変化量
常緑針葉樹林	調査地域	758.06ha	747.98ha	−10.08ha
	対象事業実施区域	387.87ha	377.79ha	
草　地	調査地域	103.37ha	96.46ha	−6.91ha
	対象事業実施区域	67.55ha	60.64ha	

注：「変化量」は、四捨五入の関係で一致しないことがある。

以上のことから、工事の実施及び工作物の存在によるニホンジカへの影響は少ないものと予測する。

※今回の変更による全造成面積の減少は、約0.82ha（常緑針葉樹林）により、事業実施後数量と変化量も減少する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b.　**生息環境分布調査**

環境類型区分及び対応する植生は表8.4.8-6、調査地域、対象事業実施区域における環境類型区分の面積は表8.4.8-7、環境類型区分図は図8.4.8-4に示すとおりである。

表 8.4.8-6　　環境類型区分及び対応する植生

環境類型区分	植　生
常緑広葉樹林	ウラジロガシ二次林、シラカシ二次林
落葉広葉樹林	アカシデーイヌシデ群落、イロハモミジーケヤキ群集、オニシバリーコナラ群集、クヌギーコナラ群集、クリーコナラ群集、その他植林（落葉広葉樹）、フサザクラ群落、ヤナギ高木群落
常緑針葉樹林	アカマツ群落、シキミーモミ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林
竹　林	竹林
草　地	オギ群集、カワラハハコーヨモギ群団、クズ群落、ススキ群団、チガヤーススキ群落、ツルヨシ群集、ヨシクラス、水田雑草群落、畑雑草群落、伐採跡地群落、路傍・空地雑草群落
その他	開放水域、工場地帯、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、自然裸地、緑の多い住宅地

表 8.4.8-7　　調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積

環境類型区分	占有面積(ha)	
	調査地域	対象事業実施区域
常緑広葉樹林	3.72	3.72
落葉広葉樹林	144.07	74.20
常緑針葉樹林	758.06	387.87
竹　林	20.46	10.78
草　地	103.37	67.55
その他	61.77	23.59

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

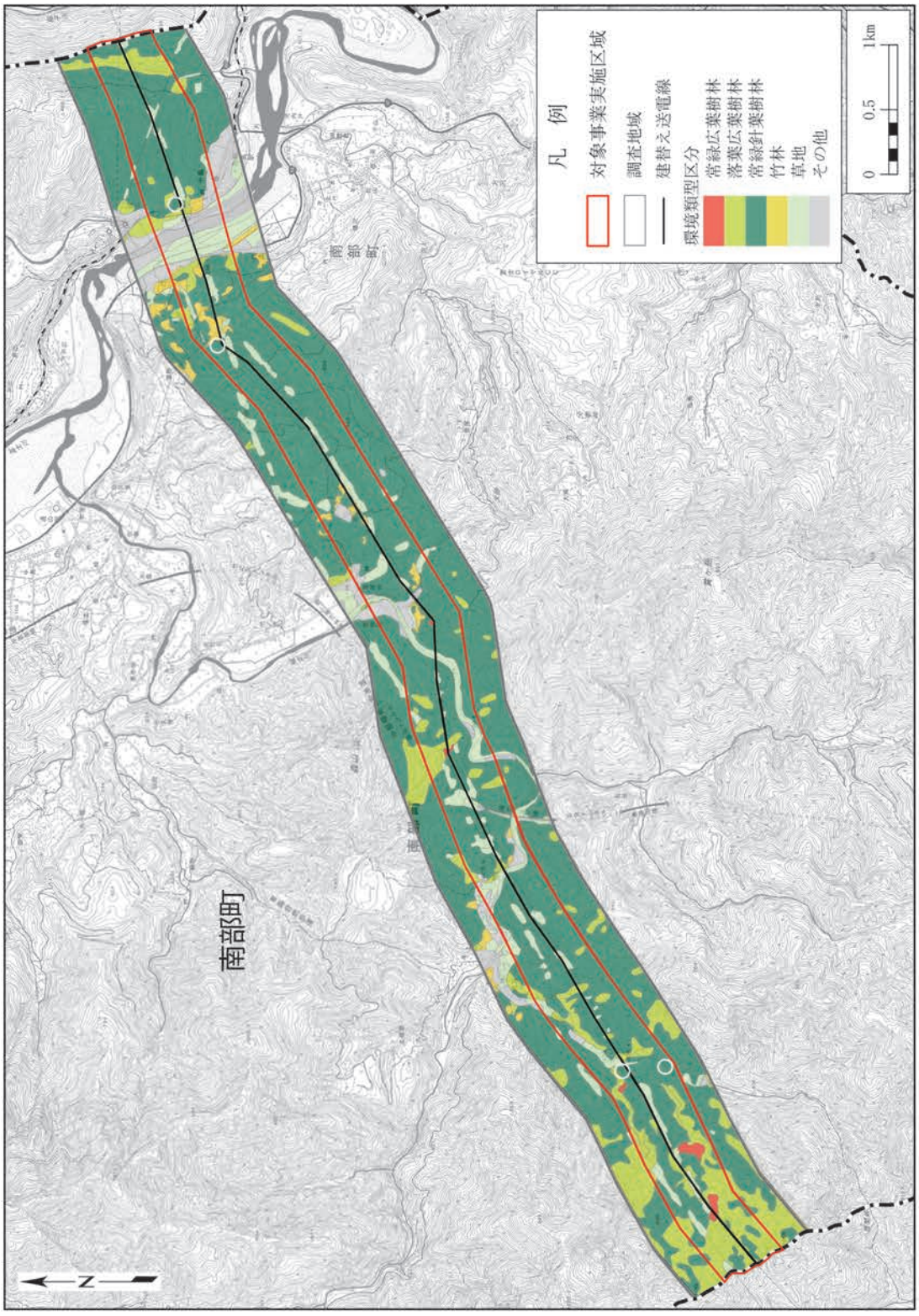


図 8.4.8-4　環境類型区分

〖凡例〗 **白丸◎**：今回の変更箇所
（伐採、造成減：主に常緑針葉樹林）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2. 予測の結果

(1) 工事の実施（工事用資材等の搬入出、造成等の施工）、工作物の存在（送電線路の存在）

① 予測地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

② 予測対象時期

工事による影響が最大になると想定される基礎工事の時期及び使用開始後（令和10年度）とした。

③ 予測手法

ホオジロの生息状況及び改変量をもとに、ホオジロへの影響を推定し、事業の実施に伴うホオジロを典型性の指標とする地域を特徴づける生態系への影響を予測した。

④ 予測結果

a. 生息環境の変化

調査地域内の各環境類型区分事業実施前後の面積については、表8.4.8-9に示すとおりである。全ての環境類型区分が事業により改変の影響を受ける。

表 8.4.8-9　調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積

環境類型区分	占有面積(ha) 調査地域		変化量	占有面積(ha) 対象事業実施区域		変化量
	事業実施前	事業実施後		事業実施前	事業実施後	
常緑広葉樹林	3.72	3.39	-0.33	3.72	3.39	-0.33
落葉広葉樹林	144.07	142.45	-1.62	74.20	72.58	-1.62
常緑針葉樹林	758.06	747.98	-10.08	387.87	377.79	-10.08
竹　林	20.46	20.18	-0.28	10.78	10.50	-0.28
草　地	103.37	96.46	-6.91	67.55	60.64	-6.91
その他	61.77	61.52	-0.25	23.59	23.34	-0.25
合計	1,091.45	1,071.98	-19.47	567.71	548.24	-19.47

注：「変化量」は、四捨五入の関係で一致しないことがある。

※今回の変更による全造成面積の減少は、約0.82ha（常緑針葉樹林）により、事業実施後数量と変化量も減少する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b.　生息個体数への影響

ホオジロの事業実施前後での推定生息個体数の変化は、表8.4.8-10に示すとおりである。

調査地域及び対象事業実施区域において、個体数が最も多い春季で概ね6個体が影響を受け、また夏季には概ね3個体が影響を受ける。非繁殖期の秋季では概ね5個体が影響を受け、冬季では概ね3個体が影響を受ける。これは全季を通じて対象事業実施区域に生息する個体の10%以下（平均5.8%）あり、事業の実施により影響を受ける個体は少ないことから、ホオジロへの影響は少ないものと予測する。

表 8.4.8-10　ホオジロの事業実施前後での推定生息個体数の変化

			事業実施前	事業実施後	変化量
調査地域					
生息環境	面積		1,091.45ha	1,071.98ha	-19.47ha
ホオジロ個体数	繁殖期	春季	220.67個体	214.35個体	-6.32個体
		夏季	97.55個体	95.04個体	-2.51個体
	非繁殖期	秋季	119.85個体	115.25個体	-4.60個体
		冬季	80.19個体	76.84個体	-3.35個体
対象事業実施区域					
生息環境	面積		567.71ha	548.24ha	-19.47ha
ホオジロ個体数	繁殖期	春季	121.75個体	115.43個体	-6.32個体
		夏季	52.60個体	50.08個体	-2.52個体
	非繁殖期	秋季	67.68個体	63.08個体	-4.60個体
		冬季	47.25個体	43.90個体	-3.35個体

注：1. 繁殖期、非繁殖期の期間は図8.4.8-1による。
2. 推定個体数は表8.4.8-5に示した季節別、環境類型区分別生息密度に表8.4.8-9事業実施前後における対象事業実施区域の面積を乗じることで算出した。
3. 調査地域合計、対象事業実施区域合計には、環境類型区分「その他」は集計していない。
4. 表中の数値は、四捨五入の関係で個別の計算値と一致しないことがある。

上記　a.～b.から、工事の実施及び工作物の存在によるホオジロへの影響は少ないものと予測する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

b.　**生息環境分布調査**

環境類型区分及び対応する植生は表8.4.9-7、調査地域及び対象事業実施区域における環境類型区分の面積は表8.4.9-8、環境類型区分図は図8.4.9-4に示すとおりである。

表 8.4.9-7　　環境類型区分及び対応する植生

環境類型区分	植　生
常緑広葉樹林	ウラジロガシ二次林、シラカシ二次林
落葉広葉樹林	アカシデーイヌシデ群落、イロハモミジーケヤキ群集、オニシバリーコナラ群集、クヌギーコナラ群集、クリーコナラ群集、その他植林（落葉広葉樹）、フサザクラ群落、ヤナギ高木群落
常緑針葉樹林	アカマツ群落、シキミーモミ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林
竹　林	竹林
草　地	オギ群集、カワラハハコーヨモギ群団、クズ群落、ススキ群団、チガヤーススキ群落、ツルヨシ群集、ヨシクラス、水田雑草群落、畑雑草群落、伐採跡地群落、路傍・空地雑草群落
その他	開放水域、工場地帯、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、自然裸地、緑の多い住宅地

表 8.4.9-8　　調査地域、対象事業実施区域における環境類型区分の面積

環境類型区分	占有面積(ha)	
	調査地域	対象事業実施区域
常緑広葉樹林	3.72	3.72
落葉広葉樹林	144.07	74.20
常緑針葉樹林	758.06	387.87
竹　林	20.46	10.78
草　地	103.37	67.55
その他	61.77	23.59

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

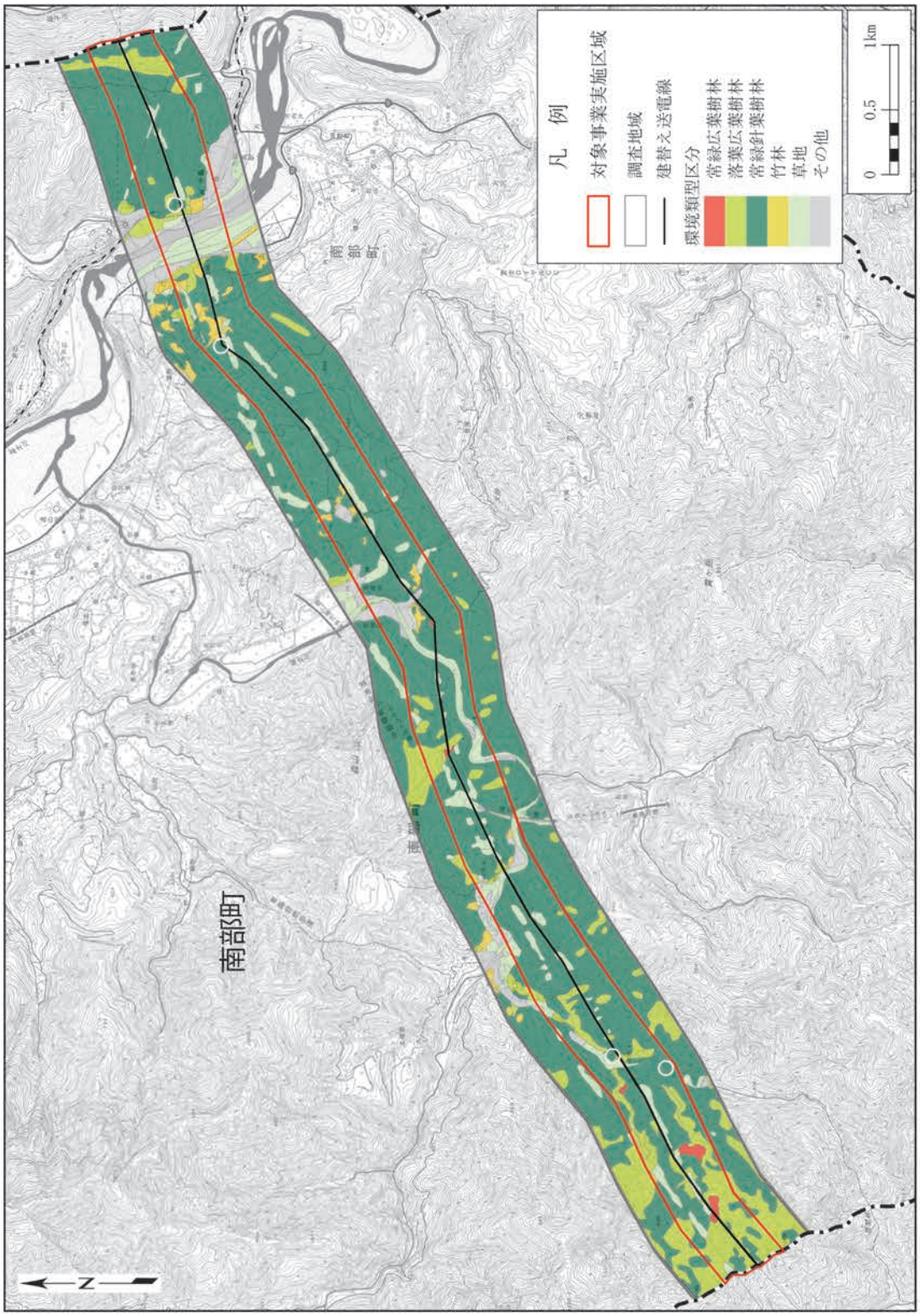


図 8.4.9-4　環境類型区分

『凡例』**白丸◎**：今回の変更箇所
（伐採、造成減：主に常緑針葉樹林）

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2. 予測の結果

(1) 工事の実施（工事用資材等の搬入出、造成等の施工）、工作物の存在（送電線路の存在）

① 予測地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

② 予測対象時期

工事による影響が最大になると想定される基礎工事の時期及び使用開始後（令和10年度）とした。

③ 予測手法

エンマコオロギの生息状況及び改変量をもとに、エンマコオロギへの影響を推定し、事業の実施に伴うエンマコオロギを典型性の指標とする地域を特徴づける生態系への影響を予測した。

④ 予測結果

a. 生息環境への影響

エンマコオロギの事業実施前後での主要な生息環境（草地）の面積変化は表8.4.9-9に示すとおりである。

事業の実施により6.91haの草地が消失し、これは調査地域における草地面積の6.7%、対象事業実施区域では10.2%に該当する。

事業の実施により消失する草地環境の割合は全体の10%程度であり、同様の環境は周辺にも広く分布すること、また、保安伐採により一時的に草地環境が創出されることから、エンマコオロギの生息環境への影響は少ないものと予測する。

表8.4.9-9　事業実施前後での主要な生息環境の面積変化

		事業実施前	事業実施後	変化量
草　地	調査地域	103.37ha	96.46ha	-6.91ha
	対象事業実施区域	67.55ha	60.64ha	

以上のことから、工事の実施及び工作物の存在によるエンマコオロギへの影響は少ないものと予測する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．４．１０　環境保全のための措置及び検討経緯

1.　注目種の選定経緯

注目種については、「8.4.2.注目種の選定」に示したとおりであり、上位性注目種は、以下の条件に適合している種を選定することとした。

・当該地域の生態系の上位に位置すること。
・行動圏が大きく、対象事業実施区域及びその周辺を含む比較的広い環境を代表すること。
・生態系の撹乱や環境変化等の影響を受けやすいこと。
・現地調査で十分なデータが得られており、対象事業実施区域が主要な生息環境であると判断されること、また生態系の分析評価が可能であること。
・対象事業実施区域及びその周辺を繁殖地、採餌場等の主要な生息地として利用していること。
・生態に関する知見が多く、生息・生育状況が把握しやすいこと。

現地調査結果を踏まえ検討した結果、「クマタカ」が最も適合していると判断し、これに次ぐ「イタチ」と「ノスリ」を加えた3種を上位性注目種として選定した。

一方、典型性注目種は、以下の条件に適合している種を選定することとした。

・当該地域の生態系において生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を担うこと。
・個体数あるいは現存量が多いこと。
・生態系の撹乱や環境変化等の影響を受けやすいこと。
・現地調査で十分なデータが得られており、対象事業実施区域が主要な生息環境であると判断されること、また生態系の分析評価が可能であること。
・対象事業実施区域及びその周辺を繁殖地、採餌場等の主要な生息地として利用していること。
・生態に関する知見が多く、生息・生育状況が把握しやすいこと。

現地調査結果を踏まえ検討した結果、「シジュウカラ」が最も適合していると判断し、これに次ぐ「ニホンジカ」、「ホオジロ」、「エンマコオロギ」を加えた4種を典型性注目種として選定した。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

対象事業実施区域は樹林（82.0%）と草地（11.9%）が大部分を占める。注目種として選定した「クマタカ」、「イタチ」、「ノスリ」、「シジュウカラ」、「ニホンジカ」、「ホオジロ」は樹林を生息環境としており、条件に適合したこれらの種への影響を予測することで、樹林を生息環境とするその他の種への影響を予測することにもつながる。同様に注目種として選定した「イタチ」、「ノスリ」、「ニホンジカ」、「ホオジロ」、「エンマコオロギ」は草地を生息環境としており、条件に適合したこれらの種への影響を予測することで、草地を生息環境とするその他の種への影響を予測することにもつながる。また、哺乳類、鳥類、昆虫類の中から選定することでバランスも考慮した。

以上のことから、当該地域を代表するこれら複数の注目種について、現地調査結果に基づき予測することは、注目種はもとより、注目種を支えている動植物を含めた生態系全体についても、影響を予測評価できるものと考えられる。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

2. 事業実施前後の環境類型区分の変化

「第 1 章　事業計画の概要」で記載したように、本事業の計画段階において、環境（生態系）に配慮した事項は、表 8.4.10-1 に示すとおりである。

また、「第 6 章　環境影響評価の項目」の表 6.1-3（p6.1-7）で記載したように、生態系に係る一般的な環境保全対策を表 8.4.10-2 に示すとおり実施する。

表 8.4.10-1　　事業計画段階において生態系に配慮した事項

対　象	配慮した事項
生態系	・樹林伐採等の改変範囲を必要最小限とする。
	・当初計画を変更し、建替え鉄塔を4基減らすことで、工作物の存在による影響を低減するとともに、改変範囲を縮小する。
	・既設鉄塔より建替え鉄塔を高くし線下伐採の面積を減らすことで、改変範囲を縮小する。
	・工事用資材等の運搬にあたっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化する。
	・建替え送電線の建設に支障となる既設送電線の撤去工事を行うことで、工作物の存在による影響を低減するとともに、植生の回復を図る。

表 8.4.10-2　　生態系に係る一般的な環境保全対策

対　象	一般的な環境保全対策
生態系	・工事時間は8～17時を基本とし、原則夜間工事は行わない計画とする。
	・低騒音・低振動型建設機械の採用に努める。
	・ヘリコプターは不必要な飛行を避け、夜間の飛行は行わない。
	・定期的に工事関係者による会議等を行い、工事区域外への不要な立ち入りの禁止、動物の保護を指導するとともに、環境保全措置を工事関係者へ周知徹底する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

これらの配慮事項及び保全対策を実施することにより、植生の変化による影響を低減することとした。事業実施前後での環境類型区分の変化量を表 8.4.10-3 に示すとおりである。「常緑針葉樹林」の変化量（面積）が最も多く、「草地」がこれに次ぐ。

表 8.4.10-3　事業実施前後での環境類型区分の変化量

環境類型区分		事業実施前	事業実施後	変化量		
常緑広葉樹林	調査地域	3.72ha	3.39ha	－0.33ha	樹林	−12.31ha （－1.3% －2.6%）
	対象事業実施区域	3.72ha	3.39ha			
落葉広葉樹林	調査地域	144.07ha	142.45ha	－1.62ha		
	対象事業実施区域	74.20ha	72.58ha			
常緑針葉樹林	調査地域	758.06ha	747.98ha	−10.08ha		
	対象事業実施区域	387.87ha	377.79ha			
竹　林	調査地域	20.46ha	20.18ha	－0.28ha		
	対象事業実施区域	10.78ha	10.50ha			
草　地	調査地域	103.37ha	96.46ha	－6.91ha	草地	－6.91ha （－6.7% −10.2%）
	対象事業実施区域	67.55ha	60.64ha			
その他	調査地域	61.77ha	61.52ha	－0.25ha	その他	－0.25ha （－0.4% －1.1%）
	対象事業実施区域	23.59ha	23.34ha			

注：1. 調査地域について、クマタカ、ノスリは対象事業実施区域の外側 1.5km を含む範囲（幅 4km）、イタチ、シジュウカラ、ニホンジカ、ホオジロ、エンマコオロギは対象事業実施区域の外側 250m を含む範囲（幅 1km）であるが、ここでは狭い方のイタチ等の調査地域（幅 1km）の面積を示すこととした。
2.「樹林・草地・その他」の変化量の括弧内の上段は調査地域に占める変化量の割合を、下段は対象事業実施区域に占める変化量の割合を示す。

※今回の変更による全造成面積の減少は、約0.82ha（常緑針葉樹林）により、事業実施後数量と変化量も減少する。

常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、常緑針葉樹林及び竹林を合計した「樹林」の変化量（面積）は−12.31ha であり、これは調査地域の 1.3%、対象事業実施区域の 2.6%に相当する。また、「草地」の変化量（面積）は−6.91ha であり、これは調査地域の 6.7%、対象事業実施区域の 10.2%に相当する。

本事業は、対象事業実施区域約 11km の長さの中に、建替え鉄塔 23 基とその周辺に工事用仮設備を設置する計画である。図 1.4-11～図 1.4-27（p1.4-16～p1.4-32）に示すように、建替え鉄塔 23 基とその周辺に改変域が分散しており、それらを合計すると「樹林」の変化量（面積）は−12.31ha、「草地」では−6.91ha となる。

「樹林」の変化量（面積）−12.31ha は、建替え鉄塔 23 基平均で約 0.53ha（5,300 ㎡）に相当し、小さい数値とはいえない。しかしながら、本事業では以下の要素を含んでいる。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

・対象事業実施区域に占める「樹林」の変化量は-2.6%と小さい。
・「第 1 章 事業計画の概要」で記載したように、自然環境面、社会環境面及び技術面との調和を考慮し、既設送電線の鉄塔敷地に隣接して建替え送電線を建設する計画とした。そのため、建替え鉄塔の工事用地の多くは、既設送電線の存在や維持管理に起因する伐採跡地群落やススキ群団などの「草地」に位置している。これにより、「樹林」の改変面積が小さくなるように配慮した。
・「樹林」にモノレールルート、索道、架線を設置する場合には、その運用に支障となる範囲の伐採に限る。また、伐根は必要最小限とする。従って、工事終了後は萌芽更新に任せることで従来の「樹林」に近づく。
・保安伐採後は萌芽更新に任せることで、従来の「樹林」に近づく。

このことから、工事中は一時的に影響が及ぶことも想定されるが、工事終了後にはその影響は緩和されるものと考えられる。

一方、「草地」の変化量（面積）は-6.91ha で、建替え鉄塔 23 基平均で約 0.3ha（3,000 ㎡）に相当する。既設送電線の鉄塔敷地に隣接して建替え送電線を建設する計画としたことから、既設送電線の存在や維持管理により生じた伐採跡地群落やススキ群団などの「草地」が改変域となっている。「草地」の変化量（面積）-6.91ha は対象事業実施区域に占める草地の 10.2%に相当し、「草地」環境に依存する植物、動物及び生態系への影響が想定される。しかしながら、本事業では以下の要素を含んでいる。

・「草地」を使用した鉄塔周辺工事用地、仮設備用地は、工事終了後は原状復旧するため、緑化や萌芽更新により「草地環境」が創出される。
・保安伐採により、一時的に「草地環境」が創出される。
・建替え鉄塔及びその敷地は緑化を行い、「草地」として維持管理する。

このことから、工事中は一時的に影響が及ぶことも想定されるが、工事終了後にはその影響は緩和されるものと考えられる。

保全すべき動物及び生態系への影響については、「樹林」や「草地」の変化量（面積）及び調査地域並びに対象事業実施区域に占める割合などを踏まえて、予測を行い、環境保全措置を検討し、評価を行っている。生態系の環境保全措置については後述するが、保全すべき動物については、「8.3 動物 8.3.2 予測結果」（p8.3-51～p8.3-99）に記載しているように、ツキノワグマ、カモシカ、クマタカ、ハヤブサ、希少両生類については影響を及ぼす可能性があると考えられることから環境保全措置を講じるが、それ以外の保全すべき動物については、影響が少ない、あるいはほとんどないと予測している。

※クマタカに係る内容については、【非公開資料】でお示しする。

© 2023 電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026 電源開発送変電ネットワーク㈱

８．３　動　物

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．３．５　環境保全措置の成功基準と事後調査の有無

保全すべき動物に係る環境保全措置の成否を判断するための成功基準及び事後調査の有無は表 8.3.5-1 に示すとおりである。

希少両生類については、知見が少ない種の環境保全措置を講ずることから、事後調査を実施する計画である。

表 8.3.5-1　保全すべき動物に係る環境保全措置の成功基準と事後調査の有無

対　象	環境保全措置	成功基準	事後調査	
			有無	理由
ツキノワグマ	工事用資材等の搬入出におけるモノレールの新設にあたり、以下の措置を講じる。 ・ツキノワグマの移動経路の分断を避けるため、「モノレールを乗り越える」または「モノレール下を通過する」ことが可能な構造とする。	保全措置が適正に行われていること	無	モノレールの高さ調整等実効性のある環境保全措置を講じることにより、事後調査は実施しない。
カモシカ	工事用資材等の搬入出におけるモノレールの新設にあたり、以下の措置を講じる。 ・カモシカの移動経路の分断を避けるため、「モノレールを乗り越える」または「モノレール下を通過する」ことが可能な構造とする。	保全措置が適正に行われていること	無	モノレールの高さ調整等実効性のある環境保全措置を講じることにより、事後調査は実施しない。
クマタカ	「8.4 生態系 8.4.3 上位性注目種（クマタカ）」で記載する。			
ハヤブサ	工事用資材等の搬入出におけるヘリコプターによる運搬にあたり、ハヤブサの繁殖期（2～6 月）に以下の措置を講じる。 ・2～5 月は運航しない。 ・6 月は妨害すべきでない範囲の運航を避ける。	保全措置が適正に行われていること	無	ヘリコプターによる運搬にあたり、繁殖期 2～5 月は運航しない等実効性のある環境保全措置を講じることにより、事後調査は実施しない。
希少両生類	造成等の施工前に、以下の措置を講じる。 ・標高約 300m 以上の沢に近い改変域の林内において、希少両生類の生息調査を実施する。希少両生類が確認された場合、その個体を一時的に捕獲し、近傍（確認された場所に近い同じ沢に入り込める範囲内）の同条件の環境に移動させる。さらに、その移動させた個体の産卵場所と推定される湧水や伏流水での工事を、産卵時期である春は避ける。	保全措置が適正に行われていること	有	希少両生類については、知見が少ない種の環境保全措置を講じることから、事後調査を実施する。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．５　景観・風景

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱



撮影日：令和3年1月20日，カメラ機種名：NIKON D60，焦点距離52：(35㎜換算)	
予測結果	「現状」の見込み角は0.33°に対して「予測結果」の見込み角0.62°は「少しかすんでいて、輪郭がやっとわかる程度」とされる0.5°ではとんど変化がないことから、眺望景観への影響は少ないものと考えられる。 「現状」では1号線と2号線の2ルートが存在するが、「予測結果」では1ルートとなり、視認される鉄塔も現状16基から10基に減少し、視野全体に占める鉄塔の割合は非常に小さい。眺望点からの鉄塔方向は南東であり、眺望対象の富士山は東方向であることから、影響は少ないものと予測する。 更に「鉄塔の無い状態」と見比べても、見下ろした状態では鉄塔は山々の陰に溶け込み目立たない。

図 8.5.2-1(6)　主要な眺望景観の現状と予測結果〔篠井山〕

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

(p.8-24)

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．５．３　環境保全のための措置及び検討経緯

1.　環境保全措置

「第1章　事業計画の概要」で記載したように、本事業の計画段階において、環境（景観・風景）に配慮した事項は、表8.5.3-1に示すとおりである。

表8.5.3-1　事業計画段階において景観・風景に配慮した事項

対　象	配慮した事項
景観・風景	・樹林伐採等の改変範囲を必要最小限とする。
	・当初計画を変更し、建替え鉄塔を4基減らすことで、工作物を低減するとともに改変範囲を縮小する。**更に1基減らし、改変範囲も更に縮小する。**
	・既設鉄塔より建替え鉄塔を高くし線下伐採の面積を減らすことで、改変範囲を縮小する。
	・工事用資材等の運搬にあたっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化する。
	・建替え送電線の建設に支障となる既設送電線の撤去工事を行うことで、工作物の存在による影響を低減するとともに、植生の回復を図る。

これらの配慮事項を実施することを踏まえ、景観・風景の予測を行った結果は「8.5.2予測の結果」のとおりであり、景観・風景への影響はほとんどない、または少ないと予測した。

ただし、一部の予測結果において、影響を及ぼす可能性があると考えられたことから、表8.5.3-2に示す環境保全措置を講じることとした。

表8.5.3-2　景観・風景に係る環境保全措置

対　象	環境保全措置	
	種類	内　容
景観・風景	最小化	・鉄塔の色彩は、航空法等で定める標識塗装を除き、既設鉄塔と同様の環境融和色彩である亜鉛メッキ色(N7.0)とする。

本事業は送電線を建替増強するものであり、既設2ルートを1ルートに集約する計画である。これにより鉄塔高は高くなるものの、鉄塔基数は50基から27基（当初計画）となり、さらに計画段階で4基減らし23基とし、**更に1基減らして22基**としたことから、現状の半数以下となる。さらに改変面積を必要最小限とし、環境保全措置として鉄塔の色彩に配慮することで、景観・風景への影響を最小化することとした。

なお、環境保全措置を講じない場合、鉄塔の色彩が環境と融和せず、季節、太陽光の条件によっては際立つ存在になる可能性が考えられる。

したがって、環境保全措置を確実に遂行することで、影響を最小化することとする。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．５．４　評　価

1.　評価の手法

調査及び予測の結果並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、景観・風景に係る影響が、事業者の実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされているか評価した。

2.　評価の結果

建替え鉄塔は、環境へ配慮するため既設鉄塔付近に設置することから、建替え鉄塔の位置を変更し、景観・風景への影響を回避することは困難である。このことから、鉄塔基数を減らし、改変面積を必要最小限とし、さらに、環境保全措置として、鉄塔の色彩は航空法等で定める標識塗装を除き、既設鉄塔と同様の環境融和色彩である亜鉛メッキ色(N7.0)とすることで、景観・風景への影響を最小化することとした。

環境保全についての配慮は適正に行われ、事業者の実行可能な範囲で環境への影響ができる限り緩和されていると評価する。

© 2023 (p8-26) 電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．５．５　環境保全措置の成功基準と事後調査の有無

景観・風景に係る環境保全措置の成否を判断するための成功基準及び事後調査の有無は表 8.5.5-1 に示すとおりである。

景観・風景への影響の予測手法は、環境影響評価で多くの実績があるフォトモンタージュ法を用い、景観変化の程度を視覚的に確認でき不確実性は少ないものであること及び実効性のある環境保全措置を講じることから、事後調査は実施しない計画である。

表 8.5.5-1　景観・風景に係る環境保全措置の成功基準と事後調査の有無

対　象	環境保全措置	成功基準	事後調査	
			有無	理由
景観・風景	・鉄塔の色彩は、航空法等で定める標識塗装を除き、既設鉄塔と同様の環境融和色彩である亜鉛メッキ色(N7.0)とする。	保全措置が適正に行われていること	無	予測手法は、環境影響評価で多くの実績があるフォトモンタージュ法を用い、景観変化の程度を視覚的に確認でき不確実性は少ないものであること及び実効性のある環境保全措置を講じることから、事後調査は実施しない。

© 2023　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

＜添付資料９＞

補正評価書：修正抜粋版

（非公開資料：保全すべき動植物種の確認位置図）

次の事項を反映して、種の確認位置の変更前後を示しています。

・改変域【修正事項⑴～⑶】
・植物追加調査結果（2024 年：新 166 付近）

環境影響評価対象外のため非公開にしました。なお、是正に伴う環境への影響はございません。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．４　一部計画変更等に伴う追加検討関係

８．４．１　新 146 鉄塔工事用地内の土砂流出

新 146 鉄塔工事用地内の谷側斜面（鉄塔敷地の下方）において、2024 年 10 月上旬の大雨により土砂（表層土）が流出した。土砂流出範囲には進展防止対策済である。なお、土砂流出が発生した鉄塔工事用地は、この１箇所のみである。

1. 場所

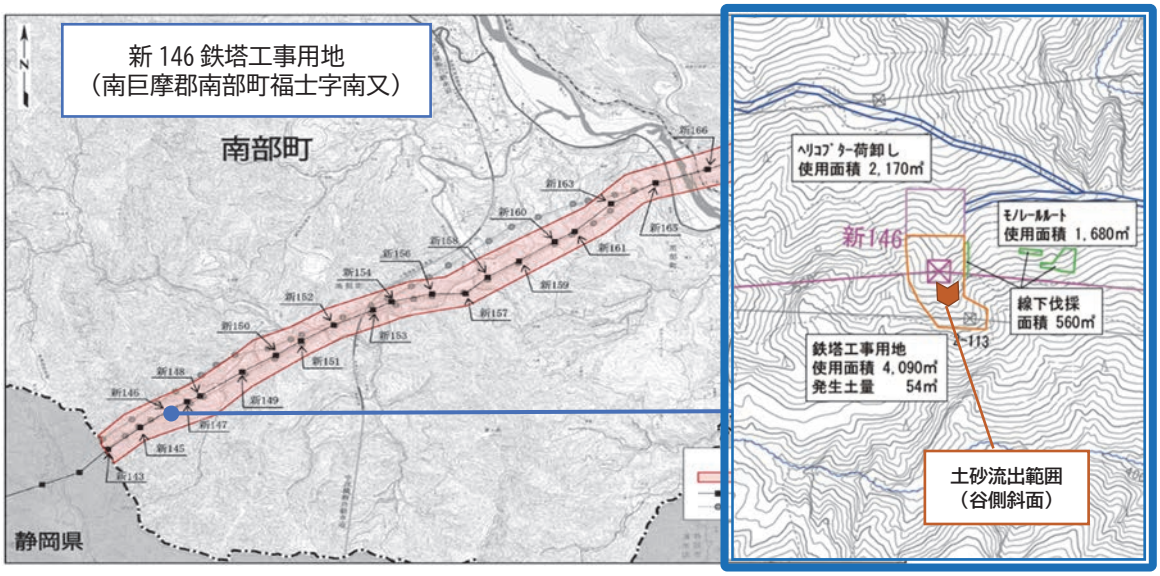


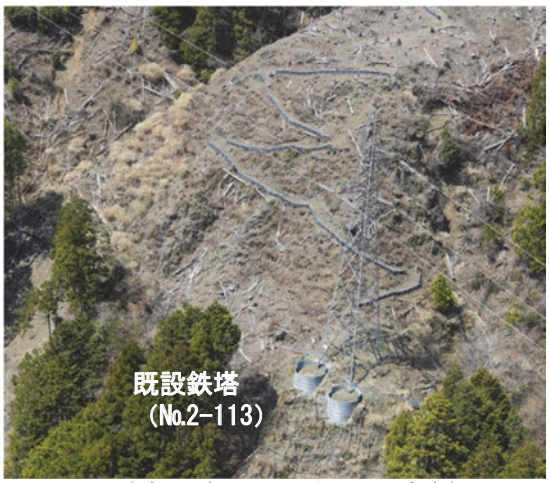
図 8.4.1-1　位置図

2. 状況

土砂流出範囲は、新 146 鉄塔工事用地内の谷側斜面（鉄塔敷地の下方）であり、工事のために借地している範囲である。流出した土砂は、近隣沢の手前の崩土堆積域で止まっていたことから、近隣沢への土砂流入は無かったものと考える。



（流出後：2024 年 10 月 23 日）



（流出前：2024 年 4 月時点）

図 8.4.1-2　土砂流出前後

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱



図 8.4.1-3　土砂流出後状況

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

3. 土砂流出範囲の調査結果

地質調査会社による調査結果が次の通り示された。

・緩斜面部に土砂が厚く堆積している。
・土砂表層 1～2m は「礫混り土砂」であり、この層が特に緩い。
・土砂深部は「岩塊混り土砂」である。
・土砂層は表面波探査の Vs=210m/s（Vs≒Vr）以下の速度層（軟弱地盤）に相当する。
・斜面崩壊は、浅層の礫混り土砂部分が崩壊することにより発生していると考えられる。

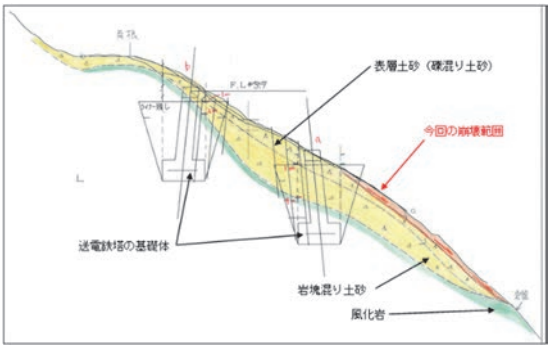


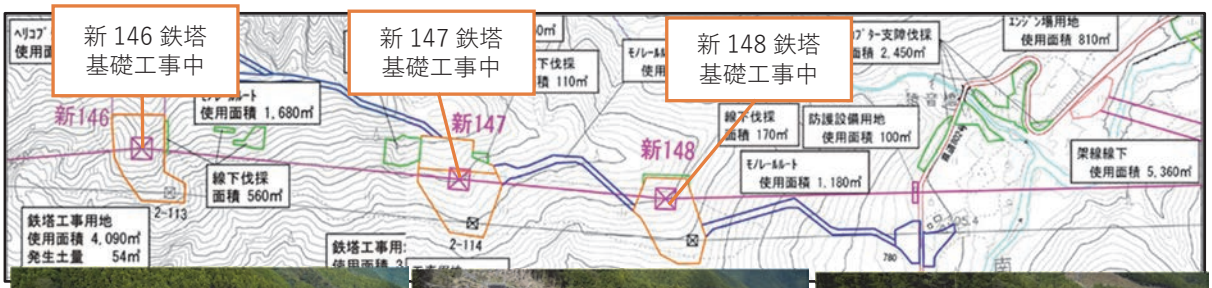
図 8.4.1-4　表層土断面図

4. 土砂流出範囲以外の改変状況等

新 146 鉄塔工事用地の上部は、ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ運搬の荷降しに使用するために、安全確保（樹木との接触事故防止）に必要な範囲を一部皆伐したが、伐採後の「根」は残している。参考文献(*)では、「根」は表層土崩壊発生を防止する機能を発揮し、この機能は伐採により低下するものの、最低に達するまでに約 10 年間要すると示されている。

また、図 8.4.1-5 に示すとおり、隣接する鉄塔工事用地も伐採済で工事中であり、同じ断続的な大雨（2024 年 10 月 3 日～5 日）に遭ったものの、土砂流出が発生したのは新 146 鉄塔敷地の下部のみであった。

＊森林が持つ表層崩壊防止機能を高めるための森林施業の計画に関するガイドライン(案)
［令和 5 年 3 月　林野庁森林整備部治山課］index-20.pdf
https://www.rinya.maff.go.jp/j/suigen/suigen/attach/pdf/index-20.pdf




新 146 鉄塔工事用地


新 147 鉄塔工事用地


新 148 鉄塔工事用地

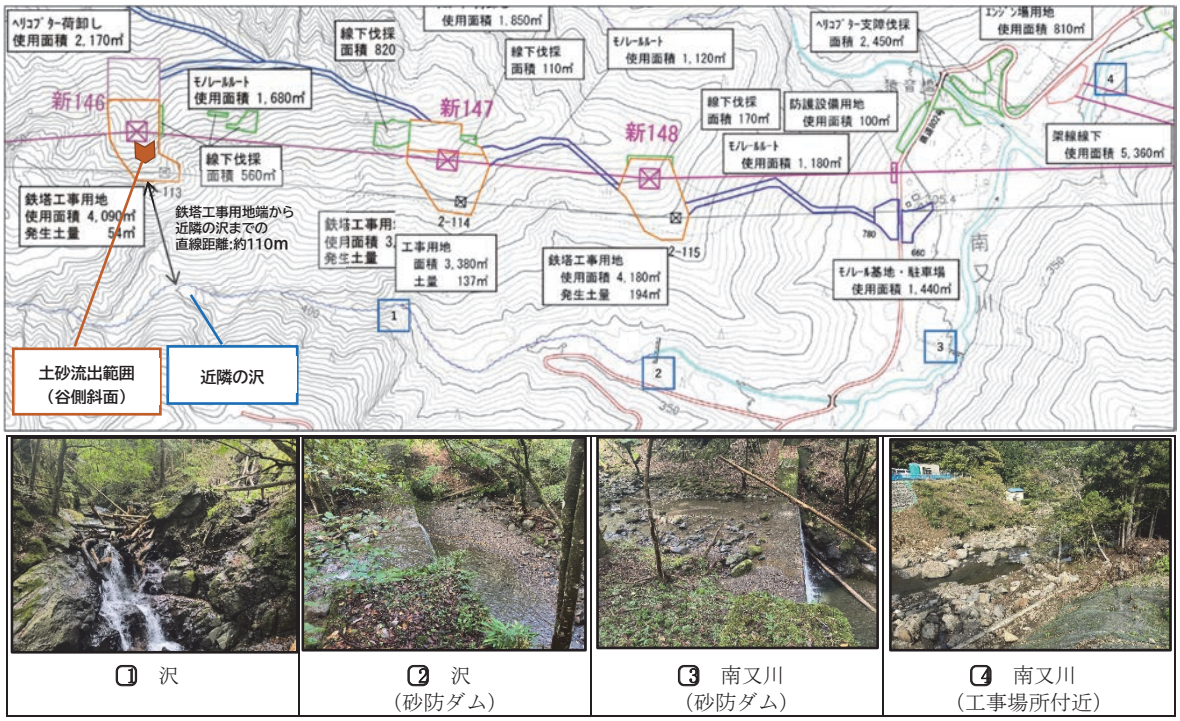
図 8.4.1-5　近隣の鉄塔工事用地（2024 年 10 月 23 日）

5. 環境保全等

(1) 周辺の水域状況

近隣の沢と下流の南又川について、土砂流出による汚濁等は無いことを確認済である。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱



❶ 沢

❷ 沢
（砂防ダム）

❸ 南又川
（砂防ダム）

❹ 南又川
（工事場所付近）

図 8.4.1-6　近隣の水域状況（2024 年 10 月 24 日）

(2) 希少動植物

動植物調査（2020 年）において、新 146 鉄塔工事用地内では猛禽類を除く動物は確認されていない。同工事用地は猛禽類の高利用域内により、保全措置のうえ工事している。

植物は 1 種（エビネ）確認しており、改変前に移植済（2023 年）であり、今回の土砂流出の影響無く、生存を確認済である。



図 8.4.1-7　移植地（エビネ）の状況（2024 年 11 月 21 日）

6. 原因（推定）

新 146 鉄塔工事用地内の谷側斜面は、岩盤上に表層土の厚さが 1～2m程度で堆積されていた。10 月 3 日から 10 月 5 日にかけて、南部町では断続的な大雨により、3 日間の累積雨量は約 192 ㎜であった。

この雨水が谷側斜面に集中して流れ、直接及び表流水により地下水が地盤へ供給されたため、深度 1～2m の浅層の土砂層が緩み、急

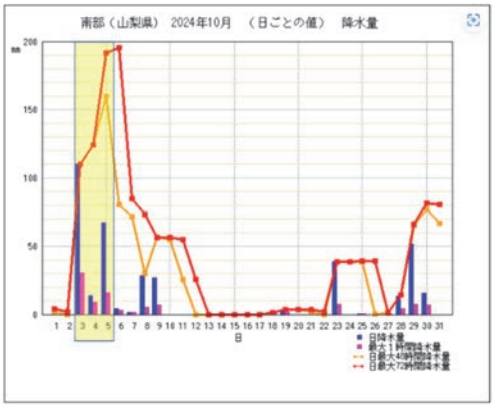


図 8.4.1-8　南部町の降水量
（出典：気象庁 HP）

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

傾斜の部分が表層崩壊したものと考えられる。

なお、谷側斜面は、工事による造成は行っていない。

これに加えて、工事に伴う伐採域の拡張により、森林が持つ保水力が低下したために、谷側斜面の表層土に供給される雨水の量が伐採前に比べて増加し、土砂流出を助長させた可能性があるものと考えている。

7. 対策

(1) 法面保護

土砂流出の進展防止のために、新 146 鉄塔工事用地内において、高張力ネットとアンカーによる対策を実施済である。



図 8.4.1-9　高張力ネットとアンカー対策状況

(2) 表流水分散化等

雨水を分散して流れるようにするために、新 146 鉄塔敷地内において、土のう積みによる対策を検討中である。また、工事後の鉄塔敷地上部の伐採跡地において、森林の保水力を高めるために、植栽等を検討中である。

8. 経緯

- 2024 年 10 月 3～5 日　南部町において大雨が発生。
- 2024 年 10 月 07 日　天気回復後に工事用地内をﾊﾟﾄﾛｰﾙし、谷側斜面の土砂流出を確認。
- 2024 年 10 月 23 日　ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰ巡視で土砂流出の範囲を確認。
- 2024 年 10 月 24 日　地上で土砂流出範囲を確認。近隣の沢と下流域の水質状況を確認。
- 2024 年 11 月 01 日　地質調査会社による土砂流出範囲を調査。
- 2024 年 11 月 21 日　植物（エビネ）移植地を確認。
- 2024 年 12 月 09 日　山梨県（大気水質保全課、以下同様）に訪問報告。
- 2025 年 01 月 17 日　山梨県に書面報告。
- 2025 年 02 月 12 日　山梨県に追加書面報告。
- 2025 年 02 月 27 日　山梨県に追加書面報告。
- 2025 年 09 月 29 日　高張力ネットとアンカー対策完了
  ＊対策後は、大雨、台風等による土砂流出は発生していない。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

８．４．２　新 145 鉄塔工事用仮設モノレールの一部計画外設置に係る是正【非公開】

環境影響評価対象外のため非公開にしました。なお、是正に伴う環境への影響はございません。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

環境影響評価対象外のため非公開にしました。なお、是正に伴う環境への影響はございません。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

環境影響評価対象外のため非公開にしました。なお、是正に伴う環境への影響はございません。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

環境影響評価対象外のため非公開にしました。なお、是正に伴う環境への影響はございません。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱